

聖徒の道

1981年4月20日発行 毎月1日・20日発行 第25巻第4号
昭和42年12月18日第5種郵便物認可



聖徒の道

4 1981

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト

願 問

M・ラッセル・バラード・ジュニア
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー
F・エンツィオ・ブッシェ

国際機関誌

編集主幹：
ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：
キャロル・モーゼス
子供の頁編集：
ハイディ・ホルフェルツ
デザイナー：
ロジャー・ギリング

聖徒の道 4月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-10-30

印刷所 株式会社 精興社

配 送 東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4-9-19

定 価 年間予約2,200円 1部350円
海外予約2,200円

INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA0562JA Printed in Japan

郵便振替口座番号 東京0-41512

口座名 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

家族は永遠に……………	スペンサー・W・キンボール……………	2
証がもたらす祝福……………	N・エルドン・タナー……………	6
「人は自分のまいたものを、刈り取る」……………	L・トム・ペリー……………	8
主の宮居……………	ロバート・L・シンプソン……………	13
羊飼いを知る……………	ロバート・E・ウェルズ……………	17
あらゆる種類の人々を 囲み入れる網……………	ニール・A・マックスウェル……………	21
天使長アダム……………	マーク・E・ピーターセン……………	26
教会役員の支持……………	……………	32
選び……………	ボイド・K・パッカー……………	34
主のみ手……………	M・ラッセル・バラード……………	39
末日聖徒として歩んだ30年……………	デレク・A・カスバート……………	43
「わたしの羊を養いなさい」……………	レックス・C・リープ……………	48
どうか、彼らの罪を赦して下さい……………	ボーン・J・フェザーストン……………	53
艱難の日に備える……………	エズラ・タフト・ベンソン……………	59
「これらの者をわが統治者となさん」……………	ジェームズ・E・ファウスト……………	64
心と霊を清める……………	H・バーク・ピーターセン……………	70
教会の若い男性へ……………	ロバート・L・バックマン……………	75
神権に属ける誓詞と誓約……………	マリオン・G・ロムニー……………	81
教会員の必要を 満たすために働く……………	スペンサー・W・キンボール……………	86
悔い改め……………	マリオン・G・ロムニー……………	89
回復の主である神……………	ブルース・R・マッコンキー……………	94
偉大なる7つの出来事……………	J・トーマス・ファイアーズ……………	99
逆境とあなた……………	マービン・J・アシュトン……………	104
汝らには赦すことを求められる……………	ゴードン・B・ヒンクレー……………	110
証……………	リグランド・リチャーズ……………	115
「あなたは神と和らいて 平安を得るがよい」……………	ジョージ・P・リー……………	119
レーマン人の中に見られる奇跡……………	ジーン・R・クック……………	123
神権者皆各々その義務を覚れ……………	ジョセフ・B・ワースリン……………	127
決心への決意……………	レックス・D・ピネガー……………	132
「王国の鍵」……………	デビッド・B・ヘイト……………	136
「旅の途中で疲れては ならない」……………	スペンサー・W・キンボール……………	141
自分の一の律法……………	スペンサー・W・キンボール……………	144
「必要なるものを ことごとく調べよ」……………	ビクター・L・ブラウン……………	147
信仰ある家族……………	J・リチャード・クラーク……………	153
喜んで従う……………	バーバラ・B・スミス……………	159
「主にとって不可能なことが ありましようか」……………	ダグラス・W・デハーン……………	164
監督——福祉活動の中核……………	トーマス・S・モンソン……………	168
福祉事業：救い主のプログラム……………	マリオン・G・ロムニー……………	174
キンボール大管長、 道徳について語る……………	……………	178
学びそして教える……………	スペンサー・W・キンボール……………	190
愛の絆……………	バーバラ・B・スミス……………	192
母親と家族……………	メアリー・F・ファルガー……………	197
独身：扶助協会のできる助け……………	アデー・フーリマン……………	200
王国の教義……………	シャーリー・W・トーマス……………	203
汝ら組織せよ……………	マリアン・R・ボイヤー……………	206
姉妹の輪……………	ボイド・K・パッカー……………	209
ローカルニュース……………	……………	215

末日聖徒イエス・キリスト教会

第150回半期総大会報告

1980年10月4日、5日の両日、ユタ州ソルトレーク・シティ、テンブルスクウェアのタバナクルにおいて催された大会の説教とその模様

スペンサー・W・キンボール大管長は10月4日(土)、開会の説教において次のように語った。これは今大会の基調となるものである。

「末日聖徒イエス・キリスト教会は、その創設以来、家庭生活の大切さを強調してきました。私たちは、永遠の単位である家族の基が、遠く地球の創造以前にさかのぼることを常に心に刻み込んできました。この家庭生活を基盤としていない社会は土台がないのと同じで、やがては無に帰してしまうことでしょう。

今や、主御自身が定めたもうた道徳に関する戒めや標準は、四方八方から攻撃されています。偽りの教師たちが、公の場での話を通して、またわいせつな書物や雑誌、ラジオ、テレビ、それに街頭での会話を利用して、道徳の標準を根底から覆してしまうような邪論をまき散らしているのです。

こうした事態を深く憂慮した私は、昨年11月号の『エンサイン』と『ニュー・エラ』(「聖徒の道」本号、pp. 178—87)にひとつの記事を載せました。道徳というテーマで率直に、また懇切丁寧に述べたものです。標準を守って生活するように勧告することは、私に課せられた非常に大きな責任ですが、この責任を果たすことは容易なことではありません。私はすべての末日聖徒に、この特別なメッセージを読むようお勧めします。

兄弟姉妹の皆さん、家族は永遠に続くものです。一時の誘惑のためにあなたの家族をこの偉大な可能性から遠ざけてしまうことのないようにして下さい。神聖さ、永遠

性、家族。この3つは共に手を携えて進むものです。したがって私たちも、共に手を携えて進むようにしなければなりません。」

特別記事「キンボール大管長、道徳について語る」は p. 178 に掲載されている。

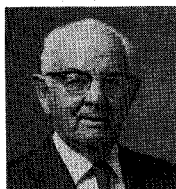
今大会ではキンボール大管長ほか29名の教会幹部が説教し、教会員が今後半年間に関心を寄せるべき事柄に関して靈感にあふれた率直な指示が与えられた。説教は、10月4日(土)に4部会、10月5日(日)に2部会の2日間6部会において行なわれた。

大会のすべての部会はスペンサー・W・キンボール大管長が管理し、司会はキンボール大管長とマリオン・G・ロムニー第二副管長が行なった。N・エルドン・タナー第一副管長は幾つかの集会に出席したが、健康がすぐれなかったため短く話をされたに止まった。教会幹部は、伝道の任務にあったF・バートン・ハワード長老とS・デルワース・ヤング長老を除いて全員が出席した。

また今大会では、バーナード・P・ブロックバンク長老とO・レスリー・ストーン長老のふたりの教会幹部が新たに名誉会員として発表された。(p. 32参照) この結果、七十人第一定員会会員は40名、名誉会員は9名となった。

ブロックバンク長老は1909年生まれ。1962年10月6日、53歳で教会幹部に支持されて以来18年間、熱心に奉仕してこられた。

O・レスリー・ストーン長老は1903年の生まれ。1972年10月6日、69歳で教会幹部に支持されて以来8年間、同様に熱心に奉仕してこられた。



大管長 スペンサー・W・キンボール

家族は永遠に

「悪の力が押し寄せる中で、家庭の価値を深くまた積極的な気持ちで信じている人だけが自分を守ることができる、そのような日が訪れるに違いありません。」

愛する兄弟姉妹の皆さん、教会の第150

回世界半期総大会に皆さんをお招きできて、心からうれしく思っております。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、その創設以来、家庭生活の大切さを強調してきました。私たちは、永遠の単位である家族の基が、遠く地球の創造以前にさかのぼることを常に心に刻み込んできました。この家庭生活を基盤としていない社会は土台がないのと同じで、やがては無に帰してしまうことでしょう。

こうした見地から、いかなるものであれ永遠の家族のように私たちの生活の根底となるものが脅威にさらされた時は、家族組織が故意にそれを破壊しようとする人々により決定的な打撃を受けることのないように、主張するところは大いに主張しなければなりません。これは私たちに課せられた神聖な務めです。

今や、主御自身が定めたもうた道徳に関する戒めや標準は、四方八方から攻撃され

ています。偽りの教師たちが、公の場での話を通して、またわいせつな書物や雑誌、ラジオ、テレビ、それに街頭での会話を利用して、道徳の標準を根底から覆してしまうような邪論をまき散らしているのです。

こうした事態を深く憂慮した私は、昨年11月号の「エンサイン」と「ニューエラ」（「聖徒の道」本号、pp. 2—5）にひとつの記事を載せました。道徳というテーマで率直に、また懇切丁寧に述べたものです。標準を守って生活するように勧告することは、私に課せられた非常に大きな責任ですが、この責任を果たすことは容易なことではありません。私はすべての末日聖徒に、この特別なメッセージを読むようお願いします。

私たちは今、危険きわまりない時代に生を受けています。結婚の誓約を軽々に扱う人がますます増え、少年非行もその数を増しています。1970年を基準にして調べてみると、合衆国における離婚の増加率は65パーセント強にも上っており、また過去10年

間における同せいしている未婚の男女の数は、157パーセント以上も増加しているのです。さらに片親しかいない子供の増加も目に余るものがあり、1979年を例にとってみると、子供のいる世帯の内ほぼ5軒に1軒が片親世帯となっています。

墮胎（人工妊娠中絶）の増加も目を覆わんばかりです。ちなみに、マルコム・マグリッジは次のように記しています。「墮胎に関する法令の通過以来10年間に墮胎によって生命を奪われた胎児の数は、第一次世界大戦における戦死者数よりも多い。

私は、西欧社会が抱える大きな問題のひとつは、我々が第一次世界大戦で大勢の人人を失ったことであると教え込まれてきた。しかし我々は、それと同じ数の生命を、個人の尊重という名のもとにこの世に生まれ落ちる前から絶ってきたのである。」(*Human Life Review* 「ヒューマン・ライフ・レビュー」1980年夏季, p. 74)

さらに、過去において家族の結束を強める上で少なからぬ働きをしていた社会規範というものが、次第に影の薄い存在となってきています。悪の力が押し寄せる中で、家庭の価値を深くまた積極的な気持ちで信じている人だけが自分の家庭を守ることができる、そのような日が訪れるに違いありません。

無意識、無知など原因は様々でしょうが、行政府が（表面的には家庭を擁護するという名目で）行なう事柄には、百害あって一利なしのものがしばしばあります。中には歴史的な背景などをことごとく無視し、家庭などというものはもはや存在しないのだといった奇抜な説を持ち出す人もいます。こうして家庭を本来あるべき姿から遠ざけようとむだな努力を重ねる行政府が多くな

ればなる程、逆にもともと政治というものに課せられていた伝統的かつ基本的な役割が、効果的に果たされなくなってくるのです。

信じたくないと思われる方もあるかも知れませんが、今日私たちが抱える家庭問題の中で、かなり多くのものが十戒の第7番目の戒めを破ることに起因しています。（出エジプト20：14参照）結婚前の完全な純潔と結婚してからの夫婦相互の忠誠が守られれば、罪や苦しみ、不幸にさいなまれることなく、主の道を真つすぐに進むことができます。この第7番目の戒めを破るということは、たいていの場合、ひとつあるいは複数の家庭を破壊することにつながります。

また、犯罪を重ねる親の下に育った子供は、傾向としてやはり同じように犯罪を重ねるようです。この恐るべき実態は、何を犯罪と呼ぶかということに関する基準をただ単に低下させただけでは変わらないでしょう。これは成人の場合でも、少年や子供の場合でも同じです。

兄弟姉妹の皆さん、私たちは皆、家族という単位をこの地上における社会の進化の過程において、ある特定の局面にのみ結びつくものとするのもっともらしい議論に欺かれないようにしなければなりません。私たちは、家族の重要性を無視し、逆に利己的な個人主義の価値を前面に押し出そうとするこうした動きに対して、抵抗する自由を持っています。私たちは家族が永遠のものであることを知っています。家庭がうまくいかなければ、世の中のあらゆる機関がうまくいかなくなるのです。

無知であれ悪意からであれ家庭を攻撃する人は、苦痛と絶望という恐るべき、しか



聖徒たちに手を振って応えるスペンサー・W・キンボール大管長夫妻

も避けようと思えば避けることのできるサイクルに自ら足を踏み入れようとする人です。なぜならそのような人は、家庭に代わるものを見いだそうとして結局苦痛以外のものは何も得られず、また世故にたけた人の知恵は、家庭についての愚かな考えの故に衆目の内に滅びてしまうからです。

私たちの家庭の多くは、世界の国々が最大の難局に直面するようなことがあれば、墮落の一途をたどることでしょう。

そのような危機にあって私たちを救うものは、放縦ではありません。物質主義も私たちを守ってはくれません。この世の富はすべてしみ食い、さびつてしまうからです。

私たちの政治機関、すなわち国会や議会も、あらゆる組織の根底となっている家庭をいろいろな害から守らない限り、私たち

を救うことはできません。また家庭の中に愛ではなく憎しみがあっては、平和協定も私たちを守ってはくれられないでしょう。失業対策プログラムも同じです。働くすべを教わったことのない人、働く機会を得ず、また労働に対する意欲も味わわずに育った人が多くなれば、プログラムの意義は失われてしまいます。法の実施にも同じことが言えます。法に則して身を処し、法に身をゆだねる人が少なくなれば、法はあってなきがごとしだからです。

権威は悪であり、規範を重んじることは誤りであると教えられてきた青年たちは、父母を敬うという第5番目の戒めを守らないでしょう。(出エジプト20:12参照) 親が特に第7番目の戒めを破ることによって自らを辱めていながら、どうしてその子供である青年たちが親を敬うようになるでしょ

うか。

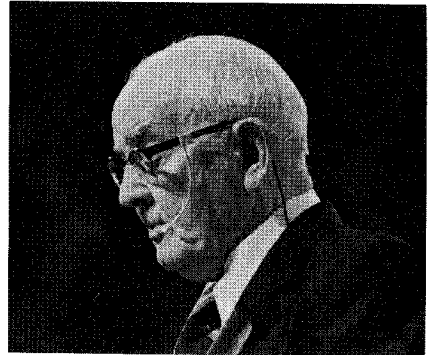
家庭に関するどの統計をとってみても、すべて悲しむべき数字が表われてきます。そして私たちに、この潮流を変えなければならぬことを示唆するのです。

末日聖徒の家庭にあっては、この流れを変えるために必要なことをもらさず行なおうではありませんか。

私は再び皆さんに、個人と家族の歴史を作成するように勧告します。私たちはつい最近開催された世界記録会議を成功裏に終えることができ、うれしく思っています。この会議には世界中の30以上の国々から1万1千人以上の人が集まり、個人の記録の作成について意見を交換し合いました。この点において他の人々の模範となり、私たちに歴史や記録として受け継がれた遺産を守ると同時に、堅固な家庭にもたらされる恵みを刈り取ろうではありませんか。

両親の皆さんは、集会統合化スケジュールによって生み出された時間を十分に活用して下さっているでしょうか。このスケジュールは、皆さんが子供と共に過ごし、子供を愛し、教育し、育てる時間を日曜日に設けられるようにするためのものです。また家族全員での活動やレクリエーションの必要性も忘れないでいただきたいと思います。そのための時間も設けてあります。家族一人一人に対して無条件の愛を示していただきたいと思います。難しい問題に直面した時にくじけてしまうのは、負けずに頑張ろうという気力をなくしてしまうからです。

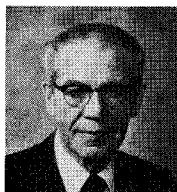
私たちは教会や学校、大学からの援助、また人種や信条、文化を問わず家庭に関心を持つ見識豊かな人々から得られる助けに対して、心からうれしく思います。しかし



前にも述べた通り、こうした支援組織が適切に機能しない場合は、私たちの手で行なうほかありません。主が言われたことに曖昧な点はみじんもありません。私たちは、課せられた義務を怠ることはできないのです。主はその義務を、その属するところに直接課してこられました。すなわち主は私たち両親に、子供たちに正しい原則と主の前に正しく道を歩むことの必要性を教えるという義務を課し、それを果たすように求めておられるのです。そしてこの義務を果たす上で、模範という雄弁に勝るものはありません。

兄弟姉妹の皆さん、家族は永遠に続くものです。一時の誘惑のためにあなたの家族をこの偉大な可能性から遠ざけてしまうことのないようにして下さい。神聖さ、永遠性、家族。この3つは共に手を携えて進むものです。したがって私たちも、共に手を携えて進むようにしなければなりません。

私は神が生きておられることを、またイエス・キリストが生きておられ、私たちの救い主、贖い主であられることを謹んで証します。私の愛と祝福を皆さんにお伝えし、イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。



第一副管長 N・エルドン・タナー

証がもたらす祝福

「私はこれまで4人の大管長と共に働き、主が各々の大管長を通じてみ業を行なわれる様をつぶさに見るといふ偉大な特権に浴してきました。」

けさ、総大会のこの部会に皆さんと共に集えることは、特権であり祝福です。早いもので、キンボール大管長の副管長に召されて以来7年の歳月が流れました。もしもこの副管長としての務めを完うできるならば、私はそれで大満足です。きょうこのようにして皆さんと共にみたまを味わうことができ、うれしく思っております。このみたまは、タバナクル合唱団の歌声に耳を傾け、この偉大な教会の指導者の説教を聞く人々に総大会のたびに訪れるみたまです。

私は今回、話をする予定がありませんでしたが、キンボール大管長から少し話すように言われました。そこで、私の家族や友人、実業家、そして世の人々に証を述べたいと思います。私はこれまで4人の大管長と共に働き、主が各々の大管長を通じてみ業を行なわれる様をつぶさに見るといふ偉大な特権に浴してきました。どのような人であっても大管長にじかに接したならば、

大管長が予言者として私たちを真理と義の道に導き、また永遠の生命が得られるように私たちを家族共々備えさせて下さっていることに疑いをさしはさむことはないでしょう。

私たちは神の霊の子供です。私たちは地球の創造が決まった時にその場にいました。地球が創造されたのは、私たちが戒めを守ることによって天の御父のみもとに帰るにふさわしいことをそこで証明するためです。

この世の救い主として、イエス・キリストが選ばれました。イエスは古代の予言者たちに、旧約聖書の創世記などに記されている生命と救いの計画をお授けになりました。私たちは自分が何者であり、どこから来てなぜここにおり、またどのようにして御父のみもとに帰ることができるのかを知っています。

イエス・キリストが授けたもうた福音の教えに対して証を持てることは、実に幸せなことです。私たち一人一人が全力を尽く



左よりN・エルドン・タナー第一副管長，マリオン・G・ロムニー第二副管長，スペンサー・W・キンボール大管長

して与えられた務めを果たすことができるように祈っています。どこにあっても私たちの模範と力が人々の心にあまねく響きわ

たりますように。イエス・キリストのみ名により、アーメン。



十二使徒定員会会員 L・トム・ペリー

「人は自分のまいたものを、刈り取る」

「家計、家族の組織、教会での責任、地域社会の活動への参加などについて分析してみようとの、家族への呼び掛け。」

「地 は物に満ち足りて余りあり。然り、われよろずの物を備えて人の子らにこれを与え、人各々を自由意志によりて動く者となす。」(教義と聖約104：17)

主がこの地上に住む御自身の子供たちの必要を満たすために定められた秩序を見て、私は例年のことながら驚異の念に打たれます。私は毎年春になると、くわを手にし、種まきを始めますが、真っ直ぐな筋に沿ってまけるように、2本のくいの間に張った糸を目当てにしながら、地味の肥えた土地に2、3粒ずつ種をまいていきます。そして秋にはその豊かな実りに圧倒されるのです。他よりも抜きん出て丈が伸びる種もあります。そしてほとんどの種が、何か月か前にまかれた時とは比較にならないほど多くの黄金の豊かな実りをもたらしてくれるのです。人々は収穫の季節の度に、主が注いで下さる祝福に感謝の念で胸が一杯になるに違いありません。

救い主は地上で教えと導きの業に携わっ

ておられた間、たとえ話の中で何度もこの成長の過程を例にとつて教えられました。このことから考えて、救い主がこの過程をよく理解しておられたことは間違いありません。救い主は幾度となく、主が人々のために定められたこの供給制度から例をあげて教えを説かれました。種をまく人(マタイ13：3—23参照)、自然に育っていく種(マルコ4：26—29参照)、毒麦(マタイ13：24—30参照)、実を結ばないいちじくの木(ルカ3：6—9参照)、いちじくの葉(マタイ24：32—33)、畑に隠された宝(マタイ13：44)などのたとえ話をはじめ、ほかにもたくさん例があります。次の聖句のように、救い主の弟子たちが、地上におられた時の主の言葉ぶりになつて人々に教えたとしても、何ら不思議なことではありません。「まちがってはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。」(ガラテヤ6：7)

主の刈り入れの律法が伝える偉大なメッセージは、人々に強い印象を与えずにはおきません。主が定められた秩序は成長、増殖、そして豊かな報いをもたらしてくれます。私たちは、この成長の過程を通じてもたらされる祝福を目のあたりにした時、神の子供たちにこの現世の人間に与えられている可能性に気付いて欲しいと願うのではないのでしょうか。主は御自分の子供たちの多くに、地上にいる間に特別な被造物、つまり御自身の息子、娘たちの世話をする機会を与えられました。主が人類に与えられたあらゆる責任の中でこれより偉大なものはありません。

私はここ数カ月の間に親たちの失意の声、若人の熱心な訴え、幼い子供の小さな声など、人々の声に耳を傾ける機会が何度かありました。私の耳には、苦しみを訴える言葉がたくさん入ってきます。人類の父母であるアダムとイヴの時代以来、文明の基礎となり、人々に安らぎと愛を与え、歴史の本流となってきたのは家庭ですが、今述べた苦しみは、その家庭での問題に集中しているのです。そのような家庭を滅ぼそうとして立ち働く強大な勢力が不意にその姿を私たちの前に現わしました。記録として残された歴史は、人類の本流となってきた家族が減んでいく時に、どのような状態が生じるかを余すところなく伝えています。モルモン経には、主が人のために定めたもうた道から文明がそれていく時にどのようなことが起こるかということについて、たくさんの実例が見られます。

ヤコブ書の中に次のように記されています。「さて、第二代目の王の代になって、ニーファイの民はだんだんその心をかたくなにし、多少の悪事をするようになった。」

(ヤコブ1:15) ヤコブは人々に正しい道に戻るよう戒め、主の道に立ち返らない場合に起こる事柄について警告を与えました。

初めに彼らの高慢さを戒め、続いてより重大な問題に矛先を向け、このように言いました。

「私はこのような高慢についての話をこれで終るが、もっとひどい罪悪についてぜひあなたたちに話をしなくてもよかったならば、私の心はあなたたちのことを考えて嬉しかったであろう。」(ヤコブ2:22)

「ごらん、あなたたちは私たちの兄弟のレーマン人よりももっとひどい罪悪を犯した。優しく感情の傷つき易い自分の妻の胸を張り裂けさせ、子供には悪い手本を見せてその信用をなくした。かれらの心の嘆きは神に聞えてあなたたちの悪い行いを訴えている。またあなたたちを咎めるために神から下る言葉がきびしい故に、すでに深い傷を負うたように心が痛み悲しんで死んだ妻子が多くある。」(ヤコブ2:35)

もし私たちが、今の世の中の大方の人々が歩んでいるこの道から戻らなければ、神から同じ裁きを受けることになるのです。

聖典の中の言葉について考えている時、ひとつの恐るべきことが思い浮かび、はっとさせられたことがあります。つまり、こう考えたのです。「私の人生の時計の針が15年前に戻り、十代の子供ふたりと小さな子供ひとりを持った私がこの1980年の環境の中に投げ入れられたら一体どうなるだろうか。」この困難な時代にあって家庭本来の姿を維持するというチャレンジを考えた時、私は冷や汗の出る思いがしました。そしてまた時計の針が戻って、今の私たちが15年後の世界に置かれるようなことになるとし

たら、今、どういう点に気を付けなければならぬだろうか、と考えました。

新たな決意と努力を要する問題としてすぐに私の心をよぎったものに次の4つがありました。

1. 家計。家族を養っていくのははるかに難しくなっていくでしょう。雇用状態は決して将来をすべて保障してくれるものではありません。転職をする人の数は年を追って増えていくでしょう。今日見られるようなインフレが続けば、現在の生活水準を保っていくことがかなり難しくなります。住居費、公共料金、食費、被服費、それに大量のガソリンを食う自動車の維持費など、あらゆるものが家計に対して大きな負担となってきています。家計の圧迫は家庭内の不安を一層深刻なものとするでしょう。それでは、私たちの前に大きな障壁として立ちあがるこの新しい状況に対して、どう対処していけばよいのでしょうか。しかし、私はその時、次のような言葉を聞き、すぐに安らぎを覚えました。

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。

すべての道で主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言3:5-6)

私は教会が、緊張と圧迫の時代に向けて、長期間にわたって私たちに備えをさせてくれていることを再認識しました。今の世の中で子供たちに伝道や教育などの祝福を与えようと思うなら、是非とも家計について長期的な計画を立てなければなりません。そのような出費をまかなうには慎重な計画と準備が必要です。収入の範囲内で生活し、借金をしないということは最も大切なことです。家計の収支のバランスをよく保つた

めには、多くのことを考慮し、理解しておかなければなりません。物を購入するに当たっては、それが本当に必要な物かどうかよく考える必要があります。月々こんなに多額のローンを返済してまで大きな家が本当に必要だろうか、車が二台も必要だろうか、家庭で家族全員が楽しく過ごせる活動があるのに、それを金のかかるできあいの娯楽と代えていいものだろうか、休暇の時も家にいて楽しく過ごせないだろうか、と。

1年分の貯蔵は最優先事項のひとつです。どうしたらそれが達成できるか、もう一度考え直す必要があります。自分の着る物は自分で作る、家庭菜園の収穫を増やして食糧を保存するなどの方法によって、貯蔵品の中で自家製品の占める割合をもっと増やせないでしょうか。

貨幣価値の目減りということ考えた場合、預金を上手に投資する方法はないでしょうか。収入は安定しているでしょうか。また80年代という流動的な時代にあって家族の必要をまかなっていただけの増収は見込めるでしょうか。

家族の物質的な必要に応えるには、現在の状況の中で、さらによく考え、準備し、計画しなければなりません。

2. 家族の組織。数週間前のある証会で、ひとりの若い母親が、主が新たな理解の目を開いて下さったと証するのを聞きました。それはこういう話でした。彼女は日曜日のプログラムの変更にひどくがっかりしてしまいました。初等協会の役員だった彼女は、プログラムの変更によって扶助協会、日曜学校に出席できなくなったからです。彼女はその変更に従うくらいなら、不活発になった方がまだましだと思いました。ある日、そのことについて深く考えていると、光の

ような靈感が心の琴線に触れるのを感じました。そして教会でどのようなことが起こるかを示現で見たのです。それは決して、彼女が考えていた、扶助協会への出席の機会を奪うというようなものではありませんでした。それどころか、自分たちの子供を教え訓練するという主から託された最も大切な責任を果たすために、主の日に夫や子供と最高の時を過ごす新たな素晴らしい機会だったのです。その後、彼女は夫と共によく祈り、学び、計画し、今では日曜日は1週間の中で最も大切な日になりました。

私は彼女の証を聞きながら、6カ月前に紹介されたこの新しい統合プログラムは果たしてどのような成果を取めているのだろうかと考えました。スケジュールや活動が変更になったことで、不満の日になってはいないでしょうか。テレビにうつつを抜かし、自分の思いを汚す時間が長くなっただけというようなことはないでしょうか。また、両親が子供たち一人一人に愛を示し、教え、訓練するに十分な時間を作るためには、家族そろって家庭というひとつの場に集う特別な機会が必要であるということについて、その理由をしっかりと理解しているでしょうか。

もう一度小さな子供のいる家庭の長という役割が与えられるとしたら、私はきっと、もっとたくさんの時間を子供のために使おうとするでしょう。そして教会が家族と共に過ごすようにということで私に与えているその特別な時間を厳密に守り、またよく計画することによって、それがもっと実りのあるものとなるように心がけるでしょう。

私は日曜日のプログラムの変更に伴って、今我が家で毎週行なっている特別な家族の

集いの進め方を変えようと思っています。今の世の中のほとんどの子供たちは、本来の姿を備えた家族の中で教えられたり、訓練されたりということがまずありません。それで私は自分の子供がこの特権を奪われるようなことのないようにしようと肝に銘じています。私は子供たちに、本来の役割を果たす家庭というものがどういうものかを見るという、考えられる中で最高の経験をさせてやりたいと念じています。永遠の家族は決して「自然にできる」ものではありません。あらゆる賜の中で最大の賜は、この地上での働きを通して手にしなければなりません。

まず初めに、毎週十分な時間をとって家庭管理委員会を開き、家族で何をするか計画を立てます。夫婦によって構成されるこの管理委員会では、ふたりが家族という組織の中で担っている指導者としての務めについて、十分に心を打ち明けて話し合い、計画を立て、準備をします。

次に、月曜日の夜の家庭の夕べの時間は、子供たちが家族の一員として、また将来、父親、母親として課せられる義務に対してどう備えるべきかを両親から学ぶ家庭評議会の場にします。家庭の夕べは家族そろっての食事で始め、続いて評議会を開きます。評議会では、神殿参入への備え、伝道への備え、家庭の管理運営、家計、職業面での能力の向上、教養を高めること、地域社会の活動への参加、財産の取得とその管理維持、家族の活動予定、余暇の過ごし方、家事の割り当てなどの事柄について話し合い、訓練します。そして特別のデザート、また子供たちが一人一人、両親と個別に話し合うという家庭の夕べの中で一番楽しい時間がその後続きます。

3番目は土曜日の活動です。この日は特別な活動の日で、前半と後半に分かれています。前半では子供たちに働くことの祝福、それに家屋、庭、畑の手入れの仕方を教えます。後半は、家族と一緒に活動をする時間です。共に楽しい活動をし、後々まで残る楽しい思い出の時とします。

4番目は日曜日です。この日は1週間の中でも特に大切な日となります。よく準備をした上で、教会で行なわれる3時間の礼拝行事に臨みます。家族は皆、穏やかなくつろいだ気持ちで、また霊的にも備えのできた状態で教会に集い、集会のひとときを楽しく過ごします。そして残りの時間も靈性が育まれるような過ごし方をします。服装もこの特別な日にふさわしい物を身につけます。男の子たちはジーンズとTシャツを脱いで、もう少しきちんとした服装で、女の子たちもショートパンツやスラックスではなく、着心地よく、しかも慎みのある服装で過ごします。この時間は家族そろっての聖典の勉強、系図や個人の記録、また家族の歴史の作成、あるいは手紙を書いたり、親戚や友人、病气や老齢のため家を出られない人々を訪問したりします。

3. 教会の責任を果たす。私は自分が召されている教会の責任をもっとよく果たすことができるように計画し、勉強し、訓練を受け、瞑想し、導きを求めて祈ります。私が望んでいるのは、自分の働きを主が望んでおられる水準に到達させることです。自分に与えられた一つ一つの責任に対してよく備え、自分のやり方のまずさのゆえに家族と過ごす貴重な時間を失うようなことが絶対ないようにしたいと思っています。また、副として働く人や高等評議員、定員会役員、ホームティーチャー、父親に委任

するという主の方式をもっとよく理解しなければと考えています。ひとりで幾らがんばっても、よくまとまったチームの働きには決して及ばないという原則についても同じように理解を深めていかなければならないと思っています。

4. 地域社会の活動への参加。私は自分の子供が通っている学校の行事や、自分たちが属する地域社会の活動にもっと積極的に参加していこうと考えています。多くの善き隣人たちと力を合わせ、自分たちが住む地域を、子供たちが清潔で危険のない、また健全で幸福な環境の中で成長できる所にしたいと願っています。卑劣な人々、また間違った道を歩む人々、自分たちの利益しか考えない人々、そのような人々が私たちから、家族がみんな地域社会の活動に参画するという祝福を奪っていくのを見過ごしにするわけにはいきません。

私たちの刈り入れが主が約束したもうた完き祝福を伴うものとなるように祈っています。なぜなら、主の祝福にふさわしい生活をした人だけがそれにあずかることができるからです。また私たちの家庭が、家庭本来の姿を保ったものとなるように願っています。すなわち、両親が子供を温かく迎え入れ、主が定めたもうた方法によって彼らを愛し、教え、訓練を施すという家庭を築くのです。

皆さんに私の証を申し上げます。主は力に満ちたもう栄光の王たる御方です。そして愛をもって私たちを導き、教え、祝福しておられます。

主の道は人を永遠の生命へと導く道です。その道に従う勇気が私たちに授けられるように、へりくだり、イエス・キリストのみ名によってお祈りします。アーメン。



七十人第一定員会会員 ロバート・L・シンプソン

主の宮居

「啓示された真理と光明と永遠に変わることのない確信は、つまる所、生ける神の神殿と不可分の関係にあります。」

これから少しの間、私は、神の律法が永遠不変の神権の原則によってしっかりと根を下ろしているという事実について証を述べたいと思います。神の真理は、それを活用しようとするすべての人にとって、平和と、安全と、自由の支えとなっています。私はまた、啓示された真理と光明と永遠に変わることのない確信は、つまる所、生ける神の神殿と不可分の関係にあることを証致します。この聖なる建物は、正確には主の宮居としてあがめられています。

現代の世の中であって神殿とは一体どういうものなのでしょう。神を崇拝する大多数の人々は、神殿と聞くと、もっぱら2千年以上も昔の、民の中に予言者がいた時代に建てられた古代の神殿についてだけ考えます。

そこできょうは、今の時代に建てられた現代の神殿、すなわち古代の神殿とまったく同様に献堂された神殿の中を御紹介しましょう。神殿は、然るべき神の権能を委

任された人々によって聖なる儀式が執り行なわれる特別な建物です。まさしく静かに神を礼拝する所なのです。したがって、神殿の中では静かに、普通はささやき声で話します。神殿に参入する人は皆、白い衣を身に着けます。また神殿に入る人はすべて清くふさわしいことが認められた人々です。

神殿は祈りの家です。それは、神殿で行なわれるどの儀式も皆天の御父を賛美するものだからです。神殿に初めて参入する人は、神殿の外では得られない特別な祝福についてはっきりと告げられます。

神殿は学問の家です。それも人類に対する神の永遠の計画という神聖な教えを学ぶ所です。神殿に入ると、自分と創造主、また自分と救い主との個人的な関係について一段と理解を深めることができます。そうです。神とイエス・キリストについて特別な知識が得られるのです。そして、この知識こそ永遠の生命を得るために不可欠のものなのです。「永遠の命とは、唯一の、まこ

との神でいますあなたと、また、あなたが
つかわされたイエス・キリストとを知ること
であります」(ヨハネ17:3)とあると
おりです。

神殿はまた啓示の家、絶えざる啓示を受
ける所です。その啓示が予言者に下るか真
理を求める会員に下るかとはともかく、自ら
求めて神殿に来る人は皆、絶えず教えられ
啓発されています。

神殿は犠牲を捧げることを決意する家
です。なぜなら実際、犠牲を伴わない真の礼
拝はあり得ないと歌われているからです。
まさしく讃美歌にあるように、犠牲は天よ
りの祝福をもたらすのです。

神殿は神聖な誓約を交わす家です。それ
ぞれがさらにキリスト教徒らしい生活をす
ることを誓約します。400万の聖徒たちが
この誓約に入ることができたらどんなに素
晴らしいことでしょう。

神殿は若人たちがこの世から永遠にわた
って結婚をする所です。そのようなわけで、
誤解や不信、最近とみにその数を増してい
る離婚などの人生の隠れた落とし穴を超越
した、固い絆で結ばれるのです。

神殿は永遠の関係を結ぶ家です。すなわ
ち、家族が自分たちをひとつの永遠の家族
に変身させるという目的をもって訪れる所
です。そしてそのように変身した家族にと
っては、家族同士の意見の相違などという
取るに足りないことよりも、家族として、
永遠に共にいるということの方がずっと大
切になってくるのです。

神殿は神の家です。そこでは、ふさわし
いことを表わしたすべての人に、先祖のた
めに聖なる神殿の儀式を行なう特権が与え
られます。すなわち、聖書に予言されてい
るように、まさしく子供たちの心がその先

祖に向けられるのです。そしてこの祝福を
得られるかどうかは、天の御父のその子供
たちに対するすべての祝福と同様、神権の
原則に忠実に従うかどうかにかかっています。

神殿で得られる最大の祝福は、夫婦の間
の愛と献身に焦点が置かれています。神殿
に入った夫婦は、自分たちが家族の中心を
成しているという模範を示さなければなり
ません。聖典にはそのことが一番よく表わ
されています。「ただ、主にあっては、男な
しには女はないし、女なしには男はない。」
(Iコリント11:11)とあります。この世
のいかなるものでも、優しく誠実な夫婦の
関係に反するものは、敵の手になるもので
す。一方、家族の一致を促し永続させるも
のは、すべて現世の人間に与えられた主の
計画と一致します。すなわち父親と母親、
そして子供たちがキリストの光と真理を正
しく受け、それによって行動を促されるの
です。

夫は妻を愛し、妻は夫を尊敬して下さい。
福音に頼れば皆さんの問題はすべて解決で
きます。また、子供たちの立派な模範とな
って下さい。すべてはそこから始まります。
詩人ロングフェローは、このことを次のよ
うな言葉で巧みに表現しています。

「弓に弦が張られているように

男には女がいる

女は男を引くが女は男に従う

どちらが欠けても役に立たぬのだ」

(『ハイアワサの歌』*The Complete Poetical
Works of Longfellow* 「ロングフェロー全詩
集」p.135)

この詩で表現されていることは神殿の教
えと一致します。

数年前、アイダホ州で思いがけない洪水

が発生した直後のことでした。見たところ洪水で家財一切を失ったらしいひとりの男の人が、激しく泣いていました。しかし彼は家財を失ったことでそれほど絶望したわけではなく、それよりもはるかに大切な、愛する妻と4人の子供たちの姿が見えなかったので、きっと洪水にのまれたものと思い込んで絶望していたのです。しかし、程なくしてよい知らせが届きました。彼の家族は奇跡的に救助されて、近くの避難施設で彼を待っているというのです。間もなくこの家族は再会しましたが、それはこの上ない喜びと幸福にあふれた光景でした。この喜びの中で彼の語った言葉が今も心に残っています。その時彼はこのように言いました。「この世の財産はすっかり失くしてしまいました、それでも再び家族を得て、私は大金持ちにでもなったような気分です」と。妻と子供たちもその言葉に同意してうなずきました。すでにおわかりと思いますが、この家族はまさしく特別な家族でした。この家族は、生ける神の神殿でこの世から永遠にわたる結び固めを受けて間もなかったのです。

ついきのうも、私は神殿の聖壇にひざまづくある若いカップルの結婚式に出席する特権にあずかりました。ふたりは共にまばゆいばかりの白い衣を身につけ、大勢の家族や友人に取り囲まれていました。その結婚の誓約の中で言われたのが、「この世から永遠にわたって」というこの特別な言葉です。おわかりのように、これはふたりの結婚が永遠に続くことを明確に示すものです。

もし世界中のあらゆる人々が、このような結婚関係を可能にする神聖な光と真理の教えに触れることができたなら、一部の選ばれた人たちだけでなく、すべての神の子

供たちが自らをふさわしく備えることができるでしょうに。しかし、それは主の方法で行なわれなければなりません。

永遠の結婚は非常に神聖なものです。したがって、神殿の中で、しかも地においても天においても結び固める然るべき神権の権能を授けられた人によってのみ執り行なわれます。

「何にても地に於て汝の結び固むるところは天に於ても結び固められ、何にても地に於て汝のわが名によりわが言によりて結ぶところは天に於て永遠に結ばるべし。」

(教義と聖約132:46)

さて、ここで25人の十代の少年少女のグループを御紹介したいと思います。このグループは、死者のためのバプテスマという神聖な儀式を受けるため明け方のまだ暗いうちに神殿に来なければなりませんでした。この若人たちはすでに監督によって、道徳的にも清くふさわしいことが認められていました。御存じのように今日の監督も、古代の監督に与えられたと同じ指針に従う義務があります。古代の監督もこのように教えられていました。「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。手が清く、心のいさぎよい者、その魂がむなしい事に望みをかけない者、偽って誓わない者こそ、その人である。」(詩篇 24:3-4) 主の家にはいつの時代にもひとつの標準がありました。それは清さです。そして、この清さに妥協はあり得ません。

25人の若人たちは、先に世を去った人々のために何か役立ちたいという思いから敬虔な気持ちになりました。ひとりの少女はこのように語っています。「1700年代に生きていたひとりの先祖のために身代わりのバプテスマが受けられて、とてもうれしか

ったです。彼女も、私がしたことを喜んで受け入れてくれたと思うわ。」

この若人たちは、パウロが伝道していた頃に行なわれていた儀式を執行していたのです。パウロはコリントの聖徒たちに次のように書き送っています。「そうでないとすれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらなるとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。」(1コリント15:29)

死者のためのバプテスマとして知られているこの身代わりの儀式が、新約時代に行なわれていたことは、パウロの証言が示しているように明らかです。そしてこの儀式は、主イエス・キリストの十字架上の死の後、その使徒たちによって教えられた重要な儀式であることも明白です。これはパウロ自身の言葉を読むとわかります。パウロはガラテヤの人々に次のように証しています。「兄弟たちよ。あなたがたに、はっきり言うておく。わたしが宣べ伝えた福音は人間によるものではない。わたしは、それを人間から受けたのでも教えられたのでもなく、ただイエス・キリストの啓示によったのである。(ガラテヤ1:11-12)

現世でその機会のなかった人々のためにバプテスマのみならずその他の身代わりの儀式の数々を行なうため、神殿では大勢の人々が長い時間働いています。聖典にはこのように宣言されています。「もし然らざれば、主の来る時、全地はことごとく荒れ廃れん。」(ジョセフ・スミス2:39)

救い主は、全人類に不死不滅をもたらす力を持っておられましたが、私たちは、一度にひとりに限って、身代わりの儀式を行なう力があるだけです。しかし、それは同じ

栄えある目的のためであり、同じ権能によって可能になるのです。再び主の言葉を引用しましょう。「汝らもし、日の栄の世界に一つの所を得んことをわれに願わば、わが命じて汝らに求むるところを行いてその備えを為さざるべからず。」(教義と聖約78:7)

釈明もせずに申し上げますが、すべての生命ある人は、人生の究極の目的として神殿の祝福を熱心に求めるべきではないでしょうか。皆さんは神殿の中で平安を得るでしょう。そして、本当の安全とは何かを知るでしょう。本当の自由を得るために知る必要のあることを、皆さんは主の宮において学ぶことができるのです。混乱や不和とは縁のない神殿は、今の世には珍しく、完全に私心をなくすことのできる場所なのです。

最後に、救い主の慈愛に満ちた勧告を読みたいと思います。「この故に小さき羊の群よ、おそるなかれ。善を行え、この世と地獄と共にありてむかい來らしめよ。もし汝らわが磐の上に立たば、彼ら打ち勝つ能わざればなり。」(教義と聖約6:34)

神殿より安全なより所はほかにありません。神殿で成し遂げられる業は、そのほかのどのような人間の働きにも勝るものです。神殿の祝福を得るためにあらゆる障害を取り除かれますように。主はそこで神の子である私たち一人一人を待っておられることを証致します。イエス・キリストのみ名によって、アーメン。

☆

☆



七十人第一定員会会員 ロバート・E・ウェルズ

羊飼いを知る

「私たちはそれぞれ、こう質問してみる必要があります。『果たして私の愛は、また勉強、祈りは、羊飼いを知るに十分なものだろうか。』」

以前、ヒュー・B・ブラウン副管長が次のような人の心を高める話をするのを聞いたことがあります。ある時、ひとりの有名な俳優がニューヨークの大劇場で素晴らしい劇を上演しました。劇が終わると大きな拍手喝采があり、彼は観客に何度も何度も舞台へ呼び戻されました。そうしている内にだれか「詩篇の23篇の朗読をお願いしたい」と頼む人がいました。

「詩篇の23篇ですって。わかりました。23篇なら私も覚えていますから。」

俳優としての彼のその朗読は、演ずるといふ観点からすれば非の打ち処のない、完璧なものでした。それが終わると再び嵐のような喝采が起きました。それから、その俳優は舞台の前に来るとこう言いました。「皆さん、この観客席の1番前の列に、私はきょう初めてお目にかかる方なのですが、ひとりの御老人がいらっしゃいます。突然で申し訳ありませんが、もしお願いできれば、この御方に詩篇の23篇をここに来て朗

読していただければと思います。いかがでしょうか。」

その老紳士がびっくりしたのは言うまでもありません。びくびくした様子で舞台上がると、こわごわと大観衆の方に目を向けました。そして、ひとりきりで自分の家にいる時のような面持ちで、目を閉じ、頭を下げ、神に向かって話しかけたのです。

「主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない。

主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる。

主はわたしの魂をいきかえらせ、名目のためにわたしを正しい道に導かれる。」(詩篇23:1—3)

そして老人は救い主御自身への心からの言葉をつぎました。

「たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わがわいを恐れませぬ。あなたがわたしと共におられるからです。あなたのむちと、あなたのつえはわたしを慰めます。

世界の道 第21号

あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴を設け、わたしのこうべに油を注がれる。わたしの杯はあふれます。

わたしの生きていくかぎりは必ず恵みと
いつくしみとが伴うでしょう。」(詩篇23:
4-6)

老人が朗読を終えても、拍手もなければ
喝采もありませんでした。しかしそこに
いたすべての人の目には涙が光っていたので
す。先の俳優が舞台に出て来て、涙をぬぐ
いながら言いました。「皆さん、私は詩篇23
篇の言葉を知っています。でも、この御方
は羊飼いの御自身を御存じなのです。」(ヒュー
ー・B・ブラウンによる翻案、*The Quest*
「探求」pp. 335-36)

エズラ・タフト・ベンソン会長は、どう
したら羊飼いの御自身を知ることができるか
について、その鍵となることを述べていま
す。「キリストを知るためには、聖典、また
キリストを知る人々の証から学ばなければ
ならない。私たちは祈り、そして神が戒め
を守る人々に約束された靈感、啓示によっ
て主を知ることができる。」(*God, Family,
Country: Our Three Great Loyalties* 「神、
家族、国家——我らの3つの不動の忠誠」
p. 156)

あるひとりのアルゼンチン出身の銀髪の
姉妹も羊飼いの知っている人です。彼女は
その長い生涯を主と主の教会と隣人のため
に捧げてきました。

彼女はメラ姉妹といいますが、彼女が
初めて教会に集ったのは宣教師に連れられ
てのことでした。宣教師たちは自分たちが
それまで出会った人々の中で、彼女ほど教
養が豊かで、洗練され、高度な教育を受け
た求道者はいないと感じていました。彼ら
はメラ姉妹のきれいな家で数回集会を持

ちました。そしてある時、日曜日の教会の
集会と一緒に出席していただきたいと願
いすると、彼女は快くそれを承知しました。
集会は古ぼけた建物の中で開かれていま
した。そこに集う会員たちはその新しい求道
者に比べて、どちらかという貧しい暮ら
し向きの人々でした。

集会の進行は、自分たちの賓客によい印
象を与えたいと願っていたふたりの宣教師
の目から見れば、とても満足できるもので
はありませんでした。その支部の指導者た
ちは召されてからそれほど経っておらず、
自分たちの責任がどういふものかまだよく
のみこめていないような状態だったのです。
司会者がまごついてしまったり、最も神聖
な時であるべき聖餐の儀式が中断されたり
という有様でした。話も決してその熱心な
宣教師たちが望んでいた、人の心を引きつ
けるほどのものとは言えませんでした。子
供たちが動き回ったり、泣き声を挙げたり
することが何度もあって、とても敬虔な思
いに浸るなどというものではありません。
それに荘重な宗教音楽をかなでるオルガン
もありません。その優雅な装いの求道者が
持ったに違いない否定的な感情を思うと、
ふたりの宣教師の心は重く沈みました。ふ
たりは彼女がいつもは、すべてが高度に専
門職化された、しかも上流階級の人々が集
う美しい大聖堂で礼拝していることを知っ
ていたのです。

その日の帰り道、片方の宣教師が恥じ入
った様子を見せながら弁解を始めました。
「私たちは今あのような建物を使っていま
すが、どうか事情をお察し下さい。いつか
はこの地にも、新しく立派な礼拝堂が建
つと思います。」それからこう続けました。
「それと、新しく召されたばかりの指導者

たちのこともわかっていただきたいのです。この教会の神権者は教会の責任を職業としているのではありません。それで代わる代わる集会の司会をするのですが、彼らは指導者に召されたばかりで、まだそのやり方を勉強している最中なのです。」さらに言葉を続けようとする、メラー姉妹はその宣教師の方を向き、幾分きつい口調でこう言いました。「長老、謝る必要は何もございません。キリストの時代もきっと同じだったと思いますよ。」

聖典を学んで身につけた霊的な理解力と救い主への知識とをもって、彼女は幾世紀にわたって重ねられてきた人の歩みをはるかに越えたところを見すえていたのです。彼女の心の目は大聖堂やオルガンなどに捕らわれてはいませんでした。その向こうにあるものを見ていたのです。彼女の思いは時の流れを越え、羊飼いが卑しい漁師あがりの使徒や罪人、そして時にはらい病のた

めにのけ者にされていた人たちと共に集われる姿に向けられていました。彼女が心に思い描いたのは、小さな二階の一間を借りて集う古代の聖徒たちであり、救い主が傍らの幼な子たちに優しくほほえみかけられる姿だったのです。彼女が心の底から、そして深い洞察力をもって、「キリストの時代もきっと同じだったと思いますよ」と言えたのは、羊飼いを知っていればこそのことだったのです。

この婦人の模範は私に、次の勧告を身をもって示してくれるものです。「汝の精神にキリストへの思いをみなぎらせ、その心中にキリストの愛をあふれさせよ、そしてその人生をキリストへの献身に捧ぐべし。」約30年前、メラー姉妹が初めて教会に集ったその地にも、今では立派な礼拝堂が建ち、よく訓練された監督会によって管理されています。

もうひとり、だれにも勝ってよく羊飼いの



を知っていると思われる人がいます。その人は何世紀も前の空白の時を経て地上に再び立てられた最初の予言者です。彼は示現の中で初めて救い主とまみえた時のことをこう書いています。「私は自分の真上に太陽にも増して輝く一つの光の柱を見た。……そしてその光が私の上に留った時、私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有ちたもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまい、他のお一人を指して『こはわが愛子なり、彼に聞け』と仰せられた。』（ジョセフ・スミス 2：16—17）

この年若い予言者は、天を開くこととなったその比類のない出来事を次のように書き続けています。「私が主に伺おうとした目的は、私が何れに加入すべきかを知るためにすべての教派の中で何れが正しいかを知ることであった。それで私はわれに返って言葉が出せるようになるや否や、私の真上で光に包まれて立ちたもう御方に、すべてこれらの教派の中で何れが正しいかそして私は何れに加わるべきかを伺った。

ところがその御答に『汝はその何れにも加わるべからず、彼らことごとく誤れるを以てなり』と言いたもうた。』（ジョセフ・スミス 2：18—19）

その後予言者ジョセフは10年にわたって、復活した人々、また再び地上を訪れた古代の予言者や幕を越えてやってきた天使たちから教えを受けました。そして今から150年前、彼は救い主御自身の口から、神の教会、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会を正式に組織するよにとの命を受けたのです。この予言者はその後も、主にしてよみがえられた贖い主から、数々の驚くべき示現を受けました。そのような示現のひ

とつを読んでみましょう。「われらの心より覆い取り去られて覚りの眼開かれたり。

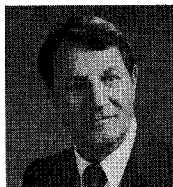
われらは、われらに面して教壇の胸欄に立ちたもう主を見たり。而して、主の脚下にはこはくの如き色したる純金の床ありき。

その眼は燃ゆる炎の如く、頭髮白きこと清き雪の如く、その顔は日の輝きにも勝りて光り輝き、その声は洪水の激する音の如し。誠にエホバの御声言いたもう。

われは始めなり終りなり。われは生ける者なり殺されたる者なり。父と汝らの間の仲保者なり。』（教義と聖約110：1—4）これを書き記した予言者は羊飼いを知っていました。

予言者ジョセフ・スミスは自らの証に一命を賭し、殉教の死を遂げました。自分の血をもって証を結び固めたのです。私たちは彼をこの神権時代最初の予言者として、またこれまでのあらゆる神権時代の最も重要な予言者としてたたえるものです。彼は「ただイエス・キリストを除くのほか、この世に生を受けたる何人よりもこの世に於ける人類の救いに尽した」のです。（教義と聖約135：3）教会設立150年祭のこの時に当たり、私たちはジョセフ・スミスを、自分自身の体験を通して主を知った予言者としてたたえたいと思います。

私たちはそれぞれ、こう自問してみる必要があります。「果たして私の愛は、また勉強、祈りは、羊飼いを知るに十分なのだろうか。」私たちが皆、神の戒めに従うことによって救い主を知るに至り、主と顔を合せてまみえる時に、「私はあなたを存じております。」あなたこそ私の羊飼いです」と言えるように祈っております。これを私たちの愛する羊飼ひ、イエス・キリストのみ名によって証します。アーメン。



七十人第一定員会会長 ニール・A・マックスウェル

あらゆる種類の人々を 囲み入れる網

「私たちは神が慈悲をもって私たちを受け入れて下さったように、群れに
新たに加わった人々をもっと効率的にシオンに受け入れる必要があります。」

兄 弟姉妹、私たちはほとんどすべての文化や環境から福音の網に入ってくるおびただしい数の「あらゆる種類の」人々に対して、今まで以上によく受け入れることができるようになっていなければなりません。(マタイ13：47参照)

こうした人々の中には、デカローグ（十戒）がないところにはデカダンス（退廃）あるのみということを苦い経験を通して知り、この世のバビロンと訣別した人がいます。

また、「幸福と言う性質に反する有様で「神を信ぜず世を渡」ることをやめた新入者もいます。(アルマ41：11) 彼らは、それまでの自分たちの人生が「安ホテルで一夜を明かすようなもの」であったことに気づいたのです。(マルコルム・マグリッジによる引用『偉大なる最期の自由な望み』*Imprimis*「インプリミス」1979年5月号)

またある人々は、悪魔の王国を抜け出しに来るでしょう。悪魔の国に揺さぶりをか

け、そこに住む者たちの一部の心を動かして彼らに悔い改めを促すことは、主が断言しておられることだからです。(IIニーファイ28：19参照) こうした傷ついた、しかしながら神を信じようとする心を持った霊たちは、世の軍勢が「すべての地とすべての民とすべての国の自由を奪い取ろうとする」中で、霊の自由を求めてはい上がってくるのです。(イテル8：25)

こうした新参者たちは、祖国を捨てよとも、優れた文化を放棄せよとも言われません。求められるのは、霊を傷つけるものを遠ざけるということです。霊を傷つけるものは、だれの人生にも、どのような文化にも存在します。

教会に加入してくる人の多くは、それまでずっと正しい生活を送ってきた人々です。そうした人々は、生活態度を別に大きく変えなくとも教会員としての人生に喜びを見いだすことができますでしょう。

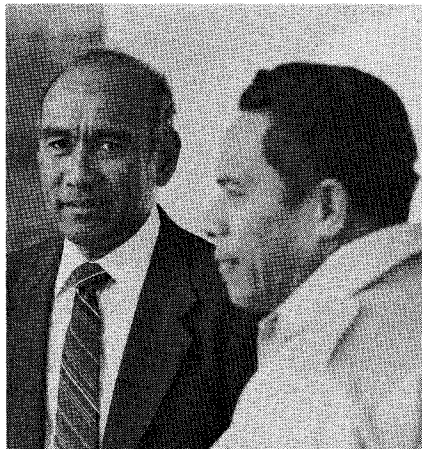
このように、大勢の人々が、霊的に遠く

離れた所から私たちのもとにやって来るのですから、私たちがほんの1マイル余分に前に出て彼らを迎え、いろいろお世話をすることができないはずはありません。彼らは悪との人知れぬ戦いによく勝利を収め、信仰の国への国境を凱旋^{がいせん}してくる英雄なのです。教会堂の混雑する廊下を突切って彼らの前に行き、歓迎の手を差し伸べるのは当然のことでしょう。私たちは、転校第一日目のあの言いよのない不安、近所に全く知り合いのいない所に引越した時のあのおずおずした気持ちを忘れて久しいのではないのでしょうか。シオンの市の街角には、いつも新しく越してきた家の子供が立っているのです。

この新入者が携待しているシオンへの入国ビザが有効なものであることは、神権指導者が判断しました。ですから、まゆをひそめたりいぶかしげにながめたりせずに、心から歓迎しましょう。私たちの仕事は彼らをつるし上げることではありません。引き上げることです。彼らは今まで拒まれ続けてきた人です。今度は受け入れてあげましょう。

主のぶどう園に、仕事が終わる1時間前に来た人々は、「最初の人々」と同じ賃金をもらうのです。話は違いますが、「最初の人々」は古き良き時代のことをあまり口に出すことなく、昔よりもっと良い時代の実現を目指して働くようにしなければなりません。(マタイ20：1—16参照)

アメリカ独立戦争で最初に水兵になったふたりの人の話です。ひとりが他よりほんの数分だけ先んじて船に乗りました。2番目の水兵は船に乗ると喜びを体一杯に表わしました。水兵になれたことがうれしくて仕方がなかったのです。するとそれを見て



先に乗った水兵がせせら笑って言いました。「はしゃぐんじゃあないよ。一番乗りの気分はおれ様しか知らないんだ。」

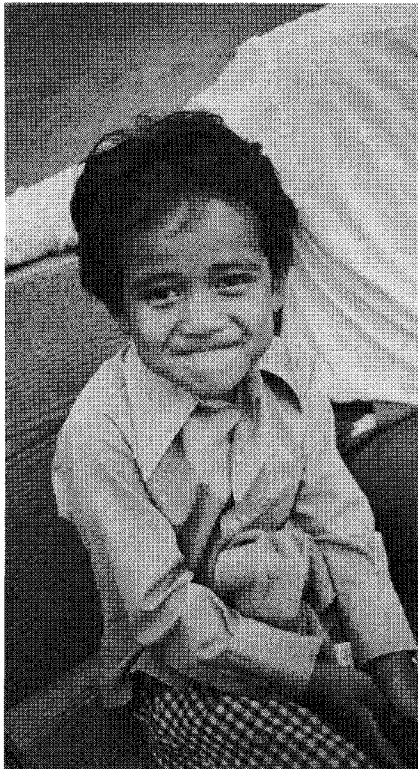
パウロは、社会的地位の高い人が大挙して教会に加わることは期待すべきでないと言いました。(Iコリント1：26)また、私たちすべてに自分が何者かを教えてくれ、また聖なる神殿では民主的に皆が同じ衣を身にまとう教会にあって、紳士録のような著名人の名を連らねた本は不必要です。

これから新たに教会に加わる人々は、教会の指導者が世の一部の人々からさんざんにかからかわれている中で入ってきます。それがどのようなものかは、毎日箱舟造りに精を出すノアをテレビのニュースショーが取材したらどうなっていたかを想像すれば、おわかりいただけるでしょう。つけ加えて言うならば、悪魔は義を求めてやまない私たちを賞賛しています。それは、私たちの義が増せば増すほど悪魔の力も強くなっていくからです。もちろん、私たちがその「賞賛」に耐え続けていければの話ですが。

新人の皆さん、皆さんは教会員の中で、教会を去り、しかもその後で教会に攻撃を

加える人々を目にするかも知れません。彼らのことはそのままにしておきましょう。つかの間のこの世の賞賛を受けさせましょう。いずれは全能者の王座に深く頭を垂れ、イエスがキリストであり、この業が主の業であることを公言するようになるのですから。また、ダニエルが見た小さな石が容赦なく転がり続ける時、それを打ち砕こうとねらっている者たちがいても、決して驚かないで下さい。(ダニエル2章参照)

幸いなことに、おびたしい数の「新入者」の群れの中に、あの放蕩息子のように正気を取り戻したかけがえのない人々がいます。(ルカ15:11—32参照) 新たな決意を胸に秘めた彼らにも、温い歓迎が必要です。



あの放蕩息子の父親に負けないように努力しようではありませんか。彼は受身で、しかも息子が戻ってくるのは、自分の持ち物を取りに来ただけなのかもしれないなどと疑いの心で待っていたのではありませんでした。はるか遠くに息子の姿を認めると、彼は走って行って息子を迎えました。

群れに新しく加わった人も戻って来た人も、英文讃美歌21番『シオンに集う時に』の歌詞が説く助言に耳を傾ける必要があります。「シオンに集う時に、苦難と試しがすべて過ぎ去り……すべてが清く純粹で……揺るがぬ信頼があり……聖徒たちには自分の幸福と安らぎを求めることしかなすべきことがないとは思わぬ……。」

教会は聖徒を完き者とするために存在します。ですから、新入者は群れの中に入ることはすぐにできますが、自分に対しても他人に対しても、聖徒として一人前の態度を即座に身につけるなどということは期待してはならないのです。これには、真理の一つ一つを時間をかけて忍耐強く学ぶ必要があります。

さて、私たちは共に働く時、互いの欠点に気づきます。そのような時に私たちは、「弱きを助け、垂れたる腕を挙げ、かよわきひびを強うすべし」(教義と聖約81:5)と勧められています。

新入者を早く主の業に参加させましょう。彼らが主のぶどう園に呼ばれたのは、遊ぶためではなく働くためであり、ただながめるだけでなく耕して種をまくためです。彼らを高名な人物のようにはなく友人として、また競争相手としてではなく仲間として遇しましょう。そして彼らの貴重な熱意を、さらに別の人々をぶどう園に招くことに利用して下さい。



また彼らが、自分にはまだ資格がない、準備ができていないと思いながらも、群れに加わることができた喜びを一杯に込めて祈る初めてのたどたどしい祈りに、また初めての話に、愛と励まし心をもって耳を傾けようではありませんか。ところで、この「ふさわしくない」という気持ちはいつになっても消えないものだということを、新しい人たちに話してあげてもよいでしょう。

しかしながら、ひとつの民として私たちを見た場合、私たちがまだ満足のいく状態にまで到達していないことは明らかです。こうあるからです。「シオンはその美と聖とを増(さ)……ざるべからず。」(教義と聖約82:14) アルマの時代と同じように、少数の教会員の愚行がみ業の発展を遅らせています。(アルマ39:11参照) 事実シオンは、まず私たちが初めに懲らしめを受けなければ完全には贖われぬのです。(教義と聖約

100:13) ですから、私たち自身の欠点に対して度を過ぎた忍耐をすることがないようにしましょう。また、肉体にまだとげのある内にバラの花園を見ることを要求しないようにしようではありませんか。(IIコリント12:7参照)

永遠進歩について教室で学ぶだけでは不十分です。毎日の生活に教えを実践し、改善をはかりましょう。

また、家庭やクラスでの福音の学習を真に実りあるものとし、教義に対する個人的な解釈を単に披露し合う場にしないようにしましょう。そして思わず首をひねりたくなるような、あるいは一番関心が向かない教えや義務が、私たちにとって最も大切なものであり得ることも、心に留めておく必要があります。

古参者、新参者、それに群れに戻った人人を問わず、私たちの心には大きな変化がなければなりません。この変化は、単に私たちのスケジュールをほんの少し変更するようなものではありません。もっと多くのものが要求されます。(モーサヤ5:2参照)

失望するようなことがあっても逃げてはいけません。ペテロのあの救い主への不滅の問いを心に抱いて主に心向けましょう。

「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。」(ヨハネ6:68) 兄弟姉妹、このほかに「幸福を与える偉大な計画」(アルマ42:8)はありません。この計画以外のものは、不幸に陥れる計画だけです。

精神的にも様々な重圧を受ける現代にあって、私たちはなぜなすべきかがわからずに実行を求められることがあります。しかし、そうした要求に対しても静かな驚きと同時に静かな決意をもって応えようではありませんか。こうあるからです。「主はシオ

ンを慰め……かくしてシオンの中には喜びと楽しみがあり感謝と歌声もある。」(II ニューファイ 8 : 3)

私たちは「歌声」と共にさらに聖なるシオンを築く時、「すべてはよし、すべてはよし」と歌うでしょう。(讚美歌23番『恐れず来たれ聖徒』)しかし時折、歌ばかりでなく、むせび泣く人への励ましも約束の日には待ち受けています。イザヤはこう語りました。「悲しみと嘆きとは逃げ去る。」(イザヤ35 : 1)

私たちはパウロの言葉を借りてこう言います。「わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。」(II コリント 4 : 8—9)そしてこうつけ加えるでしょう。「困難に直面しても驚かない。不当に非難されても非難する者たちのために祈る。ののしられてもキリスト教徒としての奉仕の業をもって応える。」兄弟姉妹、私たちは私たちの行動を客観的にながめる人に「アーメン」と言わせるような生ける証、生ける教えとすることができるのです。

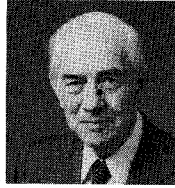
救い主は、いちじくの木が芽を出せば夏が近いことがわかると同じように、主の再臨も近いと言われました。(ルカ21 : 28—30 参照) 予言として与えられている「夏」の状態が、今私たちの周囲に見られます。ですから、夏の暑さ、すなわち迫害の熱に不平を言うことのないようにしようではありませんか。

救い主はその慈悲の手を差し伸べて、人類の墮落を阻止されるほどまで私たちが虐待されていてもなお私たちの群れの中にお立ちになり、「小さき羊の群よ、おそるなかれ」(教義と聖約6 : 34)との言葉を投げ

かけ、「善を行え」と勧告されるでしょう。そしてその時こそ「あらゆる生物共にわれを見る」(教義と聖約100 : 23)時であり、また「万国の民ことごとく御前に戦^{まの}く」(教義と聖約133 : 42)時なのです。その時、主の来臨は「すべての国々の最後」(教義と聖約87 : 6)を告げるものであり、地上には主の律法以外の律法は存在しなくなるのです。(教義と聖約38 : 22 参照)

そこでは、ナザレのイエスの史的根拠はもはや問われません。なぜなら、イエスの福音の網に喜んで入った「あらゆる種類の」忠実な人々がイエスに対して疑問を投げかけたことは一度もなく、あったのは肯定する声だけだったからです。

さて、私が願うのは、神が慈悲の心をもって私たちを教会に受け入れて下さったように、私たちが群れに新しく加わった人や戻って来る人々をシオンにもっと効果的に受け入れることができるよう、神の助けをいただきたいということです。このシオンの門で彼らを待ち受けておられる方が私たちのほかにもう御一方おられます。それはイエスであり、イエスは「門を守る者」(II ニューファイ 9 : 41)なのです。主がそこで私たちを待っておられるのは、私たちのふさわしさを確認するためだけではありません。私たちを心から歓迎したいという愛の表われなのです。「ここには下僕をお使いにならない」(II ニューファイ 9 : 41)のもその理由からです。主が「とりまく闇の中」(讚美歌119番)で私たちを導かれるにあたり、私たちに主に受け入れられるだけの備えができていますように。イエス・キリストのみ名により祈ります。アーメン



十二使徒定員会会員 マーク・E・ビーターセン

天使長アダム

「ミカエルのラッパは、末の日に復活を告げて鳴り響くことでしょう。そして彼は、主の軍勢の長となって戦うのです。」

ある夏の日、私は、ミズーリ州にあるアダム・オンダイ・アーマンの地を訪れました。初めての訪問でしたので、私は、強い期待を抱いて出かけました。

緑の草原となだらかな丘。そこは、人の目に何かを焼きつける美しいながめの所でした。

しかし、その風景以上に私を感動させたのは、その場所の持つ意味です。そこは、まさにアダムとイヴ、そしてその家族が住んでいた場所なのです。そう考えると、その場所の持つ測り知れない価値が、私の上になぞりしりのしかかってくるのでした。

人類は、ここから始まったのです。啓示がそのことを教えています。(モーセ1:34; 教義と聖約107:53; 84:16参照)

アダムとイヴは、神を身近に知っていました。彼らは、神を見、神と話しました。そして初期の時代からイエス・キリストの福音を教えられていたのです。それは、イエス・キリストが地上においてになるずっと

と以前のことでした。と言うのは、イエス・キリストは前世において世の救い主となるように任命されていたからです。

したがって救いの計画は、まずこれら最初の人間、すなわちアダムとイヴまたその子供たちに天使によって伝えられたのでした。彼らは、それを信じてバプテスマを受け、神に仕えるようになりました。(モーセ5参照)

聖典には、アダムが土地を耕し、家畜の世話をしている時、イヴも「彼と共に働きたり」(モーセ5:1)と書かれています。

彼らは、知性にあふれた人間であり、ある人々が人間の先祖として主張するような類人猿や原始人とは、まったく異なっていました。アダムとイヴは、主御自身から直接教えを受けた教養のある人々です。その教育とはどのようなものか、想像できるでしょうか。また、彼らを教えられたのは、主御自身なのです。

これについてよく考えて下さい。そして、

「神の栄光は英智なり。すなわち、光明と真理なり」(教義と聖約93:36)ということ を思い起こして下さい。これらの賜は、まさにアダムとイヴ、およびその家族に与えられたのです。彼らは、最初の人類であったため、だれも教える人がなく、その責任は、主とその使いに残されていたのでした。

アダムとイヴには、たくさんの息子、娘がいました。すべての事柄において主に忠実であったセツやアベル。そして、カインもいました。

アダムとイヴは、神から授かった「清くして汚れ」のない言葉によって、子供たちに読み書きを教えました。(モーセ6:6参照)

また、彼らは、アダムの言葉で「一部の覚えの書」をつけていましたが、その清くして汚れのない言葉は、聖霊の「みたま」によって、神を呼び求めるすべての人々に与えられました。(モーセ6:5-6参照)

「かくの如くして、福音は最初より説き始められて、神の御前より遣わされし聖き天使たちにより、神自らの声により、また聖霊の賜によりて宣べられたり。」(モーセ5:58)

「この時よりアダムの息子娘たちは二人ずつ地に分れて土地を耕し、羊の群を飼いはじめ、彼らもまた息子娘たちを生みたり。」(モーセ5:13)

サタンが足を踏み入れる時まで、そこは、栄光に満ちた所でした。しかし悪魔は、神の教えにいどんでアダムの子供たちにこのように言ったのです。「信ずるなかれ。」この時から、家族の中には、神よりもサタンを愛する者が出てきたのです。(モーセ5:13参照)そして、真理から遠ざかっていきました。

それらの人々は、神のみたまを失い、その結果、肉体、肉欲、悪魔に従う者になったのです。(モーセ5:13参照)悪の帰するところは、常に退化です。こうしてみると、時の初めに原始人がいたとしても、何ら不思議ではありません。

そのような人々の中に、カインがいました。彼は、ルシフェルと恐るべき誓約を交わし、他の人々をもいざなったのでした。

「而してアダムとその妻は、カインとその兄弟らの故に主の御前に悲しめり。」(モーセ5:27)

カインは、義人のアベルを憎み、その羊を何とか自分のものにしたいと思っていました。そして、それにつけこんだサタンは、彼に、アベルを殺してその持ち物を奪い、羊を自分のものにするようにけしかけたのでした。

こうして、初めて殺人が行なわれました。カインは、主に叱責され、自らの悲惨な罪ののろいを受けてアダム・オンダイ・アーマンの地を去り、ノドと呼ばれる所に住んだのでした。(モーセ5:41)

イエス・キリストの教会は、アダムの時代に既に確立していました。(Teachings of the Prophet Joseph Smith 「予言者ジョセフ・スミスの教え」 pp. 157, 169 参照)そしてセツ、イノスといった人々が、教会の初期の祝福師となるに至り、彼らから神権指導者の長い系統ができあがっていったのです。

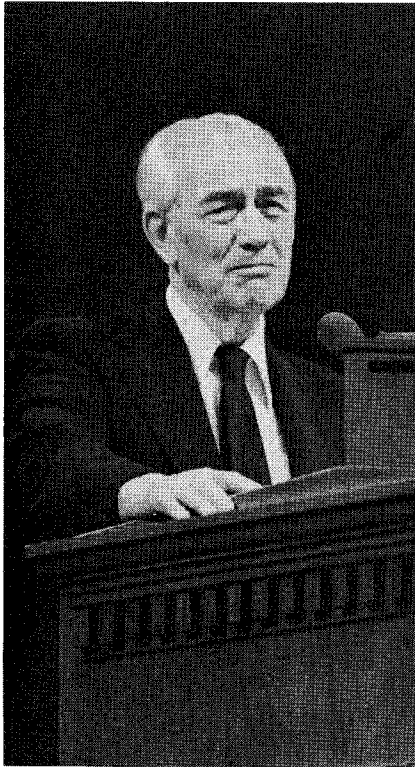
当時大管長会の鍵を握っていたのはアダムであり、彼は、権能から言えば救い主のすぐ下に位置していました。(「予言者ジョセフ・スミスの教え」 p. 168 参照)アダムは、万物の創造の時にこの鍵を受けたのです。予言者ジョセフ・スミスは、これについて、

さらにこのように述べています。「イエス・キリストは、偉大な大祭司であり、アダムはそれに続く者である。」（「教え」 pp. 157—58）

この地上において人類の始祖となる特権を得たアダムとは、一体どのような人物だったのでしょうか。前世において、彼は何か特別な存在だったのでしょうか。

確かに、アダムは特別で重要な人物でした。現世に来る前、彼はミカエルと言われていました。予言者ジョセフ・スミスは、明らかにアダムとミカエルを同一人物と見なしており、さらに天使の頭、すなわち天使長であって神とイエス・キリストの特別

マーク・E・ピーターセン長老



な僕であると言っています。

ミカエルは、現世に来ると、最初の人アダムとして知られるようになりましたが、彼自身は以前とまったく同じ人物でした。アダムという別名を与えられただけで、ミカエルに変わりはありません。

さて、アダムは、現世で死を逃げた後、天においてミカエルという以前の名前を持って天使の頭、あるいは天使長として仕えるために、再び天使になりました。

天使長であるアダム、またはミカエルには、将来、福千年の前と後に、大きな役割を果たす使命があります。これは、驚くべきことですが、聖典にはっきりと記されています。

まず、ひとつの重要な役割は、死者の復活を告げてラッパを吹くことです。聖典には、このように書かれています。「されど見よ、われ誠に汝らに告ぐ、この世の過ぎ行く前、わが天使長ミカエルはその持てるラッパを吹き鳴らすべし。それより、すべて死にたる者は眼を覚し、墓の開かるるが故に正に皆ことごとく出で来らん。」（教義と聖約29：26）

アダムすなわちミカエルのこの召しは、何と栄えあるものでしょうか。しかし、このような役割を果たす時でさえ、彼は天使であるということに注目して下さい。確かに天使の長ではありますが、彼が天使であることには変わりはありません。

教義と聖約107章は、今から百数十年前の1835年3月28日に書かれたものですが、その時でさえ彼はまだ天使として表わされ、「ミカエル、王の君、また天使の長」（教義と聖約107：54）と言われていました。

さて、福千年の間、悪魔は縛られますが、その後しばらく自由にされます。この間に、悪魔は軍勢を寄せ集めて神に最後の戦いを

いどむのです。

この時、主の軍勢を指揮するのはだれでしょう。天使長の位にあるミカエル自身のほかに主の軍勢の長となる資格のある者がいるのでしょうか。彼こそは、天使の頭なのです。したがって、彼が指揮をとってルシフェルと戦うのは当然のことではないでしょうか。

さらに、アダムは、地上の事柄に関して主のみ業を助けるために続けて仕えます。彼の最終的な昇栄は、もちろん完全に保障されていますが、それでも、ここでの仕事をすべて終えなければそれは得られません。

次に、7人の天使たちが、救い主の再臨に先立って起きる出来事を知らせるためにラッパを吹き鳴らしますが、ミカエルは、その7番目の天使です。

聖典では、彼についてこのように述べています。「また第七の天使、すなわち天使の長ミカエルは……。」さて、ここでも主は彼を天使としてはっきり区別していることに注意して下さい。それが彼の役目だからです。この聖句をもう一度読んでみましょう。

「また第七の天使、すなわち天使の長ミカエルは、彼の軍勢すなわち天軍を寄せ集めん。……それより大いなる神の戦起り、悪魔とその軍勢とは皆その居るべき所に投げ込まれ」(教義と聖約88:112, 114)

ここまで述べれば、アダムまたはミカエルがどのような人物かということについて、誤解をする人はいないでしょう。彼は、福千年の千年という期間が終わった後も、天使すなわち天使長として、復活したひとりの人物としてとどまらなければなりません。

1842年、予言者ジョセフ・スミスは、彼を訪れたミカエル、またはアダムについて述べていますが、その時でさえ、彼を天使、

または天使長と呼んでいます。そして、このように言っています。「天使長ミカエルの声、……およびミカエルすなわちアダムより現在に至るまでの天使らは、……」(教義と聖約128:21) このように、ジョセフ・スミスは、ミカエルを他の天使たちと同じように見ているのです。

したがって、1842年にまだ天使であったミカエルまたはアダムは、この地球の最後の時まで、その状態であるわけです。

アダムは、私たちの神でもなければ救い主でもありません。しかし、彼は、天使という役目を持って、この御二方の忠実な僕として働いているのです。

では、アダムと救い主および神とはどのような関係があるのでしょうか。

イエス・キリストは、神の聖なる御子であり、霊においては天父の長子、肉においてはその独り子です。

イスラエルの聖者とは、イエス・キリストのことであり、アダムでもほかのだれでもありません。私たちは皆、天父の霊の子供ですが、イエス・キリストは、時の初めから天父の肉における独り子であられました。それは、アダムでも他のだれでもありませんでした。(モーセ5:9参照) このことは、主御自身が証しておられます。

アダムに福音が授けられた日、聖霊が彼に下り、当時エホバと呼ばれていたイエス・キリストのみ声が聖霊の力によってもたらされました。「われは太初より、……父の生みたまえる独子なり。」(モーセ5:9)

これで、イエス・キリストは、アダムやその他の人々とはまったく異なることがおわかりになるでしょう。イエス・キリストは、まさに、世の初めから天父の生みたまえる独り子であられたのです。

これほど明確に聖典に記されている教義を、確固たる信仰を持って受け入れない理由があるでしょうか。

イエス・キリストこそ私たちの主であり、ただひとりの救い主であられます。

使徒パウロは、ヘブル人に宛てた手紙の中で興味深い言葉を残しています。彼は、救い主について書いているのですが、救い主を天父の姿を象徴する御方として宣言しています。そして、このように尋ねています。「いったい、神は御使たちのだれに対して、『あなたこそは、わたしの子。きょう、わたしはあなたを生んだ』と……言われたことがあるか。」（ヘブル1：5）と。答えは、簡明です。ひとりの天使もそのように言われたことはありません。天使の頭であるアダム、すなわちミカエルでさえ例外ではありません。

ナザレのイエスこそが天父の生みたもうた独り子なのです。

この箇所では、パウロは、救い主イエス・キリストについてだけ話しています。次の節でも、同じくイエスのことを述べていますが、その貧しいナザレ人を神の長子と呼んで、「神の御使たちはことごとく、彼を拝すべきである」と述べています。そして、事実天使たちは、そのようにしたのです。その中にはアダムもあり、彼は、神のひとり子である救い主イエス・キリストを敬い、常にその助け手となりました。

使徒ヨハネの書いた有名な言葉のひとつに、次のようなものがあります。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」（ヨハネ3：16）

私たちのために神から遣わされ、十字架におかかりになった御方とは一体どなたでしょうか。カルバリの丘で、贖いのみ業を果たされたのはどなたでしょうか。ナザレ



のイエスにほかなりません。イエス・キリストは、神の肉における独り子であられます。アダムは、全人類の始祖という意味においてのみ、救い主の先祖であるということにすぎないのです。

神は、肉体を持つ者としては、ただひとりの御子しかお生みになりませんでした。しかし、アダムは、カインやアベル、セツなどを含め多くの子供をもうけたのです。彼はおよそ千年もの間生きていたのですから、その間に何百人という子供を持つことができたはずです。

このことから考えて、アダムが「独り子」を持っていたと言えるでしょうか。もしそうであれば、他の子供たちはどうなるのでしょうか。彼らは皆、肉体を持つアダムの子供ではないでしょうか。

カインやアベル、セツそして他の兄弟たちは、すべて孤児であったと言うのでしょうか。父親なくして生まれた子供がいまだかつているのでしょうか。アダムは、確かに彼らの父親であり、多くの子供をもうけたのです。アダムには、肉体においてただひとりの子供を持つという資格はまったくないのです。

しかし、永遠の父なる神は、肉体におけるただひとりの御子を持っておられました。それは、イエス・キリストです。

では、アダムは神であり神がアダムになつたと言えるでしょうか。とんでもないことです。

アダムは、神でも、神の独り子でもありません。彼は、私たちと同じように、神の霊の子供のひとりなのです。(使徒 17:29 参照) イエス・キリストは、霊においては長子であり、肉においては神の独り子であられます。

神は、御自身でイエス・キリストを、長子また独り子と繰り返し呼んでおられます。

だとすれば、アダムはだれなのでしょう。アダムは、神とイエス・キリストにより人類の始祖となるよう任命された天使長ミカエルにほかなりません。1980年現在においても、彼は天使長の座につき、末の日に復活を告げてラッパを吹き鳴らすのを待っているのです。そして、彼は、ルシフェルとの最後の戦いで、主の軍勢の先頭に立って戦うのです。

アダムは、予言者ダニエルの語る「日の老いたる者」その人であり、彼の名前を取ってつけられたアダム・オンダイ・アーマンの谷のまさにその同じ場所で、忠実な人人にその姿を現わすことでしょう。(ダニエル 7:9—22; 教義と聖約 116 参照)

この神権時代の幕が閉じる時、アダムはそこで、自らの管理の職を、救い主、主エホバであるイエス・キリストに手渡します。そして、次に主イエスが、御自身の働きについて永遠の父なる神に報告をするのです。(「教え」 pp.122, 157, 167—68, 237 参照)

皆さんの中で、偽りの教師に惑わされたり誤った教義を主張する人々に攻撃されたりしている人があれば、どうか、神権指導者に相談して下さい。神権指導者は、皆さんを迷路にはまらせることなく、真理と救いの道に導いてくれることでしょう。

私は今へりくだり、この末日聖徒イエス・キリスト教会が真実の教会であり、神の王国であることを証申し上げます。イエスはキリストです。また、スペンサー・W・キンボールは主の予言者です。そして私たちは、正式に神から任命された真理の管理者です。このことを、すべて、イエス・キリストのみ名により証します、アーメン。

教会役員の支持

第二副管長

マリオン・G・ロムニー

私たちは予言者、聖見者、啓示を受ける者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、スペンサー・W・キンボールを支持して下さるよう提議致します。この提議に賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。(会衆の中から数人の「反対」の声)

マッコンキー長老：ロムニー副管長、3人の方が反対の挙手をしているようです。反対の挙手をされた方はこの会が終わり次第、十二使徒評議員会会員のゴードン・B・ヒンクレー長老のところへ行って下さるようお願いします。

ロムニー副管長：大管長会第一副管長としてナサン・エルドン・タナーを、第二副管長としてマリオン・G・ロムニーを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会長としてエズラ・タフト・ベンソンを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会員として、エズラ・タフト・ベンソン、マーク・E・ピーターセン、リグランド・リチャーズ、ハワード・W・ハンター、ゴードン・B・

ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ボイド・K・パッカー、マービン・J・アシュトン、ブルース・R・マッコンキー、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウストを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

大管長会副管長と十二使徒を予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

七十人第一定員会会長会ならびに七十人第一定員会会員として、フランクリン・D・リチャーズ、J・トーマス・ファイアーズ、ニール・A・マックスウェル、カーロス・E・エイシー、M・ラッセル・バラード、ディーン・L・ラーセン、ロイデン・G・デリックを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

その他の七十人第一定員会会員として以下の人々を支持して下さるよう提議致します。マリオン・D・ハンクス、A・セオドア・タトル、セオドア・M・バートン、ポール・H・ダン、ハートマン・レクター・ジュニア、ローレン・C・ダン、ロバート・L・シンプソン、レックス・D・ピネガー、

ウィリアム・グラント・バンガーター、ロバート・D・ヘイルズ、アドニー・Y・小松、ジョセフ・B・ワースリン、ジーン・R・クック、チャールズ・A・ディディエ、ウィリアム・R・ブラッドフォード、ジョージ・P・リー、ジョン・H・グローバーク、ジェイコブ・ディエガー、ボーン・J・フェザーストーン、ロバート・E・ウェルズ、G・ホーマー・ダラム、ジェームズ・M・パラモア、リチャード・G・スコット、ヒュー・W・ピノック、F・エンツィオ・ブッシュ、菊地良彦、ロナルド・E・ポールマン、アレク・A・カスバート、ロバート・L・バックマン、レックス・C・リーブ・シニア、F・パートン・ハワード、テディー・E・ブルーアートン、ジャック・H・ゴズリンド・ジュニア。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

管理監督会の管理監督としてビクター・L・ブラウンを、第一副監督としてH・パーク・ピーターソンを、第二副監督としてJ・リチャード・クラークを支持して下さい。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

名誉教会幹部としてエルドレッド・G・スミス、S・デルワース・ヤング、スターリング・W・シル、ヘンリー・D・テイラー、バーナード・P・ブロックバンク、ジェームズ・A・カリモア、ジョセフ・アンダーソン、ジョン・H・バンデンバーク、O・レスリー・ストーンを支持するよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

地区代表として、全地区代表を現状のままで支持して下さい。

日曜学校、会長としてヒュー・W・ピノック長老を、第一副会長としてロナルド・E・ポールマン長老を、第二副会長としてジャック・H・ゴズリンド・ジュニア長老を、その他管理役員を現状のままで支持して下さい。

若い男性、会長としてロバート・L・バックマン長老を、第一副会長としてボーン・J・フェザーストーン長老を、第二副会長としてレックス・D・ピネガー長老を、その他管理役員を現状のままで支持して下さい。

扶助協会、会長としてバーバラ・B・スミスを、第一副会長としてマリアン・R・ポイヤーを、第二副会長としてシャーレー・W・トーマスを、その他管理役員を現状のままで支持して下さい。

若い女性、会長としてエレイン・A・キャンロンを、第一副会長としてアーリーン・B・ダーガーを、第二副会長としてノーマ・B・スミスを、その他管理役員を現状のままで支持して下さい。

初等協会、会長としてドゥワン・J・ヤングを、第一副会長としてバージニア・B・キャンロンを、第二副会長としてマイカリン・P・グラスリーを、その他管理役員を現状のままで支持して下さい。

以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

キンボール大管長、以上の役員および教会幹部に対して、先程反対の挙手をした人を除き、全会一致の支持が得られたようです。



十二使徒定員会会員 ボイド・K・バックナー

選び

「人生の重大な試しは、名声と無名の間の選択にも富と貧困の間の選択にもありません。最大の決定は、善と悪の間の選択にあるのです。」

4 月の総大会を閉じた後、教会幹部とその夫人を対象とした親睦会が催されました。その会では、「ヨベルの箱」と呼ばれている箱が開封されて出席者の関心を集めました。その箱は、ブリガム・シティーのボックスエルダースターキ部の扶助協会が、50年前に、教会の100年祭を祝って準備したものです。

箱の中には、当時の新聞や思い出の品々、手紙などが納められていました。私の祖母サラ・アデリン・ウェイトの手紙もありました。このように書いてあります。

「私たちは1902年にユタのコリーンの農場に移って来た。その頃この地には、教会の支部はひとつもなかった。……私はハンナ・ボスレイ姉妹と一緒に、コリーンやその周辺の地域に住む姉妹たち全員を訪問し、扶助協会を組織したいと思うかどうかを尋ねて回った。

訪問の結果、姉妹たちは喜んで集いたいということであったので、私たちは早速、

支部を組織してくれるよう働きかけをした。」

この親睦会で、私たちもヨベルの箱を作ることになりました。各夫婦の写真が撮影され、箱に入れるメッセージを書くために1枚の用紙が渡されました。今年末に封をされるこの箱は50年後の2030年に開封されることになっています。

私はまだメッセージをヨベルの箱に入れていませんが、そのことについて真剣に考え、きょうここで申し上げることの一部を、その箱に納めたいと望んでいます。

私はきょうの話を自分の子供と孫たちに向けて話したいと思います。なぜ私が家族の集いの場ではなくこの壇上から、子供や孫に向かって話すのか、不思議に思われることでしょう。それにはふたつの理由があります。

まず私の言葉が、一言一句もらさずこの大会の議事録に記録されます。その記録を通して、まだ誕生していない孫たちにも語りかけたいと思っているのです。もうひと

つは、私の話がどなたかほかの人の役に立
てばと願っているからです。

これから申し上げることは、教えるにも
学ぶにも非常に難しい事柄です。私の話を
聞いて、「ああ、それはもう知っている」と
言って、ありきたりの退屈なことと片づけ
てしまう人がいるのではないかと思います。
と言うのも、申し上げたいことがよく耳に
する極めて平凡なことであるため、すべて
の人に重要なこととして受け入れてもら
うのが実に難しいのです。

それを承知の上で、私は子供や孫に、イ
エスがキリストであり神の御子であること、
予言者を通してイエス・キリストの福音が
回復されたこと、完全なる福音が地上に存
在すること、といった基本的な真理に加え
て、そのことを知ってもらいたいです。
それは、そうした基本的な真理の後に来る
ものですが（実際には欠くことのできない
一部と言えましょう）私たちが子供にどう
しても教えたいと思っている真理なのです。

3週間前、私は妻とロンドンの戸籍課を
訪れ、一日過ぎました。メアリー・ハー
レイという人の記録を捜していたのです。
まるで宣教師が求道者を見つけ出す時のよ
うに、古い記録を一枚一枚めくりました。
その中には百年間も人の目に触れなかつた
記録もあったと思います。

私はほとんど一日中、貧民収容施設の民
生委員の書いた覚書きを調べていました。

あるページには、貧民収容施設を追われ、
拘置所に送られた婦人のことが記されてい
ました。その人は、自分の子供が貧民収容
施設内の学校でひどい虐待を受けたという
知らせを聞き、その真相を調べに行く許可
を願い出たところ、退けられました。憤慨
した婦人は「意図的に窓ガラスを割った」

ために、拘置所送りになったという訳です。

またあるページには、学校内を視察した
医師の結果が報告されていました。医師は、
校庭沿いに積まれたたい肥の山が、排水を
妨げているのを見て嘆いています。そのた
めに、汚水が校庭に逆流し、そこには足首
ほどの深さの汚水の沼ができています。寒
い上に、粗末な靴しかないため、子供たち
の多くが病気になったということです。

生徒の除籍理由の欄には、「死亡」という
字が幾度となく出てきました。そしてそこ
には「病気」「異常高熱」「肺結核」「水腫」
などという説明が付いていました。

やっとのことでメアリー・ハーレイの名
前を見つけ出しました。彼女はエドワード・
セイヤーズという人と結婚し、11人の子供
を出産したことがわかりました。しかし、
その内6人が7歳にもならないうちに死に、
ひとりとは焼死しています。私たちの知っ
ている限り、11人の子供たちの内、元気に成
長したのはただひとりでした。

その人が、私の妻の曾祖母にあたるエリ
ナ・セイヤーズです。彼女は、ノーフォーク
のブーラムにあるデブウェイド・ユニオン
貧民収容所に生まれました。そして、彼
女の家系で最初の教会員になりました。後
に、彼女はうす暗いロンドンの病院で癌の
ため世を去りました。

このように私たちの先祖であるこれらの
人々は、名もなく貧しく生き、そして世を
去っていったのです。

エリナ・セイヤーズ・ハーマンは亡くな
る前に、所持金をすべて娘のエディスに手
渡し、アメリカに行くように勧めました。

エディスは教会に入ったがために、夫と
の縁を切られていました。彼女は8歳の子
供のネリーを連れて英国を去りました。頼

りになるのは、「落ち着くまで、アイダホにいる私の家族が面倒をみてくれると思います」という宣教師のあまりあてにできない言葉だけでした。

ネリーとは私の妻の母であり、エディスは祖母です。私はふたりのことをよく知っていますが、ふたりとも実に気高い女性です。

私たちの先祖にはまた、堂々たる風格を誇る英国の荘園領主もいます。彼らは宮廷と縁故関係にあって、その館では文化的な生活を送り、ぜいたくの限りを尽くしていました。

しかし、このような高貴な身分の先祖も、気高さと価値においてはエリナ・セイヤーズのそれをしのぐことはできません。

サラやエリナ、エディス、ネリー、これらの人々は皆きわめて高貴な、すなわち義にあって高貴な人々なのです。私は子供たちに、ノーフォークのブーラムにある貧民収容所に住んでいた人々の血を引いていることを覚えてもらおうと同時に、次のことを忘れないでもらいたいです。つまり多くの人は、本当に立派な者であれば、その行ないによって、やがて広く人々に知られるようになり、それなりの報いを受けるようになるという誤解をしているということです。

ほとんどの人は、成功したと言えるためには、名声と富の双方が十分に備わっていないかならなければならないと考えています。

世の人々はそのような前提に立って名声や富を得ようと働いているようですが、それは誤りです。正しいことではありません。主はそのようには教えておられません。

私は自分の子供たちに、このことを知ってもらいたいです。

全き成功を収め、真の幸福を得るのに、富を得る必要も、高い地位に就く必要もあ

りません。

実際、富や高い地位が皆さんにもたらされるかもしれませんが、たとえそうであっても真の成功というものは、富や地位によってではなく、そうしたものと関係なしに達成されるのです。

この真理を教えるのは、実に難しいことです。知名度もなければ十分な稼ぎもない人が、名声や富は成功に不可欠な要素ではないと悟ったと言うと、私たちは、その人の言葉を手前勝手な言い分だと言って、素直に受け止めようとしない傾向にあります。しかしその人はほかに何と言って自分の主張が誤りでないことを示せばよいのでしょうか。

また、地位も名声もある人が、成功や幸福が何だというようなことを口にしたりしたら、私たちは彼の言葉も自分勝手な言い分であり、優越感から出た言葉だと考えるでしょう。

ですから、私たちは名声や富のある人も、逆にそれらを持たない人も、信頼のおける判断の基準として受け入れることはしません。どちらも証人として客観的な立場に立つことができるかどうか疑問だからです。

こうして、私たちにただひとつの道が残されました。それは試行錯誤の道です。自らの経験を通して、名声や富あるいはその反対のものを独力で学んでいくのです。

こうして私たちは人生の荒波にもまれ、富と名声の両方を失うことになるかもしれませんが、そこに至ってはじめて、富と名声がなくても成功し得るものであると悟るのです。あるいは富と名声を得ながら、そのどちらも私たちに幸福にするものでもなければ、真の成功と完全な幸福への踏台でもないことに気づくのです。ただし、これを悟るには極めて時間がかかります。

ベンジャミン・フランクリンは次のよう

に言っています。「経験は授業料の高い学校を経営している。しかし馬鹿者どもはそれ以外の学校では学ぼうとしない。」(The Autobiography of Benjamin Franklin 「ベンジャミン・フランクリン伝」 p. 230)

私たちが地上に来たのは、肉体を得、試しを受け、自由意志を行使するためです。

私たちは子供たちに、またその子供たちに知ってもらいたいのです。人生における選びは名声か無名かでも、富か貧困かでもないということ。それは、善か悪かの選びであり、どちらを選ぶかによってその結果には大きな開きが出てきます。

このことをよく理解すると、私たちの幸福は物質的なもので左右されなくなります。たとえ物質的なものに恵まれていなくても、幸福を味わうことができ、真の成功をかみしめることができるのです。

富や名声は、必ずしもそれを受けるに値する人に得ることによってもたらされるものではありません。私たちの価値は、名声や所有物で測られるのではないのです。

ある人は、私が教会幹部という地位にあることから、こうした主張をする資格に欠けると言うかもしれません。しかし、この地位は得ようと思って得たものではありません。召しとして付与されたものなのです。そしてそれは背にのしかかる重荷としてもたらされるのであって、足元に翼として付くわけではないことを、よくわかっていたきたいと思います。

人生は、日々の何千という選びによって形成されていきます。何年にもわたって行なわれるこれら小さな選びの一つ一つが合わさり、私たちがどのような人物であるかを如実に物語るのです。

繰り返しますが、人生の重大な試しは、

名声と無名の間の選択にも富と貧困の間の選択にもありません。最大の決定は、善と悪の間の選択にあるのです。

私たちはつまらないことで不幸や問題を引き起こし、時には大きな苦しみをなめることもあります。しかし、これらすべてが、創造主のみこころにそわないが故に科せられた罰であるとは、必ずしも言えません。なぜなら、これらは人生における教えの一部であり、ひとつの試しだからです。

病弱な体によって試しを受ける人もいれば、不自由な体や魅力のない容貌によって試される人もいます。また健康で魅力的な肉体によって、また青年の持つ情熱によって試される人もいれば、年と共に衰えていく自分に試される人もいます。

ほかに、結婚や家庭の問題で苦しむ人、卑しい貧困の生活を強いられる人、安楽とせたく(多分これが最もつらい試しでしょう)という試しを受ける人もいます。

これらはすべて試しです。この試しは、私たちが想像する以上に、すべての人に平等に与えられています。

富を得、名声を博しながら、霊的な成功を遂げることもできるでしょう。しかし、主はらくだと針の話をして、そうすることの難しさを語っておられます。(マタイ19:24参照)

この教えは聖典の中心をなすものです。モルモン経はこう述べています。「人は皆善悪をわきまえることを十分に教えられている。」(IIニーファイ2:5)

私たちはまたこのようにも教えられています。「人はみな現世に於て自由であり、およそ人間のためになるものは何でも与えられる。」そして1:「万人に為したもうメシヤの大いなる賢い仲裁によって自由と永遠の生命とを選ぶか」

または2：「悪魔は万人が自分のように
みじめになることを求めているから、その
束縛と力とに由って定まる束縛と死とを選
ぶか。」

「これは全く人間の自由である。」(IIニ
ーフアイ2：27)

旧約聖書を引用してみましょう。

「令名は大いなる富にまさり……。」(箴
言22：1)

新約聖書にはこうあります。

「まず神の国と神の義とを求めなさい。
そうすれば、これらのものは、すべて添え
て与えられる。」(マタイ6：33)

再びモルモン経を引用します。

「財産を求める前にまず神の王国を求めよ。
あなたたちがすでにキリストに望みをも
ってから宝を求めたならばその通りに宝が
手に入るであろう。しかし、その時あなた
たちがその宝を求める目的は、裸でいる者
に着物を着せ、飢えている者に食を与え、
束縛されている者を救って自由にし、病ん
でいる者と悩んでいる者とを救うなど、お
よそ善事を行うことである。」(ヤコブ2：
18—19)

教義と聖約を開いてみましょう。

「富を求めずして智慧を求めよ。さらば
見よ、神の奥義は開かれ、それより汝ら富
める者とせらるべし。」(教義と聖約6：7)

「見よ、永遠の生命を有つ者は富めるな
り。」(教義と聖約11：7)

では、私たちがあなた方子供に望んでい
ることは何でしょうか。答えは簡単です。
正しくありなさい!

福音を勉強しなさい!

福音に従って生活しなさい!

教会に活発に集いなさい!

神殿の儀式を受けなさい!

神と交わした誓約を守りなさい!

あなた方が私の言葉をどのように受け止
めてくれたかわかりませんが、これらの教
えが真実なものであることを、私ははっき
りと知っています。

あなた方一人一人は、いつか、世の中
には絶対的なものがあるということを理解
するでしょう。親の愛もそのひとつです。ひ
とりの子供をほかの子供よりも深く愛した
り、あるいは反対に愛さなかつたりするよ
うなことはありません。一人一人の子供に
すべての愛を注いでいるのです。

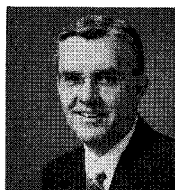
名声や富はこの世で真の幸福を得るため
の必要欠くべからざる条件ではありません。
それがないから真の幸福が得られないと
いうことはないのです。

私は今、何世代も先に、あなた方やあな
た方の子供たち、そのまた子供たちが、人
生の様々なチャレンジと取り組む時代を想
像することができます。

広く世間に知られることも、富豪になる
こともなくこの世の生涯を全うするあなた
方の姿を見ることが出来ます。また、愛の
深い神にひざまずき、私の祈りが答えられ
て、あなた方が成功を収めて真の幸福を得
ていることに感謝する自分の姿も見ること
が出来ます。

私たちは今、不確かな将来へと向かって
進んではいますが、私たちの思いは不確か
なものではありません。子供たちよ、証を
述べなさい。シオンを立てなさい。そうす
れば、真の成功と全き幸福を見いだすこと
でしょう。

神は生きてましまし、イエスはキリスト
です。福音の中にこそ、真の成功があるこ
とを知っています。イエス・キリストのみ
名によりこれを残します。アーメン。



七十人第一委員会会長 M・ラッセル・バラード

主のみ手

「奉仕を通して人の生活に喜びの手を差し伸べることもなく、一日を過ごすことのないようにしようではありませんか」

先の総大会以来、私は天父の子供たちの多くが問題を解決するために助けを求めていることがわかりました。助けを求める嘆願の手紙が何百通と教会幹部のもとに届いているのです。息子のことで悩む父親、娘のことで心を痛める母親、両親のことで悩む子供と色々ですが、どの手紙も胸の張り裂けるような内容ばかりです。

そのことを通してじかにわかったことは、霊的に苦しむ人の心の傷は、皆さんや私が個人的にもう少し努力してその人に働きかけをすれば癒されるということです。

イエス・キリストは、霊的な病いであれ肉体的な病いであれ、どんな病いをも癒す力を有しておられます。ある婦人はイエスの衣のふさに触っただけで癒されました。ルカによる福音書にはこう記されています。

「しかしイエスは言われた、『だれかがわたしにさわった。力がわたしから出て行ったのを感じたのだ』。

女は隠しきれないのを知って、震えなが

ら進み出て、みまえにひれ伏し、イエスにさわった訳と、さわるとたちまちなおったこととを、みんなの前で話した。

そこでイエスが女に言われた、『娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。』（ルカ 8：46—48）

主は、皆さんや私を通じて人々の生活にみ手を触れられるのでしょうか。確かにそうです。私たちが自らの本分を果たしている限り、そうすることがおできになり、実際そうされるのです。フロリダのあるホームティーチャーは、自分を通してある家族に救い主のみ手を感じさせました。私のもとに寄せられた1980年7月8日付の手紙の一部を読んでみたいと思います。

「私は1973年に教会に入りましたが、夫は入りませんでした。夫は教会の集会にも参加したがりがりませんでしたし、神の存在すら確信できませんでした。

それから2年後、いつしかホームティーチャーは夫の親友となっていました。3年

以上の間、ホームティーチャーが訪れなかった月はただ一度だけでした。夫はホームティーチャーに色々話さようになっていました。そして、積年の不幸や苦しみの重荷を少しずつ下ろしていったのです。それまでの夫には、本当の友人などひとりもいませんでした。

1978年8月に、ホームティーチャーから引越しをすると聞き、私たちはがっかりしてしまいました。きょうが最後の訪問だという日、ホームティーチャーは夫の承諾を得てから、証を得る方法について話してくれました。

11月にはバラード長老が私たちのステークス部において下さり、特別ファイアサイドで福音について話して下さいました。夫も私もその会に出席しました。会の終わりに長老は夫の肩に腕を回し、天父が夫を愛しておられること、天父がバプテスマを受けるよう望んでおられ、教会が夫を必要としていることを話して下さいました。主が長老を通して語りかけて下さったのです。

その夜、夫はバプテスマを受ける決心をしました。私たちはかつてのホームティーチャーに電話しました。彼は今ルイジアナに住んでいるのですが、夫にバプテスマを施して下さいようお願いしたところ、彼はわざわざ来てくれ、バプテスマを施してくれました。それから1年後、彼は私たちがワシントン神殿で今も永世にもわたる結び固めを受ける場に立ち合ってくれたのです。

長老は毎年何千人もの人々と接するので、私たちのことなど覚えてはいらっしやらないでしょうが、私たちは、長老を通してとても忘れられない影響を受けたのです。私たちは誠実なホームティーチャーに心から感謝しています。」

またある時には、若い女性を担当するような教師がいました。彼女のクラスには目の見えない少女がいました。彼女は普通の方法で勉強することができないため、レッスンについていくことが困難でした。そこでこの教師は、その少女の家に行き、「成長する私」の本を声を出して読み、彼女が点字に訳すのを手伝いました。これには2年かかりました。またこの教師は、他の少女たちにも助けを求めました。こうして教師の指示の下に、彼女たちは目の見えない少女の家に行ってはテキストを読み、点訳を手伝ったのです。

この教師を通して差し伸べられた主のみ手は、この盲目の少女だけでなく、目の不自由な大勢の人々にも恵みをもたらしました。と言うのも、この点訳のテキストが、若い女性の中央組織を通じて貸し出されることになったからです。

時として、救い主のみ手は、大きな心を持ったあどけない子供を通して差し伸べられます。ある美しい女性がいました。彼女は宣教師からレッスンを受けていたのですが、どうしてもバプテスマに踏み切れませんでした。ある日曜日、彼女はよく知らないあるワード部の聖餐会に出席してみることになりました。彼女はひとりじっくりと考えられる座席につきたいと思っていました。そして、小さな男の子の隣に腰を下ろしました。聖餐が配られている時、この男の子は隣の女の人が聖餐のパンを取らないのに気づきました。そこで彼はパンをひとかけら取り、それを半分にして隣の女の人に分け与えたのです。彼女は、子供なのにそのような心のこもった親切が示せることに深く心を動かされました。そしてその日のうちに宣教師と連絡をとり、こう言いました。

「あなたの教会で子供にこのようなことを教えているのでしたら、私は教会に入りたいと思います。」

主はニーファイ人にこう教えられました。「されど、汝らの光が輝きて世の中を照らすために、汝らの光を高くかかげよ。汝らが高くかかぐる光とは、すなわちわれなり。」(Ⅲニーファイ18：24) 私も最近、主の光が注がれるのを身近に感じました。ある親友を訪れた時のことです。彼はつい先頃永遠の伴侶を失い、主のみ手を本当に必要としていました。彼に、「私に何か助けられることはあるかい」と聞くと、「息子が母の死を受け止められるよう助けてくれないか」という答えが返ってきました。この息子は母親をこの上なく愛していたからです。何か月にもわたって母の苦しむ姿を見ていた息子は、祈っても答えられない、神権による祝福も効果がないと思い始めていたのです。それがため、天父に対する彼の信仰は揺らぎ、生活の中に主の光が見いだせなくなっていました。

私の耳元に、このようなささやきが聞こえました。「私の息子がよく受け止められるよう助けなさい。」「一体どのようにすれば」と私は考えてしまいました。思案の末、彼を教会本部に招き、そこで話をすることにしました。彼が来ると私は食堂に案内しました。食堂では何とも珍しいことが起こりました。食事中、教会幹部が何人も私たちのテーブルの脇を通り、あいさつして行ったのです。最も意味のあったことは、彼が今この壇上にいる十二使徒のうちの8人と握手をしたということです。それまで、いやその後も、十二使徒が一度にあれほど多く食堂にいたのを見たことがありません。

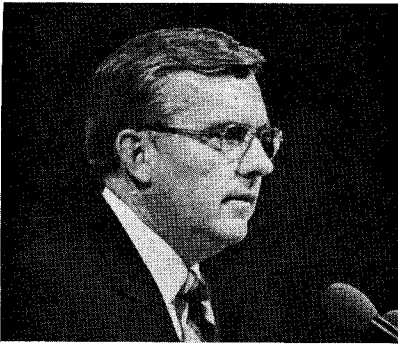
教会本部ビルを出ようとする時、またも

珍しいことが起こりました。キンボール大管長をお見かけしたのです。すると青年は、「キンボール大管長は僕のような者ともお話し下さるでしょうか」と私に聞きました。さらに珍しいことが続きます。私たちは少しの間、キンボール大管長と語り合うことができたのです。わずかな時でしたが、青年は忘れることができないほど強いものを感じました。大管長の口から出る教えは永遠の教えであり、その青年に向けられた愛は心からの愛でした。このわずかな間に、青年の思いも心も強く動かされたのでした。

キンボール大管長は愛を込めて青年の肩を抱いた後に、次のような言葉を残しました。それが青年の心の底にしみわたったことは申し上げるまでもありません。「兄弟、あなたが自分の使命を果たして伝道から帰られた時に、私たちが今話し合ったことが本当によく理解できるようになりますよ。」その日、神の予言者は、予言者だけがなし得る方法で手を差し伸べられたのです。キンボール大管長を通して、救い主は青年の心に息吹を注ぎ、主の光の方向に彼を向かせたのです。

駐車場で私は彼の肩に手を置き、こう言いました。「君のお母さんは、きょうの君をずっと見守っていたんじゃないかな。お母さんは今、主を愛し、主に献身しておられるんだ。そして君を深く愛している。だから天父はお母さんの願いを聞いて、君にきょうのような経験をさせてくれたんだね。」彼の目から涙があふれました。こうして彼の態度は変わり、人生の方向もはっきりと定まって、主に従って生活をしていこうという決意ができたのでした。

さらにうれしいことに、数カ月後、この青年がフルタイム宣教師として忠実にしか



も立派に働いていることを、キンボール大管長に報告できました。

最後に、主は私たちの信仰と祈りを通して、どのように個人の生活にみ手を差し伸べられるかについて申し上げたいと思います。私共の息子のところにかわいい女の子が生まれたのですが、5カ月にもならないうちに地上を去ることになってしまったのです。その子に対する両親の愛と心の配りようといったら、それはもういじらしいほどのものでした。死と戦う孫娘の奮闘ぶりは、言葉では言い表わすことができません。息を引きとる前の晩、私たちはローガン病院に駆けつけ、私たちにできる限りの助けを与えました。

その夜遅く、息子の家で家内と息子を交えてひざまずき、導きを求めて祈りました。病院に戻ると、私は小さな孫娘の手をとって、目をのぞき込みました。その時、私は救い主のみ手を感じたのです。まるで孫娘が語りかけているかのように、心にこのような言葉が浮かんできました。「おじいちゃん、心配しないで。大丈夫よ。」平安が心に広がりました。主のみ手が私たちの上に差し伸べられたことを感じました。やがて孫娘は苦しみから解かれ、天の両親のもとへ旅立って行ったのです。

兄弟姉妹の皆さん、私たちは救い主のみ

手を感じるすることができます。また、人に主のみ手を感じさせることもできます。片意地な青少年や不活発な教会員、伴侶に先立たれた人、老人、病人また会員非会員を問わず神のすべての子供たちに手を差し伸べることによって、互いに恵みにあずかることができるのです。

ともかくも、私たちは、個人の生活にあって福音の祝福と主の平安を感じ取ることの大切さを認識する必要があるでしょう。これは、ワード部やステーク部のプログラムを上手に運営することよりもはるかに重要なことです。そして、両親も教師も教会の指導者もすべて、私たちがはらからのために救い主のみ手としての働きをする時に、行なう側と受ける側が互いに恵みにあずかれることを、知るに違いありません。

皆さんの多くが他の人々の必要を心に留めて下さっていることを知っています。また、皆さんにも私にももっと多くのことができるはずです。奉仕を通して人の生活に喜びの手を差し出すこともなく、一日を過ごすことのないようにしようではありませんか。人々への奉仕を実行に移す時、次にあげる救い主の美しい訓戒が心に浸みわたり、その意味を覚えることができます。「あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ25:40)

証申し上げます。イエスは生ける神の御子キリストです。イエス・キリストは予言者ジョセフ・スミスにみ手を差し伸べたまい、彼を通して完全なる福音を回復し、全人類に祝福と導きをもたらしして下さいました。これらの証を愛するイエス・キリストの聖なるみ名を通して申し上げます。アーメン。



七十人第一定員会会員 デレク・A・カスパート

末日聖徒として歩んだ30年

私の生活が幸福で実りあるものとなった10の理由

先頃、私は妻とともに、教会員生活30年のお祝いをしました。末日聖徒イエス・キリスト教会の若い宣教師が、英国のノッチンガムの私たちの家のドアをノックしてくれたのは、今から30年前のことです。

宣教師たちの言葉は、当時他の教会の活発な会員であった私たちの心をどのように捕えていったのでしょうか。私たちも先祖もずっと国教会の会員でしたし、それなりに幸せな毎日を送っていました。ふたりの子供にも恵まれ、仕事の面でも大企業でやりがいのある業務に携わっており、喜びもありました。

ほかに何の望みがあったでしょう。これ以上の幸福があるのでしょうか。そんなふうを考えていた私たちでしたが、宣教師の教えに耳を傾け、ともに祈るうちに、生活の中にずれがあること、どうしても満たされないものがあることに気づき始めたのです。これから少しの間、この必要が満たされた結果、生活に意義を見だし、一層幸福を

感じるようになった事柄について、10項目ほどあげてお話ししたいと思います。皆さんもきっと、このような必要を、皆さん自身の生活や家庭、また家族一人一人の中に見いだされるに違いありません。

第1に、私たちがこれまで行なっていた神との交わりは、回数も少なく、弱いものであったことを痛感しました。確かに私たちはこれまでずっと個人の祈りをしてきました。しかし、宣教師に言われて私たちは夫婦の祈りや、子供を交えた家族の祈りも始めました。そうすることによって、家族の強い絆を感じましたし、全能の神が一層身近な存在と感じられるようになったのです。

宣教師から学んだことはたくさんあります。神は感情、感覚、体を持ちたもう方であり、文字通り私たちの御父であること。祈りは心から流れ出ることを祈り、くどくど祈る必要はないこと。また、神は愛と思いやりにあふれた信頼のおける方であり、

偽りのない方であることも教えてもらいました。今日の人々は神と交わり、神とともに歩む必要があります。また、神は今日でも私たちに語りかけられること、私たちはまさしく神の子供であることを知る必要があるのです。

第2に、私たちはイエス・キリストを単に歴史上の一人物としてではなく、神の生ける御子として知るようになりました。私は高校時代からずっと、新約聖書について特別な研究をしていましたが、宣教師がいにしえのヨブのように、贖い主は生きておられます(ヨブ19:25参照)と証した時ほど、救い主の生涯とこの世での使命を自分の身に強く感じたことはありませんでした。

私はイエス・キリストを自分自身の救い主、私のためにまた私たち一人一人のためにその命を捧げて下さった方として受けとめるようになりました。「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」(ヨハネ15:13)だれでも友達が必要です。そして、だれにもまさる友達が一人一人にいます。それはイエス・キリストです。私たちのために十字架にお掛かりになり、復活されたイエス・キリストです。

第3。結婚したばかりの時、私たちはこの不安な世にあって、信頼のおける確かなものを求めていました。私たちは十代の後半を第二次世界大戦とともに送りました。16歳で国防市民軍に入隊した私は、そこで国を守るための訓練を受けました。そして17歳の時、英国空軍に志願しました。戦争が終わって5年以上たった当時でも、道にはがれきが山と積まれており、配給制がまだ続いていました。

そんな時代に私たちは、宣教師が伝えて

くれた、神は今の時代にも過去の時代と同様に予言者を通して語られます、という力強いメッセージを、あたかもそれに飛びつくようにして受け入れました。神は私たちを心にかけて下さり、愛して下さっているのです。また神は約束通り、御自身の教会と完全なる福音を回復して下さいました。世の人々は、このような不安な時代において私たちを導き助けてくれる予言者を、いかに必要としていることでしょう。私たちにはそのような予言者が与えられていることを証します。その予言者は、今私が話をしている間もこの後ろに座っておられます。彼は、末日聖徒イエス・キリスト教会、地上における主の教会、主の王国を管理しておられるのです。

第4。宣教師の招きにより、私たちは教



会の集会に参加するようになりました。何という温かい歓迎ぶりでしょう。私たちはすぐに、心からの歓迎というのはこういうものだろうと思いました。すべての国、すべての国語の民をひとつに結ぶ兄弟愛と姉妹愛がそこにあったのです。「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。」(エペソ2:19) 何かに属し、自分が必要とされている、存在が認められているというその時の気持ちは、それまで味わったことのない素晴らしいものでした。

やがて私たちは聖歌隊で歌うようになりました。また、教会員が私たちを訪れてくれたり、私たちが他の教会員を訪問したりするようにもなりました。教会が行なう数数の奉仕活動にも参加しました。また、演劇やダンス、スポーツといった活動にも幅広く参加しました。これは、礼拝や他の末日聖徒との勉強によって急激に高められた靈性を、側面から補ってくれるものでした。だれもが、温かい雰囲気の中で、楽しい社交活動を継続して行なうことを必要としているのです。

第5. 素晴らしい家庭の夕べを開くようになってから、家族や家庭生活がこれまで以上に大きな意味を持ち、貴いものとなりました。このような靈的な教えにレクリエーションをうまく組み合わせた夕べのひとつを、1週間に最低1度、世界中の末日聖徒が持っていることがわかりました。私たちは子供を心から愛しています。宣教師から、罪の赦しを得るにはバプテスマが必要であるが、幼児のバプテスマは不要であることを教わりました。なぜなら、「自己の責任を知り得る年齢に達する前に世を去った子供たちがすべて、天の日の光栄の王国

において救われている……」(示現一日の光栄の王国10)からです。私たちはこれまで、幼児のバプテスマというキリストの教えではない教義のために、深い苦しみを味わった親御さんたちを見てきました。

私たちはまた、自分たちの大家族すなわち、祖父母や曾祖父母そしてすべての先祖に心を向けるようになりました。これは万人に必要なことです。アレックス・ヘイリーはこう述べています。「私たちはだれしも、自分たちが受け継いでいるもの、すなわち自分はどのような人間でどこから来たのかを知りたいという欲求を心の奥底にいただいています。」(『私にとってのルーツ』Reader's Digest「リーダーズ・ダイジェスト」1977年5月号, p.73) だれもが家族というものを持っています。近くにいる場合もありますし離れている場合もあります。元気で生活している人もいれば、すでに世を去り復活を待っている人もいます。いずれにしても家族から得られる力というものは、いかなるものであれ欠くことのできないものです。そしてそれは、宣教師から学ぶ原則とプログラムを通してこそ得ることができるとのことです。

第6. すべての人が健康の大切さを知っています。そして、できる限り立派に機能する体に自分たちの霊を宿したいという基本的な欲求があります。私は数年間というもの内臓が弱いために色々苦しみました。健康の秘訣とも言える知恵の言葉を宣教師から教わり、これを守って健康を勝ち得ました。アルコールやタバコ、茶、コーヒーなどの刺激物を摂取する習慣をやめたことによって、私の生活にまた妻や子供たちの生活にも大いなる恵みがもたらされたことを証します。主が予言者ジョセフ・スミス

を通して、およそ150年前に下された啓示によって、大勢の人々の健康増進と体力増強が計られていることを感謝しています。

第7。家族の扶養者として私は各人の霊的肉体的健康に心を配るだけでなく、一人一人の全体的な進歩にも力を注ぐようになりました。やがて私は、この必要を満たすためのあらゆる援助手段が主の教会の中にあることを知ったのです。程なくして私は教育活動と指導者訓練、あらゆる種類の文化活動に携わることになりました。教会における成長ぶりが、自然に職場でも表われていたようです。それは当然のことと言えるかもしれません。というのも、宣教師とレッスンを始めた最初の頃に、神の子供に与えられた永遠進歩の計画を学んでいたからです。進歩し成長したい、自分を高め磨きたいという望みと欲求はだれにでもあるはずです。

第8。このような欲求に伴って、私たちの中には多かれ少なかれ冒険心があるものです。何かを発見したい、何かを探求したいという気持ちです。多くの場合、この欲求は冒険物語を読んだり、知らない土地を旅行したりすることによって満たされます。私の場合は、中東の考古学、特にエジプト文明を研究していました。

ところが、宣教師の伝えてくれたメッセージでも、この欲求が満たされたのです。彼らは私たちに金版に刻まれた古代の記録について話してくれました。その記録は、キリスト誕生以前に中東から渡って来た人々の記したものです。これら古代の人々が自国の文化を携えて、予言者とともに旧世界を去り、新世界へ渡ったこと、彼らが今日アメリカ大陸に住む強大な民の先祖であることを知った私の驚きを想像して下さい。彼らの記録は土の中に長いこと隠され、今



から150年ほど前に再び世に現わされたのです。しかも考古学者によってではなく、十代の少年の手によって。この少年ジョセフ・スミスの信仰と証は、彼に金版を見つけさせただけでなく、後に神の力によってこの象形文字の記録を翻訳することも可能にしたのです。

ジョセフ・スミスの手によって書き写された変体エジプト文字を見るのは、実に胸躍ることです。私はこれまで抱いてきた感じから、その文字が正しいものであることがわかりました。それからというもの、この聖文の記録の書であるモルモン経をいつも携え、熱心に心を込め、祈るような気持ちで読みました。そして力強い霊的な経験をしたのです。何かを発見したいという私の冒険心は、モルモン経によって満たされました。単に古代の人々の発見ではなく、イエス・キリストの神聖さについて完全な発見ができたのです。モルモン経は近代の証し人、すなわち復活後このアメリカ大陸を訪れたもうた世の救い主について証するものです。私はそのことを証します。

第9。それまで完全と言えるほどの生活もせず、かと言って良心の呵責かしょくに苦しむような重大事に直面することもなく過ごしてきた者として、私は自分の生活をある程度変える必要があると感じました。私にとって、信仰や悔い改め、罪の赦しを得るために水に沈められるバプテスマ、聖霊の賜を授かるための按手札に関するイエス・キリストの清い教えを学ぶことは喜びでした。誤った教義や無意味な習慣、ゆがんだ儀式を捨てて過去の過ちから赦され、そこから新たな出発をすることは、何という喜びでしょう。

すべての人が純真無垢の状態での地上

での生活を始め、世のもろもろの事を通して訓練されていくのですから、今述べた福音の第一原則と儀式はだれにとっても必要なものです。驚くべきことは、イエスがすべての人のために命を捧げられたことです。そして、イエスの復活は全人類に及びます。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである」(1コリント15:22)とされている通りです。

第10。最後に私は、バプテスマを受けてこの素晴らしい回復されたイエス・キリストの教会に加わることによって、内なる平安を感じていることを申し上げたいと思います。それは「人知ではどうも測り知ることのできない神の平安」(ピリピ4:7)です。私は大勢の人々から、最大の要求と望みは心の平安を得ることであるという話を聞いてきました。では、どうしたら心の平安がもたらされるのでしょうか。真理を知ることによってです。「真理はあなたがたに自由を得させる……」(ヨハネ8:32)のです。末日聖徒イエス・キリスト教会はイエス・キリストのまことの教会であり、真理の原則と儀式を教えていることを証します。私が心から求めていた10の願いが、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師の言葉に耳を傾けることによって満たされたことを、本当に感謝しています。そして、福音を学び、祈り、福音の律法と儀式に従ったために、この世だけでなく永遠の世までも続く幸福を見いだしたのです。

私の話を聞いて下さっているすべての皆さんが、また世界中の神の子供たちが、私と同じように願いがかなえられますよう、イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。



七十人第一委員会会員 レックス・C・リーブ・シニア

「わたしの羊を養いなさい」

「今私たちに最も必要なことは、恐れという幕を取り払って、友人や親戚、近隣の人々に愛の手を差し伸べ、私たちが彼らに関心を抱いていることを知らせることです。」

私はこの場をお借りして、イギリス諸島とアフリカに住む素晴らしい聖徒からの愛を皆さん一人一人に、また特にキンポール大管長とこの場に列席の教会幹部の方にお伝えしたいと思います。

これらの国々が主のみたまに包まれ、忠実な教会員が新たな決意を持って主のために献身しようとしている姿は、実に私たちの霊を鼓舞するものです。しかも会員の多くは、バプテスマを受けて間もない人たちなのです。

これらの島々で働く2千人の宣教師の御両親の皆さん、また御夫婦で伝道しておられる方々の御家族の皆さん、聖徒たちから皆さんにくれぐれもよろしくとのこと。宣教師の方々への皆さんの限りない支援に心から感謝しています。皆さんは宣教師の方々で伝道できるように犠牲を払い、毎週励ましの手紙を書き、朝晩心を込めて彼らのために祈りを捧げて下さっています。実に伝道は家族ぐるみの活動と言えます。

私たちの生きるこの時代は、主イエス・キリストの福音が地上に存在する大いなる時代です。福音は人々の心を変え、人生の新たな目的と意義とを伝える驚くべき力を持っているのです。

まだこの教会に入っておられない友人の皆さんに私たちの愛を感じていただけたらと思います。私たちは皆、天父の子供です。兄弟姉妹です。初等協会の歌の中に、この偉大な真理を歌った靈感あふれる歌があります。

神の子です
わたしや あなた
いろんな おめぐみ
感謝します
わたしを 助けて 導いて
いつか みもとへ ゆけるように
(「子供の歌」B-76)

私たちは皆さんを愛しています。私たち

の率直な言葉を皆さんがお気にされることはないであろうと思います。愛は人の心を傷つけるものではないからです。

きょう、この場で皆さんにお伝えしたいメッセージがあります。それは、神の権能が回復され、地上に再び主の教会が設立されているということです。このことが真実であることを証します。しかし、皆さんは私の言葉をうのみにする必要はありません。皆さん自身でそれを知ることができるのです。へりくだって真理を求め、祈りによって天父に近づく人々は、これらのことが真実であるかどうか、確かに知ることができます。

天父はその方法を捜し求める私たちのために、一冊の驚くべき記録を現代の世に現わされました。それは西半球に住んでいた人々と天父の交わりを記した記録です。聖書と同様に神聖なこの記録は、モルモン経と呼ばれ、金版に刻まれていた文字から「神の賜物と力とにより」（教義と聖約135:3）翻訳されました。この神聖な記録には、他の書物とは異なって、次のように約束されています。（モルモン経、p. 946参照）

「またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。」（モロナイ10：4）

文字通り数百万の人々がこの約束を実際に試して、記録が確かなものであることを知りました。証を得たのです。そして、人生に新たな意義と目的を見いだしました。

もちろん、皆さんも御自分で知ることができます。しかし、忘れてならないことが

あります。それは、ひとたび聖霊による証を得た人は、神聖な義務、すなわちその証を他の人々に宣べ伝える義務を負うということです。

さて、主の教会の会員である皆さんにお話したいと思います。今は大いなる伝道の時代です。3万人以上の青年男女や信仰の篤い献身的な御夫婦が、宣教師として多くの国々や島々でこのメッセージを宣べえています。この神権時代が訪れるまでは、全地に住む人々に向かって世界的な規模で伝道が行なわれたことはありませんでした。実に素晴らしいことです。皆さんをはじめ他の多くの人々がこの目的のために進んで捧げて下さった時間や財産を、私たちは忘れません。

しかし、これまでの努力ではまだまだ十分ではありません。偉大な伝道の業を導く予言者が指摘されたように、この福音をあらゆる国々、あらゆる国民、あらゆる民族、あらゆる人々に伝えようとしても、伝道を推し進める力にもう一步目覚めていない部分があるのです。まるで、今にも目を覚まそうとしている巨人といった感じです。この眠れる巨人が完全に目覚めれば、鎌で刈り取る時代は終わって、近代的なコンバインで収穫する時代がやってきます。その時には、今よりもはるかに多い収穫が得られるでしょう。

伝道活動において現在最も必要とされていることは、主のみ名を受け証を持ったすべての教会員が、恐れという幕を取り払って、友人や親戚、近隣の人々に愛の手を差し伸べることです。そして心から関心を寄せていることを示し、私たちの愛で温かく彼らを包んであげることです。そうすれば、彼らは兄弟姉妹として関心を寄せられてい

ることや、自分たちもこの大いなる祝福を享受できるということが分かるでしょう。

私たちはバプテスマを受けた時に、主と誓約を交わしました。そのひとつをモーサヤ書から引用してみましょう。「いついかなる時でも、どのような所に居ても、どんなことについても、死に至るまでも神の証し人にな……。」(モーサヤ18：9)

ところで、証し人が証を述べなければ何の価値もありません。主はこのように言われました。

「警めを受けしことあるすべての人はその隣人を警むる責任あり。

故に人々言逃れあることなし。罪は人々自らの頭の上にあり。」(教義と聖約88：81—82)

また教会員である私たちに対して次のように語られました。

「されど汝らの中、惑る人々はわが悦ぶところにあらず。そは彼ら人を怖れて、己が口を開かんとせずしてわが与えたる才能をかくすによる。禍なるかな、かかる人々よ。わが怒りは彼らに向いて燃ゆればなり。」(教義と聖約60：2)

「汝ら口を開け、さらに満たさるることを得ん。……

誠に汝ら口を開きてあらん限り説け。さらば汝らの背には刈り束を増し加えられん。見よ、われ汝らと共に在ればなり。

誠に汝ら口を開け、さらば満たさるることを得ん。曰く『悔い改めよ、悔い改めよ。主の道を備え、その道筋を直くせよ。天国は近づきたればなり。』」(教義と聖約33：8—10)

さらに主は別の啓示の中で、日の光栄の王国に属する資格のない、月の光栄の王国に属する人々について次のように述べてい

ます。「これらの者はイエスの証詞をなすに雄々しからず、この故に彼らはわれらの神の王国の冠を得ざるなり。」(教義と聖約76：79)

マルコは救い主が語られた言葉を書きとめています。「邪悪で罪深いこの時代にあつて、わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、父の栄光のうち

に聖なる御使たちと共に来るときに、その者を恥じるであろう。」(マルコ8：38)

私は皆さんに申し上げたいと思います。救い主が為されたように、人々をキリストのもとに導くために手を差し伸べるならば、私たちはその時に最も主に近づくことができるのです。ウィットティアはこの真理を詩の中で歌っています。

天の門は 閉ざされる

たったひとりで来る者に

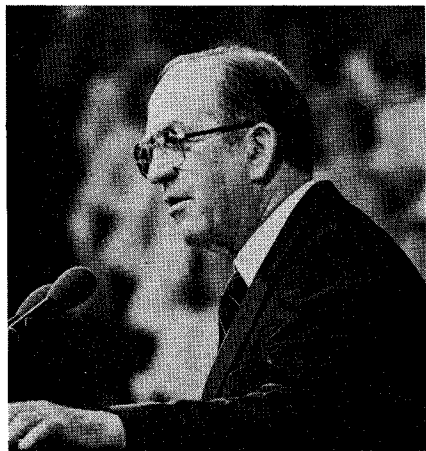
救いの道へ 人を導け

みずからを救うために

(『二人のラビ』 *The Complete Poetical Works of Whittier* 「ウィットティア全詩集」

pp. 91—92)

皆さんにお尋ねしたいと思います。皆さん



んは株や債券、その他の財産を記した元帳をお持ちでしょうか。成功を取めた多くの人々はそれを持っています。

予言者ジョセフ・スミスはしばしば教会員から頼まれて、彼らにとって最も価値あるものは何か、主に尋ねました。そして、そのたびに次の答えを受けたのです。「汝にとりて最も価値あることは、汝今の世の人人に悔改めを宣べて人々をわれに導き、以て彼らと共に父の御国に休まんことなり。」(教義と聖約15：6)

それでは私たちに「最も価値あること」を記録するために、私たちは伝道の元帳を備えているでしょうか。

皆さんも関心があると思います。これは必ずお役に立ちます。家族伝道の元帳を作ってはいかがでしょう。普通のノートを一冊用意して、復活されたキリストの絵とその下に主の予言者スペンサー・W・キンボール大管長の写真を貼ります。キリストの絵には「わたしの羊を養いなさい」という主のみ言葉を記入し、キンボール大管長の写真には「歩みを速めなさい。今すぐに行かないなさい」と書き入れます。さらに私たちの家族の写真を貼り、自分の決意を記します。私は「為すべきことを今すぐに行なう」と書きました。

この元帳に、日頃顔を会わせる教会外の立派な人々の名前を書き出します。そして名前の下に会った日付と、その人と何をしたか記録します。

実例をあげて、この方法がいかに簡単であるか説明しましょう。これからお話しするのは、ウィリアム・ブラウンとメイ・ブラウンという御夫婦の話です。1979年1月、私たちは英国に着いたばかりの頃、例年にない大雪に見舞われました。私たちの家に

は雪かき用のシャベルがありませんでした。品切れで買い求めることができなかったのです。私はほうきで掃こうとしましたが、重すぎてできません。すると、フィリップ・ブラウンという少年と彼の友だちが、庭の雪を片づけましようと言ってくれたのです。おかげで庭はきれいになりました。その後リーブ姉妹はフィリップ・ブラウンの母親に電話をして、もう一度家の庭の雪かきしてもらえないかどうか尋ねました。そして、息子さんがしてくれた親切な行為について話しました。するとその母親はこう言いました。「私たちの家にいらして、お近づきのしるしにコーヒーでも一緒にいかがですか。」

リーブ姉妹は出かけて行きました。もちろん姉妹が飲んだのはオレンジジュースで、それがモルモンであることを話すきっかけになりました。ブラウン夫人は言いました。「私はお宅の教会の宣教師に会ったことがあります。とても立派な青年たちですね。もし教会を変わるようなことがあれば、あなたの教会にお世話になりますわ。」

2月19日、私たちは42回目の結婚記念日を迎えましたが、わが家に招待できるような人はいませんでした。「ウィリアムとメイを招いたらどうだろう。」私たちはさっそく電話をかけました。「わが家に来て、一緒に結婚記念日を祝っていただけませんか。」私たちは二重の喜びを経験しました。現在ブラウン夫婦はモルモン経と末日聖徒の讚美歌を持っています。(ブラウン夫人は彼女の教会でオルガニストをしています)私たちは旅行をするたびに、この素晴らしい御夫婦に絵はがきを送っています。交わりを絶やさないようにしています。彼らは私たちにとって本当によい友達なのです。

私たち家族は伝道活動のために特別な時間を定めたわけではありません。ただ私たちがお会いするすべての人について伝道する機会を捜してみたのです。こうしてわずかな期間に、29人の名前が元帳に記されました。そのうち3人はすでにバプテスマを受け、4人目の人も10月3日に受けているはずで、残りの人々は宣教師からレッスンを受けています。

英国で伝道している宣教師は、3千軒の家を訪れてやっと1軒の求道者を見つけるといった具合です。すなわち、90パーセント以上の時間を求道者を見つけることに費やしているのです。もし教会員のすべての家族が、恐れという幕を取り払い、友人や隣人に愛の手を差し伸べて、彼らと親しくなろうと決心するならば、どのようなことが起こるでしょうか。多くの収穫が得られるだけでなく、それに参加した家族までも伝道の豊かな祝福にあずかれるでしょう。

福音を宣べ伝える人々に対して、主は教義と聖約第4章の中で偉大な祝福を約束しておられます。

「勢力をつくして(相当の体力を用いて)鎌を入る者は、亡びずしてその身も霊も救いを得るために庫に積み入るなり。」(教義と聖約4:4)

「およそ、出で行ってこの王国の福音を宣べてすべての事に終始忠実なる者は、何人も心に衰えを感じることなく、また心暗くなることもなし。体も手足も関節も衰えず、神知りたまわずにはその頭髮一筋も地に落つることなく、また飢ゆることも渴くこともなかるべし。」(教義と聖約84:80)

何と素晴らしい約束でしょうか。

「誰にても汝らを受け入るる者には、われもまたそこにあらん。そは、われ汝らの

前に先立ちて行くべければなり。われは汝らの右にあり、また左に在らん。わが『みたま』は汝らの心の中にあり、またわが天使らは汝らを囲みて懐き支えん。」(教義と聖約84:88)

ステーキ部長と監督の皆さん、もし皆さんが教会員を清めたいと願うなら、ステーキ部やワード部を強めたいと心から願うなら、彼らが伝道活動に参加できるように導いて下さい。すべての若い男性は伝道に出る備えをするべきです。伝道の経験は、50年分の霊的な訓練にも値します。若い男性にとってこれ以上素晴らしい経験はありません。また、すべての家族は、率先して友達を作る家族になるべきです。父親の皆さんに申し上げたいと思います。皆さんの家族を強め、家庭に恵みをもたらしたいと心から願うなら、家族が教会外の友達を作れるように助けて下さい。

イエスがキリストであり、神の御子であり、私たちの救い主、贖い主であることを証します。イエスは、主の予言者スペンサー・W・キンボール大管長を通して私たちに語られます。

私たちの上に神の祝福があって、伝道のみたまが私たちの心に注がれ、まだこの偉大な祝福を知らない人々に手を差し伸べることが出来ますように。キリストは御自分の手ではなく私たちの手によって、また御自身の声ではなく私たちの声を通して、み業を進めておられることを忘れないで下さい。私は心から証します。最も多くの報いをもたらす業、それは福音を分かち合う業です。これらのことをイエス・キリストのみ名を通してお話しします。アーメン。



七十人第一定員会会員 ボーン・J・フェザーストーン

どうか、彼らの罪を赦して下さい

「もし告白していない重大な罪を心の中に負っているならば、監督のもとへ行きなさい。愛にあふれた監督が、あなたの生活に祝福をもたらしてくれるでしょう。」

愛する兄弟姉妹の皆さん、私はこれまでにステーキ部長、伝道部長、教会幹部としての召しを受け、現代におけるイスラエルの民の「共通の判士」（教義と聖約107：74）として奉仕する特権に恵まれてきました。それらの経験の中から、きょうはふたつの原則についてお話したいと思います。それは、悔い改めと赦しの原則です。

さほど昔のことではありませんが、若い未亡人が夫の葬儀の席で次のように言いました。「私たちは、はっきりと悟るようになりました。取るにたらない事柄は、あくまで取るにたらないことなのです。霊が病んでいる時は、いかに肉体が健康であっても、真の癒しは得られません。しかし、霊が健全であれば、病気でどんなに衰弱していても、肉体的なおとろえは取るにたらないことなのです。」

主は私たちが霊の病を癒すことができるように、その方法を備えられました。イザヤ書第1章18節には次のように記されてい

ます。「主は言われる、さあ、われわれは互いに論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」

教義と聖約にも次のように記されています。「さりながら、悔い改めて主の誠命を行う者は赦されん。」（教義と聖約1：32）

「見よ、およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし。」（教義と聖約58：42）

罪の赦しを受けようとする人に対して主が求めておられることは、主のみもとへ来て罪を悔い、その罪を捨て、すなおに教えを受け、人を赦し、告白することです。

教義と聖約の第58章には、さらにこのように記されています。

「人罪を悔い改めしや否やは、見よ、彼は自らこれを告白しその罪を捨つなければ、その悔い改めたることはこれによりて知るを得べし。」（教義と聖約58：43）

私たちはいつも誠実でなければなりません。マーク・トウェインの著書「ハックルベリー・フィンの冒険」の中で、ハックはこのように述べています。

「まったく身震いがしたよ。今までのような悪いことを止めて、もっとよい人間になれないかと思って、祈ることにしたんだ。ひざまずいて、祈ろうとした。でも、言葉が出てこないのさ。なぜだろう。お祈りの中で神さまに隠しごとなどできはしないんだ。……なぜ何も言えなかったのか、自分でよく分かっていた。正しくないからさ。正直でないからさ。ごまかしているからさ。罪を捨てるふりをしてはいたけれど、心の中では一番大きなやつをしっかりと握っていたんだ。口さきだけで、正しいこと、清いことをしますと言おうとしたんだ。でも、すっかり打ちのめされたよ。自分でも分かっていたし、神さまもそのことを知っておられた。祈りでうそはつけない、……これは本当だ。」

ハックの言葉は正しいのです。祈りの中で嘘をつくことはできません。「共通の判士」がどのような判決を下そうとも、真の悔い改めが行なわれるまでは、赦しはもたらされないのです。「共通の判士」は、主の代理人として働きます。監督をだますことはできても、聖霊を欺くことはできません。告白をする時は、誠心誠意で何事も包み隠さずに話すべきです。

ある人がやっとの思いで監督のもとへ行く勇気を得ながら、すべての罪を告白せずに監督室を後にするのなら、これは何という悲劇でしょうか。ああ、愛する兄弟姉妹の皆さん、「羊飼いは病気にかかった羊を見ても恐れたりはしないのです。」(ピクトル・ユーゴー *Les Miserable*「ああ、無情」p.32)

この王国の監督は、いと高きところより知恵と、判断力と、憐みを授かっています。そして、悔い改めた人々から罪の重荷を取り除くことができるのです。

数年前のことですが、夜遅くひとりの男性がステーキ部長室のドアをたたきました。「少しお話したいのですが、ほかにだれもいないでしょうか。」だれもいないから安心するように言うと、彼は部屋に入って机の角をはさんで私の横に座りました。「これまでに4回、ステーキ部の事務所の前まで来ました。あなたの部屋には明かりがついていましたが、4回とも中に入れずに帰りました。でも、きのうの夜『赦しの奇跡』をもう一度読んでいたのです。そして、重大な罪をすべて告白しなければならないと思いました。私は罪を告白しに来たのです。私は高等評議員と監督をそれぞれ2度務めました。主が私を召されたと信じています。」

「その通り、主が召されました。」

「今から42年前、私と妻は結婚する前に一度だけ純潔の律法を犯してしまいました。神殿に入る1週間前のことです。私たちは監督に嘘はつきませんでした。妻の父親が監督でしたので、簡単な話だけで神殿推薦状にサインしてくれたのです。それからステーキ部長のところへ行きました。彼は私たちと面接をせずに推薦状にサインしました。そして、私たちはふさわしくない状態で神殿に参入したのです。」

「新婚旅行で私たちは、主に対して償いをしようと決心しました。什分の一や建築資金は決められた額以上に納め、福祉農場で働く割り当てをはじめ、頼まれた責任はすべて受け入れようと心に決めました。神殿に入る資格がなかったのです。それから1年間は参入しませんでした。あの罪を犯し

てから42年になります。私たち夫婦はできる限りキリストに近い生活を送ってきました。私たちは赦されていると思います。しかし、告白する必要があることも分かっています。」

それから彼は、ニーファイ第二書の9章41節を引用しました。「ごらん、人のふみ行う道は狭いけれども、それは人の前に真直ぐに通じている。その門を守る者はイスラエルの聖者であって、ここには下僕をお使いにならない。そしてこのほかには一つも通る所がないからこの門から入るほかはない。しかし、門を守る者が主なる神であるから、人はこれを欺むくことができない。」

彼は続けました。「私は今告白したほうがよいと思いました。もう若くはありません。残された人生もわずかです。救い主とお会いする時に、この世でやり残したことがないようにしたいのです。」

私は彼の告白にじっと耳を傾けました。彼の話が終わった時には、私も泣いていました。私は教会に代わって、彼の罪が赦されたことを告げました。もうこれ以上その罪について話したり、考えたり、悩んだりする必要はないのです。私は言いました。

「二度とその話を持ち出さないで下さい。私も再び思い出すことはないでしょうし、そうしたいとも思いません。」今ではその人の名前を思い出すこともできません。私が覚えているのは、このような事件があったことだけです。

私は立ち上がって、彼と一緒にドアのところまで行きました。そしてこう尋ねました。

「奥さんはどちらにいらっしゃいますか。」

「車の中にいます。」

「お入りにならないのですか。」

「ええ、そんなことをすれば、妻は死ぬ

ほど苦しむでしょう。」

「では、今すぐお話がしたいと伝えて下さい。奥さんの心からこの重荷を取り除いて、葬ってしまいたいのです。私は何が起こったか伺いましたが、それを他に漏らそうとは思いません。二度と口にする必要はないのです。奥さんができる限り楽になれるようにしましょう。そのように伝えていただけますか。」

「わかりました。しかし、妻がここへ来るとは思えません。」

「私は一晩中でもここに座って待つつもりだと言って下さい。奥さんが来られるまでは、家に帰りません。あと一日といえども、奥さんがこの重荷を負って生きることなど、私にはとても考えられませんが、42年間でもう十分です。」

「わかりました。話してみましよう。でも妻は来ないと思います。」

そう言って彼は部屋を出ました。……15分……30分……45分。帰ってしまったのでしょうか。私は駐車場をのぞいてみたいという誘惑にかられました。しかし、こらえました。すると、遠慮がちにドアをノックする音が聞えました。ドアを開けると、そこにやさしそうな女性が立っていました。彼女の瞳は涙で濡れていました。恐らく、行くことはできないと夫に言ったのでしよう。しかし、夫から私が一晩中でも待つつもりだと聞かされ、どうしても行くように説得されたのだと思います。そして45分後に、ついにドアの前に立ったのでした。私は両手で彼女を迎え入れ、部屋を横切って机の横に座らせました。そしてこう言いました。「御主人は、42年前にあなたと犯した罪を告白されました。あなたにも安らぎをさし上げたいのです。私はおふたりの罪

を知っています。重大な罪はすべて告白しなければなりません。どうぞ話して下さい。あなたが負っている心の重荷を取り除きましょう。」

彼女から告白を得るのは、野性の馬を手綱で操るように困難なことでした。およそ15分後、ついに彼女は告白しました。私も、彼女も泣いていました。私は言いました。「これはもう済んだことですから、二度と思い出すことはありません。あなたもすべて忘れて下さい。」私は立ち上がると彼女の腕をとって、駐車場へ通じる長い廊下を歩いて行きました。玄関のそばまで来た時に、私はこう尋ねました。「気分はいかがですか。」

彼女は立ち止まって私を見上げました。目には涙があふれています。「ステーキ部長、42年にして初めて清らかな気持ちになれました。」

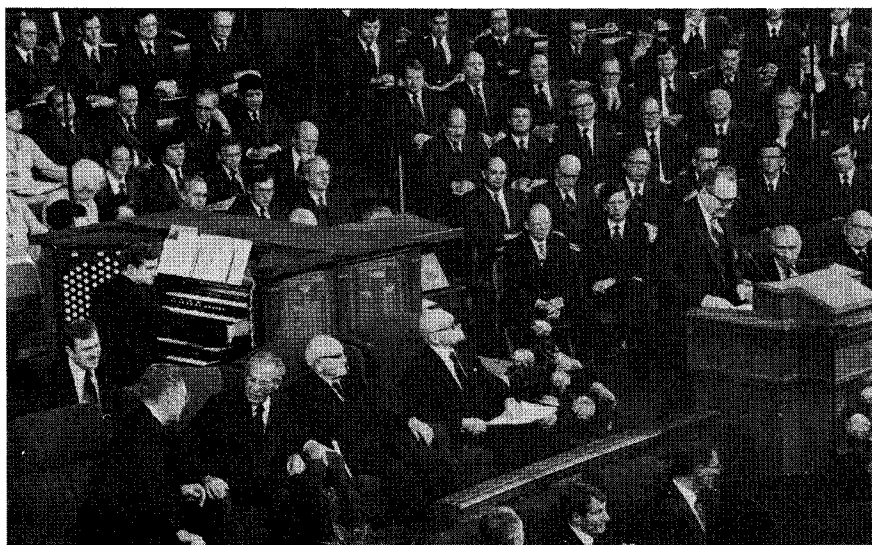
教会が発行しているパンフレットに次のように記されています。「小羊の血で衣を洗

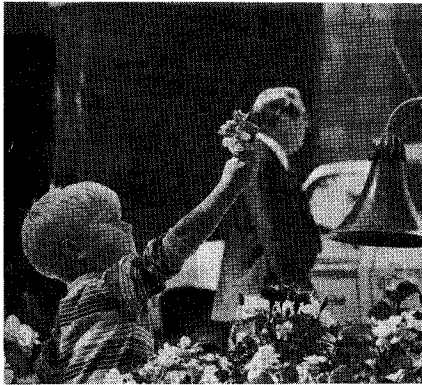
った人には、もはや汚れはないのである。」
(スペンサー・W・キンボール「友へ」 p. 25)

ある日、会社の事務所にひとりの女性が訪ねて来ました。その女性は机から身を乗り出すようにしてこう言いました。「ステーキ部長、私は32年間罪の重荷を負ってきました。これ以上この重荷を負って生活することはできません。私はステーキ部長がどんなにやさしい心を持っていらっしゃるか知っていますし、ほんのわずかでもステーキ部長に負担をおかけしたくはないと思っています。」

「姉妹、あなたのお話を聞く前に、福音の原則について一つだけ話させて下さい。あなたの心から罪の重荷が取り除かれる時、神権指導者の心からもそれが除かれるのです。」

彼女は言いました。「私は教会から追放されるでしょう。破門されるでしょう。でも、永遠にそうなるのですか。32年前のことで





す。私は最初の夫と結婚する前に墮胎の罪を犯しました。それ以来、自分が殺人を犯したような気持ちになりました。夫の考えでしたが、私は反対しませんでした。墮胎したのです。それから私たちは結婚しました。2年間の結婚生活で、夫は何度も私を裏切りました。私は耐え切れずに離婚し、教会に改宗した立派な男性と知り合って再婚しました。彼はすべてを知っています。その上で、私と結び固めの儀式を受けたいと願っています。ステーキ部長、私たちは永遠にわたる結び固めを受けることができるのでしょうか。私は追放されると思います。でも、永遠にそうなるのでしょうか。」涙が彼女の頬を伝って流れました。

私はこの女性を知っていました。私が知る限り、最もキリストに近い女性のひとりでした。近所の人のために、いつもパンやクッキーを焼いている人でした。ワード部のパーティーがあって扶助協会の姉妹たちが掃除をする時には、いつも床を磨いていました。彼女の話によれば、自分には食事が済んだ後でみんなと一緒に並んで皿を洗う資格はないと思ったので、かがんで床磨きをしていたそうです。人が歩く床を磨く

資格しかないと感じていたのです。また、人のうわさ話は絶対にしなかったと言います。彼女は言いました。「すでにしてしまったことはどうしようもないのでしょうか、私はどうすればよいでしょうか。」

彼女のこの告白を聞いて私は頭の下がる思いでした。私は涙ながらに彼女にこう言いました。「これまで墮胎に関する問題を扱ったことがありませんので、十二使徒評議員会のキンボール会長に手紙を書いて、助言を求める必要があります。」

私はキンボール会長に事の概要を書いた手紙を出しました。彼女が私の知る女性の中で最もキリストに近い女性のひとりであり、キンボール会長のいかなる決定にも進んで従うつもりであることを書き添えました。2週間後に返事が来ました。私はその姉妹に電話して、できるだけ早くステーキ部の事務所でお会いしたいと伝えました。私が事務所へ行くと、すでに彼女がそこで待っていました。顔色は真っ青で、目が赤く充血しています。電話を受けてから、幾度もひざまずいて憐れみを願い求めたに違いありません。

私は再び彼女と机をはさんで座りました。「一秒たりともあなたをお待たせしたくありません。祈りも省略してとにかくキンボール会長からの手紙を読みましょう。」

『親愛なるフェザーストーンステーキ部長：32年前に墮胎の罪を犯した女性についてお尋ねがありましたが、あなたの手紙から察するに、その女性はずっと以前に悔い改めていたようです。あなたは教会を代表して、彼女が赦されていることを告げて下さい。』

綿密な面接を行なった後で、この素晴らしい姉妹に神殿推薦状を発行し、彼女が神

殿へ行って現在の夫と結び固められるようにして下さい。」

たとえその女性が座っていた場所に救い主が座っておられたとしても、あの時に感じた救い主への親近感には決して及ばなかったのではないかと思います。これはまさに救い主が行なわれたことに違いありません。まるでこの善良な女性の心から2千ポンドの重荷が取り除かれたかのようでした。彼女は解放され、喜びの涙にむせんでいました。今私は、その女性がだれであったか思い出すことができません。

J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は次のように述べています。「救い主は私たちの罪に対して、正義の要求する最小限度の罰を科しておられるような気がします。……

しかし、善い行ないに対して報いを与える時は、できる限り最大のものを与えて下さるのです。」(J・ルーベン・クラーク・ジュニア, *Brigham Young University Speeches of the Year* 「ブリガム・ヤング大学年度講話」1955年5月3日, p. 7) 私もこの言葉が真実であると心から信じています。

出エジプト記の32章には、モーセがシナイ山に登った時の出来事が記されています。イスラエルの民は鋳物で金の子牛を作り、これに犠牲を捧げました。さらにその回りに座って飲み食いをして、踊り戯れました。モーセが山から下った時に、彼らは大きな罪を犯していたのです。モーセは二枚のあかしの板を投げうって砕き、金の子牛を火で焼き、偶像崇拜を行なう人々を滅ぼしました。

イスラエルの民が悔い改めると(これが鍵になります)、モーセは主のもとに帰って

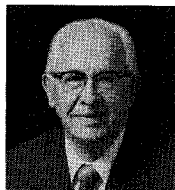
祈りました。「今もしあなたが、彼らの罪をゆるされますならば——。しかし、もしかかなわなければ、どうぞあなたが書きしるされたふみから、わたしの名を消し去ってください。」(出エジプト32:32)

私はこれまでに、重大な罪を犯した数多くの人々の告白を聴きました。そして真に悔い改めた罪人が私の部屋を後にするたびに、私は机のうしろでひざまずく頭をたれて、次のように祈りました。「主よ、どうぞあの人の罪を赦して下さい。もしそれがかなわなければ、どうぞあなたが書きしるされたふみから、私の名も消し去ってください。彼らがいなくなるところに、私はいたくないのです。彼らは私が会った人の中で最もキリストに近い生活をしてきた人々だからです。」

たとえ罪が緋のようであっても、雪のように白くなれるのです。(イザヤ1:18参照)そして主は、「もはやこれを忘るべし」(教義と聖約58:42)と約束しておられます。

主はすべての人々にキリストのような教会の指導者を与えて下さいました。彼らはいと高きところより権能と鍵とを授けられて主の代理人となり、教会を代表して赦しの業を行ないます。皆さんに心からお願いします。告白していない重大な罪を心に負っている人がいましたら、監督のもとへ行って下さい。現代のイスラエルの民の中であなたが悔い改めを示すならば、愛といつくしみにあふれた監督が、あなたの生活に祝福をもたらし、心の重荷を取り除いてくれるでしょう。

主は私たちを愛しておられます。主は私たちの贖い主であり、救い主であります。これらのことをイエス・キリストのみ名により申し上げます、アーメン。



十二使徒定員会会長 エズラ・タフト・ベンソン

艱難の日に備える

「主は大いなる艱難の日に備えるように勧告を与えてくれました。私たちは主の勧告をすてに実践したでしょうか。私たちは一年分の食糧を貯蔵する必要があります。」

40 年以上にわたり、教会員は愛にあふれた勧告を受けてきました。たとえば、儉約し自立するように、借金をしないように、什分の一と惜しめない断食献金を納めるように、勤勉に働くように、そして食糧、衣類、燃料を少なくとも1年分蓄えるように、といった勧告です。

今日の差し迫った状況を考えると、再度これらの勧告を強調する必要があると思います。すでにけさの福祉部会で有意義な話がありましたので、私はそれに少しだけ付け加えることにします。

教会の会員は、このところ続く景気後退と、それに伴うインフレーションや税金の引き上げにより、経済的な圧迫を受けています。中には家や車のローンの返済や、光熱費、水道代などを支払うお金がないと、監督のもとへ行って援助を求める人もいます。

まことに悲しむべきことですが、一部の人は生活が困難な時や、無分別でぜいたくな暮らしをして自分の収入だけで生活で

きなくなった時は、教会か政府に助けてもらえばよいという考えでいます。そのような教会員は、教会福祉計画の根底にある原則を忘れてしています。すなわち「本物の末日聖徒であれば、健康体でありながら自分から自立の責任を回避する人はいない」のです。(マリオン・G・ロムニー「大会報告 1973—75」p. 112)

アダムがエデンの園から追放された時、最初に父祖アダムに下された原則は次のようなものでした。「あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る。」(創世3:19) 私たちがこの世で手に入れる物質的なものはすべて労働の産物であり、神の摂理によってもたらされるのです。

生活に必要な出費をまかなうにも四苦八苦している若い夫婦が大勢いますが、本当に大変なことと思います。実に衣、食、住の3分野において、生活必需品を得るために経済的な苦難に直面しているのです。また、細腕ひとつで家族を支えておられる姉

妹や未亡人の方々の御苦勞をお察しいたします。主は啓示により、そのような方々を扶養し援助する方法をお与えになりました。

(教義と聖約83：1—2，4—6 参照)

私たちは以前にも増して、経済的な自立の原則を学び、応用していく必要があります。病気や失業などの危機が、いつ私たちを襲うかもしれません。私たちにわかることは、将来にわたって全世界の災いを定められた主が、備えよ、との警告を発しておられるということです。このようなわけで教会幹部の兄弟たちは、物心両面での福利をはかる基本的なプログラムに立ち返るよう、繰り返し強調しているのです。

私がきょうここでお話することは、最も基本的な原則、すなわち「家庭における生産と貯蔵」についてです。皆さんは輸送機関が完全に麻痺したり、戦争や不況が起こった場合のことを考えたことがあるでしょうか。もしそのような事態になったら、私たちの地域社会や国家はどうなるでしょうか。皆さんや近所の人々は、どのようにして食糧を手に入れるでしょうか。街角の食糧品店やスーパーマーケットは、いつまで地域社会の需要に応えることができるでしょうか。

第二次世界大戦の直後、私は大管長会からの召しを受けて、ヨーロッパへ渡り、そこで伝道部を再開し、聖徒たちに食糧と衣類を供給するプログラムを確立しました。今でも鮮明に記憶していることは、毎朝あらゆる種類の骨董品を抱えて汽車に乗り込む人々の姿です。田舎へ行って、財産を食糧と交換してくるのです。夕方になると、両手に野菜や果物、キーキー鳴く豚や鶏などを抱えた人が駅にあふれていました。皆さんはあのように混乱した状態を御存じないと思います。彼らは食糧という命をつな

ぐものと交換するためであれば、どのような財産でも喜んで差し出したのです。

経済的に自立する手段の中で、多くの人がなごりにしているものがあります。それは、家庭における食糧の生産です。私たちは店に行って必要な品物を購入する生活に慣れ過ぎています。自分の手でいくらでも食糧を生産するならば、物価の高騰が家計に与える影響を広い範囲にわたって抑えることができます。さらに大切なことは、食糧を自給する方法を学び、家族みんなで有益な作業に従事できることです。キンボール大管長は各自が菜園を造るように繰り返し強調してこられました。今日このような状況にある私たちにとってこれほど重要な勧告はないと思います。

「私たちは皆さんに、庭を利用してできるだけいろいろな作物を栽培するようにお勧めしたい。気候が適切であれば、果樹やいちごなどを栽培してはいかがだろうか。庭で野菜を育て、それを食用としていただきたい。」(「聖徒の道」1976年8月号，p. 439)

皆さんの多くはキンボール大管長の勧告に聞き従って、その祝福にあずかっていますが、まだまだ時間や場所がないと言って自分を正当化している人がたくさんいます。ここで私は、他の人々が実際に行なったことを試してみるようにお勧めします。何人かの人が協力して、空地を菜園として使用する許可を求めます。あるいは、土地の一面を借りて菜園を造ってもよいでしょう。ある長老定員会では定員会の活動としてこれを行ない、参加した人々は野菜や果物の収穫にあずかったばかりか、協力し合うことや家族で働くことを通して様々な祝福を受けました。芝生を掘り返して菜園を造っ

た家族も多くあります。

私たちは皆さんに、もっと自立するようにお勧めいたします。主はこのように宣言しておられます。「これ、汝らに如何なる艱難下るといえども……日の栄の世界の下に在る他の一切の生くる者の上にわが教会員の自立せんが……ためなり。」(教義と聖約 78：14—15)

主は私たちに、やがて艱難の日が来るので、独立し自立するように求めておられます。不測の事態に備えるように警告されたのです。

ブリガム・ヤング大管長は次のように述べています。「あなた方にパンがないならば、どれほどの知恵を誇れようか。欠乏の時に備え自分たちの生活を支えるための物を備えて暮らしをまかなうことができずにいるならば、あなた方の才能はどれほど本当に有用だというのだろうか。」(*Journal of Discourses* 「説教集」 8：68)

法律で許されている地域では、少なくとも

も1年分の食糧を貯蔵するように繰り返し勧告されていますが、食糧の生産はその一環となるものです。教会はどういった食糧を貯蔵すべきだと指定してはいません。選択は個々の会員に任されています。しかし、教会発行の「家庭における生産と貯蔵の基本」という小冊子には、優れた提案がいくつか記されています。

食糧の生産、貯蔵、処理、それに主の勧告を合わせて考えると、穀類を最優先すべきです。かつてオルソン・ハイドはこう言いました。「世界のいかなる政策よりも、小麦の方が多くの人を救い、危機から守る。」

(*Journal of Discourses* 「説教集」 2：207) もちろん水も欠くことができません。そのほか大事なものは、蜂蜜か砂糖、豆類、乳製品かそれに代わる物、それに塩またはそれに相当するものです。食糧貯蔵の啓示はノアの時代の民に箱舟を造るように啓示が下されたように、今日の私たちの救いに必須のものと言えるでしょう。



ハロルド・B・リー大管長は次のように勧告しています。「通常の生活での1年分という意味ではなく、何も食べる物が無い事態が発生した時に生きて行くための食料を1年分と考えるならば大してむずかしいことではない。……快適に暮らせはしないだろうが、生きてゆくことはできるであろう。通常食べているものをすべて貯蔵するというのは、平均的家族にとってはほとんどがまったく不可能だと思うが、そうではなく、切りつめた生活で1年分の食料を貯蔵するという事で考えれば、さかのぼって1937年にクラーク副管長が勧告したことに近づくと思うのである。」(福祉大会説教、1966年10月1日)

庭先の小さな畑であれ、1、2本の果樹であれ、土に親しみ、食糧を自給することには祝福があります。末の時代に自給自足を確立する見通しを持ち、その方法を実践して、十分な食糧を備えた家族は、何と幸せなことでしょうか。

何年にもわたり教会幹部が首尾一貫して勧告してきたことが、次の言葉に要約されています。

「第一に、まず何よりも大事なことで、義しい生活をしよう。……

伝染病を避けるのと同じように、借金を避けよう。今借金があるなら、それを返済しよう。きょうできなければ、あす返済しよう。

家族の長である者は、最低向こう1年分の食糧、衣料、またできれば燃料を手もとに確保するようにしよう。収入のわずかな人は株や投機にではなく食糧や被服費にお金を充当するように。収入の多い人は自分のまかないは自分でできると考えるだろうが、私はあえて投機をするなと提言したい。

すべて家庭の長は自分の家を持つように、抵当を避けるように努めよう。庭のある人は菜園を作ろう。農地のある人は耕作しよう。」(ルーベン・J・クラーク・ジュニア *Conference Report* 「大会報告」1937年4月、p. 26)

さらに付け加えれば、1年分の貯蔵をするために借金をする必要はないということです。貯金をする時と同じように、貯蔵食品を増やす計画を立てて下さい。給料を受け取るたびに少しずつ節約して、その分を貯蔵に回して下さい。菜園や果樹園でとれた野菜や果物を、缶詰めかびん詰めにして保存して下さい。乾燥食品や可能であれば冷凍食品による保存方法を学んで下さい。貯蔵に必要な経費を家計に組み込んで下さい。種子の保存も忘れず行ない、作業に必要な道具をそろえましょう。もし皆さんが、2台目の車やテレビなど、単に快適さや楽しさを求める品物を購入するために貯金をしているとしたら、優先順位を変える必要があります。祈りの気持ちでよく考え、今すぐに実行して下さい。

私は非常に切迫した思いで話しています。私は艱難の時代に人々がどのような生活をするのかこの目で見てきました。極度の飢えに悩まされるヨーロッパを見てきました。それは、ぞっとするような光景でした。人々は骨と皮ばかりで見る影もなく、婦人や子供が軍のごみ捨て場で残飯をあさっていました。私の脳裏には、このような光景と彼らの言いようなない表情がこびりついて離れません。

飢えのために今にも倒れそうなハンブルグの聖徒と幼い子供たち、私は彼らのことを決して忘れないでしょう。私たちはポケットから食べ物を取り出すと、子供たちを

呼び寄せました。戦時中にはほとんど手に入らないものばかりでした。子供たちにオレンジをひとつずつあげた時、不安げに見守っていた施設の保母さんたちの目には涙があふれていました。あの光景も忘れることができません。飢えと栄養失調により、人々は肉体的にも社会的にも痛ましい打撃を受けていました。ある姉妹は4人の幼い子供を連れてポーランドの家を後にし、1,600キロを歩いて来ました。しかし、飢えと寒さのために4人の子供をすべて失ったのです。衰弱し切った体、ぼろぼろになった衣服、麻布をまきつけた足、それでもその女性性は私たちの前に立って神様から受けている祝福について証してくれました。

フランスの聖徒たちのことも忘れられません。彼らはパンが手に入らないので、聖餐の儀式にジャガイモの皮を使いました。オランダの聖徒たちは私たちの提案を受け入れて、飢えから立ち直るためにジャガイモを栽培し、最初の収穫の一部を憎い敵であったドイツの人々に送ったのです。その翌年には、収穫したすべてのジャガイモを送りました。彼らの示した信仰も忘れることができません。教会歴史をひもといてみても、これほど愛と憐れみに満ちたキリストのような行為はめったに見られないでしょう。

私たちはしばしば、現在の快適で安らかな生活に浸り切ってしまう、戦争や経済恐慌、飢饉、地震などによる破壊が自分の身に降りかかることなどありはしないと勝手に考えてしまいます。しかし、そう思い込んでいる人は、主から与えられた啓示を知らない人か、信じていない人です。災害は起こらない、聖徒は義のゆえに何らかの方法で災害から守られる、などとひとりよが

りな考えを持つ人々は、欺かれているのであって、いつの日かそのような妄想を抱いていたことを後悔するでしょう。

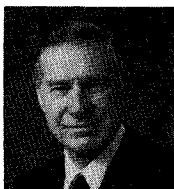
主は聖徒たちに、大いなる艱難の日について警告を与え、主の僕を通して、その困難な時代に備える方法を示されました。私たちは主の勧告をもう実践しているでしょう。

私は心から証を述べたいと思います。ヒーバー・J・グラント大管長は、主から靈感を受けて、教会福祉プログラムを設立しました。そして、大管長会はみたまの導きを受けて、1936年にこのプログラムを初めて公表し、教会福祉の最も重要な目的は「人々が自らを助けることができるように援助する」ことにあると宣言しました。

(*Conference Report* 「大会報告」1936年10月, p. 3) この靈感あふれる勧告により、1936年から現在に至るまで、聖徒たちは1年分の食糧を貯蔵してきました。スペンサー・W・キンボール大管長は、菜園を作り果樹を植えるように根気よく忠告してこられました。彼もまた主の靈感を受けているのです。

兄弟姉妹の皆さん、この勧告に従って下さい。そうすれば、皆さんは祝福を受けてこの地で最も祝福された民になるでしょう。皆さんは、本当に善良な人々です。私はよく知っています。しかし、私たちはもう一歩前進する必要があります。家庭における生産と貯蔵を行なって自分自身の食糧だけでなく、他の人々の分も備えるのです。

神の祝福があって、私たちの前途に横たわる最も過酷な日々にも備えることができますように、イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。



十二使徒定員会会員 ジェームズ・E・ファウスト

「これらの者を わが統治者となさん」

現在と将来の教会指導者に与える原則と提案

私は今宵、心からへりくだって神権者の皆さんにお話したいと思います。この話を教会の指導者、特に将来の指導者であるアロン神権の若い男性の方々に述べたいと思います。皆さん方若い男性の多くは、皆さんが考えている以上に早く、指導者の責任に召されるでしょう。少なくとも私自身、執事定員会会長に召されて以来、齢を重ねてから召しを受けたという印象は残っていません。この教会が世界中で急速に発展していることからしても、指導者の養成は私たちの最大のチャレンジのひとつです。

約1年前、私はある長老定員会の集会に出席していました。会長会の皆さんは立派で、有能な若者たちでした。ところが定員会の責任を割り当て、仕事を進めてゆく段になって、会長会は、その会に出席している人の中から志願者を募るという形を取りました。割り当てとして与えられたものは何ひとつありませんでした。

私たちが忘れてならない大切な原則は、

主のみ業は割り当てを通して進められるということです。指導者は割り当てを受け、割り当てを与えます。これは委任の原則の中で欠くことのできない大切なところ中です。私は何事も自分から積極的に行なおうとする人を高く評価しています。しかし、その場に出席している人だけで仕事をしたとしたら、主が望んでおられるような、完全な仕事を行なうことはできません。もし主が創造の段階で、仕事の遂行を志願者のみに任せられたとしたら、地球はどうなっていたらどうかと私は考えることがあります。

割り当てを果たすことが神の王国を築くことであり、個人の進歩の機会であるだけでなく特権と名誉を与えるものだとすれば、割り当てやチャレンジは定員会の全会員に与えるべきものです。そのような場合、正しい知恵と分別を用いて、割り当てが最も必要だと思われる不活発会員や時折顔を見せる程度の会員にも参画してもらうことです。割り当てはいつも、最大限の愛と敬意

と思いやりをもって与えなければなりません。また割り当てを与えるにあたっては、受ける人に対して尊敬と感謝の気持ちで接することが大切です。

教会幹部は大管長会や十二使徒評議員会会長から正式の割り当てを受けます。大抵、そのような割り当ては書面で来ますが、直接口頭で言われることもあります。そうした場合、「どうぞ」とか「御都合がよければ」とか、あるいは「恐れいりますが、これこれの集会に出席していただけないでしょうか」という言葉が使われます。割り当てが命令や要求として強要されることはありません。

第二次世界大戦の時に初めてエジプトを訪れて以来、私は、古代の遺跡に深い関心を抱いてきました。立ったまま残っている円柱もあれば、崩れ落ちてしまっている円柱もあります。なぜそうなるのかとよく観察して見ると、面白いことに気が付きます。立っている円柱のほとんどがその頭に重いものを乗せているのです。何か指導の原則と通じるものがあるような気がします。神権の務めを忠実に果たしている人はほとんど責任の重荷を担っている人です。また積極的に参加している人はそれに全力を投入している人です。したがって定員会指導者として立派にその務めを果たすには、定員会会員がだれでも、状況に応じて何らかの召しを果たす機会を全員に与える必要があります。

救い主は自ら指導の原則に関して包括的で簡潔な方法を示して下さいました。「イエスは彼らに言われた、『わたしについてきなさい。』（マタイ4：19）指導者は自ら喜んで行なおうとしないことを他人に要求してはなりません。救い主の模範に従うことが

最も安全な道であり、教会の大管長である予言者に耳を傾け、その指示に従うことが、私たちの身を守ることになるのです。

数年前、アルゼンチンの北部にあるロザリオ・アルゼンチン伝道部を訪れたことがあります。車を走らせていると、たくさんの牛の群れに出くわしました。牛の群れはゆっくりと静かに前進していました。番犬はどこにも見当たりません。群れの先頭には馬に乗った3人のカウボーイがそれぞれ20メートル位ずつ離れて進んでいます。3人のカウボーイはどっしりと馬にまたがり、群れが彼らに従っていることを信じ切っているようでした。また群れの最後尾にもひとりのカウボーイがいました。彼もまた居眠りでもしているかのように馬の鞍に深々と身を沈めているのです。牛の群れはゆっくりと静かに進んでいました。完全に従っているのです。この光景を見ていて、私は、指導者の役割とはその4分の3が道を示すことであり、4分の1がフォローアップであると感じました。

指導者は人を導く時、大言壮語したり大声を出したりする必要はないのです。主の教えと導きの業において人を導く召しを受けた者は、親分としてでもなければ、独裁者として召されたのでもありません。彼らは良い羊飼として召されたのです。人を絶えず訓練し、彼らがその地位に着いて師よりもすぐれた指導者になれるよう助けるのです。偉大な指導者とは、自分が導くように召された人々に期待し、靈感を与え、その心を燃え立たせる人です。

指導者は何かを起こさせ、人々の生活に何らかの影響をもたらす人です。そこには何らかの動きと変化が伴わなければなりません。そして自分の下で働く人々が失敗し

ないように見守るのです。しかもそれを主の方法で行なわなければなりません。すなわち全能者の助けを借りて人々の生活を変える主の器にならなければなりません。また自分が今どこにいて、目的地はどこか、またどのようにしてそこにたどり着くかその方法を知っておく必要があります。

指導者は良き聴き手でなければなりません。人の意見を喜んで聴き、自分の管理下にいる人に対して心からの関心と愛を示す必要があります。いかなる神権指導者も、教義と聖約 121 章に記されている指導者の普遍の原則を堅く心に留めることなくして効果的な働きをなすことはできません。

「如何なる権力も勢力も、神権によりて維持する能わず、また維持すべきものにあらざ、ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる。

また、親切と浄き知識すなわち偽善にあらず奸智にあらずしてその人を甚だ大いならしむるものによる。

すなわち、聖霊に感動しては機に臨みて激しく人を責む。然る後、また彼の汝を敵視せざらんために責めたるその人に一層の愛を示す。」(教義と聖約 121 : 41—43)

私の経験では、聖霊が激しく人を責める場合は非常にまれだと思います。人を責める場合でも叱責するのはその人のためであるということを諭すようなやさしさがなければなりません。

ジョセフ・F・スミス大管長は次のように述べています。

「真の指導者の最も高度な特質のひとつに勇気があげられる。……教会で指導者が勇気を求められなかった時は一度もなかった。それは物理的な危険に直面できるという意味で勇敢だけでなく、明確で高潔

な確信を堅固に持ち、その確信に真実であるという意味で勇敢なことである。」(「福音の教義」p. 151)

神権指導者は主に対する信仰を抱き、謙遜な態度で神の助けを求め、問題を解決していかなければなりません。苦しみ、悩むことがあるかもしれませんが、報いは必ず与えられます。その答えはイノスのように与えられるかもしれませんが。「主の御声が私の心に聞えて仰せになった。」(イノス 1 : 10) また、その答えが教義と聖約 9 章にあるように、心の内を燃やす思いとなって返ってくるかもしれません。

聖霊の力によって神からの確信を得た後、謙遜な指導者は、そうすることが正しい方法であり、それが主御自身の行なおうとしていることであるとの絶対的な確信を心と思いの中に持ち、真直ぐな道を歩み続けます。

私は、キンボール大管長の謙遜さにも心被打れます。数年前、キンボール大管長は偉大なのは教会の責任に召されている人ではなくて、召しそのものであることを強調して次のような話をしました。

「大分前のことですが、ペンシルベニア州のポコノ山脈にあるホテルで開かれた地方理事の集会で、国際ロータリークラブの会長が述べた事柄から、私は大切な教訓を学びました。

『紳士諸君、今年は皆さんにとって素晴らしい一年でありました。皆さんは人々から尊敬と祝福と賞賛の言葉をかけられ、たくさんの贈物を受けてきました。もし皆さんの中にこれを自分の力のせいだという誤った考えを持つ人がいるならば、その指導者は来年もう一度このクラブに戻ってきた時には間違いなく他の指導者に取って替わられていることでしょう。』

この言葉は、私が神聖な召しを受けた時も私を非常に謙遜にしてくれました。私は、自分が教会の諸事を行ない。自分に誉れを帰すような思いが生じた時はいつでも、その栄光は私にはなく、私が受けている職に帰するものであると言い聞かせるようにしています。私は単なる象徴にすぎないのです。」（「大会報告」1958年10月、p.57）

教会の指導者として召された人は大抵、経験や能力の不足、乏しい学問や教育の故に自分はふさわしくないと感じるようです。モーセについて記述されている事柄の中に、次のような描写があります。「モーセはその人となり柔和なこと、地上のすべての人にまさっていた。」（民数12：3）

数年前、フォートワース・テキサスステーク部を管理しているジョン・ケリーステーク部長がフェリックス・ベラスケス兄弟をスペイン語支部の支部長に召した時の話です。確かこの青年の仕事は鉄道の車両検査官だったと思います。ケリーステーク部長がこの青年を支部長に召した時、彼はこう答えました。「ステーク部長、私はスベ

イン語支部の支部長にはなれません。スペイン語を読むことができないからです。」そこでケリーステーク部長は、彼が召しを受け入れ、その召しを全力を尽くして遂行するために熱心に働くならば、主と人々から守られ、祝福を受けると約束しました。この謙遜な青年は主の助けと熱心な努力によって、スペイン語が読めるようになりました。彼は立派な支部長になり、その後何年間も働き続けました。彼は現在ステーク部の高等評議員として働いています。主はいろいろな方法でその僕に祝福を与えて下さるのです。

兄弟の皆さん、私たちは神から召された神権者として知っておくべき基本的な事柄を研究し、学び理解することができます。偉大な真理を学び、知りたいと求めてくる人々に知恵と理解力をもって教えることもできます。また、自分よりもすぐれた才能を持っている人の力に頼ることもできます。神権定員会は、定員会会員が強い定員会を造るためにその才能を出し合う機会を与えるところです。

ここで神権を通して行なわれる教会政体の真髓について触れてみたいと思います。スティープン・L・リチャーズ副管長は次のように述べています。

「私はこう考えています。教会政体の真髓は評議会を通して運営される政体であるということです。……神の王国を管理するために評議会を造られたことに英知、すなわち神の英知を一日として見ない日はありません。

一見違った見解や異なる背景を持っている人々が、共通の目的のもとに集まり、その目的を達成するために互いに協議し合うことを通して、人々の中に一致が生まれる



のです。「大会報告」1953年10月、p. 86)

指導者として協議し合うことは会長会や監督会の機能を高める鍵です。しかし意志決定における一致が難しい場合、あるいは一致がない場合にはどうしたらよいでしょうか。ジョセフ・F・スミス大管長は次のような助言を与えています。

「監督と副監督が完全に一致しなかったり、会長と副会長の間に感情面や方針の上での相違があったりする時、彼らは共に主の前に行き、へりくだって、主から啓示を受け、等しく真理を悟り、人々の前にひとつにならなければならない。」(「福音の教義」p.152)

この教会を導く人は個人として義の模範を示さなければなりません。絶えず聖きみたまの導きを求める必要があります。また生活や家庭を整え、支払いは正直に、そして迅速に行なう必要があります。あらゆる行動において模範的でなければなりません。誉れと高潔の人でなければなりません。私たちがいつも聖きみたまの導きを求めるならば、主は必ずそれに答えて下さいます。

私が南アメリカの地域代表役員として働いていた頃、ウルグアイのモンテビデオで忘れることのできない経験をしたことがあります。当時ブラジルに住んでいた私はお金の両替をしなければなりません。そこでカルロス・プラット兄弟が私をモンテビデオの繁華街にある両替所に案内しました。プラット兄弟は私を所員のひとりに紹介しました。その所員は1千ドルほど両替してもよいと言ってくれました。私は現金で1千ドルも持っていませんでしたが、ただソルトレーク・シティーのある銀行が発行した小切手を持っていました。私はまだ一度もこの両替所を利用したことがあり

ません。この両替所の人々も私を見たこともなければ、私と取引をしてみたいと思ったことも当然ありません。私がソルトレークの銀行に1千ドル預金していたとしてもそれを確かめる方法もありませんでした。しかし、この両替所は私の小切手をちゅうちよすることなく引き取ってくれました。それは単に、私がモルモンであり、以前モルモンの人と取引をしたことがあったという理由だけでした。私は率直に彼らの信頼に感謝し、喜びを伝えました。

会長の義務は、「統轄しこれと共に会議を開きて誓約に従ってこれを教」(教義と聖約107:89)えることです。誓約と言っても多くの誓約がありますが、教義と聖約84章に記されている『メルケゼデク神権の誓約と誓約』は特に注目に値するものです。その本質は神権者と主との契約であり、もしあなたが神権の律法を守って生活するならば主が与えることのできるすべての祝福を与え、主と同じようになることができるということです。(教義と聖約84:33-39参照)

救い主はペテロに指導者としての訓練をしておられた時にこう言われました。「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ22:32)

救い主が、「力づけてやりなさい」という言葉を使われたことは非常に興味あることです。人を力づけるには、意志の疎通を十分に図ることのできる状態になければなりません。しばしば問題が発生するのは、計画が間違っているからではなく、意志の疎通がよくないからです。

昨年、私は中央アメリカの新しいステークス部で祝福師を召したことがあります。私は、この謙遜な神権者の偉大な信仰と義し

い生活に深い感銘を受けました。彼が召しを受けた時、たまたま奥さんは神殿訪問で国外に出ていました。私は、奥さんが出席できないということで、この清い人に偉大な召しを与える場に何か特別なものが欠けているような感じを受けました。

私は教会で召しを与える人には、御主人や奥さんにも同席してもらうよう強く勧めています。さらに家長は家族のひとりが召される前に適切な相談を受けるべきであると考えています。

神権指導者には神権個人面接という大切な機会が与えられています。指導者は個人的な交わりや面接を通して、具体的に次のような事柄を達成することができます。

1. 靈感を与え、動機づける
2. 委任し、そして信頼する
3. 責任を引き受け、フォローアップをする
4. 模範と原則によって教える
5. 惜しみなく感謝の気持ちを述べる

指導者が時々手綱を締め過ぎ、それぞれの分野で働くように召された人々の天与の才能、賜までも拘束してしまうことがあります。

指導者は最大限の効率を図り、力を発揮しなければなりません、必ずしもグループ全体の信頼、技術、才能を結集して調和のとれた交響曲を演奏する必要はないのです。時には、大声で独唱することが必要なこともあります。リー大管長はかつて、「この故に、今や神権者皆各々その義務を覚え。また己が任命せられたる務めを全く勤勉に勤むべし。」(教義と聖約107:99)という聖句の完全な意味について説明してくれました。私たちは皆、その義務を覚る必要がありますが、他方指導者は共に働く人々が

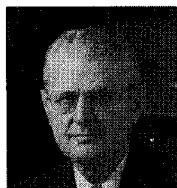
その職と召しの範囲内で十分に効率よく働けるように助けなければなりません。しかも、助ける人は正しい権威の衣を身にまわっていないとだめです。

先日、ハワード・W・ハンター長老は地区代表セミナーでこのテーマについての確かな言葉でこう教えました。「古代ギリシャにジオゲネスという有能な学者がいました。この話は、そのジオゲネスにアレキサンダー大王がどう話しかけたかという話です。アレキサンダー大王はジオゲネスにしつこく迫ってきてこう尋ねました。『何かお助けすることはないでしょうか。』ジオゲネスはひとこと言いました。『どうか光の前に立たないで下さい。』」

私は、現在指導者である人、あるいはやがて指導者に召される人が聖きみたまの導きを受けて熱心に働き、義務を覚え、さらに明確なビジョンを持って目標を立て、正しい道を歩むことができるように祈っています。

私は、この教会がますます発展し、成長していくことを証します。私たちは聖なる神権による導きを受けているからです。また私たちの指導者は個人的な啓示を通して神のみ業を導き、正義の冠を受けるために必要な、偉大な霊の力を生み出す人であると信じています。主はヨシュアに価値ある助言を与えられました。「わたしはあなたに命じたのではない。強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにもあなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない。」(ヨシュア1:9)

皆さんがそのような勇気を持つことができるよう、イエス・キリストのみ名によりへりくだり祈ります。アーメン。



管理監督会第一副監督 H・バーク・ビーターソン

心と霊を清める

私たちの心から卑わいな物語や写真、書物、冗談、言葉、テレビ番組、映画などをすべて締め出すようにしようではないか。

神 権を持つ兄弟の皆さん、今晚ここでお話をする責任を受けましたので、その責任もしくは権利により、私も警告の声を挙げ、戦いに備えるよう勧告したいと思えます。この呼びかけは全世界のすべての神権者に及ぶものであり、そのメッセージは12歳の執事から父親や祖父の年代にある長老や大祭司に至るまで、あらゆる神権者に向けられたものです。

サタンはその破壊の力をますます増強し、あらゆる地に住む少年や成人をえじきにしよとつけねらっています。そして、まったく罪のない多くの人々を悪癖へと誘い込んできました。神権者の軍勢の中で精鋭とも言える人の中にも、そのために進歩を阻まれている人がいます。今晚この場集っている神権者の中にも、苦しみ、悩むまではいかないにしても本来あるべき姿、あるいはありたいと願う姿から離れ、力を発揮していない人がいるのではないかと思います。

話を始めるにあたり、アリゾナ州中東部の情景を心に描いてみましょう。そこには高い山々が連なり、その頂はたいてい雪に覆われています。この山々はホワイト山脈と呼ばれ、アリゾナ州中部の農業用水や生活用水を供給する主要河川の水源がそこにあります。この山脈から流れ出た水は、フェニックス市の家々を潤しています。冬になると山脈は雪化粧をし、数メートルの積雪になることも珍しくありません。そこから流れ出る小川は冷たく澄み切っており、おいしく生命に活力をもたらす水がとうとうと流れています。小川はこのようにまったく汚染されていない清らかな状態で何キロも山を下り、谷を抜け、乾期のために水を貯えておく巨大な貯水池に流れ込みます。

アリゾナ州の東部には、主要金属のひとつである銅を豊富に含んだ鉱床がたくさんあって、長年にわたり採掘が行なわれています。この鉱山の町にも、ホワイト山脈に源をもつ川が流れ込んでいます。川の水は

鉱石を精練する過程で使われます。ところがある場所では、排液をそのまま川に流しているため、川の水は変色し、有毒物質で汚染され、生活用水として使用できない状態になっています。この水も、巨大な貯水池へと流れて行きます。

ダムの上流の山々に夕立が降る季節になると、文字通り天が開かれて、すべての水がどっと投げ出されたような状態になります。こうして大量の水が降り注ぐと、沢山の土壌が削り取られ、小枝や時には大木までも押し流されて、貯水池に運ばれることもあります。

貯水池の容量は想像もつかないほどで、流れ込んできたすべてのものをそこに貯えてしまいます。きらめく雪渓から流れ出る冷たくておいしい透明に澄んだ水、工場から排出される汚染された水、夏の夕立の後に流れる泥を含んだ褐色の水、これらの水がすべて巨大な岩とコンクリートでできたダムによってせきとめられているのです。すでにお話したように、この水の一部は生活用水として百万人以上の家庭に供給されています。

もちろん、ダムによって貯えられた水には不純物が含まれていますから、そのまま飲むわけにはいきません。そこで飲用水にするために濾過装置が必要になります。

最初は大きな格子や目のあらい網で木の葉や枝、動物の死骸などを取り除きます。それから順次、目の細かいフィルターで濾過して有害な不純物を取り除いていきます。そして最後に、細心の注意を払って飲用水として使えるように消毒してから、水道管で町へ送ります。

私たちはこの地上に生まれた時、清く汚れない心を持っていました。まだこの世

で経験する周囲の有毒な不純物に汚染されていなかったからです。幼ない頃の私たちの心は、不義で不徳な思いとはまったく無縁です。サタンの力や悪の影響に力に触れることなく、罪のない状態にいるのです。

私たちの心は、並はずれた容量を持つ貯水池に似ています。善いことも悪いことも、くだらないものやばかげた考えも、義しい思いや経験も、それが何であれ送り込まれてくるものはすべて取り入れることができるのです。私たちは日々の生活の中で、俗悪で汚れた話や写真、書物、冗談、言葉、あるいは私たちが見聴きすべきでないテレビ番組や映画などにさらされることがあります。私たちの心はそれらのものをすべて取り入れてしまいます。つまり、私たちの心は与えられるものが何であれそれを貯える能力を持っているのです。さらに悲しむべきことは、取り入れたものを保存し、時には永遠に貯えてしまうことです。汚れた思いで汚染された心を浄化するには、長い長い過程が必要です。

私たちの心が汚れたものや不潔なもので満ちていると、一般の人々に対してはもちろんのこと、自分自身や家族に対しても霊的な力を与えることができません。このような状態の時は、自分の考え方が明瞭でなく、正しくないことがわかります。日を追うにつれて問題はますます解決困難になり、ほかの場合なら決して行なわないような行動や言動に走ってしまいます。

私たちがしなければならぬことが、ふたつあります。第1に、不健康で不徳な思いや経験が心に流れ込むのを止めることです。悪行は不義な思いから生まれます。そして、不義な思いは俗悪な小説、冗談、写真、会話、そのほかサタンが作り出す無

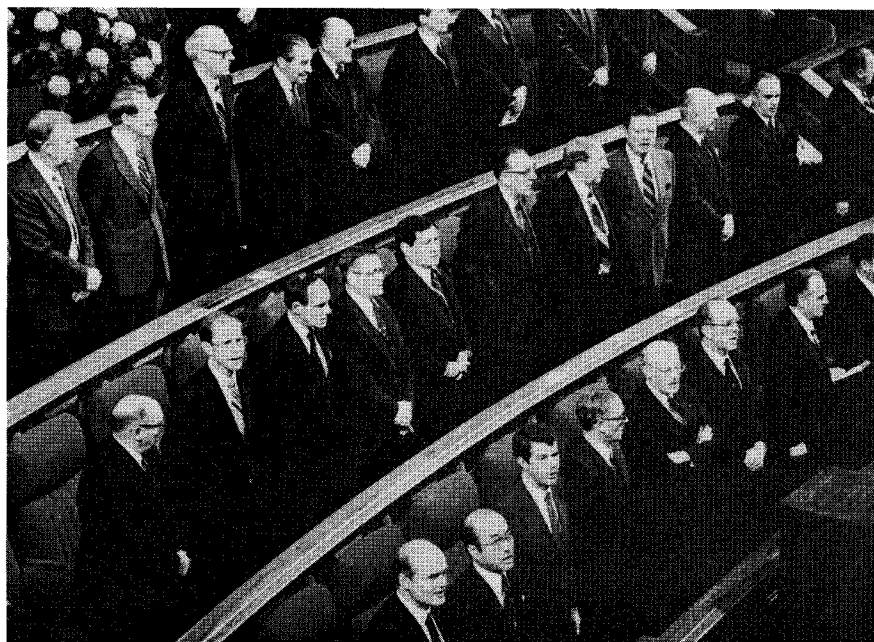
数のものから生まれます。

低俗な表現はいろいろなところで見られます。私たちが住んでいる社会では、不敬な言葉や低俗な表現がすでに意志伝達の手段として受け入れられており、ある人にとってはそれがひとつの生活様式にさえなっています。数年前に仕事の関係である会合に出席しました。そこでは十分な教育を受け、立派な職業に就いている紳士が親しく語り合っていました。しかし、彼らの使っている言葉はまったく不敬きわまりないものばかりでした。

ボイド・K・パッカー兄弟はこのように述べています。「不敬な表現が実際に使われているからと言って、それを容認してよいという理由にはならない。」(New Era「ニュー・エラ」1976年1月号、p.5) 私たちは悪い習慣に侵されています。俗悪な表現は

明らかに無作法な言葉や攻撃的な言葉を口にする時にしか使われないと考えている人は、すでに誤った道へ誘い込まれていると言えます。俗悪な表現は、私たちが思っているほど珍しいものではありません。それどころか四六時中さらされているので、当たり前のこととってしまうのです。低俗にはふたつの種類があるようです。第1は個人の弱点を表わすもの、第2は個人の弱点を助長するものです。

私たちの体やその機能について冗談や作り話をする人、女性に関するいかがわしい言葉や冗談を口にする人、あるいは神聖な事柄に無頓着でいる人、このような人は自分の弱点を暴露しているのです。体の一部分や性的な事柄について露骨な話をする人も同じです。神権者の口から世間で使われている俗語をよく耳にします。最も低俗な



言葉が聞かれることさえあります。そして、「怒りのあまり」という言訳けがしばしば使われています。これは正しくないことです。いかなる時にも、不敬な言葉や俗悪な言葉は使う必要がないのです。

個人の弱点を助長するものとしては、低俗な雑誌、映画、テレビ番組を読んだり見たりすること、汚れた話をしている仲間に入るなどが挙げられます。これらの経験はいずれも私たちの霊性を弱め、悪魔の「放つ火の矢を消す」(エペソ6:16)力を奪ってしまいます。

さて、神権を持つ兄弟の皆さん、私たちは成人映画を観たり、それについて話したりすべきではありません。また、ポルノ雑誌やそれに類する写真、小説なども避けるべきです。低俗な冗談や無作法な言動については繰り返して申しません。時折立ち止まって自分自身に問いかけてみて下さい。「私たちはどちらの軍勢の側に立って戦っているのだろうか。」皆さんはいかがわしい映画を避ける勇気を持っているのでしょうか。それとも、そのような映画を観ながら、「ちょっとだけさ」とか、「だれでもしていることさ。これは観てもいい映画だ」などと自分に言いかせるのでしょうか。皆さんはいかがわしい会話や性的な描写にあふれたテレビ番組を家庭から締め出す勇気を持っているのでしょうか。このような番組がかなりの影響力を持っていて、最強の霊といえども刺し貫いてしまうということをご最近考えたことがあるのでしょうか。兄弟の皆さんくだらない食物で自らを養ってはならないのです。

さて、流れを止めるために——弱めるのではなく止めるために——私たちがしなければならない2番目のことは、心の中にあ

る巨大な貯水池に濾過装置を取り付けて、生気をもたらず考えを再び使用に供する状態にまで浄化することです。この濾過装置の効果は、私たちの生活態度によって変わります。心が清ければ、最も効果的に自分自身を助け、他の人々を助けることができます。確かに、日曜学校や神権会でレッスンを教え、報告書を作成し、集会を司会するなど、割り当てられた多くの責任を計画的に果たすことはできます。しかし、その人の霊が聖きみたまと調和し、聖きみたまの導きのもとで語り、教え、行動するのでなければ、永遠に価値ある事柄を為し遂げることではできないのです。

不純物をすべて取り除いて霊を清める秘訣は、決して難しいものではありません。まず、毎日を朝の祈りで始めて、夜の祈りで終わることです。私を知る限り、これは霊を清める上で最も大切な段階です。祈りの中で率直に、悪い習慣を捨て去る力を求めるとよいでしょう。ただし忘れてならないのは、すべての祈りがすぐに答えられるわけではないということです。しかし私は、この祈りという段階を踏むことによって数々の奇跡が起こるのを見てきました。もし祈りを行なわなければ、望みを失って落胆したまま、みじめな状態で何の望みもなく生活することになります。

次に、濾過装置の通る段階でさらに浄化が進められるということです。すなわち、霊的な清さを増すには、毎日聖典を読むことです。長い時間を取る必要はありませんが、毎日続けるのです。もし私がアロン神権を持つ少年であれば、今晚から聖典を読み始めて、1日も欠かすことなくそれを続けるでしょう。キンボール大管長は今から70年以上も前、皆さんと同じ年代の頃にこ

のような決意をしました。

第3に、人のために求められずに何か善いことをして、自分の霊を活気づけることです。小さなことでよいのです。毎日行なって下さい。元気にあいさつをする、外出できない家族を短時間訪問する、電話をかける、カードを送るなど簡単なことでよいのです。汚れたくつ下を放りっぱなしにしないで洗たく物のかごの中に入れて母親や妻を喜ばせるのもよいでしょう。聖典によれば、キリストの弟子はまず人に仕える者となるからです。(マタイ20:27参照)

そして最後に、皆さんが守れずにいる戒めをひとつ選び、守れるように心から努力することです。そうすれば皆さんの生活に豊かな祝福がもたらされるでしょう。

さて以上のことが、幸福で豊かな生活を送り、愛に満ちた天父から永遠の報いを受ける秘訣です。

第1に、汚れた思いが流れ込むのを止めて下さい。心の中の巨大な貯水池に選りすぐったよい経験だけを貯えるのです。

第2に、不純物を取り除いて霊を清める効果的な濾過装置を開発して下さい。

そこで兄弟の皆さん、私は次のように訴えたいと思います。戦いに備えなさい。この世の衣を脱いで、正義の武具で身を固めなさい。皆さんが持っている神権の権能を行使して、家庭にあって、ワード部や定員会にあって、地域社会にあって、そして国家にあって、力強い影響力を与える人になりなさい。神権の力は、義の結晶であり、労せずして得られる賜ではありません。

つい先頃神殿の中で集会が開かれた時のことです。ロムニー副管長は証の結びとして、この戦いで自分に与えられた役目をいつまでも忠実に守れるようにと祈られました。

た。救い主は神権者の軍勢の頭であって、私たちが携わっているみ業を導いておられます。今宵この証に付け加えて、私も祈りたいと思います。どうか、私たち一人一人が主から託された事柄に忠実でありますように。なぜなら主がこのように述べておられるからです。「汝ら神の役務に出で立たんとする者は、終りの日に臨みて神の前に咎なくして立たんため、すべからく心をつくし、勢力をつくし、思をつくし、体力をつくして神の役務をなせ。」(教義と聖約4:2)

神権者の皆さん、私は皆さんの友人としてまた兄弟としてお願いしたいと思います。どうぞ、これまで以上に自らを備えて下さい。イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。





七十人第一委員会会員 ロバート・L・バックマン

教会の若い男性へ

「私は伝道に出ます」、「神殿で結婚します」、「教会にいつも活発に集います」、この3つの目標について考えてみよう。

今年の夏に、私は素晴らしい特権に恵まれました。私の義理の息子が孫に神権を授ける時に、その輪に加わったのです。それは祖父である私にとって非常に名誉なことでした。神権を受けた当のロビーでさえ私以上に誇らしい気持ちにはならなかったでしょう。その時以来私は、ロビーの生活にもたらされたこの榮譽に対してロビーにどのような祝福の言葉を言ってあげたらよいかいろいろ考えてきました。父親は主の靈感のもとで祝福を与えましたが、祖父である私は、ロビーがその中の約束にふさわしい生活をするよう何よりも願っています。そこで今晚私はロビーと、この会場をはじめ全世界で私の話を聴いている力強いアロン神権者の軍勢に対して、お話したいと思います。

私は伝道部長として働いていた時、伝道を始めるすべての宣教師と面接するという素晴らしい特権と責任に恵まれました。それはいつも意義深い経験となりましたが、

時には宣教師の育った背景を知り、驚いてしまうこともありました。ある長老は小さな農村で一番の大酒飲みの息子として育てられました。彼が宣教師として召され、伝道本部に入るためにソルトレーク・シティ一行きのバスに乗った時、父親が見送りに来てくれたそうです。いつものように酒を飲んでいたのでした。父親が息子に与えた最後の言葉はこうでした。「息子よ、おまえはろくなものにはならんぞ。」

私はこの宣教師と面接をしながら、彼が幼い頃から何度も何度もその言葉を聞かされてきたことを知りました。ところが、このすぐれた青年は、主を代表する者として主から召されながら、「おまえはろくなものにはならんぞ」という父親の言葉を信じ込んでいたのです。そこで私は、彼を宣教師として成功させることにより、父親の言葉が間違っていることを証明しようと決心しました。まず優秀な宣教師を彼の最初の同僚にして、深い関心と日々の祈りによ

て彼の成長を見守っていくようにしました。確かに彼は大きく成長しました。

伝道部長を解任される日が近づくと、私は共に働いてきた愛する長老たちに最後の別れを告げるために、伝道部内を視察してまわりました。その時、あの宣教師は伝道部内でも非常に重要な責任であるゾーンリーダーになっていました。彼は経験豊かな監督のようにゾーン大会の司会を務めました。彼と他の宣教師との間は深い愛の絆で結ばれているようでした。私の心には、彼の献身的な働きと証の力によって教会に導かれた大勢の改宗者のことが浮かんできました。私は大会の頃合いを見計らって彼のそばに立ち、彼の肩に手を置いて言いました。「皆さんは信じられないでしょうが、この青年は昔ある人から『おまえはろくなものにはならない』と言われていたのです。」彼は私の方を向き、私の目を見つめて言いました。「その言葉が間違っていたことを証明したんですね、伝道部長。」

彼の生涯にこれ程の劇的な変化をもたらしたのは一体何でしょうか。小さな農家に育ったおどおどした少年が、神の人へと変わったのです。彼はいくつかの興味ある発見をしました。その発見により人生のチャレンジに立ち向かい、物事を為し遂げていく備えをすることができたのです。末日聖徒のすべての若人は、現世と来世において自分の可能性を引き出そうとするならば、成長の過程でこの宣教師と同じ発見をしなければなりません。すなわち、自分がまさに神の息子であって、神のようになる能力を備え、神が持つておられる権威と権能、権力のすべてを受け継ぐことができるといふ真理に目覚めるのです。彼はキリストの約束が真実であることを知っていました。

「わが父のもてるすべては彼に与えられるべし。」(教義と聖約84:38) 若人が発見すべき真理、それは自分が神の息子であるということです。

神は皆さんを深く信頼しておられます。皆さんはそれを知って特別な気持ちを感じないでしょうか。神の教会の将来は、皆さんの手に委ねられています。皆さんは指導者となるように神から選ばれ、この時代に地上へ送られるために取っておかれました。皆さんは生活の模範を通して、また福音を分かち合うことによって同胞に感化を及ぼすことができるのです。若人の皆さん、十分にその責任を果たしているでしょうか。

合衆国東部に住んでいるある立派な少年は、自分が通っている高等学校の中で数少ない末日聖徒のひとりでした。その少年が宣教師の召しを受けました。彼は伝道に出る準備をする間に両親から許可をもらい、教会外の友人25名を自宅に招いてお別れのパーティーを開きました。そして、パーティーの席で「幸福の探求」を上映し、教会のために伝道する理由を説明して証を述べました。その場にいた友人全員が一人一人彼を抱きしめ、心からの愛と支持とを伝えたのでした。

宣教師がさらに発見することは、弱点や欠点がありました。若年であるにもかかわらず自分にはまだ使ったことのない驚くべき力、すなわち同胞に仕えて善い影響力を与える力と、主の器となって人々の生活を変え、救いに導く力とを授けられているということです。

私はユースカンファレンスで5人の少年に会いました。その中のひとは、最近不活発になった少年で、彼が教会から離れるのを放っておけない友人から半ば強制的に

誘われて出席していました。彼はその大会でみたまに触れ、友人たちの愛に触れました。そして、4人の活発な少年と共に、福音に従って義しく生活することを誓い合ったのです。現在その少年は、自分のことを心配してくれた友人たちに感謝しながら、宣教師として主のみ業に携わっています。

若い友人の皆さん、私たちが奉仕をしていると、ひとつのおもしろい現象が起こります。それは、私たちに奉仕する力が増し加わると同時にその機会もますます広がっていくということです。そして、幸せで報いの多い生活をする偉大な秘訣を学びます。この幸せは、富や名声や地位では得ること



のできない本当の幸福です。永遠に続く真の幸福は、奉仕によってもたらされるのです。

私の伝道部で働いていた宣教師たちは聖なる神権の崇高な力について何かを学び取っていたようです。宣教師たちは神権の力によって高められ、普段の能力を遙かに超える働きをしました。そのような知識は、主の代理人として人々に仕え、祝福を授けて神権を行使する時にもたらされたものです。

アロン神権者の皆さんは、メルケゼデク神権の誓詞と誓約に伴う偉大にして霊的な賜にあずかる備えをする時に、この聖なる力を身に受けます。なぜなら、皆さんは「天使の導きと恵み」を施す権利を授かっているからです。主は次のように約束しておられます。「そは、われ汝らの前に先立ちて行くべければなり。われは汝らの右に在り、また左に在らん。わが『みたま』は汝らの心の中に在り、またわが天使らは汝らを囲みて懐き支えん。」(教義と聖約84:88) フットボールの競技場でも、教室でも、勉強中も、仕事の時も、遊んでいる時も、あらゆる時に主はこの約束を守って下さいます。

沖縄で聖餐会に出席した時のことですが、私は聖餐の準備とパスを行なうアロン神権者の態度に感心しました。そこで私は話をする番になると、ふたりの執事を招いて一緒に説教壇に立ってもらいました。その中のひとりに私はこう尋ねました。「人生におけるあなたの目標は何ですか。」彼は即座に答えました。「救い主のようになることです。」もうひとりの少年に尋ねました。「あなたにとって、アロン神権を持っていることはどのような意味がありますか。」彼はい

っぱいに背伸びをして説教壇から頭をのぞかせると、誇らし気にこう言いました。「僕の人生で最も名誉なことです。」

皆さんは日本の兄弟たちのように、神聖な奉仕の業に働く聖なる召しと責任を尊んでいるでしょうか。ある執事は、何を行ないますかという質問に答えて言いました。「私は、自分に期待されていることを行ないます。」

愛する若い兄弟の皆さん、神はすべての息子の中から皆さんを選び出して、この末日の偉大なみ業において御自身を補佐する者とされました。神は皆さんを信頼し、皆さんが主のまことの代理人として大いなるチャレンジに伝えてくれると確信しておられます。また、重要な使命を果たせるように皆さんを備え、この世の少年や若い男性とは異なっていることを皆さんが自覚するように求めておられます。必ずしも優れているということではありません。異なっているのです。皆さんはイエス・キリストの福音と神の神権の祝福にあずかっているからです。このように多くのものを受けている皆さんは、福音の光を知らない友人や仲間よりもよりよい生活をし、世にあって世のものとならないように期待されています。皆さんがしっかりと福音の鉄の棒にすがり、神より与えられた召しを尊ぶならば、誘惑やサタンの力に打ち勝つ強さが得られるのです。

神が望んでおられるような忠実な神権者になることを妨げるものは何でしょうか。

神権者の中には、猿を捕まえる罠にはまっている人がいます。アフリカの原住民は、実に巧妙な方法で猿を捕まえます。まずヤシの実の上の部分を持ち落として中味を取り出し、猿の手が丁度入るくらいの大きき

に穴を広げます。それから中にピーナッツを入れて、あとは地面にころがしておきます。人がなくなると、猿はおいしいそうなピーナッツの香りに誘われて、ヤシの実に近づいてきます。そして、中に入っているピーナッツを見つけると、穴に手を突っ込んでピーナッツを握りしめて取り出そうとします。しかし、握ったこぶしは穴の大ききの2倍もありますから手は抜けません。そうしてもがいている猿を南京袋を持って来て捕まえるわけです。猿はひっかいたり、かみついたり、金切り声をあげたりしますが、ピーナッツを離して逃げようとはしないのです。

皆さんはこのように罠にはまっている人を知らないでしょうか。最も大切なことを、ささいなことで台無しにしている人はいないでしょうか。

若い兄弟の皆さん、慎重に考えていただきたいと思います。現代社会の誘惑に満ちた歌、見せかけだけのまがいもの、いわゆる「悪友たち」の向こうみずな行為、このような形の罠に陥らないようにして下さい。さもないと、サタンはこれらの悪だくみを魅力的な包装紙で包んで皆さんの前に置き、空しい結果へと導こうとするでしょう。自分の信じることを堅く守り、信仰に対して忠実に生きる勇気を養って下さい。

最近、西バージニア州で霊的な黒人の少年が教会に入りました。彼は自分の生活にもたらされた新たな真理に胸を躍らせ、高校の友人たちにもイエス・キリストの福音を知ってもらいたいと思いました。しかし、友人たちは福音が厳しすぎると言いました。それに対してこの少年は、私たちが誇りとすべき言葉を返しました。「キリストの真の教会に従うのに、何が厳しいのでしょうか。」

年若い友人の皆さん、私はこの人生において、神の戒めを守ることによって幸福がもたらされることを知りました。アルマは苦勞の末によく「罪惡は決して幸福を生じたことはない」(アルマ41:10)という真理を学びました。彼の言葉を信じて下さい。人生設計をする時は、皆さんが信頼している男性や女性の経験と信仰から必要なことを学び取って下さい。もし皆さんが熱心に真理を求め、その麗わしい原則に従って生きるならば、皆さんの生活は豊かで実りのあるしかも活力あふれるものとなるに違いありません。天父は神の王国を築くために力ある男性を必要としておられますが、



私の見る限り、皆さんは天父が得られた最強のつわものであると思います。

讚美歌にこのような歌詞があります。「シオンのつわものイスラエルの望み」(讚美歌95番)これが皆さんのことを歌った歌であることに気づいておられるでしょうか。キンボール大管長の次の言葉は、そのことを思い起こさせてくれます。「私たちは……特別な使命をおびた高貴な世代を育てているのです。」(Ensign「エンサイン」1976年5月号, p.45)

皆さんが行なうべき特別な使命の中には、国の統治者や立法者、実業家、専門家、教師、小売商、農夫などになることが含まれています。しかし、さらに特別な使命があります。それは、シオンの王国を確立する業に加わって、その建設を助けることです。若人の皆さん、それには多くの人々が人生に備えるために行なう簡単な方法だけでは不十分です。永遠にまでわたる遠大な目標、達成するために勇氣と決意を要する目標、そのような目標を立てなければなりません。

皆さんの中で今から5年後、10年後、25年後の自分の姿を心に描いている人が何人いるでしょうか。自分自身をよくコントロールするために、また人生の犠牲者とならないために、どのような備えをしているでしょうか。自分がどこへ行こうとしているかを理解している少年にとって、前途に立ちふさがるものは何もないのです。

もし私が皆さんと同じアロン神権者であれば、今すぐいくつかの大切な目標を立てるでしょう。

第1に、「伝道に出る」という目標です。私たちはキンボール大管長のもとにこうして集っていますが、大管長はすべての若い男性が伝道に出るべきであると述べておら

れます。皆さんはキンボール大管長を予言者として支持しているでしょうか。もし支持しているならば、皆さんの答えはひとつです。「いつ出ましようか。そのために準備します。」伝道の経験は、皆さんの生涯で最も重要な出来事のひとつになるでしょう。「おまえはろくなものにはならない」と言われたあの宣教師のように。

第2に、「主の宮居で結婚する」という目標です。

これが皆さんの永遠の目標にとっていかに重大なものであるか理解しさえすれば、神殿以外の場所で結婚することなど考えられないでしょう。それに伴ってデートの相手やその方法が決められ、皆さんの道徳観や靈性すべてに影響してきます。

第3に、「神の教会にいつも活発に集う」という目標です。

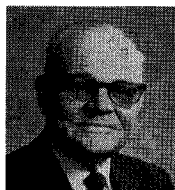
この目標により、地上の何物にも代えられない錨が得られます。なぜなら、幸福の真の意味を知る機会が与えられるからです。どこへ行こうとも兄弟姉妹が皆さんを愛し、支持してくれるので、確かに自分は神の教会の一員であると確信することでしょう。また、イエス・キリストの福音の中で何がしかの兄弟愛を感じて、キリストが救い主であることを知り、証の炎が燃え上がることでしょう。

こうした目標が皆さんにどのような結果をもたらすか考えて下さい。誘惑は必ずやって来ます。しかし上に述べた目標があれば、誘惑に対抗する備えができています。皆さんは前もって次のような選択をしています。「私は伝道に出ます」、「神殿で結婚します」、「教会に活発に集います」、「だから、誘惑には決して負けません！」このように基本となる決意をあらかじめ固めておけば、

後になって細かな一つ一つの選択に心を悩ませる必要はなくなるでしょう。知恵の言葉を守る、道徳的に清い生活をする、集会に出席する、什分の一を納める、福音を研究する、このような選択はすでになされているのですから。皆さんは大切な原則について少しも妥協しないでしょ。そして、自分自身の生活を管理し戒めを守ることによりもたらされる平安を享受するでしょう。

皆さんは神の息子であり、人生において果たすべき特異で重要な役割と、同胞に対する重い責任を負っています。天父は皆さんに知恵と、勇気と、忍耐力と、理解力と、そして兄弟姉妹に対する愛を授けておられます。そして、皆さんが道徳的に清く健全な生活をして、誘惑や悪に立ち向かう強さを持つるように助けておられます。選び抜かれた若人の皆さんの上に天父からの祝福が注がれて、これらのことが理解できるように心から祈っています。

ここは皆さんの世界です。成長し、学び、奉仕する、無限の可能性に包まれた美しい世界です。この世界が皆さんのものであることにお気づきでしょうか。兄弟の皆さん、皆さんが現在行なっている備えを通して、また天父と御子を愛するしるしとしての気高い奉仕の業を通してよりよい世界を築き、力強い模範と教えにより福音の真理の証を宣べていただけないでしょうか。シオンのつわものが「正義と真理の剣をふるい」、神の大いなる目的のために用いられる神の兵士となるように、心から祈っています。これらのことを私たちの救い主イエス・キリストの聖なるみ名を通して申し上げます。アーメン。



第二副管長 マリオン・G・ロムニー

神権に属ける誓詞と誓約

「人が永遠の生命に向かって最大限の進歩を遂げる唯一の道は……メルケゼデク神権を受けてその召しを全力を尽くして遂行することです。」

愛する兄弟の皆さん、今大会のスケジュールによりますと、ここで私が話をすることになっています。私は「神権に属ける誓詞と誓約」（教義と聖約84：39）について2、3お話ししたいと思います。この会場に集っている人々は、すべて神権を持つ兄弟たちだからです。教会設立150年祭を祝うにあたって私の心に浮かんだことは、教会が組織される10カ月前に、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリがペテロ、ヤコブ、ヨハネの3人からメルケゼデク神権を受けていたことです。

昔から神の民はいつも契約の民として知られていました。福音はそれ自体が「新しく且つ永遠の誓約」（教義と聖約132：4）です。イサクとヤコブを通して世に現われたアブラハムの子孫は、誓約の民と呼ばれています。私たちは誓約によって教会に加入します。つまり、バプテスマの水に入る時に、誓約を交わすのです。日の光栄の結婚における新しく且つ永遠の誓約は、日の

光栄の王国で昇栄を得るための門にあたります。そして男性は、誓詞と誓約によってメルケゼデク神権を受けます。

誓約とは、2者あるいはそれ以上の当事者の間で交わされる取決めであり、誓詞とはその取決めにおける約束を破らないという宣誓をすることです。神権の誓約では、主なる御父と神権を受ける人がその当事者となり、各々が然るべき義務を負います。神権を受ける人は、神権の召しを全力を尽くして遂行するという義務を引き受け、御父は誓詞と誓約により、以下の約束を与えて下さいます。すなわち、神権の召しを全力を尽くして遂行する人は、「『みたま』により聖められてその肉体再新さ（れ）……教会員にして王国の民となり神の選民となる」のです。さらに救い主は次のように述べておられます。「これらの者は……わが父の王国を受くるなり。この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし。」（教義と聖約84：33—34, 38）

神権を受けてその召しを全力を尽くして遂行する人々について、さらに次のように記されています。

「御父はこれらの者の手にすべてのものを与えたまい、

また、彼らは御父の無上完全と御父の栄光とを受けたる祭司にして、また王たるなり。

而して……神の生みたまう独子の神権に……等しきいと高き神の祭司なり。

この故に彼らは誌されたる如く神々にして、すなわちまた神の子なり。」(教義と聖約76：55—58)

御父はこれら人知の及ばないほどの祝福を、誓詞と誓約によりメルケゼデク神権を受ける人々に約束し、それを「破ることも変えることも為したもうはずなし」(教義と聖約84：40)と述べておられます。しかし、これまで述べてきた祝福は、神権に聖任されただけでもたらさるものではありません。神権に聖任されることは、祝福を受けるための必要条件ですが、祝福を保証するものではありません。実際に祝福を受けるには、神権を受けた時に課せられた責任と義務を忠実に果たさなければなりません。すなわち、神権の召しを全力を尽くして遂行しなければならないのです。

では、神権の召しを全力を尽くして遂行するとは、どのような意味でしょうか。この誓詞と誓約が啓示された時、主はその場に会している神権者に向かって、「われは正に天の衆群とわが天の使たちに汝らを預けたり」(教義と聖約84：42)と言われました。これは私にとって非常に神聖で心に迫る言葉です。主は神権を持つ人々を天の衆群と天の使たちに預けられたのです。

さらに主は長老たちに向かって次のように述べておられます。

「われ今汝ら〔神権者〕に一つの誠命を与えて汝ら自らを警めしむ。すなわち汝ら永遠の生命なる言に勉めて心を留めよ。

そは、汝ら神の口より出るすべての言によりて生くべければなり。」(教義と聖約84：43—44) この勧告に従うことによって、神権者は「神権に属ける誓詞と誓約」(教義と聖約84：39)の中で天父が述べておられる祝福と報いにあずかることができるのです。

神権を受けた後に誓約を破る人の状態について、主はこう述べておられます。

「何人にまれ一度この誓約を受けて後これを破り、またことごとくこれに違背する者はこの世に於ても未来の世に於ても罪の赦しを受くることなかるべし。」(教義と聖約84：41) 誓約を破る人にそのような罰が科せられることから、誓約に伴う責任を受け入れることにためらいを感じる人がいるかもしれません。このためらいは、罰を定めた聖句に続く部分を読めば解消されるでしょう。すなわち、誓詞と誓約を受けない人は、受けた後にそれを破る人とほとんど変わりがないことが分かるのです。主は次のように述べておられます。「而して汝らが受けたるこの神権に來らざる者はすべて禍なるかな。」(教義と聖約84：42)

これらは「神権に属ける誓詞と誓約」が厳粛に意味するところです。教義と聖約の第84章を開くと、33節以下に主が与えられた啓示の全文が掲載されています。

この啓示から明らかなことは、人が永遠の生命に向かって最大限の進歩を遂げる唯一の道は、そのために私たちはこの世に來ているのですが、メルケゼデク神権を受けてその召しを全力を尽くして遂行することです。それによって「神の賜の中最大なる」永遠の生命を享受できるのであれば、神権

に属ける召しを遂行するために要求される事柄をはっきりと心に留めておくことが非常に大切になります。召しを果たすために、少なくとも次の3つのことを行なう必要があると思います。

1. 福音の知識を得る。
2. 福音の標準に従って生活する。
3. 献身的に奉仕する。

予言者ジョセフ・スミスは福音の知識を得ることの大切さについて、「人は無知にして救われること不可能なり」(教義と聖約131:6)と述べています。真理に対する無知について彼が考えていたことは、それ以前に語った彼自身の言葉から明らかです。

「人は持っている知識の程度にしか救われない。もし知識を得なければ、他の世界で悪魔の力に捕えられるからである。悪魔に従う霊たちは地上の多くの人々よりも多くの知識を持っており、従って多くの力を有している。このため我々を助け、神にか

かわる知識をもたらす啓示が必要なのである。」(History of the Church「教会歴史」4:588)

神にかかわる知識以外に、人を救いに導く知識はありません。教会が組織されて間もない頃、主は兄弟たちにこう言われました。「汝らは恩恵と真理の智慧に於て生長せざるべからず。」(教義と聖約50:40)

また主は1847年1月、ウィンター・クォーターズで、プリガム・ヤング大管長に次のような啓示を与えられました。

「智慧なき者はその眼開けて見ることを得、その耳開けて聞くことを得んために、自らを卑うして神なる主に呼び求めて智慧を得よ。

われわが『みたま』を世に遣して、真にへり下る者悔いる精神ある者に智慧を授け、神を敬わざる者を罪ありとすればなり。」(教義と聖約136:32—33)

この啓示が与えられる14年前に、主は兄



弟たちに次のように勧告されました。

「われまた汝らに一つの誠命を与う。すなわち、汝ら今より後祈りと断食とを続けて行うべし。

またわれ汝らに一つの誠命を与う。すなわち汝ら互いにこの王国の教義を教ゆべし。

汝ら熱心に教えよ、さらばわが恩恵は汝らに伴い、かくして汝らの理解する必要ある理論と原理と、教義と福音の律法と、神の王国に就けるすべての事は更に完全に教えらる。」(教義と聖約88：76—78)

福音を学ぶ最良の方法は、聖典を研究することです。私たちはすべてのメルケゼデク神権者にモルモン経を読むように勧めています、それは福音についてもっと学んでいただくためです。モルモン経を熱心に研究する人は、福音の真理を学びます。モルモン経には「異邦人並びにユダヤ人に与うイエス・キリストの完全なる福音」(教義と聖約20：9)が記されているからです。予言者ジョセフはこの書物に深い感銘を受けて、兄弟たちに次のように語っています。「モルモン経はこの地上における最も正確な書物であり、私たちの宗教のかなめ石であって、人がその教えに従って最も神に近づくことのできる書物である。」(*History of the Church* 「教会歴史」4：461)

しかし、聖典から福音を学ぶだけでは十分ではありません。日々の生活の中で、神権における召しを全力を尽くして遂行しなければならないのです。事実、福音の知識を得ることと、それに従って生活することは、相互に依存し合うものであり、一方を切り離して考えることのできないものです。生活の中で実践することなしに、福音を完全に学ぶことはできません。福音の知識は段階を踏んでもたらされます。福音を少し学

んでは実践し、さらに学んでは実践する、この永遠に続く行程を繰り返すのです。これが福音の完き知識に到達する道です。

愛弟子ヨハネは、イエス御自身もこの方法によって完きを受けられたと記しています。「われヨハネ、彼の最初に完きを受けずして恩恵に恩恵を受けしを見たり。されば、彼は……絶えず恩恵に恩恵を加えられ、ついに完きを受けしなり。」(教義と聖約93：12—13) イエスは私たちが歩むべき道を次のように定めておられます。

「汝らわが誠命を守らば、御父の完きを受け、わが御父に於ける如く、汝らわれにありて栄を得べし。この故に汝らに告ぐ、汝ら恩恵に恩恵を加えらるべし、と。」(教義と聖約93：20) さらに、聖典にはこう記されています。

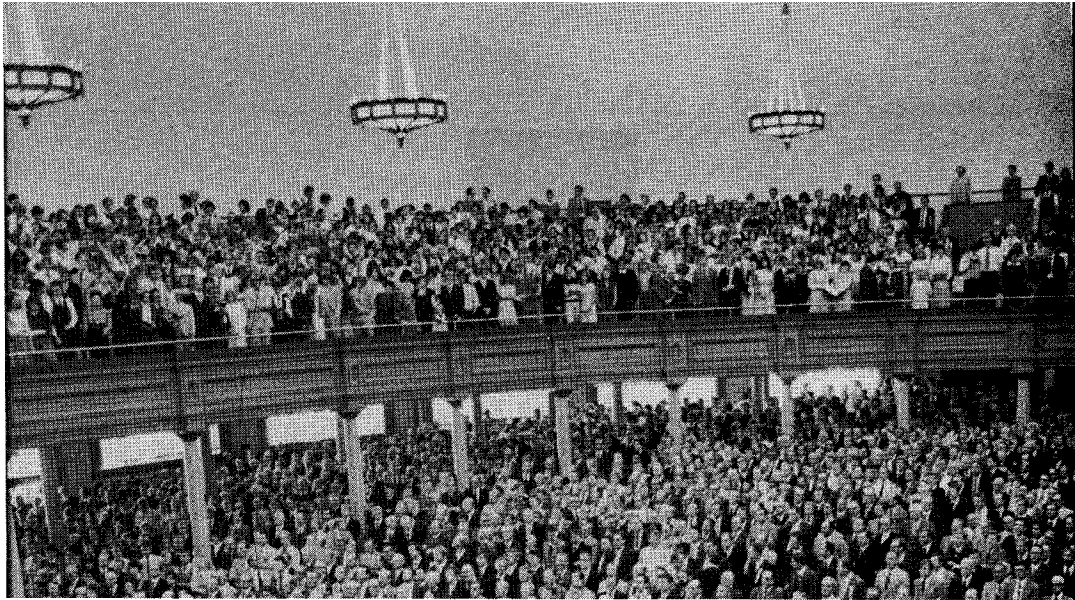
「而して、人もし彼の誠命を守らずんば完きを受くることなし。

彼の誠命を守る人は真理と光とを受け、ついに真理によりて栄光を得て、すべての事物を知る。」(教義と聖約93：27—28) これらの聖句を読んで心が喜びに満たされない人がいるでしょうか。

イエスは、聖典の中に私たちが守るべき戒めが記されていることを指摘し、さらに次のように述べておられます。「汝らもしわれを愛すれば、われに仕えわがすべての誠命を守るべきなり。」(教義と聖約42：29)

「されど、わが誠命を守る者にはわれ王国の奥義を示さん。而してこれは彼の中にて生ける水の井戸となり、生ける水は湧き出でて永遠の生命とならん。」(教義と聖約63：23)

個人の行ないに関する戒めは、その多くが教義と聖約第42章に記されています。予言者ジョセフはこの章を「教会の律法を包含する啓示」と呼んでいます。(教義



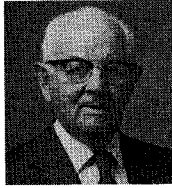
と聖約42, 前文) 神権者はすべてこの啓示に精通し、さらに第59章と第88章の特に117節から126節に記されている指示を詳しく学ぶ必要があります。確かに、与えられた召しを全力を尽くして遂行し「神権に属ける誓約」に約束されている祝福にあずかりたいと心から願う神権者は、個人の行ないについて聖典や現代の予言者を通して与えられるすべての指示に精通していなければなりません。神の武具が何であるかを知らなければ、「悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固め」(エペソ6:11) することはできないのです。

しかし戒めは、個人の行ないに関係するものだけではありません。すべての神権者は人々に奉仕するという責任を与えられています。この奉仕とは、神権のあらゆる祝福とともに回復された福音を地のすべての人々のもとへもたらすことであり、互いに慰め合い、強め合って、神のすべての聖徒たちが完全な生活を送ることができるようにすることです。

この奉仕については、聖典や生ける予言

者の言葉を通して詳しく説明されています。主はその責任を神権者の肩に置かれました。したがって、それを正しく果たすことができるのは、神権の召しを全力を尽くして遂行する神権者だけなのです。すなわち福音に通じ、その標準に従って生活し、主が宣言された精神を持って献身的に、また熱心に奉仕をする神権者です。聖典にはこう記されています。「人は努めて善き業に従い、多くの事をその自由意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げよ。そは人自らの中に自由の意志ありて己れの事を自ら為す者なればなり。」(教義と聖約58:27—28)

このように与えられた召しを全力を尽くして遂行している神権者は、「神権に属ける誓詞と誓約」の中で主が約束しておられる報いにあずかることができるのです。私たち一人一人がこの選ばれた神権者のひとりに数えられるように、心からへりくだりイエス・キリストのみ名を通してお祈りします。アーメン。



大管長 スペンサー・W・キンボール

教会員の必要を満たすために働く

効果的に委任し、教授能力を向上させ、少数民族に手を差し伸べ、情緒的に特別な援助を必要とする人々を助け、なおかつ自分自身の家族を軽んじてはならない。

愛する兄弟の皆さん、総大会の神権部会でこうして皆さんとお会いするたびに、私は大きな喜びに満たされます。私たちはソルトレーク・シティーのテンプルスクエアのタバナクルをはじめ、世界各地に設けられた2,000以上の会場に集っています。これだけの神権者の集まりが、いかに強大で聖なる力を表わしているか考えてみてください。兄弟の皆さん、神の神権を有する私たちに、様々な祝福が与えられていることをうれしく思います。

兄弟の皆さん、話を始めるにあたってまずお伝えしておかなければならないことがあります。アメリカ合衆国の国民の皆さんに申し上げます。選挙ができる年齢に達している人は、来月11月4日水曜日に各地の投票所へ行って、この国の自由と権利を守るために最善の働きのできる最も有能で優れた人に投票して下さい。教会はいかなる候補者に対する支持も表明しませんが、皆さんが人格と、知性と、能力において優れ

た男性や女性に投票するように願っています。皆さんが審判を下すのです。さらに私たちは、教会の建物や組織がいかなる候補者の選挙活動にも利用されないようにお願いいたします。

聖典を読んで研究していくと、救い主は主の群れに属する一人一人の福利と群れ全体の福利を常に考えておられたことが分かります。この悩み多き時代にあって教会員の必要に心を配り、その必要を満たすために働くという原則、私が今晚お話ししたいことはこの原則なのです。

監督と支部長の皆さん、ワード部や支部の愛する会員や家族が必要とすることに、油断なく気を配って下さい。皆さんは私たちの民を養う羊飼いです。副監督や副支部長をはじめ、皆さんの指示のもとで奉仕し働いている人々に、様々なプログラムの管理運営をできる限り委任して下さい。この点を強調していくならば、重大な問題を抱えている教会員を、問題がまだ小さく解決

できる状態の時に、いちはやく見つけることができるでしょう。また、会員の家族の中に見られる小さないきみや問題に気を配って下さい。そうすれば彼らが最も必要とする時に思いやりや勧告や愛を示すことができるでしょう。皆さんは問題を抱えている青少年のために今すぐ時間をさくことにより、彼らを救いへ導くことができます。そのための1時間は、彼らが教会に来なくなってから再活発化をはるかに費やす数百時間よりもはるかに価値があります。

これまで何度もお話してきたように、他の人にできる仕事は委任して、皆さんは今述べたような皆さんにしかできない仕事を行なえるようにして下さい。ホームティーチャーに群れを見守る手助けをしてもらうべきです。ホームティーチャーはたとえ監督や支部長のようにカウンセリングができなくとも、定員会の指導者や監督会の指示のもとに適切で予防効果のある多くの援助を与えることができます。

ステーキ部長、監督、支部長の皆さん、教会における教授能力の向上に特別な関心を払って下さい。救い主は、「わたしの羊を養いなさい」(ヨハネ21:15-17参照)と言われました。私が心配していることは、多くの教会員が集会やクラスに出席しながら、ほとんど何も得られないまま家路についていることです。これは何らかの抑圧を受けている人や、誘惑や危機に頻している人にとって、まことに不幸な事態です。私たちはだれでも、みたまに触れて霊的な糧を得る必要があり、効果的な教授方法はこれを実現する最も重要な手段なのです。私たちは会員が教会に来るように、しばしば強力な働きかけを行ないますが、彼らが教会に来た時に受けるものについては、適切な注意を向けていません。

昨日私は地区代表の方々に、すべての会員が直面しているチャレンジについて話し、彼らの注意を喚起しました。そのチャレンジとは、私たちの周囲に住んでいる文



化の異なる人々や少数民族と親しくなり、彼らに福音を教えることです。この善良な人々に特別な関心を寄せて何らかの働きかけをしなければ、私たちは彼らを失ってしまいます。1977年の4月に、私はレーマン人についてこのようにお話ししました。「ただ単にレーマン人に福音を教えて釈くだけでなく、私たちは彼らの中に教会を設立しなければなりません。」(Regional Representative Seminar「地区代表セミナー」1977年4月1日)この声明はあらゆる文化圏に共通するものです。

過去2、3年にわたり、言語や文化面で特別な問題を抱えている地域では、基礎教会プログラムが実施され、成果を挙げています。このプログラム用の手引きやテキスト、報告書類は、完全な教会プログラムのそれよりかなり簡略化されています。これは実に素晴らしいプログラムで、現在ほとんどの言語で実施することができます。また、必要に見合った経費のかからない小さな建物も設計されています。御夫婦の方々は基礎教会プログラムについて訓練を受け、あらゆる国々のあらゆる民の中に教会を設立するために働くことができます。手引きに従ってこのプログラムを活用している地域では、著しい成果をあげつつあります。

私たちは神権指導者の皆さんがこのプログラムに精通し、主の民に祝福をもたらすために活用されるよう、心からお勧めします。主はこのように述べておられます。「世の人々は今は肉に耐えずして、乳を飲まざるべからざる時なり。」(教義と聖約19:22)

兄弟の皆さん、特にステーキ部長、監督、支部長の皆さん、もうひとつ非常に大切なことがあります。それは、皆さんの囲いの中で悲しんでいる人、孤独な人、肉親を失

った人などに、絶えず心を配ることです。私たちの中には特別な思いやりと心づかいを必要とする人が必ずいます。そのような人々のことを忘れてたり、見過ごしにしたりしてはいけません。「父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞」うことです。(ヤコブ1:27参照)

私たちは礼拝堂を建てる民として一般の人々に知られています。私は、教会員が家族を築く民としてさらに知られるように願っています。兄弟の皆さん、御自分の家族を軽んじてはいけません。新たに集会統合スケジュールが導入されていますので、皆さんが十分に計画すれば、ユニットの管理運営に必要な集会を含めて集会統合スケジュールのすべての集会を行なった上で、毎週日曜日に家族と共に過ごす時間を数時間取ることができます。どうぞ、これを実行に移して、神権を持つ兄弟の皆さんが御自分の家族を軽んじることがないようにして下さい。また、教会の立派なステーキ部長や監督、支部長、定員会会長、その他指導者の皆さんも同じように時間が取れるようにして下さい。

兄弟の皆さん、親愛なる兄弟の皆さん、私は皆さんを愛しています。皆さんが真理のために、主なる神のために示して下さい。信仰と、献身と、愛とに感謝しています。兄弟の皆さん、私は皆さん一人一人を、また全世界の散在する皆さんの民を心より愛しています。主の恵みが皆さんの上であって、この教会本部で皆さんが心から愛されていることを知ることができるよう。また、神の祝福と平安が皆さんと共にありますように、イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。



第二副管長 マリオン・G・ロムニー

悔い改め

「悔い改めは主なるイエス・キリストへの信仰を持ち、『平安』と『安らぎ』の祝福を伴う福音の赦しを心から信じる人にもたらされる。」

主は言っておられます。「当教会の長老……私たちは、聖書と……モルモン経とに誌されたるわが福音の原則を教うべし。」（教義と聖約42：12）そこできょう、私はこの戒めに従って、聖書でもモルモン経でもとりわけ強調されている悔い改めについて少し述べてみたいと思います。

バプテスマと聖霊の賜を授かるための按手札に至る真の悔い改めは、罪の赦しをもたらしますが、このような悔い改めは、主なるイエス・キリストの贖罪を信じない限りあり得ません。

この重大な真実は、モルモン経の中に、はっきりと教えられています。アルマは主の使いの命令に従って、民に叫びました。

「悔い改めよ、天国はすでに近ければなり。」

この後、日ならずして神の御子は……降りたまわん。……

神の御子が降臨したもうは、その御名を信じてすでに悔い改めたる証拠にバプテスマ

マを受くるすべての者を贖い救わんためなり。」（アルマ9：25—27）

アルマは、イエスがすべての人をお救いになるとは言っていない。キリストを信じて悔い改め、バプテスマを受けた人に限られると述べています。

アルマの伝道中の同僚であったアミュレクも、同様のことを証しています。「キリストはその民の罪を贖うために世の人の中へ降り、また世の人の罪も贖いたもう。主なる神がそう仰せになったから、私はそれが確であることを知っている。

神の御子は……、自分の名を信ずる者たちをみな救いたもう。この……いけにえの目的は憐みを与えるのであって、この憐みは正義の要求する罰に勝ち、また悔改めを生ずる信仰を人に与えるためにその道を設けるのである。」（アルマ34：8、15）

このように「憐みは正義の要求を満足して、〔悔い改めた者たちを安全に保護することができるが〕、悔改めを生ずるような信仰

を起さない者たちは、正義の法の要求する裁判を十分に受けるのである。それであるから永遠にして偉大な贖いの計画は、ただ悔改めを生ずるような信仰を起す者にだけ与えられる。」(アルマ34：16)

イエスはニーファイ人の弟子たちに次のように言っておられます。

「そもそも、清からざるものは御父の王国に入ることを得ず。信仰をし、すべての罪を悔い改め、終りまで誠をつくし、以てわが血によりてその衣を洗いし者のほかに御父の安息に入り得る者なし。

さて、世界の隅々に至る者たちよ。……今悔い改め、われに來て……バプテスマを受けよ。これ汝らに与うる命令なり。」(III ニーファイ27：19—20)

私がきょうお話したいのは、イエスを信じる信仰に基づいたこの悔い改め、すなわち「キリストの身代りの贖罪とその復活の力によって、自分たちがよみがえって永遠の生命を得ることを望む」ということについてです。(モロナイ7：41参照) 個人的な問題であれ社会的、世界的な問題であれ、あらゆる人間の問題を解決に導くのは悔い改めです。そして、主なるイエス・キリストが私たちに求めておられるのもこの悔い改めです。

主は近代の弟子のひとりに次のように言われました。

「われ汝に命ず、悔い改めよ。わが口のしもとと、わが怒りと、わが憤りとを受けて汝の痛苦甚しからざらんがために悔い改めよ。すなわちその痛苦の如何に甚しきかを汝知らず、その如何に強烈なるかを汝知らず、また如何に堪え難きかを汝知らざるなり。

見よ、われは神〔贖い主〕なるに、人も

し悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために、すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。

されど、人もし悔い改めずば誠にわれと同じ苦しみを受けざるべからず。

その苦しむるや、われ神、すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両つながらを苦しめ、すなわちこの苦きさかずきより吞まらずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。

然はあれども、父なる神は讀むべきかな。さればわれはこの苦しみをなめ、人の子らの為に準備を為し終りたり。」(教義と聖約19：15—19)

言い換えれば、正義の要求を満足させるために求められた痛苦にイエスが耐えて下さったことによって、人は信仰と悔い改めを通して罪より清められることが可能となったのです。

主は続けてこのように言っておられます。「これを以て、再びわれ汝に命ず、われ全能の力を以て汝を挫かざらんために汝悔い改めよ。なおまた、われ汝に今言いたる懲しめを与えざらんがために汝その罪を告白せよ。」(教義と聖約19：20)

人の罪の中で最たるものは、イエス・キリストを神の御子として受け入れず、また真の人生の道であるキリストの福音を拒むことです。

主はこのように言っておられます。「人何事にも神を怒らせずまたは何事にも神の怒り燃ゆることなし、ただすべての事の中に神の御手あることを告白せず、その誠命に従わざる者に神の怒りあり。」(教義と聖約59：21)

「彼らは主の義を打建てんために主を求めずして、あらゆる者おのが心のままに振舞いおのれらの神の姿を求むれども、その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり。そは古びてついにバビロンにて、すなわちついに亡ぶべき大バビロンにて朽ちん。」(教義と聖約1:16)

悔い改めの本質について、主は「人罪を悔い改めしや否やは、見よ、彼は自らこれを告白しその罪を捨つべければ、その悔い改めたることはこれによりて知るを得べし。」(教義と聖約58:43)と言われました。

ここで、「捨てる」という意味についてさほど曖昧な点はないように思われますが、「告白する」という必要条件については一般にあまり理解されていません。実際、罪を告白するということについて世の中では少なからぬ混乱があり、誤った教えも多いのです。そこで、そうした混乱を解決するために、すでに話されたことですが、改めて幾つかの点を申し上げたいと思います。

私たちは自分の犯した罪をすべて主に告白しなければなりません。自分自身と主のほかだれにも影響を与えないまったく個人的な罪の場合、自分の罪を認めて主に告白すればそれで十分でしょう。

実際、自分の罪を他人に告白したところで良いことはひとつもないのです。ブリガム・ヤング大管長はこのように語っています。「他人に関係のない悪行は秘密にしておきなさい。また、個人的な悪い行ないもできるだけ黙っていなさい。そして、できる限り人目から隠しなさい。」(*Discourses of Brigham Young* 「ブリガム・ヤング説教集」 p.158, ジョン・A・ウィッツオー編)

しかし、ほかの人に影響を及ぼす不品行については、傷つけた相手に告白し、その

人の赦しを請う必要があります。

時々、自分の罪を悔い改めないために教会員としての権利を危うくする人がいます。効力のある完全な悔い改めは、悔い改めた罪人が監督あるいは権能を授けられたその他の教会管理役員に罪を告白することを要求します。だからといって、教会の管理役員にその人の罪を赦す力があるわけではありません。(この権能は主御自身と、主から特にその権能を委任された人々だけが持っている)正当に任命された役員によって運営されている(しかしその権能は役員ではなく教会にある)当教会は、事実を十分に知り、教会の規律と周囲の状況を考慮した上で必要な行動を取るのです。

罪を捨て、正しい告白によって主に對し、傷つけた相手の人に対し、さらに必要とあらばイエス・キリストの教会に対して自らの行ないを明らかにした人は、自信を持って主の赦しを請い、キリストの功德によって新しい命に生きることが出来ます。

主はこのように言っておられます。「およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし。」(教義と聖約58:42)

イエスに対する信仰と悔い改めによって赦しを得た人は、どのような思いを抱くでしょうか。その例をモルモン経から挙げてみたいと思います。

初めはイノス書からです。イノスは次のように書いています。

「さて、私は自分の罪を赦されようとして、一心不乱に神の御前に祈ったことについてあなたたちに話をしよう。

ごらん、私は獣を狩ろうとして森へ行っていたが、私の父が永遠の生命と聖徒の幸福について教えた言葉を度々聞いたのが私の心

に深くしみこんだ。

そこで私は自分の心が飢えるのを覚えて、私の造り主の御前にひざまずき、自分の身と霊のために一心こめて祈りかつ願った。私は本当に一日中神に祈り、夜になってもまだ私の声が天にとどくほど大きな声で祈った。

すると一つの声が聞えて『イノスよ、汝の罪はすでに許されたれば汝は祝福を受くべし』と仰せになった。

私イノスは神が必ず偽を仰せにならないことを知っていたから、私の罪はすでにこれで取り消されたのである。

しかし私が主よこれはどうしてそうなりますかとたずねたところ、

主は『それは汝がこれまでに見しことも聞きしこともなきキリストを信ずるに由る。このキリストは多くの年月を経てはじめて肉体にて現る。されば、汝努めよ。汝は己が信仰によりて無罪となれり』と仰せになった。

私はこの言葉を聞くと、私の兄弟であるニーファイ人の幸福を望む思いが心の中に生じたから、かれらのために全身全霊を傾けて神に祈った。』（イノス2—9）

罪から贖い救われた人の心は必ず自分の仲間を愛し、その幸福を思いやる気持ちでいっぱいになるものです。そして心が平安になるのです。次の例がそのことをよく表わしています。

ベンジャミン王が力強い別れの言葉を述べ終わった時のことです。「さて、ベンジャミン王は主の使から伝えられた言葉を宣べ終って、民の群集を見わたしたところ、ごらん、かれらは主をおそれる心を起して地に伏した。

かれらは、自分たちが肉の欲に支配され

ている有様をかえりみ、自分たちは土の塵よりも劣っていると思って、声をそろえて高く叫んで言った『ああ憐みたまえ。キリストの血による身代りの贖罪の効力を及ぼして、われらが各々その罪を赦されて心を清められるようになったまえ。われらは天地万物を造ってこの後人間に降臨したもう神の御子イエス・キリストを信じ奉る』と。

それから後、かれらはベンジャミン王が聞かせたように降臨したもうはずのイエス・キリストを深く信じたので、もはやその罪の赦しを受けて良心が安らくなったから、主の『みたま』がかれらに下ってその心が喜びに満された。』（モーサヤ4：1—3）

罪の赦しを受けた人の心に生じるこの喜びと良心の安らぎは、アルマが息子のヒラマンに自分の改宗について語った話の中に鮮やかに描写されています。

アルマはこのように語っています。「私は前に、モーサヤの息子たちと一しょに歩きまわって神の教会を亡ぼそうとした。ところが神は、神の聖い使を送って途中で私たちを止めたもうた。

その使は、さながら雷のような声で私たちに物を言ったので、地が私たちの足下でふるえ、私たちは主をおそれる心を生じて皆地に倒れた。

その時、声があって起ると私に命令されたので、私は立ち上ってその使を見た。

すると、使は私を戒めて『汝がたとえ自分で亡びようと思うとも、この後再び神の教会を亡ぼそうとしてはならぬ』と言われた。」

アルマは続けて語ります。「それから私は地に倒れて三日三晩口を開くことができず、手足を動かすこともできなかつた。

この使はなおほかのことを私に言われた

が、私のつれの人々にだけ聞えて私には聞えなかった。それは私が『汝がたとえ自分で亡びようと思うとも、この後再び神の教会を亡ぼそうとしてはならぬ』という言葉聞いたときに、これは自分が亡びるかと思うほど恐れ驚いて地に倒れ、もはや何にも聞えなかったからである。

それから私は自分が犯した一切の罪のために非常に良心のとがめを受け、永遠の責苦を感じた。

私は本当に自分のあらゆる罪と悪事とを思い起して、そのために地獄の苦痛を感じ、また神に逆らってその聖い命令を守らなかったことを認めるようになった。

私は神の子らを多く殺した。殺したと言うよりもむしろかれらを誘って亡ぼしたのである。要するに、私は自分の犯した罪が非常に重かったから、自分の神の前に出なくてはならぬと思うだけで言いようのない恐怖で身も霊も引き裂けるように苦しんだ。

その時私は、自分の神の前に立って自分の行為によって裁判を受けないように、霊も肉体も一しよにみな消えてなくなってしまえばよいと思った。

そしてこのように三日三晩私は永遠の責苦を受ける者の苦痛を感じた。

しかし私がこのように責め苦しめられ、すでに犯した多くの罪を思い起して非常に良心に責められていたとき、神の子であるイエス・キリストと言うお方が、世の人の罪を贖うためにこの世へ来りたもうと言うことを、私の父が前に人民に予言をしたことを思い出した。

そしてこれを思い出したとき、私は心の中で『神の御子イエスよ、永遠の死の鎖にしばられて今苦汁を飲まされている私を憐みたまえ』と歎願をした。

このように心の中で願うと、ごらん、私はもう少しも苦痛を覚え、再び自分の罪を思い出して苦しむこともなかった。

ああ、この時私の感じた喜びと、私が見た驚くべき光とはいかにも大きかった。まことに、私はこの時前に感じた苦痛にひどいほどの喜びに満ちたのである。

わが子よ、お前に言うが、私がその時に感じたほどの劇的な苦痛がこの世にまたとあろうか。またその時に感じたほどの甚しく美しい喜びがこの世にまたとあろうか。」(アルマ36：6—21)

これらの証に加えて、私も、悔い改めは主なるイエス・キリストへの信仰を持ち、「平安」と「安らぎ」の祝福を伴う福音の赦しを心から信じる人にもたらされることを証いたします。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ11：28—30)

私たちが皆悔い改めと終わりまで耐えることによってこの「休み」を得られるよう、イエス・キリストのみ名によりへりくだりお祈りいたします。アーメン。

☆

☆



十二使徒定員会会員 ブルース・R・マッコッキー

回復の主である神

「そして私たちは、主のみ名と権能により出て行き、将来何が起こるかについて、またそのことに関して主が人々に何を望んでおられるかということについて、世界中のすべての人々に伝えるように命じられています。」

主の僕である私たちは、世の人々へのメッセージを託されてこの世に送られてきました。

主は現代の民に対して特別なメッセージを持っておられ、それを私たちに啓示されました。そして私たちは、主のみ名と権能により出て行き、将来何が起こるかについて、またそのことに関して主が人々に何を望んでおられるかということについて、世界中のすべての人々に伝えるように命じられています。

この地上から平和が消え失せています。そこかしこで戦争があり、戦争のうわさを耳にします。(教義と聖約45:26) 疫病や荒廃が地上を覆うのも、遠い将来のことではないでしょう。

私たちは苦悩と困難の中で生活しています。国々はいともたやすく病に陥り、万物が揺れ動いています。そして、人の心は畏れというものを知らず、主の大きい怖るべき日が門口まで来ています。(教義と聖

約45:26; 110:16参照)

私たちは邪悪と不義の中で生活しています。人は総じて肉の欲とみだらな欲とに満ち、また悪心のある者となっています。そして神を忘れ、肉より生ずる情欲にうつつを抜かしているのです。邪悪な、神を神とも思わない人々の間では、犯罪や不道徳、墮胎、同性愛が急速な勢いで生活の中に浸透しつつあります。こうして世の中は、時ならずしてノアの時代と同じように腐敗していくのです。

もしも私たちが行く手に待ち受ける危険から逃れ、主の来臨される日に雄々しく立ち、この世にあっては平安を、来たるべき世にあっては永遠の生命を受け継ぐ者になりたいと望むならば、高き所より下されるメッセージを受け入れ、その教えるところに従わなければなりません。

そのメッセージ、すなわち私たちが世の人々に伝えるメッセージは、回復のメッセージです。すなわち、諸天が開かれ、神の

み声が再び人間の耳に届くようになったことを知らせるメッセージであり、聖なる福音の律法と儀式とに従うことにより平和が得られることを宣言するものなのです。そして、王国の鍵を持ち、地においてつなぎ天において結び固める権能を持つ正当な管理者たちが再び置かれたことを告げる「よきおとずれ」（イザヤ 52：7）なのです。（教義と聖約 27：13 参照）

末日において邪悪な者たちに押し寄せる「荒らす憎むべき者」から逃れようと思う人は、悔い改めて福音に生きなければなりません。（教義と聖約 84：117 参照）この福音は、全人類への平和と救いのメッセージです。そして私たちは、その福音が持つ人の救いのために必要な真理を、世界の津々浦々に宣べ伝えるよう命じられているのです。

そこで私たちは、彼方の諸天の王座に君臨したもう偉大なる神が、この時代に永遠の完き福音を回復したもうたことを宣言します。神は地上の人間に、すべての教義や真理、原則、そしてあらゆる権能、權威、鍵を再び授けられました。これらはすべて、神の子供たちに救いを与え、彼らを天の最高の位に昇栄させるために欠かすことのできないものなのです。

人は、古代の忠実な人々の精神に悟りを与え、心に活力をもたらしたあのよきおとずれを、再び受けるようになりました。主なるエホバは、そのみ声をもって、また導きと恵みを施す天使をみもとから遣わして、さらには聖霊の賜を通して、アダムやエノク、アブラハム、モーセをはじめ、古代のすべての聖徒らに救いを与えたあの計画と機構を、ここに再び新たにされました。

私たちが神から授かっている使命、すな

わち僕として主から受けている戒めは、救いの教義を教え、それが永遠に真実のものであることを証することである。したがって今私たちは、私たちが受けた驚嘆すべき真理を謹んで説き、証するのです。

真の宗教は、真の生ける神を礼拝する人人の中のみ見いだされるものです。偽りの宗教は偽りの神の礼拝から始まるのが常です。神の最大の賜である永遠の生命も、神と神がお遣わし下さったイエス・キリストを知った人にもみ与えられるのです。（教義と聖約 6：13；ヨハネ 17：3 参照）

現代社会においては、あらゆる種類の偽りの神への礼拝が多くの人々にもはやさ



れています。木や石の像に頭を垂れる人も
いれば聖画や聖像に祈りを捧げる人もいま
す。また牛やワニを拝む者もいれば、アダ
ムやアラー、仏陀を神と仰ぐ人もいます。

また神という名を、実体のある存在では
なく、創造されたものでもなく、また人知
を越えたもので、あまねく宇宙を満たして
いると同時に特定な存在場所を持たないも
のだとする人もいます。

挙句の果てには、神は宇宙という大学に
籍を置く学生で、現在新たな真理と今まで
知らなかった耳新しい知識を学ぶために多
忙な生活を送っているという、あきれて物
が言えなくなるような説を支持している人
もいるのです。

何というさげすみでしょうか。全能の主
なる神を刻んだ像や動物、宇宙にただよう
霊、真理を学び続けてはいるが決してあら
ゆる真理を身につけることのできない存在
と同じに扱うとは。(IIテモテ3：7参照)
これは冒瀆とも言うべき行為です。

啓示された宗教の第一の原則は、神がど
のような御方かを知ることです。私たちは
こう教えられています。「これらによりてわ
れらは知る、神天に在すことを。この神は
限りなく且つ永遠にして、とこしえよりと
こしえに至り変ることなき同じ神にして、
天と地とその中にあるすべてのものを仕組
みたまひし者なり。」(教義と聖約20：17)

この偉大なる神、全能の主は肉の幕屋を
持ちたまう御方です。「人間の有する肉体と
同じく触知し得る骨肉の体を有したもう」
とある。(教義と聖約130：22) また神は、
全知全能、遍在の御方であり、あらゆる権
威を有し、すべてのことを知り、神のみた
まの力により万物に力を及ぼされる御方です。

私たちは神が「人を男と女とに創り、こ

れらを己が姿に象りて己が像さながらに創
り」たもうたことを知っており、またそう
証するものです。(教義と聖約20：18)

人間はすべて永遠の父なる神の霊の子供
です。私たちは至上の光栄に到達された方
の子供なのです。そしてこの世の基が築か
れるまで、私たちは栄光の宮で神と共に時
を過ごしていました。

永遠の父なる神は、神の福音と呼ばれる
律法をお定めになりました。これは、私た
ちが進歩して神と似た者となることを可能
にするものです。

私たちは神が地上に人を送られた時に、
人に戒めを授けたもうたことを知っており、
またそう証します。こう記されています。

「而してこれらに、唯一の生ける真の神な
る彼を愛してこれに仕えよ。而も、彼らの
礼拝すべき者はこの唯一の神なり、と誠命
を与えたまえり。」(教義と聖約20：19)

また私たちは、雄々しいミカエルが墮落
したのは人類を生ずるためであり、全能の
神が「その生みたまえるただ一人の御子を
与えたまいし」(教義と聖約20：21)理由は、
このアダムの墮落の故にこの世にもたらさ
れた肉体と霊の死から人間を救うことにあ
ったということを証します。

私たちはまた次のことを証します。キリ
ストは「十字架につけられ死して三日目に
またよみがえり、天に昇りて御父の右に坐
し、御父の御旨に従い、全能の力を以て世
を治めたもう。

そは、信じて彼の聖き名によりてバプテ
スマを受け、信仰を以て終りまで忍ぶ者は
何人もみな救われんためなり。」(教義と聖
約20：23—25)

私たちは、救いがキリストの内にあるこ
とを知っており、そう証します。救いはキ

リストの慈悲と恵みによりもたらされるものであり、キリストは私たちと御父との間の仲保者です。

また私たちは、主イエス・キリストが私たちのために御父にとりなしをして下さる唯一の御方であると証します。墮落した人間は、主の贖いの犠牲により御父と和解できるようになり、また「キリストは死を滅ぼし、福音によっていのちと不死とを明らかに示された」のです。(IIテモテ1:10)

私たちは御父を、御子のみ名と聖霊の力によって礼拝し、世界中のすべての人々に、来て私たちの群れに加わるよう呼びかけたいと思います。



ブルース・R・マッコンキー長老

偽りの神を礼拝しても救いはありません。偽りの宗教にも救いはありません。形式はどうあれ、誤りの中に救いはないのです。

人は、自分だけの力では救いを得ることができません。だれも墓の中からぼろぼろに崩れた肉体を集めて、それに再び生命を与え、不滅の栄光の中に住まわせることはできません。だれも人が永遠の栄光の内に住む至上の天界を創ることはできないのです。

世の始めから時の終わりまで存在した聖像や偶像をすべて合わせても、たったひとりの人間を清め、完き者とすることもできないでしょう。

アダムもアラーも仏陀も、また現実や空想の世界のいかなる人物も、墮落した人間に救いをもたらすことはできないのです。

また不可思議な、創造されない、実体のない霊である無という存在は、かつて人にみたまの賜を与えたことはないし、永遠の光栄の世界に至ることを可能にしてくれたこともありませんでした。これからも同じです。

そして当然のことながら、限られた力しか持たず、永遠の実験場で単に実験をしているだけの学生の神は、少なくとも私にとって無限の信頼を置ける存在ではありません。

神に関する真理、宗教に関する真理、救いに関する真理、これらは啓示によらなければ知ることのできないものです。

現代に生きる人間は、この世の中に平安と安全と救いを見いだすことは決してないでしょう。戦争や疫病、荒廃が洪水のように地を覆うからです。

犯罪と悪はその数を増し、不正は大手を振ってまかり通り、人の愛は冷えます。(マ

タイ24：12) 人間が自ら義の時代を切り開くようなことは望むべくもないのです。

しかし、キリストに立ち返り、キリストの福音を信じ、教会に加入して主の律法を守り、主のみ名により御父を礼拝する人々は、平和と安全と救いを見いだすでしょう。この世で悩みはあっても、キリストにあっては平安を見いだすのです。(ヨハネ16：33 参照)

そこで私たちは宣言します。私たちは主の僕です。そして主は、聖霊の力を通して私たちに御自身を示してこられました。私たちは、自分がだれを礼拝しているのかを知っています。主と主の道について語るのには私たちの栄えある特権です。そして私たちは、律法学者たちのようにはなく、権威ある者のように語るのです。

私たちは心に語りかけてくれる聖霊の啓示により、神が御父であり、イエス・キリストが万物の主であり、また末日聖徒イエス・キリスト教会は地上の神の王国であって、神に関する真理を墮落した世界に宣言する山の上のあかりとして立てられたことを知っています。

聖霊の力によって語る時、私たちの言葉は聖典となり、私たちをこの地上に遣わされた方のみ声となり、み旨となり、みこころとなるのです。

私たちは、全能の神が日の光栄の世界に住みたまう永遠の御父であることを証します。また主イエス・キリストが真実、文字通り天父の御子であることを証します。聖なるメシヤは、世の人々の罪を贖うためにこの地上に降誕され、十字架におかかりになりました。また霊の御方である聖霊は天父と御子のために導きと教えを施し、証をされる御方です。聖霊による啓示と賜と恵

みは、人種や民族を問わず忠実なすべての人に与えられます。

そこで私たちは、命じられた通りにこう語ります。「神を畏れて栄を神に帰せよ。神の審判の時来りたればなり。

また、天と地と海と水の源とを造りたる者を礼拝せよ。(教義と聖約133：38—39)

私たちはこう宣言します。来たりて聖なる装いをもって主を礼拝せよ。来たりて全能の主、生きとし生けるものの王を礼拝せよ。キリストに来てキリストの律法を信じ、律法に従え。なぜならだれも主と主の言葉によらなければ御父のもとに行くことができないからです。来てジョセフ・スミスをはじめとする末日の予言者に対して主の啓示が下されてきたことを喜べ。なぜなら彼らはこの末日におけるキリストの啓示を受ける者、神の証し人だからです。

主なるわれらの神に心を向けよ。すべての罪を悔い改めよ。偽りの教えを捨てよ。偽りの神から逃れよ。真理を求めよ。

人や悪魔の教えに欺かれることがないように。真理に堅く付いて離れず、天が裂け、この世での試しの日にあって自らの召しと選びを確かなものにしたかの古代の人々のように、主を信頼せよ。(IIペテロ1：10参照)

あわれみの父なる神よ、地上の津々浦浦にいるあなたの子供たちを、愛と憐れみをもってみ守りたもうように。彼らに悔い改めを許し、彼らを聖なる道に導きたもうように。そして彼らがこの世にあっては平安を、後の世にあっては永遠の生命を得ることができるよう。主イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。



七十人第一定員会会長 J・トーマス・ファイアンズ

偉大な7つの出来事

「古代においてシナイ山から生じた霊の力、そしてあらゆる時代を通じて蓄積された権能が、今の時代に天からもたらされたのです。」

皆さんと同じように、私もセント・ヘレンズ火山の爆発について聞いています。その大災害については、新聞や雑誌で大きく取り上げられ、テレビやラジオで放送されました。ですから私は、そのことについて、ほとんどすべて間接的に知らされてきました。

3週間前、私はワシントン州のロングビューを訪れました。そこは、比喩的な言い方をすれば、セント・ヘレンズ山の足元にある町です。その火山からは、80キロの長さにわたる川が流れており、そこには、巨大なしゅんせつ機や掘削機が何台か動いていました。川床から岩石を引き上げ、地面に積んでいるのです。積み上げられた岩石は、普通の人の背丈以上ありました。私は、その時初めて爆発のものすごさを目のあたりにしたのです。そして、セント・ヘレンズ山の大爆発の力を少しなりとも理解したのでした。噴火に伴って、火山から6立方キロの量に及ぶ岩石が噴き出したことにな

ります。

しかし私はここで、セント・ヘレンズ山やベスピオ火山、また地震やたつ巻および天災と呼ばれるものよりも、はるかに強大な力を持つものについて述べてみたいと思います。

教会員でない方に、2、3の質問をしたと思います。

多分皆さんは、皆さんのモルモンの友達が何を信じているのか疑問に思ったことがあるのではないのでしょうか。

では、これから、モルモニズムと呼ばれる山に登って、見てみましょう。そして、モルモンがなぜその行なうところを信じているのかがおわかりいただけたらと思います。この山に潜む力によって、皆さんの生活、さらに言えば、永遠の生命が大きく左右されるからです。

皆さんの真剣な観察と心からの望みが、理解に至らしめてくれるよう、心から祈っています。

ここに、皆さんのモルモンが皆さんに話したいと思っている事柄が7つあります。これらは、永遠の流れにおいて重要な意味を持つものです。

第1番目：この偉大な力の現われは、1820年のある美しい春の朝に端を発しています。熱心に真理を求めるひとりの少年が、このために特に聖められた森に入ってひざまずき、山や谷、海、そして天上の星の光や惑星をお造りになった創造主、すなわち天父に謙遜な祈りを捧げたのでした。

その時、まさに天が開け、高貴にして偉大なる霊のひとりであるジョセフ・スミスは、天の御二方と直接言葉を交わしたのです。どうか、皆さんの目と心を開き、この生きた物語を少しでも理解できるように努めて下さい。

「私は自分の真上に太陽にも増して輝やく一つの光の柱を見た。そしてその光の柱は次第に下りてきて、光はついに私の上により注いだ。……

そしてその光が私の上にとどまった時、私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有したもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたものを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまい、他のお一人を指して『こはわが愛子なり、彼に聞け』と仰せられた。』（ジョセフ・スミス 2：16-17）

曖昧さは露と消えました。ジョセフ・スミスは、これら聖なる御二方が実に生きたもうということを目撃したのです。万物の造り主であられる神のその御子が、ジョセフ・スミスに姿を現わされたのでした。

第2番目：この大いなる最初の示現が与えられてから3年の月日が流れました。そして、時は1823年。再び光が投ぜられ、ひ

とりの天使が、この年若い予言者に導きを与えたのです。再び物語に耳を傾けてみましょう。

「かように私が神を呼び求めている間に、私は室内に一種の光が現われるのを見つけました。その光は次第に明るさを増して、ついには室中真昼よりも明るくなった。その途端に一人のお方が空中に立って私の寝台の側に現われた。それは、そのお方の両足が床から離れて居たからである。……

このお方は私の名を呼びたまい『われは神の御前より汝に遣わされし者にしてわが



七十人第一定員会会員のリチャード・G・スコット長老(左)とO・レスリー・ストーン長老

名をモロナイと言い、『神は汝に一つの事を成し遂げさせんとして居りたもう』、……と言いたもうた。……

またこのお方は私に、アメリカ大陸の先住民の記録とその起源とを金版に刻んだ一部の書物が埋められてあって、その中には古代の住民に救い主がお伝えになったままの完全な永遠の福音が載せてある、と告げたもうた。」(同上2:30, 33-34)

第3番目:そして、それから4年が経ちました。「その中にととう、かの金版……を手に入れる期日がやって来た。千八百二十七年の九月廿二日、あの同じ天の使者は次のような責任と共にこれらの品々を私に引き渡した。すなわち、私はこの品々について保管の責任を持たねばならない。」(同上2:59)

こうして、尊いメッセージが刻んである金版はジョセフ・スミスに託されました。そのメッセージは、翻訳の力という神の方法によってあたかも塵の中からささやく声のように世に出されたのです。

では、翻訳を進める時にどのようなみたまの働きがあったのか見てみましょう。オリヴァ・カウドリは、このように記しています。「この胸のこよなき感謝を眼覚めさせたる、天来の靈感が命ずるままに語る声を耳にして座せんとは、こは決して忘れられぬ日々なりき。『モルモン経』と言う歴史すなわち記録を、……彼が翻訳するままに口ずから語るを予は毎日絶え間なく書きつづけたり。」(ジョセフ・スミス, p. 92)

第4番目:それからさらに2年が経過し、ジョセフ・スミスは、天よりの権威を授ける別の使いの訪問を受けました。特別な神権の鍵を握るアロン神権が、地上に回復されたのです。このことは、次のような言葉

で表わされています。

「私たちはなお翻訳の仕事を続けていたが、その翌月、すなわち千八百二十九年五月のある日、金版の翻訳中に言い及ばされたのを知った罪を赦すためのバプテスマに関し、主に祈り且つ尋ねるために私たちは森の中に入って行った。こうして私たちが主に祈り且つ主を呼び求めているうちに、一人の天からの使者が光の雲に包まれて天降り、私たちの頭上に両手を突き、次のように言って私たちに神権を授けたもうた。

『汝ら、われと同じ業に働く僕らよ。救世主の御名によりて、われ汝らにアロンの神権を授く。こは天使の導きと恵み、悔改めの福音、罪を赦すために水む沈むるバプテスマなどの鍵を握る神権にして、……」

この時私たちを訪れて、この神権を私たちに授けたもうた使者はヨハネと名乗り、かの新約聖書の中でバプテスマのヨハネと呼ばれるヨハネと同一人であると言い、自らはメルケゼデク神権の鍵を握るペテロ、ヤコブおよびヨハネの指示によって働く者である。このメルケゼデク神権も時至らば私たちに授けられ……と言いたもうた。」(ジョセフ・スミス2:68-69, 72)

それから程なくして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネがふたりを訪れ、神のみ名において働く権威を持つメルケゼデク神権をふたりに授けました。

ジョセフ・スミスの知人のひとりが、次のような面白い言葉を残しています。

「ジョセフに、アダムがどんな人物かを尋ねてごらんさい。すぐに教えてくれるでしょう。アダムがどんな体格で、どんな顔をしているか、ひとつ残らず話してくれることでしょう。ペテロ、ヤコブ、ヨハネのことにしても同じです。彼は、その3人



の使徒についても語ってくれるはずです。」
(ジョン・テイラー「説教集」18：326)

友人の皆さん、このように、ジョセフ・スミスは彼らと直接交わりを持っていたので、彼らのことをよく知っていたのです。

第5番目：1836年、救い主がジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリにみ姿を現わされました。ふたりはその時のことを、次のような美しい言葉で記しています。

「われらの心より覆い取去られて覚りの眼開かれたり。

われらは、われらに面して教壇の胸欄に立ちたもう主を見たり。而して、主の脚下にはこはくの如き色したる純金の床ありき。

その眼は燃ゆる炎の如く、頭髮白きこと清き雪の如く、その顔は日の輝きにも勝りて光輝き、その声は洪水の激する音の如し。誠にエホバの御声言いたもう。

われは始めなり終りなり。われは生ける者なり殺されたる者なり。父と汝らの間の仲保者なり。」(教義と聖約110：1—4)

これら幾つかの出来事について、目撃者の証言を引用してみたいと思います。

「この心の感情も、またこの場合にわれらを包みし荘厳なる美と栄光も、予は諸君に押しつけんとはせざるべし。されど、雄弁なる時を以てしても世界も人類もともにこの聖なる御方の如くに人の心を惹きつけ、

崇高な念に充ちて真理を言に言い表せる様に成ること能わず、とわれ言えば諸君は予を信じたもうべし。否この世も、かの喜びを与え、かの平和を授け、または聖霊の力によりて述べられしままの一つ一つの金言に含まるる智慧を悟る力なし。……われら一人の天使の御前にありしと言う確信、われらイエスの御声を聞きしと言う確さ、また神の御旨の命じたまひしものなれど、聖き御方より流れ出でしままの汚れなき真理は、われにとりて口にも筆にも尽し難し。」(ジョセフ・スミス、p. 94)

第6番目：聖書の予言者は、何世紀にもわたってイスラエルの集合を予言してきました。モーセは、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリを訪れて、集合の鍵を手渡しました。これについて、どのように書かれているか見てみましょう。

「天再びわれらに開けてモーセわれらの前に現われ、世界の四隅よりするイスラエル人の集合と北の国より十の支族を導き来ることの鍵をわれらに委せり。」(教義と聖約110:11)

第7番目：マラキの予言が成就し、エライジャがこの地を訪れました。この天から送られた真理に耳を傾けてみましょう。

「また別の雄大にして栄光ある示現突如開かれたり。すなわち、死を味わうことなく天に上げられし予言者エライジャわれらの前に立ちて曰く、

見よ、ここに於て正にその時は全く至れるなり。そは嘗てマラキの口によりて言われしことにして、すなわち主の大いなるおそるべき日の来らん前に、彼(エライジャ)遣さるべし。

すなわちエライジャは来りて先祖の心に子らを思わせ、子らの心に先祖を思わせん」

(教義と聖約110:13-15)

エライジャの持つ権能とは、神権の結び固めの権能であり、これによって、この世において結ばれるものは天でも結ばれ、この世において解かれるものは天でも解かれるようになったのです。このようにして、この権能の鍵は再び地上で効力を取り戻し、生者のみならず死者のためにも、あらゆる福音の儀式を執り行なうために使われるようになりました。

山には、人の目を驚かす偉大な力があります。セント・ヘレンズ山もそのひとつです。しかし、その物理的な力はすぐに弱まり、いつ覚めるとも知れない眠りに落ちてしまいます。一方、古代においてシナイ山から生じた霊の力、そしてあらゆる時代を通じて蓄積され、今の時代に天からもたらされた権能は、制限されることなくしかも永遠にわたって私たちに影響を与えるのです。

主は、このように言っておられます。「目として見ざるはなく、耳として聞かざるはなく」(教義と聖約1:2)「わが声にて言われるも、僕らの声にて言われるもみな一つなり。」(教義と聖約1:38)

私は、今まで述べてきた、この天と地をつなぐすべての出来事が確かに起きたことを、厳かな気持ちで、声高く証したいと思えます。また、救い主は、文字通り生きておられます。主の権威権能は、末日聖徒イエス・キリスト教会に授けられています。願わくは、皆さんの上に主の祝福があり、真実を見、真実を聞き、真実を理解することができるよう、また、きょう、それを見つけることができますよう、主イエス・キリストのみ名によってお祈りいたします。アーメン。



十二使徒定員会会員 マービン・J・アシュトン

逆境とあなた

「逆境は、日々の生活において何らかの形で姿を現わします。それをどのように迎え撃つかによって、私たちの人生は大きく変わってくるのです。」

この間、私はふたりの友人が好きなフットボールのチームの話をしているのに興味深く聞いていました。ふたりは、チームの国内順位の高低の決定的な要因は、ゲームの組み合わせにあるという点で一致していました。自分のひいきしているチームが、もっと強いチームと試合をすべきであると言いたかったのです。

フットボールでも人生でも、私たちが戦わなければならない逆境、あるいは立ち向かわなければならない問題や障害や敵、こうしたものは、しばしば私たちの究極的な力や成功を決定づける要素となります。

逆境は、日々の生活において何らかの形で姿を現わします。それをどのように迎え撃つかによって、私たちの人生は大きく変わってくるのです。逆境によって打ちのめされることもあれば、逆に強くなることもあります。最終的な結果は、個人次第で決まるのです。ヘンリー・フィールディングはこのように述べています。「逆境とは信念

を試すものである。これなくしては、人は自分が正直か否かを知ることはできない。」(The New Dictionary of Thoughts, 「新思想辞典」ラルフ・エマーソン・ブラウンス編, p. 6)

私たちは、逆境というものが悩みや苦しみ、貧困、災難、天災などに代表されるものであることを知っていますが、では、どのようにしてそれらを個人の成長と進歩の機会とすることができるでしょうか。これに対するひとつの答えとして、私は皆さんにある出来事をお話したいと思います。これは、私の友人の身に起こったことですが、私の頼みに応じて彼自らそれをつづってくれたので、ここでお読みしたいと思います。私は、彼の経験がひとつの大きな垂訓であると感じています。

「数年前の1月の第3土曜日のことです。その朝、私はセミナーに出席するので胸を躍らせていました。私が在籍していたブリガム・ヤング大学の農業のセミナーでした。

私はその頃、6カ月前にハワイ・ホノルル伝道部から帰ったばかりで、帰還宣教師が突き当たるあらゆるギャップを身にしみて感じていました。家族やガールフレンド、学校などの問題。そして、学校にはほかに25,000人の優秀で意欲に燃えた学生がいるという事実。金持ちもいれば、私のように1セントでも惜しがっている者もいる。このようなことで、物事はなかなか思うように運びませんでした。

その週の初めに、私はある機械工場で、水圧プレスを使う仕事を見つけました。水圧機器の弁を作ります。セミナーを終えた後、私は仕事へと向かいました。宣教師時代の同僚であったルームメイトのキンボール兄弟は、朝早くから仕事に行っており、私に新しい弁の作り方を教えてくれました。20分ほど過ぎた頃でしょうか。一番小さい弁のひとつがプレートの型の中につまってしまう。左手でなんとか取ろうとしましたがだめです。そこで、両手を使って引っ張ろうと体の向きを変えました。その時です、プレスが左手の上に落ちてきて、ものすごい音をたてました。左手の手首の下がつぶされる音でした。それから巨大なプレスがようやく開くまで、永遠とも思われる長い時間が過ぎました。「ひどい」、手を見て、私はとっさにそう思いました。そしてその時、私のよく知っている、その愛し尊んでいる細い声が、このようにささやいたのです。「ジェリー、手を切断しなければならぬかも知れない。」

4時間にわたる手術が行なわれました。私の耳に最初に入ってきた言葉は、回復室で医師が言った言葉でした。

「ジェリー、聞こえるかい。」彼は言いました。

「はい。」

「どうしても手を切断しなければならなかった。」

それから4日間というものは、涙と痛みと友達とカードと、そして家族で埋め尽くされました。私のことを思いやってくれる人々によって、特にキンボール兄弟によって、私はかなり楽になりました。彼は、私の両親や親しい人々にその出来事を知らせ、できる限りのことをしてくれました。彼は、私が頼む前にすべてのことをしてくれました。彼は、その模範と助けによって、私に試練に立ち向かう勇気を与えてくれたのです。

入院生活は苦しく、眠れない夜が多くありました。そんな時、私は、かつてないほど救い主やジョセフ・スミスについて考えました。予言者の生涯で知っている限りのことを、最初から最後まで頭の中でたどってみました。彼は、肉体的、精神的、そして霊的に、試練に試練を重ねた人でした。しかし彼は、それらを見ごとに克服したのです。私は、その苦しい時にあって、この身に振りかかるあらゆる試練を予言者ジョセフ・スミスのように受け入れることを主に約束しました。

もちろん最初の夜は、「なぜ私が」と一晩中思い悩みました。過去に何かまずいことをしたのだろうか、こんな罰を受ける程悪いことをしたのだろうか、と。そして、もはやフットボールもロデオもスキーもできなくなったことを考えました。片手の男を夫にしたいと思う女性がいるだろうか。私は、少しも良い方へ考えようとはせず、自分を卑下するばかりだったので、そんな心配ばかりが積もってしまいました。

母は、週末になると私を学校へ迎えに来

て、車で家に連れて行ってくれました。母が言った言葉で、母の偉大さを改めて感じたのは、「ジェリー、あなたに左手をあげられるものなら、そうしてあげるのに」という言葉でした。

次の日曜日は、断食安息日でした。私は包帯をした短くなった腕で、立ってみんなの心づくしや祈り、お見舞いの言葉に対して感謝を述べました。そして、友達や家族がいることによって困難が軽くなるということを初めて実感しました。

証会が終わると、私の尊敬する友達が特別な祝福を施してくれました。その祝福の中で、多くの疑問が解かれていきました。彼は、その事故が私自身の行ないを戒めるために生じたのではなく、むしろもっと素晴らしい人物になるため、あるいは弱点を強めるための機会であると告げました。また、その試練を通して、私がおもっと他の人人のことや世の中の問題、それに人生について深く理解できるようになるであろうと語りました。今、彼の祝福の言葉や励ましを振り返ってみると、まさに一つ一つが現



実となっているのを感じます。

私を最も恐れさせていたことのひとつは、こんな自分を人々は一体受け入れてくれるだろうかという絶え間ない不安でした。人人は、私を怖がらないだろうか。能力を疑ったりしないだろうか。私のことを確かめもせずに拒絶するのではないだろうか。女の子たちは、変わった姿を見てデートを断わるのではないだろうか。私と一緒にいるのを見られていやがったりしないだろうか。

伝道から帰ってきてから、私は何人かの女の子たちとデートをしました。その中に、2、3回デートしたことのあるジュリーという女の子がいました。手術の翌朝、私が目を覚ますと、そこに、他の友達と一緒に彼女がいました。私は、彼女だけ残してほかの人たちに病室を出てくれるように頼みました。そして、自分の思っていることをすべて打ち明けたのです。私はまず、片手を失ったことを話しました。そして、こんな私と一緒にいるのがいやだったり、人に見られるのが恥ずかしいと感じるようであれば、無理して付き合わなくてもいいと言いました。その時、彼女の目に怒りの色が浮かびました。彼女は、自分をごまかすことなく、率直にこのように言いました。「私がここに来たのは、同情や義務からではないわ。あなたのことが本当に心配だったからよ。」彼女は手を失った私を哀れむのではなく、何とか私を助けたいと思って来てくれたのでした。それから6カ月後、私たちはソルトレーク神殿で結婚しました。

仕事の面接を受け、偏見の目で見られ、断わられる。こんなことが何度も続きました。しかし主は、絶えず私たちを励まし、数え切れない方法で祝福を与えて下さったのです。最初の子供ブラッケンが生まれる

と、私たちは学費を全部子供に取られてしまい、それ以上大学を続けることができなくなりました。そこで、一大決心をしてふたり共会社に勤めることにしました。でも働くことによりまた別の学習の場が与えられたのです。そして、それから2、3年後、私は多くの失敗を乗り越えて人事担当取締役役に昇格することができました。これによって、私の目標が達成されたばかりでなく、祈りが答えられたのでした。

現在、こうして振り返ってみると、私は、逆境というものは何かを築くための土台であると感じます。もちろん、そうした経験は快いものであるとは決して言えません。ひどいものです。しかし私は、その逆境を良い方へ向かう手段とすることができたと思っています。今日、多くの人々が悩み、苦しみながら逆境に直面しているのを目にする時、私は、彼らの気持ちを理解するだけでなく、彼らの助けになることができます。それは、彼らが私を見る時に、私が既にチャレンジを克服したことを理解してくれるからです。」

つい最近も逆境について話し合ったことがあるのですが、重荷を負った母親を持つひとりの若者が、このような質問をしました。「神が全知全能で、何でも御存じだとするならば、なぜ母をいつまでも苦しみの中に閉じこめておかれるのでしょうか。神は、その結果どうなるのかも既に知っておられるはずです。」それに対する私たちの答えはこうでした。「あなたのお母さんが受けている試練は、主がお母さんを試すためのものではありません。お母さん自身が自分で自分を試すためのものなのです。逆境を通して自分の力を知り、経験によって成長することこそ最も重要なのです。」

予言者ジョセフ・スミスが、他の仲間と共に何か月間かミズーリ州リバティーの牢獄に監禁された時、事態は悪化する一方でした。行政官や司法官に宛てた請願も訴えも、彼らを救うことはできませんでした。ジョセフ・スミスは、それを理解する力と助言とを求めて、必死で主に祈りました。そして、遂に次のような答えを受けたのです。

「わが子よ、汝心安かれ。汝の不幸汝の困苦はただこれ束の間なり。

然り而して、もし汝よくこれを耐え忍ばば、神は汝を高きに挙げたまわん。かくして、汝あらゆる敵に勝つことを得ん。」(教義と聖約121：7—8)

ジョセフ・スミスの高潔な人格と優れた能力は、苦しみを乗り越えて得た数々の勝利によってみがかれ、獲得されたものであるということは、何のためらいもなく確信を持って宣言できます。イエス・キリストもまた、あらゆる類の試しの状況の下で苦しみかつ人々に仕え、それによって精神的、肉体的、靈的、社会的なバランスを培われたのです。

『彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び、

そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救の源となり……』(ヘブル5：8—9)

困難は、完全を目指す私たちにとって貴重な道具です。逆境は、必ずしも失敗と結びつくものではありません。いかなる試練においても、自己管理と自己訓練が適確になされていれば、力を得ることができます。備えさえあれば、人生の試練に立ち向かう時に勝利を得ることができるのです。苦しみであれ不幸であれ、どのような状況下に

あっても忠実に歩み続けるならば、私たちはイエス・キリストの弟子になることができます。

C・S・ルイスは、次のような含蓄のある言葉を残しています。「私は非常に苦しみを受けている人々の中に、魂の大いなる美しさを見た。ほとんどの人々が、日を経るにつれて大きく成長していく。落ちていくのではない。そして遂にその苦しみが、最悪条件の中から不屈の精神と従順な心という宝を産み出すのを、私は見た。」

私には、もうひとり素晴らしい友達がいます。彼の日々は、痛み、不安、病といったもので埋め尽くされており、言ってみれば彼は、平穏な時を知らずに過ごしてきた人でした。しかし彼は、暗闇と逆境の力にこぶしを振り上げ、勇敢に戦っているのです。過去のすべての辛い試練はことごとく制覇され、逆に今日の彼を築き上げる大きな助けとなっています。彼も、年老いたカレブのように、このように言うことでしょう。「今もなお、……健やかです。……それで……この山地を、どうか今、わたしにください。」(ヨシヤ14:11-12) そびえ立つ山のような逆境であったとしても、進んで登ろうという意志がありさえすれば、それは、私たちにとってあすを築く備えとなるのです。

主イエス・キリストは、私たちを励まし導くために、御自分から試練と勝利に満ちた生涯を送られました。そしてその試練の間、父なる神が御子を強めて下さいました。私たちも同じです。父なる神は、霊の子供である私たちが試練の中にある時、必ず助けを与えて下さるでしょう。

忠実でありさえすれば、いかなる敵の火の矢からも守られるということは、何と大

いなる祝福でしょうか。日々の価値ある祈りは、いかなる状況の下にあっても忠実であるだけの力を求めるひとつの方法です。

サタンとその軍勢が非常に残酷な方法で人類を当惑させ、落胆させ、失望させ、笑い者にし、そして最後に滅びに追いやるのだとすれば、私たちは、今日の社会においてどのような態度をとるべきでしょうか。争いや衝突を避けるということも考えられますが、それを超越した重要な方法があります。すなわち、威厳を持って生活することです。威厳をもって生活することには、神聖な意味があります。そのようにすれば、争いを仕掛けたり助長したりする人々と競い合ったり戦ったりする必要はありません。また、仕返しをするということにむだな時間を費やすこともありません。欺き、滅ぼし、あざける者は、自らその報酬を刈り取ることになるでしょう。彼らの行ないは、「褒むべきこと」でも「よき聞えあること」でもありません。私たちが、いかなる状態にあっても平安と威厳を身につけて雄々しく前進するのを目にすれば、敵は戦う意欲を失ってしまうに違いありません。今日の社会において私たちが直面する逆境の中で、軽蔑と嘲笑は最も人に打撃を与えるものです。しかし、日々神のみこころを行なうことによって、闘争心や対抗意識の入り込む余地はなくなるのです。

ハリー・エマーソン・フォスディックは、ある著書の中でこのように述べています。「^か牡蠣の最も変わっているところは、これである。すなわち、彼の体の中に侵入者があったとする。彼は、これが大嫌いであるが、それを追い出すことができないと、それを利用して牡蠣にできる最も素晴らしいことをする。つまり真珠を作ってしまうの

だ。今日、生活を妨害するものが私たちの間に入り込んできたとする。それに対する処方せんはたったひとつ、真珠を作ることだ。忍耐と呼ばれる真珠を作らなければならないかもしれない。しかし、いずれにせよ真珠を作るのだ。そして、それには、愛と信仰がいる。」(The Treasure Chest 「宝の箱」より)

逆境に屈服すると、その人はますます弱くなってしまいます。しかし勇気ある人にとっては、逆境は強くなるための手段なのです。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員と世界中の神を畏れる人々は、試練から解放されるようにとは祈らないでしょう。彼らは、降参したりあわてふためいたりもしないはずです。辛い試練を受けとめ、それを克服できるように自らの状態を整える



努力をするのです。

普通、生じた問題や困難に対して簡単に解答が与えられることはありません。一人一人が考え、計画し、実行しなければならないのです。また、必要な助けと、問題を克服し結果が何であれ自己の十字架を負うための勇気を見いだせるように祈らなければなりません。勝利者たちは、日々に目標を設定しています。不可能な目標ではなく、自分の力で達成できるものを選ぶのです。彼らは、神が、恐れる精神ではなく愛と平安な思いを生じる力を与えて下さったことを忘れずにいるのです。

神は、ジェリーのように勇気をもって逆境と戦う人々を愛し支えて下さると思います。多くの場合、彼らは神と特別な関係にあるのではないのでしょうか。「見よ、わたしはあなたを練った。……苦しみの炉をもってあなたを試みた。」(イザヤ48:10)

私たちは一人一人、私たちの周りにおいて日々いつ終わるとも知れない過酷な試練と戦っている人々の模範があることを、神に感謝する必要があります。人間のはかりで測り、人間の目を通して見れば不公平と思われるほど多くの困難を背負っている人々がいます。しかし、彼らは神の助けによって特別な者とされているのです。彼らは倒れないでしょう。また、決して屈しないでしょう。

サタンは、私たちがこの世の試練に降参することを望んでいます。しかし、もし私たちが神に立ち返るならば、神は手を差し伸べて私たちを試練から導き出して下さるでしょう。これらすべての事柄が真実であることを、私たちの贖い主であるイエス・キリストのみ名によって特にここに証申し上げます。アーメン。



十二使徒定員会会員 ゴードン・B・ヒンクレー

汝らには赦すことを求めらる

「しんらつな言葉によって傷ついている人々、執拗に不満の種をくすぶらせることにより自ら傷ついている人々の手当てをしようではありませんか。赦そうという気持ちが得られるように主に願ひ求めて下さい。与えられるのですから。」

はじめに、美しい讃美歌を聞かせて下さった合唱団の皆さんに感謝をしたいと思ひます。そして、この礼拝の讃美歌を心に留めながら私の話を進めていきたいと思ひます。過去6カ月間は、私たちの教会にとって素晴らしい時でした。この春、私たちは教会創立150周年記念の幕を開けました。このように総大会が開催された4月6日、私たちは大陸を横断し、1世紀半の歴史を越えて、教会誕生の地からこのタバナクルに集まった大勢の人々に話をしたのです。その時から私たちは、音楽やダンス、ドラマによって、末日にシオンを築いた勇気ある人々の物語を表現し、また演じてきました。

私たちはそのような一連の記念行事を通じて、過去の思い出を新たにすると共に、今日の教会を築くために大変な努力を払って下さった人々に崇敬の念を抱いてきました。私たちの心は、その聖なる計画を驚くべき方法で成し遂げられた全能の神への感

謝の気持ちで一杯です。私たちはまた、大いなる予言を成就するという大きな役割が自分たちにあることも思い起こさせられました。

これらはすべてヨベルの年の精神で行なわれてきましたが、まだなすべきことはたくさんあります。古代イスラエルでは、50年毎の年をヨベルの年として記念し、祝っていました。そしてその年には、寛大な赦しと重圧からの解放も行なわれていたのでした。

さてこの1980年、教会歴史の150年を終えようとするに当たり、私たちは感謝する民として、私たちを傷つけたかも知れない人々に対し赦しの精神と、愛と思ひやりのある態度をもって接する必要があります。

私たちに必要なのはこの赦しの精神と、愛と思ひやりのある態度です。全世界もこのことを必要としています。赦しの精神と、愛と思ひやりのある態度こそまさにイエス・キリストの福音の真髄だからです。主はそ

の真髄を教え、自らその模範を示されました。主の模範に勝る模範はありません。カルバリの十字架上で激しい苦痛に耐えておられた時でさえ、御自身を過酷な十字架につけた実に卑劣な憎むべき人々に対して、主はこのように言っておられます。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ 23：34)

私たちはだれもそれほど寛大に赦すようには求められていませんが、赦す気持ちと哀れみの心をもって人々に接する義務は、主が定めたもうたものとして存在します。主は啓示の中で次のように言明しておられます。「古えわが弟子たちにして陥入れんとする機をねらい心中互いに相赦すことなき者ありたるが、彼らはこの悪のために苦しみまた甚しき懲しめを蒙りしなり。

この故にわれ汝らに告ぐ、汝ら互いに赦し合うべきなり、そは、人その兄弟の過ちを赦さざれば、その人主の前に罪に値する故にして、そは更に大なる罪なお彼に在ればなり。

主なるわれは、その赦さんと欲する者を赦す。されど汝らにはすべての人を赦すことを求められる。

汝ら心の中に言うべきなり。神をして汝とわれとを審き、また汝の行為によりて汝に報いを与えしめよ、と。」(教義と聖約64：8—11)

私たちは、神から与えられたこの原則ならびに、先にロムニー副管長が詳しく説いて下さったこの原則とは不可分の関係にある悔い改めの原則を適用する必要性が大いにあるのではないのでしょうか。家庭の中で、ささいな誤解が激しい言い争いを生んでしまった時、また隣人同士で小さな意見の相

違が果てしのない苦々しさを抱く結果に至った場合も必要でしょう。商売仲間で仲たがいし、歩み寄ることを拒否している時にも必要です。ほとんどの場合、一緒に腰を下ろして互いに穏やかに話をする気持ちがあれば、事態は万事円満に解決できるものです。そうでなければ、かえって敵意をつのらせ、あれこれと仕返しを考えて日を過ごす結果になります。

教会が組織されたその年、予言者ジョセフ・スミスは彼を傷めつけようとする人々によって何度か捕らえられ、言いがかりをつけられましたが、それに対して主は啓示を通して次のように言われました。「何人たりとも汝を訴うる者あらば、彼はかえって律法によりて咀われん。」(教義と聖約24：17)今の時代にも、執念深く恨みを晴らすようとする人々はいます。試合に勝っても少しも心に和みのない人々がいます。そのような人はお金は得たとしても、一方ではもっと大切なものを失っているのです。

フランスの作家モーパッサンの作品に、オーシュコルンという名の農民を描いた短編小説があります。オーシュコルンは市のたつ日、町にやってくる。広場の方に行こうとしていたら、ふと地面に紐のきれはしが落ちていたのが目に入りました。彼はその紐を拾い上げると、ポケットに入れました。ところが彼のその行為をじっと見ていた人がいました。町の馬具師で、以前あたりは悶着を起こしたことがありました。その日遅くなって、財布が盗まれたことが伝えられました。オーシュコルンは馬具師の訴えによって捕らえられます。町長の前で連行されたオーシュコルンは、自分が拾った紐のきれはしを見せて無実を主張します。しかし、彼は信じてもらえず、ばかに

されてしまいます。

翌日財布は見つかり、オーシュコルンは無罪放免となります。しかし、虚偽の訴えによって侮辱されたことにひどく憤慨した彼は、それからというものの敵意を募らせ、何があっても紐の一件のことは忘れませんでした。赦し忘れる気持ちのなかった彼はほかのことを考えることも話すこともしませんでした。畑仕事も投げ出しました。行く所、会う人ごとに、彼は自分が不当に扱われたことを話しました。明けても暮れてもただもう紐の一件に一心不乱のありさまでした。そして、この一件が頭から離れなかったオーシュコルンは、重い病気にかかり、とうとう死んでしまいます。臨終のうわごとにも、繰り返し、繰り返し言います。「紐きれです、ただの紐きれです。」

人や状況が異なることはあっても、この類の話というのは現代でも度々起こり得る話です。自分を傷つけた人を赦すというのは、だれにとってもそれほど難しいことなのです。だれしも自分に対してなされた悪事については考え込みがちです。そしてこのくよくよ考え込むことが、心をさいなみむしばんでいく病根となります。赦し、忘れるという徳以上に現代において実行を必要とされる徳があるでしょうか。これを弱さのしるしと見なす人もいますが、そうなのでしょうか。非道な仕打ちを受けたことに腹を立て、それをいつまでも根に持って、あれこれ仕返しを考えることに能力を浪費しながら生活することは、強くも賢いことでもないと思います。恨みを抱いていると心の平安がありません。また、もし仕返しができたとしても、その日は少しも楽しくないはずです。

パウロは、人間生活の「無力で貧弱な、も

ろもろの靈力」について述べています（ガラテヤ4：9参照）が、自分に苦痛を与えたであろう人に対して苦々しい思いを抱き、一物あるような身ぶりをしようとする性質以上に無力で貧弱なものがあるのでしょうか。

ジョセフ・F・スミス大管長は、教会員に対する反感が非常に強かった時代に教会を管理しました。スミス大管長は卑劣な非難的となり、ユタにおいてさえ新聞の執筆者から絶えず激しい非難を受けました。スミス大管長は嘲笑されたり、漫画で風刺されたりしたのです。ところで、品位を傷つけようと彼を笑いぐさにした人々に対してスミス大管長はどのように応えているのでしょうか。読んでみましょう。「彼らをひとりになせ、行かせなさい。望む言論の自由を与えなさい。彼らに思うままに話をさせ、自分の運命を書かせなさい。」（福音の教義 p.327）そして、並はずれた寛大な心の持ち主であったスミス大管長は、きわめて積極的のみ業を進め、数々の著しい業績をあげて教会をさらに発展させました。その結果、スミス大管長が亡くなった時、かつてスミス大管長を嘲笑していた人々の多くは大管長を賞賛する言葉を寄せました。

少し前になりますが、私はある夫婦から長々と話を聞きました。その時、私の机をはさんで座ったふたりの間には苦悩が感じられました。かつてはふたりの愛も深く、本物であったに違いありません。しかし、お互いに相手の欠点を口にする癖が高じて、だれにでもあるような間違いでも赦せないようになり、辛抱し合う気持ちがなくなりました。そして互いにあら捜しをし、ついにはかつての愛もなくなって、いわゆる性格の不一致による離婚という破局に至ったのでした。そうなれば寂しさと相手に対する

非難しかありません。もしこのふたりに悔い改めと赦しの気持ちが少しでもあったなら、ふたりは今もお結婚生活を続け、初めの頃豊かな恵みをもたらした夫婦愛を享有していたに違いありません。

もし私の話を聞いている人の中に、今お話しした夫婦のように憎しみという毒のある思いを相手に対して募らせている人がいるならば、私は赦す力を主に請うようとその方々に申し上げたいと思います。このような望みを表わすことが、まさに悔い改めそのものなのです。主に赦しの力を請うことは容易でないかも知れませんが、またその力がすぐに得られるとも限りません。しかし、もしあなたが真剣になって求め、育んでいくならば赦しの力は得られるでしょう。また、たとえあなたの赦した人があなたを苦しめ脅かし続けたとしても、あなたには仲直りをするために自分にできることはしたということがわかるでしょう。そして、ほかの方法では得ることのできない平安な気持ちが心の中に広がって行くのを感じるでしょう。この平安は、主から来る平安です。主はこのように言っておられます。

「もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。

もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。」(マタイ6:14-15)

私は、あらゆる文学作品の中でルカによる福音書15章に出てくる話ほど心打つ素晴らしいものはないと思います。それは、悔い改めた息子とその息子を赦す父親の物語です。父親の忠告を受け入れず、自分を愛してくれる人々もはねつけた上、相続財産を放縦な生活で使い果たしてしまった息

子の話です。彼は身代を食いつぶして、食べ物にも窮する有様でしたがどこにも寄るべはありませんでした。そこで「彼は本心に立ちかえって」(ルカ15:17)、父親のもとにもどってきました。はるか遠くに息子が帰って来るのを認めた父親は、「走り寄り、その首をだいて接吻し」(ルカ15:20)しました。

私は、皆さんにこの物語を読んでいただきたいと思います。父親、母親の方は皆、繰り返しお読みになって下さい。この物語はどの家族にも当てはまるたいへん幅広い意味を持った物語ですが、またそれ以上に全人類にも関係のある大きな意味を持っています。というのも私たちは皆、悔い改めて天の御父の恵みである赦しにあずかり、その後御父の模範に従う必要のある放蕩の息子、娘だからではないでしょうか。

御父の愛子である私たちの贖い主は、赦



しと慈愛をもって私たちに手を差し伸べて下さっていますが、同時に悔い改めを命じてもらえます。高潔な心から生まれる真の赦しの精神は、命じられたその悔い改めの表われです。主が予言者ジョセフ・スミスにお与えになった啓示から引用してみましょう。

「この故に今われ汝に命ず、悔い改めよ。わが口のしもとと、わが怒りと、わが憤りを受けて汝の痛苦甚しからざらんがために悔い改めよ。すなわちその痛苦の如何に甚しきかを汝知らず、その如何に強烈なるかを汝知らず。また如何に堪え難きかを汝知らざるなり。

見よ、われは神なるに、人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために、すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。

されど、人もし悔い改めずば誠にわれと同じ苦しみを受けざるべからず。

その苦しみたるや、われ神、すなわちすべての中最大なる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両つながらを苦しめ、すなわちこの苦きさかずきより吞まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。……

われに就きて学び、わが言を聴き、わが『みたま』の柔和なる道を歩め。さらば、汝われに在りて安きを得ん。」(教義と聖約 19：15-18, 23)

これが主の戒めです。また、主の偉大な模範の祈りに従って「天にいますわれらの父よ、……わたしたちに負債のある者をゆるしましたように。わたしたちの負債をもおゆるしてください」(マタイ 6：9, 12参照)と願う人に与えられた約束です。

南北戦争という悲惨な出来事について臆せず語ったリンカーンの次の言葉ほど美しいものではありません。「だれにも敵意を持たず、すべての人に愛を持って、……傷ついた者の手当てをしよう。」(ジョン・バートレット, *Familiar Quotations* 「古今名言集」 p. 640)

兄弟姉妹の皆さん、この素晴らしい記念の年を終えるに当たって、傷ついた者の手当てをしようではありませんか。しんらつな言葉によって傷ついている人、執拗に不満の種をくすぶらせること、また自分を傷つけた相手に仕返しをすることを考えることにより、自ら傷ついている人が大勢いるのです。私たちはだれしもこの恨みを晴らそうとする心を少しなりとも持っています。しかし幸いにも、もし私たちが外とうのごとく愛の絆、すなわち完全と平和の絆を身にまとうならば(教義と聖約 88：125参照)、だれでもそのような心に打ち勝つ力を得ることができるのです。

「あやまちは人の常、赦すは神のわざ。」(アレキサンダー・ポープ, *An Essay on Criticism* 「批判論」 2：1711) 悪い感情を抱いていると平安はありません。また、古傷の痛みをあれこれ思い出すところに平安はありません。平安は悔い改め、赦すことによって初めて得られるものなのです。これこそキリストから来る平安です。キリストはこのように言っておられます。「平和をつくり出す人たちは、さいわいである。彼らは神の子と呼ばれるであろう。」(マタイ 5：9) イエス・キリストの聖なるみ名によって証致します。アーメン。



十二使徒定員会会員 リグランド・リチャーズ

証

「私の心は天父への感謝の思いと、この業は神の業であるという聖霊による証であふれています」

もし皆さんが何か命よりも大切なものを持っていて、しかもそれを隣人に与えることにより、隣人の生活を豊かなものにするのができ、なおかつ自分の腹はまったく痛まないとしたら、その大切なものを人に与えたいとは思わないでしょうか。私にとって、この教会が神の教会であるという証は、命よりも貴い宝です。そして私はそれを数え切れない程多くの人々に伝えてきました。それによって人々の生活はさらに豊かなものとなったのです。

私はこれまで教会の総大会で98回、この説教壇から証を宣べる特権を与えられてきました。また私は自分の証を載せたある本を書きましたが、それは今も全世界で用いられています。私はその証をまだ若い時に聖霊を通して得ました。その聖霊はそれを授ける権能を持つ人が私に施してくれた按手札を通して与えられたものです。そして証はまだ子供だった私に大きな感動を与え、以来私の全生涯を導く星となってきました。

また私は、ふさわしい年齢になって伝道に出る日が待ち遠しくて仕方がありませんでした。

私が最初の伝道に出たのは1905年のことです。私はいとこと一緒にリバプールまで行き、そこから彼はノルウェーに、私はオランダへと送り込まれました。伝道地に入ってから数カ月経った頃、そのいとこから私あてに手紙が留きました。「この間ひとりの人に会いました。彼は僕なんか想像もできないほど宗教についてよく知っている。それでその人に言ってしまったんだ。もしあなたが私の持っているものよりも、何か優れたものを持っているのであれば、あなたの教会に入りましょうって。」というのがその文面でした。

そこで私も彼に返事を出し、こう書いてやりました。「君がその人に言ったことは至極もっともだと思うよ。もしその人が、君が持っている以上に優れたものを持つてるとしたら、君はそっちの教会に入っても当

然だと思う。」それから、けさファイアーズ兄弟が私たちに話してくれたような事柄について少し書き、次のように続けました。

「時満ちたる神権時代の幕を開け、神会を構成する栄光に包まれた神々の真の属性を明らかにするために、幾世紀もの霊の暗黒を破り、光の柱の中に天父と御子が姿を現わされたこと、これに勝るものをその人は果たして持っているのだろうか。

モルモン経翻訳の元となった版を携えてモロナイが訪れたこと、またアロン神権という罪の赦しを受けるために水に沈められるバプテスマを行なう権威と権能を携えたバプテスマのヨハネの訪れ、さらに教会と神の王国を組織し、人の子の来臨のために道を備え、按手札を通して聖霊を授けるための権能である聖なるメルケゼデク神権と使徒職を携えて来た主イエス・キリストの使徒、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの訪れ、これらに勝るものを持っているだろうか。末日の集合の鍵をもって私たちを山間の峡谷に導いたモーセの訪れ、主の大いなる恐るべき日が来る前にそれがなければ全地が空しくされるとマラキが証したエライジャの訪れ、これらの事柄に優るものを持っていると言うのだろうか。その意義をよく考え、なおかつ彼がそれ以上のものを持っていると言うなら、君がその教会に入るのもやむを得ないと思う。」

私たちは親としてまたイスラエルの指導者として、若人の心にこの回復された福音が真実であるという証を聖霊の力によって植え付けてきましたが、それ以外の方法で、彼らがこの世の悪やわな、誘惑を避け、世にあって世のものとならないように教えることができるとはとても思えません。

私は使徒ペテロの言葉が好きです。こう

言っています。「預言の言葉は、わたしたちにいつそう確実なものになった。あなたがたも、…明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい。

聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。

なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語られたものだからである。」(IIペテロ 1：19-21)

これこそ私たちに証を得させてくれるものです。

またペテロは五旬節の日の後で、キリストを十字架につけた人々にこのように言いました。「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。

それは、主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである。

このイエスは、神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時まで、天にとどめておかねばならなかった。」(使徒 3：19-21)

すべての聖なる預言者の口を通して、時の初めから語られていた万物の更新がないとしたら、だれもペテロは生ける神の預言者であるということ信じ、主の来臨を待ち望むことはできません。回復と改革はまったく別のものです。今日世界中に存在するすべての教会は、歴史の過誤を修正しようと模策を重ね、その結果何百もの教派に分裂してしまいました。互いに一致が見い



リグランド・リチャーズ長老

だせなかったからです。また万物の更新が当然なされたはずです。ということは、聖なる予言者が再びこの地上を訪れなければならなかったということであり、それこそ皆さんがこの大会で耳にしておられることなのです。

また、もし彼らがこの地上に再び来たとしたら、だれかを訪れたに違いありません。つまりその人こそ神の予言者でなければならぬということです。それについてアモスはこのように言っています。「まことに主なる神はそのしもべである予言者にその隠れたことを示さないでは、何事をもなされない。」(アモス3：7)そして、その「予言者」がジョセフ・スミスでした。

私たちはこの万物の更新について、すなわちきょうこの大会でも語られてきた聖なる「予言者」の訪れについて、それが実際にあったことを証します。

私は聖典の中の予言が好きです。イエスは復活された後、ふたりの弟子とエマオへの道を行かれました。そして彼らが御自身とその復活について話す言葉を聞き、彼らが何も理解していないことを知ってこのように言われました。「ああ、愚かで心のに

ぶいため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。」(ルカ24：25)そしてモーセやすべての予言者から初めてすべてにわたり、予言者たちが御自分について証していることを説き明かされました。

私はイザヤの予言が好きです。私には、彼はかつて地上で過ごしたというよりも、この私たちの時代に住んでいたのではないかとさえ思えるくらいです。イザヤは私たちの時代に起こる事柄について、それ程までに多くの事柄を知っていたのです。彼は私たちがこの山間の峡谷に住み着くこと、文明社会から遠く1,600キロも離れ、行き交う人もなく、必需品もままならなかったこの不毛の地がさふらんのように花咲く有り様(イザヤ35：1参照)、立派な灌漑用水路が開かれ、砂漠に川が流れるようになること(イザヤ43：19参照)、夏にはこの山腹に築いた貯水場から水が供給されること(イザヤ48：18参照)、また主に贖われた人々が来て、シオンの高い所で歌う様子を見ていた(イザヤ51：11参照)のです。タバナクル合唱団が50年以上にわたって1週も休まずに歌を歌い続けてきたということのほか、この予言を成就するような事柄を世界のどこに見いだすことができるでしょうか。

イザヤは終わりの日に主の家の山がもろもろの山のかしらとして固く立ち、あらゆる国民がそこに来てこう言う姿を見ました。「さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道に歩もう。」(イザヤ2：3)

さて聖典にはユダヤ人がエルサレムに再び集合することについて数多くの予言が記されていますが、今挙げた予言には「すべての国はこれに流れてき、……主の〔家の〕

山に登り、……」と書かれています。(イザヤ2:2-3)

私はこの一画に建つこの美しい神殿こそイザヤが見たヤコブの神の家であると信じています。

エレミヤは「『イスラエルの民をエジプトの地から導き出された主は生きておられる』とまた言わないで、『イスラエルの家の子孫を……そのすべて追いやられた地から導き出された神は生きておられる』」という日が来ることを知っていました。(エレミヤ23:7-8)

エレミヤはまた、主が多くの漁夫、獵師を送って丘、山、岩の裂け目から人々を刈り集めると言っています。(エレミヤ16:16参照) これこそ全地のイスラエルの子孫に遣わされ、彼らをシオンへ導いている3万1千人に及ぶ宣教師の姿です。

エレミヤはまた、彼らが町からひとり、氏族からふたりと集められ、主によってシオンへ導かれ、知識と悟りをもつて養ってくれる、主のみこころにかなった牧者が与えられることも知っていました。(エレミヤ3:14-15)

この大会の数々の部会に出席し、生ける予言者たちの声に耳を傾けながらそのことを理解できない人がいるでしょうか。

私はイザヤ書の予言、中でも29章が好きです。そこにはこのように記されています。「この民は口をもってわたしに近づき、くちびるをもってわたしを敬うけれども、その心はわたしから遠く離れ、彼らのわたしをかしこみ恐れるのは、それで覚えた人の戒めによるのである。

それゆえ、見よ、わたしはこの民に、再び驚くべきわざを行なう、それは不思議な驚くべきわざである。彼らのうちの賢い人

の知恵は滅び、さとい人の知識は隠される」(イザヤ29:13-14)

今この世の中には、この予言のすべてを私たち末日聖徒のように理解できる賢い人もいなければさとい人々もいません。私たちがそれを理解できるのは、私がすでに触れ、またこの大会の中でも話されていた幾つかの予言が私たちに与えられ、福音の回復が行なわれたからです。

イザヤは同じ29章の中で、さらにこのように言っています。「ああ、アリエルよ、アリエルよ、ダビデが営をかまえた町よ、〔この町とはエルサレムのことです。ダビデはそこに住みました〕年に年を加え、〔これは来るべき世代のことを言っています〕祭りをめぐりこさせよ。

その時私はアリエルを悩ます。」(イザヤ29:1-3参照) 別の言い方をすると、イザヤはエルサレムという大きな町の滅亡だけでなく、もう1箇所、彼がその予言をした1,100年後にここアメリカの広範な地域で起こった滅亡についても知っていたということです。その滅亡については、第IIニーファイ26、27章に記されていますが、イザヤがバビロンは滅されて再び建て直されることがないと、それが実際に起こる170年前に語った時とよく似通っています。(エレミヤ50:9-13参照)

またイザヤはこの章の中で、賢い人の知恵は滅び、さとい人の知識は隠されると言っていますが、今の世の中にはこの世の賢者にも理解できないことが数多く起きています。きょうはこれ以上そのことについて語る時間はありませんが、私の心は天父への感謝の思いと、この業は神の業であるという聖霊による証であふれています。イエスキリストのみ名によって証します。アーメン。



七十人第一定員会会員 ジョージ・P・リー

「あなたは神と和らいて、 平安を得るがよい」

「私たちは主との個人的な関係をさらに強めるために、祈り黙想する時間
を取る必要があります。」

チャールズ・ディケンズはこのように書いています。「それはおよそ善き時代でもあれば、およそ悪しき時代でもあった。知恵の時代であるとともに、愚痴の時代でもあった。……光明の時でもあれば、暗黒の時でもあった。……また前途はいっさい暗黒、虚無とも見えた。」(「二都物語」上巻 p.11, 中野好夫訳, 新潮社)

これはディケンズが彼の生きていた時代について描写したのですが、どこことなく今の時代の状態を思わせるものがあります。現代は奇跡と驚異の大いなる時代です。私たちは、過去のどの時代にもまして高い生活水準と高度な教育にあずかっています。また、これまでにない最大の慰めと最高のぜいたくを楽しんでいます。そればかりでなく、私たちはかつての他のどの人々よりも物が豊富にあり、さらに奉仕できる状態にあります。私たちの国(合衆国)は、かつてない繁栄と勢力を誇っています。まさしく今はおよそ善き時代なのです。

しかし、現代はまたまきにおよそ悪しき時代でもあります。私たちはどの時代にもなかったような大きな問題と危険に直面しています。非行や犯罪、破壊をもたらす戦争、不道徳、その他様々の罪についても以前より一層激しくなっています。容易ならぬ騒動が現実には起こっています。最も邪悪な時代が形成されているのです。

そもそも主が私たちに課しておられる一番重要な責任は、何よりも私たちの生活を大切にすることです。もし私たちが最悪の時代を最良の時代に変えるならば、私たちはまっすぐ天に向かって歩んでいることになり。しかし逆に、最良の時代を最悪の時代にするならばその逆を歩んでいることになり。私たちは皆、主の数々の奇跡や教えをよく知っています。また主の模範も知っています。にもかかわらず私たちはその模範とは程遠い生活をしています。まさに最良の時代に生きていながら、主の教えに生きることから遠く離れているのか

も知れません。

聖典には、今の時代とノアの時代の状態がはっきりと比較されています。ノアの時代の人々は自ら滅亡を招きましたが、その時代も今も、問題は私たちと主の関係の弱さにあることはだれの目にも明らかなはずです。創世の初めから主は、全人類の平和と繁栄と幸福を目指して、人に神の勧告に従うよう説いてこられました。しかし残念ながら、主のお骨折りに対する人間の反応はほとんどいつも消極的でした。現に私たちも道を誤らせる自分だけの考えや知恵にしがみ續けています。

エレミヤは次のように書いています。「主はこう言われる、『おおよそ人を頼みとし肉なる者を自分の腕とし、その心が主を離れている人は、のろわれる。』」(エレミヤ17:5)

昔の時代も今の時代も、私たちが自分で自分の問題を解決する能力に欠けていることを証明しています。私たちはほかの何よりも、またほかのどの時代よりも主からの指示を必要としています。主はすでにこうした問題を見抜いておられました。このように述べておられます。「偽善者たちよ、イザヤがあなたがたについて、こういう適切な預言をしている。

『この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。

人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拝んでいる。』」(マタイ15:7-9)

また主はこのように言っておられます。「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。」(ヨハネ7:16)

主の神聖な指示は、私たち人間の前に立

ちはだかるどのような問題に対してもすべて解決への道を示してくれました。しかし、主の教えは当時の人々にあまり受け入れられませんでしたし、それは今日も同様です。人々は耳を傾けませんでした。主の時代の多くの人は、この時満ちたる神権時代の多くの人と同様、人間の作った偽りの教えに従っていたのです。人の教えを主の教えの代わりにするというこのような考えは実に危険なものですが、今大きな力を持っています。

今日アメリカでは、学校で神について語るのは法律に背くとする州が幾つか出ています。それらの州の学校では、聖書を読むことも禁じられていれば、クリスマス・キャロルを歌うことも禁じられています。また、祈りについても他人を不愉快にするかも知れないという理由で禁じられています。学校では無神論を教えることができても、神のみ言葉は教えることができないのです。

主は私たちを罪悪から解放するために来られたのですが、その罪悪がこの合衆国は言うに及ばず世界各国において今やはびこる一方です。犯罪の数はこれまでの最高を記録し、主の律法に対する罪もその数を増すばかりです。また、若者や大人の間における不道徳な行為もかつてなく増加しています。イエスは私たちに模範を示すためにこの地上に来られました。そして罪のない生涯を送り、生きた義の模範を示して下さいました。主はただ一言、「わたしに従ってきなさい」(ルカ9:59)と言われました。その教えにおいても、正しさにおいても、また人々に対する愛においても、主は御自身に従うよう私たちに求めておられます。しかし残念なことに、多くの人は主に従っていません。むしろ主の教訓や教義、奇跡

を受け入れることのできなかつた人々に従っています。多くの人々は、罪や快楽に浸った生活をしているために主を受け入れる余地をなくしているのです。他方、肉体的安楽を得るためなら余裕のある人々もいます。彼らは教育の機会を広げる余地は作っていますが、そのために主をどこかに押しやっています。また中には富を蓄えるために多くの時間働いている人もいます。さらにはまた、ぜいたく品を手に入れたり、余暇を増やしたり、またスポーツや娯楽を楽しむ余裕がありながら、主を受け入れる余地のない人がいます。彼らは安息日を破るための余裕は自分で作り出しますが、世の救い主—私たちの贖い主イエス・キリストを受け入れる余裕はまったく持ち合わせていないのです。

今も、主は話される言葉や聖典を通して、また聖きみたま、主の予言者、忠実な両親や友人、教師を通して私たちに説得しておられます。けれどもまだ私たちに主を受け入れる余裕がありません。大部分の人は都合のよい宗教—時間もお金もかからず、努力の必要もなく、何ら生活を変えることもない宗教—を求めているため、私たちに主の教えを受け入れる余地がないのです。主は、「きつねには穴があり、空の鳥には巢がある。しかし、人の子にはまくらす所がない。」(マタイ 8 : 20)と言われたのも不思議ではありません。

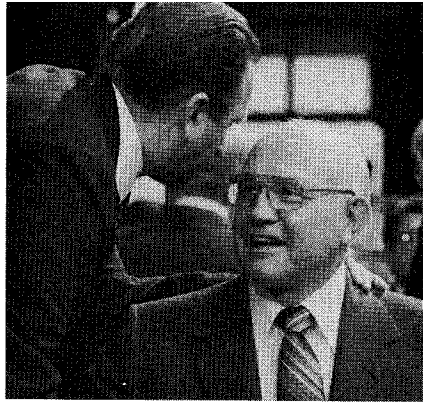
私たちの政府が時代の様々な重要問題に力なく取り組んでいるのを見て思うのは、主ならどのように処理されるかその方法を調べてみた方がよさそうということ。一般に世の人々は問題の結果に対して取り組むのに対して、主は原因を御覧になります。主は予防策を説かれますが、人

は問題が起きてからその処置に奔走するのです。したがって、犯罪に対する人間の解決策は、より適した法律の施行、より大きく頑丈な錠、また刑務所や更生施設、それに武器の充実を図るということになります。しかし主の方法は、自分を愛するようあなたの隣り人を愛しなさい、つまり人人にして欲しいと望むように人々にもしなさいということです。

貧困についても同じです。人が考える解決法は、フードスタンプの支給や貸付金、収入の保障、公営住宅の供給、その他による公の福祉です。それに対して主は自立することをすなわち自分の力で生活していけるように援助するという方法です。不道德の問題に対する対処にしても、人は、避妊薬の使用や未婚の母親のための施設、性病専門診療所、性教育、離婚カウンセラーといった方法を考えますが、主の方法は純潔や愛という徳を教えることです。問題に対する主の取り組み方、解決の方法が新聞の第一面に載ったり、ラジオ、テレビのニュースに採り上げられることはたぶんでしょ。しかしそれでもやはり主の方法は、私たちの国の問題のみならず世界が抱える問題もまた解決してくれるでしょう。そして、私たちのこの世界に大変革をもたらしてくれるでしょう。

パウロはエペソの人々に、忠実なキリスト教徒、徳高い人々になるための方法を教えようと努めました。その教えは今の私たちにも役立つものです。パウロはこのように教えています。「最後に言う。主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。

……神の武具で身を固めなさい。……
すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、



トーマス・S・モンソン長老(左)とバーナード・P・ブロックバンク長老

しょう。」(ヨブ22:21)とヨブは述べています。

主は今もなお私たちに言っておられます。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。

勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。」(黙示3:20—21)

兄弟姉妹の皆さん、私の願いは、個人的生活の中に世の贖い主をお招きする場所を作ることによって、この最悪の時代を最良の時代に変えることです。贖い主は天から下りて来た生命のパンであることを証致します。主は約束された人類のメシヤ、救い主です。主は人の心を裁く永遠の士師であり、死と罪に打ち勝った御方です。主は私たちの解放者、救助者です。主は私たちのすべてです。それは主が私たちのためにすべてを捧げられたからです。主は私たちに悲しみと罪から救ってくださる救い主です。その御方こそ基督イエスです。キリストは生きておられます。イエス・キリストのみ名によって、アーメン。

正義の胸当てを胸につけ……なさい。……

また、救のかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。」(エペソ6:10—11, 14, 17)

パウロのこの言葉は、私たち皆にとって単に意味深い勧告であるばかりでなく、成功への重要な道でもあります。この言葉は、もし私たちが今の時代に解決を要する諸問題を圧倒するだけの力を持った人物になりたいと望むのであれば、必ず必要とされる大切な人生観です。人は問題を法律の制定やいろいろの授受、軍事力、教育によって解決しようとしてきましたが、いつも失敗に終わっています。しかし人間のあらゆる問題は、真のキリストの教えに帰ることによって簡単に解決できるのです。真のキリスト教会の会員として、私たちは神と国、法と秩序、健康、勤勉と勇氣、真理と正義、そして互いのために先頭に立って戦わなければなりません。

私たちは主との個人的な関係をさらに強めるために、祈り黙想する時間を取る必要があります。また私たちは主の教えにもっと通じ、心をみたまに関する事柄で満たす必要があります。私たちはもっと実際的になり、イエスのみこころがどこにあるのか思いめぐらすことが必要です。私たちは自分の心を天父の目的と、天父の方法に関する知識で満たすことができます。心の扉を開けて、救い主をお招きする場所をつくることができます。私たちの心の扉は中から開くのです。私たちの心に主をお招きしようという気持ちが、心の中から湧いてこなければなりません。予言者ヨブの靈感に満ちた勧告が私たちの耳に残っているでしょうか。「あなたは神と和らいで、平安を得るがよい。そうすれば幸福があなたに来るで



七十人第一定員会会員 ジーン・R・クック

レーマン人の中に見られる奇跡

「ラテン・アメリカだけで実に60万人の会員を数え、しかもほとんど毎日のように7,000人もの方がバプテスマを受けています。ステーク部数は目下のところ181, 2,400箇所、聖徒たちが集会を開き、2,500人の地元出身の宣教師が働いています。」

私は今家族と共に南アメリカに住み、レーマン人の中で生活をしています。彼らはリーハイの子孫であり、またモルモン経の民、大いなる約束の民でもあります。そして私たちは長年にわたって、この民の中に起きている次のような霊的な奇跡を目のあたりにしてきました。

1. 私たちは律法をその思いの中に入れ、心に書きつけていた多くの人々が主に立ち返る姿を見てきました。(ヘブル8:10参照)

2. そして彼らが数多くのステーク部に組織されていくのを見てきました。

3. また予言が成就するにつれて彼らが「薔薇の如く華さく」のを見てきました。(教義と聖約49:24)

4. さらに私たちは、主が彼らの信仰に応え、彼らの中で奇跡を行なわれる様を確かに見ています。

一体どうしてこのようなことが起きているのでしょうか。この民の中にこのような劇的な変化が起きているのはなぜでしょう

か。彼らの先祖が世に残したモルモン経と呼ばれる記録のとびらの頁には、「この経典は……イスラエル一家の残りの子孫であるレーマン人」のために書かれたと記されています。そしてその最後の章で、予言者モロナイはレーマン人に向けて別れの言葉を残していますが、その中にはどうしたら真理への証を得ることができるかその方法も説かれています。この書物が全人類に向けて書かれたものであることは確かなことです。しかしその全篇にレーマン人にかかわる数多くの約束が記され、「主がその民になしたる約束の必ず成就さるべき」ことが述べられています。(教義と聖約3:18, 19参照)

それらの約束はレーマン人だけに向けて与えられたものではなく、この地の上にあるすべての国々の民に与えられたものです。この地は祝福された土地なのです。

「かくの如く、真に彼らは何人に限らずこの国に於てこの福音を信ずる者は永遠の生命を得んことを祈りてこの土地に祝福を

与えたり。」(教義と聖約10:49, 50参照)

「そしてイエス・キリストの福音がかれらの中に宣べ伝えられ……

そこで、かれらはこれが全く神から与えられた恩恵であるのを知って喜び、心の暗が次第に消え……」(IIニーファイ30:5-6)

そして現代の私たちには、キンボール大管長と聖典の双方から次のような指示さえて出ているのです。「レーマン人の所に赴きてわが福音を彼らに説き教うべし。而して、彼ら汝の教えを受けなばレーマン人の中にわが教会を建てさせよ。」(教義と聖約28:8)現代の予言者の言葉はこうです。「彼らは扉を押し開ける力を持つ人々に助けを求めている。また慈悲と赦しを請い、この王国の会員となって学び、行なう機会を求めているのである。」(スペンサー・W・キンボール, *Conference Report* 「大会報告」1954年4月, p. 107)

主はヤコブの家の子孫であるこの民を祝福しておられます。主のみ言葉が成就されているのです。かつては不毛の地であった所が、今では揺るぎなく立ち、確かに「薔薇の如く華さ」いています。(教義と聖約49:24)

何と驚くべき姿ではないでしょうか。レーマン人が住む地域のほんの一部に過ぎないラテン・アメリカだけで実に60万人の会員を数え、しかもほとんど毎日のように7,000人もの方がバプテスマを受けています。ステーキ部数は目下のところ181, 2,400箇所です。聖徒たちが集会を開き、2,500人のラテン系の宣教師が働いています。さらに、地区代表、伝道部長、祝福師、監督などをはじめとする数多くの神権者、忠実な姉妹、そして次代を担う、信仰と力を備えた子供たちがいます。

そうです、リーハイの子孫たちは、私たちが彼らの間に教会を確立するにつれて、私たち、すなわち教会全体から実に多くのことを学んできたのです。彼らは「あらゆる人々は己が国語と己が言葉にて完全なる福音を聞かん」(教義と聖約90:11)という予言の成就に感謝しています。かつてこれらの国々で宣教師として働いた方々を含めて、今その任にある方々、そして息子、娘のことを心配しながらも、主に信頼してとにもかくにも彼らを伝道に送り出し、彼らがこの民への奉仕の中で、自分が与え得るよりもはるかに多くのものを受けている姿を目にしておられる両親の皆さんに感謝しております。

彼らはまたこの主のみ言葉の成就にも感謝しています。「われ異邦人の中にわが福音を信ずる者の富を聖くしてこれをイスラエルの族なるわが民の中の貧しき者に与うればなり。」(教義と聖約42:39)喜んでその財産を捧げ、この業の推進を可能にした数多くの方々に感謝します。皆さんが捧げた多くのものに、主は祝福をもってこたえて下さるでしょう。

そして、皆さんも多くのものを受けているのです。というのは、レーマン人の先祖たちが苦勞して記録を書き続けたモルモン経を通して証を得たという点において、皆さんの多くが彼らの先祖たちから、個人的に恩恵を受けているからです。私たちが皆、彼らと共に末の日の歴史を作り、予言の成就を進めるといふ祝福にあずかっています。

さて、私たちがこの民から何を学ぶことができるでしょうか。彼らは決して、自分たちはほかの人々よりも優れているのだなどという考えを私たちに押しつけようなどとは思っていません。しかし、終わりの日

における彼らの役割が予言によって明らかにされているということ、また主が彼らの心を備えられたことを考え併せると、彼らの生活の中に主のみ手があることを認め、彼らがなぜそれほど簡単に福音を受け入れるのかを理解することができます。そして、私たちは皆、これを理解することによって、神聖な改宗というものがどのような過程を踏んでいくのかを心の中に刻み付けるのです。彼らの生活は、福音の基本とも言える神を敬うという特質を教えてください。彼らが持つその特質は、救いを目指して歩む私たちにとって模範とすることができるのです。教会が彼らに与えた物質的な援助に対して、彼らがそれを返済するということは多分ないと言ってもよいでしょう。しかし、彼らを通して得ることのできる霊的な洞察を考えた場合、それを返済してなお余りあると言ってもよいのではないのでしょうか。

また彼らはその生活を通して、神への信仰、確信、信頼という簡明な真理を教えてください。例を挙げてみましょう。アイマラ族のある小さな村は数週間で改宗しました。それも村をあげてです。宣教師たちは異言の賜によってスペイン語をはじめ、アイマラ語、ケチュア語など数多くのインディオの言葉を学んでいます。そしてレーマン人の聖徒たちも、彼らの世界では絶対に無理だと考えられている経済的に自立するという教えを信仰をもって受け入れているのです。とにかく彼らはそれを信じ、その実現に向けて道を歩んでいます。

彼らの生活振りには悔い改め、偽りのない真実の愛など、福音が教える基本的な原則がにじみ出ています。この世的には実に様々な境遇にある人々が教会に入り、指導

者に召されていますが、彼らは清められ、本当にわずかな間に主の教会の立派な指導者となっています。読むことすらできない人が多いにもかかわらず、だれもが指導者になれるということ、みたまの力によってすぐに体得してしまうのです。長い間口がきけずにいたひとりの人がいました。彼は悔い改め、バプテスマを受けました。そしてそのバプテスマフォントを出る時、初めて言葉を口にしたのです。

また彼らの生活は私たちに、謙遜さ、柔和さ、素直さという純粋な真理を教えてください。その例を挙げてみましょう。ある宣教師は3週間ほどの間に、それまでだれひとりバプテスマを受けることのなかった地で、18人の人にバプテスマを施しました。この民には、教えを聞くということについては何の問題もありません。彼らは素直であると共に、謙遜で心に何の偏見も持っていません。この点では全く従順な子供のような人々です。

福音の真理を初めて聞く人々が、ほとんど何の障害もなく受け入れています。彼らは世の救い主、予言者を信じています。そしてその信仰はだれもが抱いているようです。前世の存在については当たり前のこととして考えているようですし、ジョセフ・スミスの物語も、理にかなったこととして受け入れています。天使の訪れということに対しても驚く様子は全くありません。彼らは良い羊飼いの声に心から耳を傾け、このようにして忠実に神のみもとへ来ているのです。(モーサヤ26:21; 教義と聖約84:47参照)

彼らの生き方は祈り、断食、神権の祝福などの大切な原則についても教えてくれるところがあります。子供はできないと言わ

れていた姉妹が、女の子に恵まれたという例があります。夫が受けた祝福の中に彼女への約束もあり、彼女はそれを通して間接的に恵みを受けることができたのです。病気の姉妹が神権の祝福を受けると、たちまち病の床から立ち上がったという例もあります。悪魔もこのみ業に公然と攻撃を仕掛けていますが、神権は時に応じてこの力を制しています。毒のある食べ物や水を口にしながら、何の害も受けないという主の僕たちもいます。若い時には今住んでいる所から何千キロも離れた遠い所に住んでいたひとりの姉妹がいます。彼女は祝福師の祝福の中で、いつの日か教会幹部とつましい食事を共にする時が来るという約束を受けました。そして今その予言は事実となり、彼女はあるレーマン人のステーキ部長の妻となっています。

この民の生活からは親切、忍耐、犠牲という大切な真理を学ぶこともできます。教会幹部が面接を望んでいた人に、そのことを知らせるために、たったひとつの時計を売って自動車のガソリン代に充てた兄弟、また、家族を神殿に連れて行くために、長年かかってようやく手に入れた自動車を売った指導者もいます。大人、子供を問わず多くの人々が指輪、時計、穀物、家畜、時には歯にかぶせた金を捧げてまで、彼らの地に神殿を建てるという主のみ業に役立ちたいとの気持ちを表わしました。

みたまがこの民の生活の中に数多くの奇跡という形で表われていることも事実ですが、静かな細い声という、あまり目立つことはなくても、最も印象的な表われがなお存在し続け、「彼らのうち」に働きかけ、数多くの人々を改宗へと導いています。(エレミヤ31：33参照)

この民はリーハイの子孫、予言者の子孫であり、多くの点で偉大な特質を備えています。しかし神の子が皆そうであるように、彼らもその義に応じて祝福を受けています。

私たちは自分たちの力や知恵を誇るつもりは毛頭ありません。しかし、アンモンがレーマン人について話した時のように語りたいたいという気持ちを覚えています。

「私（たち）は喜びが満ち充ちて……私たちの神がましますことを喜ぼう。

……それは神のたもう能力によって何事もすることができるからである。……

……誰も主に誇りを感じすぎると言うことはできない。誰も主の大能と世の人々に尽したもう憐れみと勤忍とをほめすぎると言うことはできない。私（たち）が自分の心に感じていることはその万分の一も言えない。」(アルマ26：11—12, 16)

兄弟姉妹の皆さん、私たちはこの大会で与えられてきた勧告をすべて実践しなければなりません。ここで述べてきた純粋な真理、すなわち神を敬う心や律法の中のもっと重要な事柄などを忘れないようにしようではありませんか。(マタイ23：23参照)それらは本当に基本的なものであり、福音の本質です。末日聖徒があふれるばかりに備えているそれらの特質を持てば、いつの日かすべての奇跡の中で最大のものを経験することができるでしょう。そうです、奇跡はやんでいないのです。今は奇跡の時であり、私たちは奇跡を信じています。末日聖徒はイエス・キリストへの信仰に応じて奇跡を待ち望むことができます。そして、イエス・キリストこそ全人類を救って下さる、天が下におけるただひとりの御方なのです。(教義と聖約18：23参照)イエス・キリストのみ名によって、アーメン。



七十人第一定員会会員 ジョセフ・B・ワースリン

神権者皆各々その義務を覚え

「『善を為すにうむことなかれ』自らの義務に忠実であることは、真実の主の弟子であることの印です。」

現在、私の召しには、合衆国南東部の教会を導く責任があり、これは、ジャマイカまで伸びています。最近、家内と私は、この美しい熱帯の島を訪問する機会に恵まれ、そこで、大変忠実な指導者のひとりであるジャマイカ支部の支部長、ビクター・ヌージェント兄弟にお会いしました。そして、このような会話を交わしました。

「ヌージェント支部長、ホームティーチングは、どの程度行なわれていますか。」

「100パーセントできています。」

「家庭訪問はどうか。」

「はい、100パーセントです。」

「聖餐会の出席率は？」

「100パーセントです。」

「什分の一を納めている会員は？」

「100パーセントです。」

わずか85名の教会員が立派にその責任を果たし、素晴らしい模範となっているのを見て、私は、彼らこそ自分の義務を知り、それを忠実に果たしている人々ではないだ

ろうかと思いました。彼らは、予言者ジョセフ・スミスに与えられたこの感銘深い啓示を心から理解しているのです。

「この故に、今や神権者皆各々その義務を覚え。また己が任命せられたる務めを全く勤勉に勤むべし。

およそ、怠惰なる者はその地位に居るに値せず、またその義務を覚らず信任さるるに足る行いを示さざる者は、その地位にある値なき者なり。」(教義と聖約 107:99-100)

ニューヨーク大学の栄誉の殿堂にある、ロバート・E・リーの胸像の下には、彼の言葉が次のように刻まれています。「すべての言葉の中で、義務という言葉ほど崇高なものはない。あらゆる事柄において己れの義務を果たしなさい。我々にできることでそれ以上のことはないし、またそれ以下のことを望むべきでもない。」(John Bartlette, ジョン・バートレット, "Familiar Quotations" 「引用集」 p. 620)

一般に私たちは、自分のしたいことに反しない限りは、何を言われてもさほど気にしないことができます。しかし、一方、自分の意志と無関係に義務づけられた事柄を行なう時には、相当の訓練と自制が必要となるのです。とかく義務というものは、自ら求めるのではなく、他人から要求されたことになりがちです。考えること、信じること、計画すること、どれも大切なことですが、一番の問題は、何をするかです。利己心を捨てて、すべての人の幸福を考えることこそ私たちの責任なのです。

私たちは、創造主が私たちに託して下さったすべてのものの管理者です。義務という言葉は、私たちにこのことを思い起こさせるものであることを常に覚えておきましょう。自ら進んで、忠実に義務を果たす時、私たちは幸福を見いだすのです。ただ幸福だけを追い求めている人々は、必ず失敗します。なぜならば、幸福というのは最後に手にするというものではなく、むしろその過程における副産物であるからです。幸福は、自らの義務を果たし自分の人生が神とその戒めに従ったものであるということに自覚することによりもたらされます。ジャマイカ支部の会員は、自分たちが神の戒めと一致した生活をしているということに自覚しているので、幸福な気持ちになれるのです。

ジャマイカの宣教師もまた、メッセージに耳を傾ける人々に福音を教えるという自らの義務をよく理解していました。彼らは、他の宣教師と同じように毎月の仕送りに頼って生活していますが、ジャマイカの銀行制度では、小切手を現金に換えるまでに2カ月間待たなければならないのです。これは、宣教師にとって大変不都合であり、

いろいろなし通しでした。それ以上その規則に従うことは不可能であると考えた彼らは、何か対策を講じることにしました。そして、それを実行に移したのです。宣教師たちは銀行の支配人に福音を教え、バプテスマを施しました。その結果、小切手の問題はうそのように解決されたというわけです。ジャマイカ支部の長老たちは、自分の義務を知り、信仰と勤勉さを持って実行したのです。

さらに、宣教師にとってもうひとつの問題がありました。ジャマイカでは、彼らに適した十分な食物がなかなか得られないのです。栄養源である主食は、手に入るこ



は入るのですが、長いうんざりするような日数を経てようやく手元に届くのです。そこでまた、解決策が練られました。商人に福音を教え、バプテスマを施しました。それ以後、必要な食物を欲しい時に手に入れられるようになったのは、言うまでもありません。

他の地域と同じように、ジャマイカでも宣教師は、自転車をこいで主のみ業に励んでいます。しかし、自転車は、壊れたり部品が摩滅したりします。また、修理に出しても、部品がなかったり遅れたりすることがあります。解決策は明白です。自転車屋に福音を教えて、バプテスマを施すのです。最近の報告では、彼は宣教師の友情と証に応えているということです。

自分の義務を果たすことは、問題解決の最上の方法です。どのような義務を果たすかは、私たちの先人によって設定され、今日全教会の献身的な教師や指導者に受け継がれています。一生涯の義務を果たす時の基となる心構えや精神が、次の詩の中に適確に表わされています。

日々己れの義務を果たし、
行く手の何ものをも恐れず、
ただ神のみこころなりと信じて進む人、

その人の歩む道は、確かに偉大だ
いづくにても己れの分を守り、
人知れず労苦を重ね、
ただ神の遣わされん所と信じて向かう人

その人の行く末は高貴に満つ
天に昇るか、地に下るか
ひとつの試しを経る
だれもがけん命に戦う

そして、人事を尽くした者のみが
人に借りを残すことなくこの世を去るの
だ (作者不詳)

世界史において成功を成し遂げた人々は、皆だれも、自らの義務を覚り、揺るぎない決意を持ってそれを果たした人々です。殊に救い主は、御自分の義務を完全に理解しておられました。そして、御自分に課せられたことが人間としての能力をしのぐことであっても、主は自らを天父のみ旨に従わせ、人類の罪を贖うことによってその尊い義務を果たされたのでした。

ジョセフ・スミスは、自らの召しに忠実であり、激しい迫害のさ中であっても大いなる犠牲を払って義務を完うしました。彼は、忍耐に忍耐を重ねて、遂にイエス・キリストの真実の福音を回復したのです。

また、ブリガム・ヤングも、自分の責任を果たしたひとりです。彼は、長年にわたる忠実な働きと義務達成の後に、聖徒たちを自由の谷へ導き、偉大な神の王国を築いたのでした。ブリガム・ヤングは、必ず義務を果たす人であったので、大いなる事柄を次々と成就しました。

さらに、スペンサー・W・キンボール大管長は、福音を地の果てまで広げるといふ召しを受け入れました。彼は、自らの義務を忠実に続行し、愛の福音を宣べ伝えることにおいて、すべて私たちの模範となる行ないをしています。その結果、今や教会は世界に発展し、末日の予言が成就されつつあります。

これらの偉大な人々にも自由意志があります。彼らは、義務に通じる道ではなく、もっと安易な道を選ぶことができたかも知れません。しかし、彼らはそうしなかった

のです。彼らを選んだ義務には、常に心の安らぎと利益が伴うわけではありません。むしろ、それは、大きな犠牲と苦労を意味するものです。しかし、彼らはあえてその義務を選び、そして達成したのです。

人生において、私たちは多くの義務を要求されます。小さいものから、重要なもの、意義深いものまで様々です。しかし、義務を果たす上で決して見過ごしにできないことは、立派な模範を示し、あらゆる機会を用いて人生のこの険しい坂道を登っていきけるよう人々を助けることです。それは、励ましの言葉や賛辞、握手など、相手を思いやる態度によってもできます。また私たちは、この世で自らの義務を学ぶことによって、永遠の義務を果たす準備ができることを心に留めておく必要があります。

男女、子供を問わずすべての教会員は、

自らの義務を果たす責任があります。一人一人が、神の戒めに従って生活するよう命じられているのです。また、毎日祈り、聖典を学び、救い主に近く生活し、他の人々に仕えるという義務があります。そして、ふさわしい状態で聖餐にあずかり、生活において聖霊の力を得られるように努力しなければなりません。

すべての父親は、家族を養い、その模範を通して神の戒めに従うよう家族に教える義務があります。また愛する奥さんの方々には、子供をこの世にもたらし、愛と教養にあふれた暖かな家庭の雰囲気を作り出す義務があるのです。そして夫婦ふたりには、「主の薫陶と訓戒」(エペソ6:4)によって子供を育てるという神聖な義務が与えられています。

また、子供たちは、両親に従い、学び、



家の手伝いをする義務があります。そして、互いに争ったり競ったりするのではなく、一人一人が家族の絆を育み互いの成長を助けるという霊的な責任を負っているのです。

さらに、すべての会員は、他の人々と福音を分かち合い、毎日の生活の中で宣教師の務めを果たす義務があります。また私たち一人一人には、この世を去った先祖の名前を捜し出して彼らに神権の祝福を与える義務があります。そして、物質的に満たされるよう努力し、貧しい人、困っている人々を助ける必要があるのです。さらに、あまり活発でない会員を見つけて力づけ、忠実に献身的な行ないを通してワード部やステーク部で召しを立派に果たせるようにならなければなりません。

以上が私たちに与えられている義務のいくつかです。それらは、いつも心を躍らせ楽しみを与えるものではないかも知れません。しかし、一つ一つが重要であり、また同時に私たちの霊を精練し、身も心も強めてくれるものです。また、主のみ業を押し進める大きな力となります。

家、教会、日々の仕事において、また愛する母国のために、そして軍や基地で働く教会員にとって、義務を果たすことは絶対に必要なことです。救い主は、このことについて、はっきりとしかも適確に述べておられます。

「悪い実のなる良い木はないし、また良い実のなる悪い木もない。

木はそれぞれ、その実でわかる。いばらからいちじくを取ることはないし、野ばらからぶどうを摘むこともない。

善人は良い心の倉から良い物を取り出し、悪人は悪い倉から悪いものを取り出す。心からあふれ出ることを、口が語るものであ

る。

わたしを主よ、主よ、と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。

わたしのもとにきて、わたしの言葉を聞いて行う者が、何に似ているか、あなたがたに教えよう。

それは、地を深く掘り、岩の上に土台をすえて家を建てる人に似ている。洪水が出て激流がその家に押し寄せてきても、それを揺り動かすことはできない。よく建ててあるからである。

しかし聞いても行わない人は、土台なしで、土の上に家を建てた人に似ている。激流がその家に押し寄せてきたら、たちまち倒れてしまい、その被害は大きいのである。」

(ルカ 6 : 43—49)

兄弟姉妹、「善を為すにうむことなかれ。」(教義と聖約64 : 33) 自らの義務に忠実であることは、真実の主の弟子、神の子供であることの印です。義務を果たすことに雄雄しくありましょう。そして、なすべきことを行ないましょう。第二の位を保つという、私たちの最も重要な責任を怠ってはなりません。義務に忠実でありましょう。それは、私たちを神のもとへ導くからです。

この道こそ、幸福に通じる道、神の王国に繁栄と進歩をもたらす道です。私は、これらのことを、心より深くへりくだり、イエス・キリストのみ名によって証申し上げます。アーメン。

☆

☆



七十人第一定員会会員 レックス・D・ビネガー

決心への決意

「目標、神への信仰、自分自身などの事柄について決心するように心に決めて下さい」

私はこの素晴らしい讃美歌（「感謝を神に捧げん」）を歌う度に、その証に合わせて胸が高鳴るのを覚えます。また、私たちの生ける予言者スペンサー・W・キンボールの召しが神から与えられたものであることを皆さんに証します。

私は自分に与えられている、教会の若人と共に活動する責任に感謝しています。教会のアロン神権定員会会員は将来の宣教師、また教会の指導者、世の指導者となる人々です。この素晴らしい機会にあずかる者として、私はきょう、この大きな若人の群れに属する人々に話したいと思います。こうなりたいと思う人物になるための力についてです。

今年の夏、私はアロン神権を持つ2,600人も素晴らしい若人やその指導者たちとキャンプをし、忘れることのできない経験をさせていただきました。居並ぶ色とりどりのテントやボーイスカウトの制服で一杯のそのキャンプ場は、12本の輻を付けた大

きな車輪の形の陣形をとっていました。そして一本一本の輻の部分が、イスラエルの12の「部族」のそれぞれの野営地に当てられたのです。フロリダ・デゼルト牧場で行なわれた6日にわたるこのキャンプでは、キャンプ技術の訓練、数々の特別な発表、体力テスト、霊的なプログラムなどたくさんの行事が行なわれました。（2万リットルを越える牛乳、氷30トン、清涼飲料水1,000ケース、そして1トン半のパンが胃の中に消えていったことは言うまでもありませんが）こうして若い男性とその指導者たちは神権につける目標に照準を合わせ共に活動を楽しみました。

第1日目の夕べには開会式典としてキャンプファイヤーがありました。それぞれの場所に陣取ったイスラエルの全「部族」がアリーナに向けて行進しました。西に傾いた太陽が発する目を奪わんばかりの光芒を背に、ふたりずつ並んで行進する若人の列は1マイル（1.6キロ）の長さには達しました。

色とりどりの旗を掲げた現代のイスラエルの息子たちは、「名譽にかけて」というスカウトの誓いを描いたアーチの下を歩いていくのです。そしてそこにはスカウトの誓いとおきて、アロン神権につける目標をきざんだプラカードをかざして門衛が立っています。少年たちは神権指導者に率いられてそこを通る時に一人一人、永遠の生命目指して日々努力し、神権を授かり、伝道に出、神殿で結婚するにふさわしい者になると自分自身に誓うように求められました。

その夜決心したことのフォローアップは続く4日間の「山の頂」に登るという特別な経験を通して行なわれました。古代イスラエルの指導者たちは主から特別な教えをいただくために、しばしば、定められた山の頂に登りました。そこで、この「イスラエル」の神権者たちも、自分自身を備えてキャンプ場の中の特に定められた場所に行き、そこで靈的な導きと勧告を受けるといふことが決められたのです。この活動を通して彼らは、福音の重要な原則に従って生きるという決意をすることが、道徳的に清い生活を送ること、また言葉と行ないを正直なものにすること、知恵の言葉を守ることなどの大切な決定をしていたことにもなるということを学んだのです。

それらの事柄は、以前の大会でキンボール大管長が話された「ある決意」に当たるものです。

「私たちは、教会の青年男女が、自分たちには1回だけ、ある決意をする必要があるということ、これまで以上によく認識できるよう手助けしたいと思っている。……私たちはひとたび、あることを片付けてしまえば、もう二度とそれにはかかわる必要がなくなる。ただ一度決意をするだけで、

それを生活の中に取り入れ、さらに私たちの特性とすることができる。そうすれば私たちが何をし、何をしないか何百回も思い悩み、再三再四決定する必要はなくなるのである。……若い兄弟たち、皆さんがまだそうした決意をしていなければ、今、決心するよう心に決めていただきたい。」(「聖徒の道」1976年8月号, p. 359)

若い兄弟の皆さん、皆さんにはそれができるのです。皆さんは義人になることもできますし、自分の夢や望みを達成することもできます。そしてそれを成し遂げるには、幾つかの事柄について、今まだ若い内に決心しなければなりません。今こそ、決心するように心に決める時なのです。

まず初めにすることは、目標を選ぶという決意です。同じ説教の中でキンボール大管長はこう語っています。

「アロン神権者の若者にも、メルケゼデク神権者にも、行なってみていただきたいことは、人知れず、しかし堅い決意のもとに、個人的な価値ある目標を設定するということである。ある一定の期間で達成できるものを幾つか選び出し、それを目標にして、進歩するための努力を始めるのである。」(「聖徒の道」1976年8月号, p. 359)

私の友人に自分の息子がこの方法に従って目標を決めるのを助けてあげた人がいます。ドンというその友人は息子に、自分がどうなりたいか、またどのような人物になりたいかと思っているかを尋ねました。すると、同じワード部の会員で近所に住むひとりの人の名前を挙げました。確かに前にも時々その人のことをほめていたことがあったのです。ドンは息子を車に乗せて、その人の家に向かいました。

その人の家の前に車を止めると、ふたり

は車の中に座ったまま、その人が持っている財産や暮らし振り、親切で物惜しみのない態度、良い評判、正直さなどについて話し合いました。そして話は、彼が現在の自分を築き上げるまでに払ってきた代償に及びました。そこには長年の努力、それなりの教育と訓練、犠牲、チャレンジがあったのです。現在の富とうわべを見れば気楽にも見える彼の生活は、正しい目標に向かってこつこつと重ねてきた努力と、主の祝福の賜だったのです。

ドンの子はまた、成功と正しい生活という点で自分の手本としている人々の名を挙げました。賢明な父親から、その人たちの歩んできた道について教えられると、このまだ年端のいかない少年は早速、どういう人物になりたいか、自分の目標を決めたのです。そして自分で掲げたその目標に合わせて他の事柄も決定することを心に決め、自分の選んだ道を歩み続ける備えをしたのです。

次に来るのが、行動に移そうという決心です。目標に到達するには、行動を起こさなければなりません。世界一の富豪のひとり数えられたこともある J・ポール・ゲティが成功のための秘訣を述べています。「朝早く起きて、夜遅くまで働きなさい。そうすれば油脈にぶつかる。」ゲティ氏はさらに、次のような含蓄のある言葉を残しています。「時速100キロで走る列車に乗った人が『私は100キロで走っているんだ』と言っても別に差し支えないような気がする。だが実はそうではない。自分自身の足で進んでいるのであれば、それは立っただけのことなのである。」(J・ポール・ゲティ, *Reader's Digest* 「リーダーズダイジェスト」1980年9月号, p. 94)

世界的に有名なバイオリニスト、アイザック・スターンがあるテレビ番組で司会者から、コンサートバイオリニストになろうとして、本格的な努力を決意したのはいつの頃かという質問を受けたことがあります。彼はまだ若い頃にサンフランシスコで開いた初めてのコンサートのことを話しました。音楽評論家たちは彼の演奏に深い感銘を受け、その前途有望な若者に素晴らしい将来を約束しました。これに励みを得た彼は1年後のニューヨークでのコンサートを目指して準備に入りました。ところがニューヨークの音楽評論家たちの言葉は決して甘いものではありませんでした。彼らの論評は、相当の練習を積まない限り、アイザック・スターンのソリストとしての成功はとても無理であるというものでした。

意気消沈したスターン氏はニューヨークの2階付きバスに乗り、マンハッタンの中をあちらこちらと、時も忘れたようにしてバスの走るままに身をまかせました。彼の言葉を借りると、彼はその時、これからどう進んでいったらいいのかと考えて、「心の中で泣き声を挙げていた」そうです。あの評論家の言ってることは本当だろうか、これが自分の限界ではないだろうか、オーケストラの一員になる道を選んだ方がいいのではないだろうか、様々な思いが駆け巡りました。

市内を4度回り、彼は母親が待つアパートに帰りました。その時彼は心に決めていました。「お母さん、練習するよ、音楽の方が僕にくっついてくるまでがんばるんだ。」現在、アイザック・スターンは世界でも屈指のバイオリン奏者として称えられています。行動は祝福を得る上で欠かすことのできない原則です。私たちは行動することに

よって、肉体的にも霊的にも自分を成長させることができます。行動は肉体と人格の両面から力を与えてくれるのです。

あるバスケットボールのコーチがこう言いました。「山の頂上に人がいるのを見たら、それは、その人が決して挫折しなかったからだということを忘れないようにしなさい。」私たちの内にある天与の可能性を極め、その頂に達するには、そこへ至る道を一步一步進んで行かなければなりません。それは辛く苦しい、人の願みない道かも知れません。それでも、全力を尽くし、不屈の精神をもって積極的に行なっていくなら、必ず登り詰めることができるでしょう。

そしてもうひとつ、信じようと決心することです。信じるとは神を信じることであり、自分自身を信じることです。神が皆さん一人一人に深く心を掛けて、皆さんが成功を収めるように願っておられるということを知って下さい。神は御子イエス・キリストの福音の中に、窮極的な成功への確かな手本を示しておられます。

主の福音に一致した生活をする時、私たちは主のみたまを通して、日々のチャレンジに打ち勝っていくという確信を得ることができます。そしてニーファイと共にこう言うことができます。「人がもし主を信ずる信仰を表したならば、主は人のためにみこころのままに何でもできることを忘れたのはどうしたのか。そう言うわけであるから私たちは主に忠誠を尽そうではないか。」(I ニーファイ 7:12)

予言者ジョセフ・スミスが次のように述べているのは、神への信仰、神は自分に心を掛けておられるという信仰から生まれる勇気と心のゆとりがあったからです。

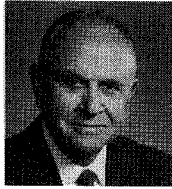
「たとえどのような苦難に遭遇しようと、

決して落胆してはならない。たとえノバスコシアの炭坑に埋められようと、ロッキー山脈全体を頭上に積まれようと、落胆せず、主に頼り、信仰を働かせ、勇気を保つように。そうすれば頂に連れ出されるであろう。」(「ジョージ・A・スミスの回顧録」教会歴史事務局所蔵)

若人の皆さん、皆さんは今、人生の中で最も重大な時にいます。青年期は習慣が形成されていく時期であり、いろいろな考えを身につけていく時期です。そして、それは決意の時でもあるのです。「決心するように心に決めていただきたい」という私たちの予言者の言葉を心に刻み込むことを、きょう決心して下さい。

とにかく一度、何かについて決心しようと心に決めて下さい。例えば、それをやめなければ自分を減すというような事柄です。またほかに、自分の生活に取り入れようと思うことで、永遠の幸福につながる事柄などについても考えて下さい。さらに、皆さんの神聖な行く末にかなった目標を立て、皆さんを創造された神を信じ、自分自身を信頼するように決心して下さい。また自分で立てた目標は必ず達成できるということを知って下さい。そして、行動する決心もです。主の導きのみ手のもとに心から努めるなら、義にかなった努力はすべて好い結果を生むに違いありません。

私たちが皆、イエス・キリストの福音が発する、義の光の中で決心をすることができるように、イエス・キリストのみ名によって祈るものです。アーメン。



十二使徒定員会会員 デビッド・B・ヘイト

「王国の鍵」

「主は予言者を通じて民にみこころを表わしておられます。——『そは彼の言は、汝ら全き忍耐と信仰とを以て、あたかもわが口より聞くが如くにこれを受け入るべきなればなり。』」

私たちは神の指示により半年に一度この偉大な大会に集い、永遠の父なる神を礼拝します。そして聖霊の賜と力を通して、イエスが神の御子であり、救い主、贖い主であること、またイエスを知ることによって永遠の生命が得られることを宣言するのです。(ヨハネ17：3)

この総大会に参加し、予言のみたまを目のあたりにして、私たち一人一人は信仰を強め、義しい生活をしようという望みを築き上げます。また私たちは、主の王国の諸事を司るように任命された人々から靈感あふれる勧告を受けます。その王国は力を得て発展し、やがては地を満たすでしょう。予言者ダニエルはこう予言しています。「これはいつまでも滅びることがなく……立って永遠に至るのです。」(ダニエル2：44)

歴史の1ページを彩るこの大会も終わりに近づくにあたり、私たちは救い主を求め、救い主を信じる人々により真実の教えが語られたことを宣言するものであります。彼

らの話を通して、主の教会のみならず謙遜に主を求める個人に対しても、主のみこころが知らされました。世界のキリスト教派にあって私たちの占める立場には独特のものがありません。私たちは直接間接を問わず、他のいかなる教会とも関連を有していません。いわゆるクリスチャン、非クリスチャンを問わず、他の宗教とは全く結びつきがないのです。末日聖徒イエス・キリスト教会は、過去現在を問わず、他のいかなる教会あるいは宗教団体とも関わりを持ってきませんでした。

この教会は、正直に福音を受け入れそれに従う人に「救を得させる神の力」の鍵を持っています。(ローマ1：16) 私たちは神の誓約の子として、もしも忠実であるならば神の業に敵対する者たちを放逐できるという約束を受けました。私たちの忠実さと義により、邪悪な者たちや奸計(かんけい)を巡らす男女の悪影響は阻止されるでしょう。私たちは、権威と栄光とを受けて再びこの地上に

来臨される救い主を迎えるために、世の人人に備えをさせる責任を持っているのです。

ある人がこう尋ねました。「あなた方の教会で主張するところの権能は、他の教会で言う権能よりももっと確実な根拠を持ったものですか。」私たちの答えはこうです。「はい。古代にあったと同じ神の神権の権威と権能を私たちは持っています。」

ピリポ・カイザリヤの国境のとこを旅しておられた救い主は、十二使徒にこうお尋ねになりました。「人々は人の子をだれと言っているか。」(マタイ16:13)

使徒たちは言いました。「『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります。』

そこでイエスは彼らに言われた、『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか。』

シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです。』

すると、イエスは彼にむかって言われた、『バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。』

そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。

わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。』(マタイ16:14-19)

主は、主の教会が神御自身が示したもう真理、すなわち啓示という岩の上に建てら

れなければならないと教えられました。またキリストは生ける神の御子であることも言明しておられます。これが、地獄の門も主の教会に打ち勝つことのないゆえんです。

ここで天国の鍵がペテロに与えられています。彼はその権能を、他の十二使徒と共に働きました彼らを管理する際に行使しました。

主は幾度となくペテロ、ヤコブ、ヨハネのみを伴って行かれました。これは明らかに、3人に特別な靈的経験と指示を与えるためです。やがて訪れる試練に備えるために変貌の山に登られた時、イエスはこの3人の弟子を伴われました。これは、御父の肉における独り子の栄光を見て、彼らの心が堅固になり、信仰が強められるようにとのはからいからでした。彼らはそこで、約束された神権の鍵を受けました。この神聖な出来事にはモーセとエライヤも姿を見せ、3人の使徒はイエスとその愛する子であると証をし、イエスに聞き従えと命じたもう御父の声を聞きました。

それから幾世を経た1830年8月、主は啓示をお与えになり、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリが使徒に聖任され、その鍵を受けたことを確認されました。

その啓示にはこう記されています。「……わが汝らに遣わして、汝らを聖職に按手任命し汝らの使徒たること、また汝らがわが名の特別の証人たることを確認し、また汝らが導きと教えを施す働きと、わが彼らに啓示せるところと同じものとの鍵を有つことを確認せしめたるかのペテロ、ヤコブ、ヨハネの3人、

すなわちわが王国の鍵と、終りの世に於ける、および天と地の両つにあるすべてのものを一つに寄せ集むべき『時満ちたる』



時代に於ける福音の神権の時代とを託したる三人と共に飲み……。」(教義と聖約27：12—13)

王国の鍵はこの3人の古代の使徒を通して、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに与えられました。復活を遂げ、人々の間に導きと教えを施したもうた後にイエスが権能を授けたもうたのは、この3人でした。

主はフレデリック・G・ウイリヤムスを啓示によってジョセフ・スミスの副管長に召したもうた時、次のように言っておられます。「……汝語る者の声に、主なる汝の神の言に耳を傾け、また汝が召されて、すなわちわが教会の大祭司となり、またわが僕ジョセフ・スミス(二代目)の副管長となるその召を聴け。

われはジョセフ・スミスに王国の鍵を授けたるが、こは大神権の大管長会に常に属

すものなり。」(教義と聖約81：1—2)

1836年4月3日、変貌の山で救い主と3人の使徒たちのもとを訪れたかの天使たちが、カートランド神殿で予言者ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに現われ、また新たな神権の権能と鍵を授けました。教会を建てて、イエスの来臨とこの地上での永久の統治の備えをするための権能と鍵です。モーセはイスラエルの集合の鍵を授け、エライヤスはアブラハムに与えられた祝福と権能を回復しました。またエライジャは、父の心を子に、子の心を父に向けさせる鍵と権威を授けました。(教義と聖約110：11—16参照)

時の絶頂の時代、王国の鍵は当時の大管長会であったペテロ、ヤコブ、ヨハネが保持していました。その鍵はジョセフ・スミスが筆頭とする歴代の大管長に授けられ、現在では、スペンサー・W・キンボール大

管長に委ねられています。キンボール大管長の持っている権能は、このように至上のもので。神権と教会に対して、啓示と決定の権能を持っているのです。

キンボール大管長には、神権を管理する権能が集中しています。これまでのすべての神権時代の鍵と、この時満ちたる神権時代の鍵を保持しているからです。(教義と聖約 112:30—32 参照) この地上でこうした鍵や権能が授けられる人は、一時代にひとりしかいません。この後で話をして下さるキンボール大管長は、神の予言者なのです。

キンボール大管長が大管長に召されて初めての記者会見の時のことです。記者たちはキンボール大管長の口から教会の進路を変えるように劇的な話が聞けるものと期待して耳を傾けていました。しかしキンボール大管長が語ったのは、予言者と呼ばれる人であればだれもが語った「神の戒めを守りなさい。主の道に従いなさい。主の足跡に従って歩みなさい」というメッセージでした。

キンボール大管長のそばにいて親しく交際させていただくと、大管長が主を愛し、また民を、それもすべての民を分けへだてなく愛していることをひしひしと感じるようになります。主はキンボール大管長を、教会と世の歴史から考えて重大なこの時期に主の教会を管理する人として取っておかれました。私たちが歩むべき道を決めるのは大管長です。私たちは、大管長の決定や指示が靈感を受けたものであることを肌で体験しています。そしてそのことから、このみ業に対する確信と平安とを得ているのです。私たちは、キンボール大管長の指示に全幅の信頼をもって従います。それは、神がその民を導くために神の僕である聖な

人を立ててこられたことを知っているからです。

1894年に改宗した英国人ウィリアム・ファウラーは、神の予言者が民と共に生活しているということに非常な感動を覚え、次ような感動的な詩を書きました。「感謝を神に捧げん、予言者の導き。末日に福音を、光とたまいぬ。」(讚美歌170番)

私たちを愛するがゆえに与えられたキンボール大管長の勧告の言葉に耳を傾けると共に、その勧告について家族と共に祈って下さい。そうすれば、神の指示により与えられた、しかもいと高き原則に基づいた勧告に従うように励まされるものを感じるでしょう。教会が組織されて数カ月後にジョセフ・スミスに授けたもうた啓示の中で、主は新しく召された指導者たちに入念な指示と勧告を与えておられます。主はこう言われました。「……神に願うべし。……『みたま』汝らに証したもうところを……汝ら全く聖きこころを以てこれを為し……」(教義と聖約46:7—9)

この啓示は次のように続いています。「すべての者、必ずしもあらゆる賜を与えられしにあらず。何となれば、賜は多くあれどすべての人は神の『みたま』によりてその一を受ければなり。

ある者は聖霊によりて、イエス・キリストは神の子にして而も世の人の罪のため十字架につけられたるを知る賜を得、

他の者は彼らの言を信じ、かくして忠実にして止まざればまた永遠の生命を受くる賜を得……」(教義と聖約46:11, 13—14)

私たちはまた、私たち自身と家族のために直接の啓示を受けることができます。これは、神の予言者に心の波長を合わせ、謙遜になって祈りを捧げる人に、その祈りの

答えとして与えられるものです。主は予言者を通じて民にみこころを表わしておられます。主の代弁者は自ら名乗り出た者ではなく、主によって召された人なのです。だれもその職を自らの手で取ることはできません。アロンの場合のように、神より召されなければならないのです。(ヘブル5：4参照)

教会は今からちょうど150年前に組織されましたが、その時主は教会員に、新たに召された主の予言者に心から従うように警告されました。「この故に汝ら教会員は、彼が上より受くるままに汝らに与うる誠命と彼の言とを皆心にとめてよく聞き、わが前に全く聖き道を履むべきなり。

そは彼の言は、汝ら全き忍耐と信仰とを以て、あたかもわが口より聞くが如くにこれを受け入るべきなればなり、」(教義と聖約21：4—5)

続いて主はこう約束されました。「これらのことを為さば、地獄の門も汝らに打勝たざるべし。而して、誠に主なる神は汝らの前より暗闇の力を追い払い、汝らの為と神の御名の栄光のためにもろもろの天をも震い動かしめん。」(教義と聖約21：6)

私たち教会員がなすべき主のみ業は、全能者により、恐れを知らない指導者たちの手に託されてきました。皆さんは支持の挙手により、私たちの予言者に従うことを誓いました。大管長は神の代弁者です。主はこの神権時代の教会の権能を受けた予言者に言及して、教会に対しこう語っておられます。「すなわち、また聖霊によりて感ずるままに語るべきことは彼らに対する範例なり。

およそ聖霊に感じたる時語るところはことごとく聖典の言となり、主の意となり、

主の精神となり、主の言となり、主の声となり、世を救いに導く神の能力となるべし。」(教義と聖約68：3—4)

キンボール大管長は、この教会が神から託された使命を全うする上で必要な鍵をすべて持っています。福音をすべての国家、民族に宣べ伝え、イスラエルの集合のために世界の津々浦々にシオンのステーク部を組織し、生者と死者の双方に神聖な儀式を施す聖なる神殿を建設する鍵です。

末日の歴代の予言者たちによって明らかにされてきたこの聖なるみ業は、この地を統治したもう神の子の再臨に備えるためのものです。神の御子は御父の栄光に包まれて再びこの地上に降臨したまい。義人に報いを与え、権能を行使して王国を確立し、義と平和の統治を行なわれます。このことについて書かれた聖句ほど明確な聖句はほかにないでしょう。「人の子は父の栄光のうち、御使たちを従えて来るが、その時には、実際のおこないに応じて、それぞれに報いるであろう。」(マタイ16：27)

この教会は、救い主と古代の使徒たちによって再び建てられたイエス・キリストの教会です。

私たちはキンボール大管長が神の予言者であり、世の人々にキリストの福音を教える上で私たちを導いておられることを証します。

永遠の父なる神は生きてましまし、同じく私たちすべての救い主である御父の肉による独り子も生きておられることを、イエス・キリストのみ名により証します。アーメン。



大管長 スベンサー・W・キンボール

「旅の途中で疲れてはならない」

「私たちに課せられているチャレンジについて、古代の予言者が適確に表現しています。『もしもこれらをみな信ずるならば謹んで実行せよ。』」

一 の大会に出席し、たくさんの教会幹部の方々から主の言葉を聞けることは、何という喜びでしょうか。私はこれまでと同じように、個人として、また全教会員を代表して、この総大会で受けた勧告と励ましに感謝の意を表するものであります。音楽を担当して下さった方々は、この大会に花を添えて下さいました。また出席された方々は、いろいろと心に深く考えるところがあり、きっと命のパンを得たことでしょう。そしてとりわけ、主は御自身のみたまをこの大会に注いで下さいました。このことに私たちは心から感謝するものであります。

しかしながら、私たちが受けたこの数々の恵みを、閉会の讃美歌と共に忘れ去ってはなりません。一つ一つの説教について、私たちは力を込めて「アーメン」と言ってきたはずです。この午後の大会の最後の「アーメン」がまだ耳の中にこだまする内に、それぞれの家庭に帰り、さらに充実した生

活をし、また2日間にわたって学んだ原則を実行に移すように決意しようではありませんか。

兄弟姉妹の皆さん、正しい原則を教わった人に課せられるチャレンジはいつも同じです。ひとりの古代の予言者がそのことを適確に表現しています。「もしもこれらをみな信ずるならば謹んで実行せよ。」(モーサヤ4:10) この大会で心に決めたことを、たとえ現実の世界の試練と苦悩と義務に直面しても忘れることのないようにしなければなりません。現実の世界は悩みと争いに満ちているからです。

私たちはしばしの間この世を離れてこの大会の場に集い、みたまが心に平安をささやくのを感じてきました。そして今私たちは、この世のそれぞれの持ち場に帰らなければなりません。しかし、今の私たちに、この世をもっと住みよい所とするための備えができています。全力で、また自信をもって主の業を推進し、待ち受ける難問に対

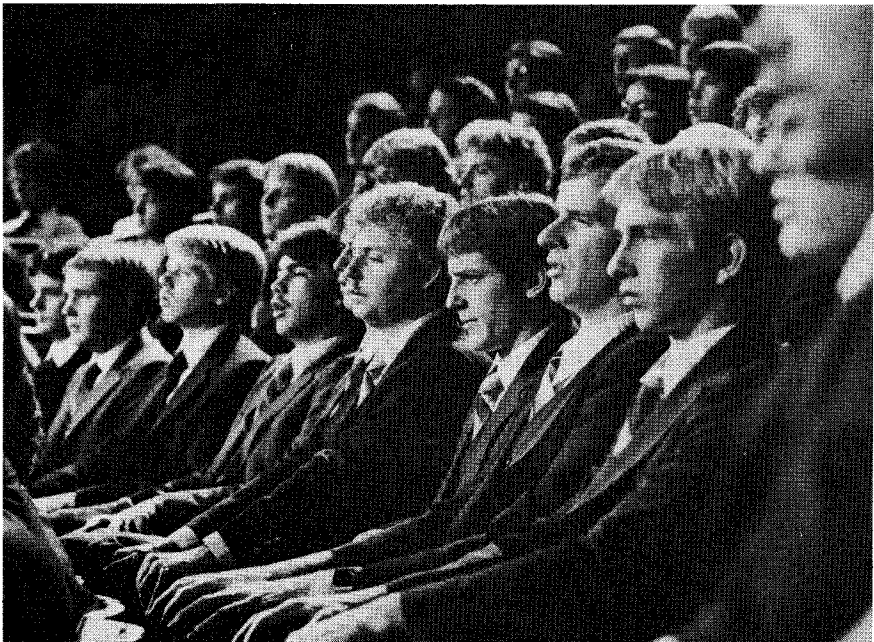
処しようではありませんか。ためらいながらではなく、着実に、みたまを通して得られるいついかなる時にも献身する姿勢をもって、堂々と前進しましょう。

この大会の数日間は、友人同士が顔を合わせ、聖徒たちが主からの勧告の言葉を聞く素晴らしい喜びの日々でした。もしも大会に集ったすべての人が、それぞれの家庭に帰って、受けた義務を果たそうと決意するならば、これほど素晴らしいことはないでしょう。

この世の中には、私たちにとってこれからむずかしい問題となるような出来事や傾向が見受けられます。そうしたものによく注意して下さい。このような動乱の世の中では、私たち自身も動乱の渦中に巻き込まれずに生活することは無理でしょう。しかし私たちは、^{いかり}錨がないために「様々な教の

風に吹きまわされたり、もてあそばれたりする」必要はありません。(エペソ4:14) 私たちは神の教会の会員であり、私たちに導いてくれる予言者たちをいただいています。また私たちには、羊飼であるキリストがついておられます。

しかし兄弟姉妹の皆さん、現代のコミュニケーションの世の中では、この世的なものを家庭から締め出すことは困難です。したがって私たちは、他の人々はどうあれ、まず私たち自身が先を見通す力を失わないようにしなければなりません。私たちの気持ちにくじき心を暗くさせるようなことを耳にしたとしても、決して落胆してしまうことのないようにして下さい。旅の途中で疲れてはならないのです。主のプログラムは、たとえ道半ばで放棄する教会員がいたとしても、進展を続けていきます。私たち



は主の業が、たとえ世の苦悩のただ中であっても、着実に発展を遂げていく様子を目のあたりにするでしょう。主の教会は転がり出て、全地に満ち充つるのです。主は私たちに何度も何度も確信を与えて下さいました。また私たちが戒めを守るならば必ず約束を果たすと言ってこられました。今もそう言っておられますし、それはこれからも変わりません。

私は、人生の中で何かを学び取ったとするならば、それは、私たちの息の続く限り実践し続けなければならないということだと思います。そのように行なえば、逆に、まだまだたくさん残していることがあるのに気づいてびっくりすることでしょう。

私たちはレーマン人のためのプログラムに強い印象を受けています。私は感動しています。私たちは今、このプログラムが現実のものとなっていることを認識し始めました。このプログラムが実際に進展し、世界中に拡大しつつあることに、私たちは何の疑いも持っていません。私たちは今行なわれている事業に誇りと感謝の気持ちを抱いています。それと同時に私は、レーマン人のみならず他の国々のあらゆる民にも、この福音を伝える責任があることをひしひしと感じています。彼らも福音に触れ、その教えを理解する必要があるのです。

教会の活発な会員の方々にもう一度申し上げたいと思います。私たちはここで心を開かれる数々の教えを受けました。さあ、出て行って私たちの家族や隣人や友人に祝福を与えようではありませんか。私たちは皆天父の子供であり、天父は私たちを愛しておられます。このことを通して、私たちはひとつの絆で結ばれるのです。

きょう私たちは、愛ということについて

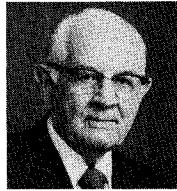
たくさんの方のことを聞きました。私は、これまでの半生の間訪れた世界中の国々に思いをはせる時、その国とそこに住民に対する愛で胸が一杯になるのを覚えます。訪問するたびに私たちを歓迎して下さいた国民の皆様ならびに一人一人の教会員の方々に心からの感謝の意を表します。

兄弟姉妹、私は人に、彼は兄弟姉妹を愛する人間だ、と言われたと思います。そしてその愛が、この大会に参加しそして主の業を遂行するためにこの場を後にするすべての人々の手によって、遠くにまた近くに伝えられることを望んでいます。

主は生きておられます。神は生きておられます。イエスはキリストです。イエスは肉における独り子であり、世の救い主、贖い主です。心から謹んで証をします。私たちは主の証し人です。私たちは主が常に私たちを見守りたもうことに、またそのみ旨とみ業と賜に心から感謝しています。

愛する兄弟姉妹の皆さん、主が皆さんを祝福されますように。この大会を契機にさらに力を得て、人生において達成しようと計画したことを実行に移すことができますように。それだけでなく、以前にも増して効率よく実行できるように願っています。また、主の祝福の必要な無数の人々に手を差し伸べ、福音がここにあり、主が神であり、イエス・キリストが贖い主であり、そしてこの業にあって私たちがキリストにすべてを委ねることができることを伝えて下さい。

主が続けて皆さんを祝福したもうように。それぞれの家庭や国に戻られたならば、私たちの心からの愛をお伝え下さいますように。神の祝福が皆さんの上にあらんことを。イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。



大管長 スペンサー・W・キンボール

什分の一の律法

「この義務を完全に果たさない人は重要なことを怠っているのであって、それは単なる不注意ではなく、罪です。」

愛する兄弟姉妹の皆さん、きょう私がお伝えしたいことは、決して耳新しいことではありません。什分の一の律法とそれに関連した福音の原則はあらゆる神権時代の予言者がはっきりと教えてきたことです。時の初めより、私たちは、「地とそれに満ちている物とは、主のものだからである」(1コリント10:26)と教えられてきました。この地に「満ちている物」の中から、その什分の一を主に捧げるよう主は求めておられるのです。什分の一は神の律法であり、神に従う者の義務であります。この義務を果たすことのできない人は、重要なことを怠っていることになります。

私たちはこの問題について、教義と聖約119章にあるこの神権時代の主の言葉から知識を得ることができます。

時折大管長会事務局に、正しい什分の一とは何かという質問が寄せられます。

それに対して私たちは一貫して、私たちが承知している最も簡潔な言葉、つまり主

御自身の言葉で答えてきました。すなわち教会員が「毎年彼らの得る全利益の什分の一」つまり収入の什分の一を納めるべきだという言葉です。(教義と聖約119:4参照)

主に仕えても空しいと思いはじめるときがあるかもしれません。しかしそのような時こそ、私たちは信仰を奮い立たせ、神の豊かな約束を信じ、戒めに従い、忍耐強く待つ必要があります。主は必ずすべての豊かな約束をかなえて下さるでしょう。パウロは次のように述べています。「目がまだ見えず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた。」(1コリント2:9)

従順な人々にはこの世における大いなる約束が与えられています。例えば、什分の一を納める人々には次のような約束があります。

「わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の

窓を開いてあふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。

わたしは食い減ぼす者を、あなたがたのためにおさえて、あなたがたの地の産物を、減ぼさないようにしよう。また、あなたがたのぶどうの木が、その熟する前に、その実を畑に落すことのないようにしようと、万軍の主は言われる。

こうして万国の人は、あなたがたを祝福された者ととなえるであろう。」(マラキ3:10-12)

先程も述べたように、この神権時代において什分の一の律法を確立することとなった主のみ言葉は、1838年7月8日、ミズーリ州ファーウェストにおいて予言者ジョセフ・スミスに与えられ、教義と聖約の119章に記録されています。それから10日後に、主は予言者ジョセフ・スミスに教義と聖約120章に記されている新たな啓示を与えられ、教会の什分の一を、大管長会、十二使徒定員会、管理監督会から成る評議会によって正しく処理すべきことを明らかにされました。そして今日でも、啓示によって指示されているように、18名の教会幹部から構成される「什分の一処理評議会」が主の靈感のもとに定期的に会合を開き、教会の什分の一の支出の決定と承認を与えています。皆さんがよく御存じのように、教会は赤字支出を行なっていません。教会の神聖な基金は綿密な予算管理のもとに、支出が収入を上回ることはないように計画されています。

ジョセフ・F・スミス大管長は、1897年10月の大会でこの同じ壇上から什分の一の律法について次のように述べています。

「什分の一の律法の目的は、すべての州、

国家、世界の自治国で行なわれている歳入の規定に似たものであると私は思う。何か大切な目的を持った組織で、その意図を達成するための手段を用意していないものはない。什分の一の律法は、末日聖徒イエスキリスト教会の歳入を規定するものである。この規定がなければ、主の目的を達成することは不可能であろう。」(「福音の教義」p.219)

時間の関係で、おじのジョセフ・F・スミス大管長が語った什分の一に関する麗わしい話について詳しく述べることはできませんが、それは彼の母、メアリー・フィールディング・スミスに関することです。メアリー・フィールディング・スミスは殉





教した大祝福師ハイラム・スミスの妻でした。彼女がソルトトレークの谷に到着してからの心温まる、しかも信仰の高まる話です。彼女は現在ホテル・ユタが建っている通りの向かい側にあった什分の一管理事務所で、什分の一を納めることで彼女をいさめたひとりの兄弟に向かってこう言いました。

「とんでもないことです。あなたは私から祝福を取り上げようとなさるのですか。什分の一を納めなければ主は私に祝福を下さりませんわ。私が什分の一を納めるのは、それが神の律法だからというだけではないんです。そうすることによって祝福が得られるからです。什分の一やそのほかの律法を守れば、必要なものに恵まれ、家族を養って行けると信じているのです。」(「福音の教義」p. 222)

私は皆さんに、「福音の教義」に書かれているこの話をぜひ一度初めから読んでみるようにお勧めします。

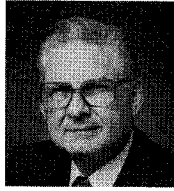
兄弟姉妹の皆さん、繰り返し申し上げますが、什分の一は神の律法であり、神に従う者の義務です。この義務を完全に果たさ

ない人は重要なことを怠っているのであって、それは単なる不注意ではなく、罪です。

什分の一の律法は神聖な戒めであり、天父の子供たちすべてに当てはまるものです。聖書を信じる者は皆、什分の一の律法が神の律法であることを信じる必要があります。しかし末日聖徒ほどその意味を理解し、この律法を守って生活している人々はいません。それは、この什分の一の律法が近代の子言者によって再び私たちに告げ知らされたからです。

什分の一の律法の中には絶えず、次のような主のみ言葉が響き渡っています。「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい。」(マタイ22:21)

兄弟姉妹の皆さん、この主の重要な律法が神から与えられたものであることを証します。天父が皆さんを祝福して下さり、すべての聖徒が同じ証を持つことができるように祈っています。皆さんの上に祝福があるようにイエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。



管理監督 ビクター・L・ブラウン

「必要なる物を ことごとく調べよ」

「最近、個人と家族の備えが十分にできていない人が大勢いることが次第に明らかになってきました。」

愛する兄弟姉妹の皆さん、けさ私は深く憂慮しているひとつの事柄について皆さんに申し上げたいと思います。皆さんも御存じのように、古代イスラエルの民はヨルダン川を横切って約束の地に入るまで40年間も荒野をさまよいつづけました。私たちがひとつの民として、この40年間個人と家族の備えの大切さについて教えられてきました。私たちの福祉に関する第一の責任は私たち自身にあり、次いで家族にあると教えられてきました。そして、これらの援助手段が困難になった時にはじめて教会の助けを求めます。しかし最近、この個人と家族の備えが十分にできていない人が大勢いることが次第に明らかになってきました。

過去1年間、監督による断食献金と物資の供給が不安な状態になっています。現在の供給率で行きますと、教会の財源は短期間の内に使い尽くされてしまいます。事実、ある物資はすでに底を尽き、そのためにし

ばらくは品不足が続くことは明白です。こうしてみると、個人と家族の備えに対して誤解があるか、あるいは知っているもそれを実践していないかのどちらかであろうと思われます。教会員の中には、優先順位が適切であったならば十分備えができたにもかかわらず、困難な状態が来たら教会が援助をしてくれるものだと考えている人が大勢いるようです。

以前、ふたつのステーキ部を訪問した時に、私が今指摘しているようなことを実際にこの目で見てきました。双方とも末日聖徒が圧倒的に多数を占めている地域にあるステーキ部です。ところがどちらのステーキ部も、深刻な雇用の問題を抱えていました。一般に私は、ステーキ部大会で見知らぬ地を訪れる時、そこに住んでいる人々への理解を深めるためにその隣近所や地域を回ることにしています。たとえば、庭の手入れは十分になされているだろうか。古く荒れはてた納屋や小屋、敷地はきれいに整

理され、柵が施されているだろうか。他の言葉で言えば、そこに住んでいる人々が自分たちに対して、あるいは地域に対してどれだけの誇りを持っているだろうかということです。

先程述べた最初のステーキ部では、家や庭もきれいに手入れが行き届いています。一見、町も繁栄していると思われる、いわゆる中流階級の人々が住んでいる地域でした。車寄せに置いてあるキャンパーやボートを見て恵まれた地域だと思う人も少なくないでしょう。私はステーキ部長会の方々と会って、人々が豊かになっていることがよくわかると述べました。ところが、そこに住んでいる人々の福祉の必要を検討し、彼らが断食献金や監督の倉庫に依存している実情を見て、私は愕然としたのです。

ステーキ部長の言うところによると、ある大手会社の倒産後1、2週間の内に、大勢の家族が監督たちに援助を求めてきたとのこと。彼らは自分たちの生活を支えるだけの準備がなかったのです。しかし中には忠実な教会員もいて、自分たちの必要を満たすだけでなく、隣人にも援助をしていました。

この最初のステーキ部からかなり離れたところにある2番目のステーキ部も同じような雇用の問題を抱えていました。しかも家屋はきれいに整理整頓され、それでいてぜい沢に思われるところはどこにも見当りませんでした。しかも驚いたことに、このステーキ部では断食献金も監督の指示書も一切使われていないのです。

私はステーキ部長に、これは監督がこのプログラムをよく理解し、貧しい人、困っている人を助ける責任を果たしているからでしょうかと尋ねました。するとステーキ

部長はこう答えて下さいました。「もちろん、中には監督から援助を受ける必要のある会員たちもいます。しかし、ほとんどの会員が自分たちの福祉は自分たちの責任であることを認識し、自分たちで賄うことができるように備えています。」

お分かりいただけると思いますが、このふたつのステーキ部の会員たちが持っている優先順位には大きな違いがあります。最初のステーキ部の多くの会員たちは、準備もせずに、教会が世話してくれるのを待っています。しかし2番目のステーキ部はそれと全く反対に、大部分の会員が自分の必要を満たすようによく準備しているのです。

次に、ある個人の例を挙げて、そこにどのような問題が隠されているか示してみたいと思います。

数カ月前のことですが、ある若い夫婦が健康保険を解約することにしました。とても保険料を払っていくことができないと思ったからです。大学院の費用が高くなり、インフレーションがひどくなってきたことにより、教会幹部の勧告を無視せざるを得なくなったわけです。ところが、ふたりに赤ちゃんが生まれ、その子が未熟児で余病を併発し、その治療のために膨大な費用がかかることになりました。彼らは心を痛め、怖くなってまず家族に相談しました。家族はすぐに相当な援助をしてくれました。それでも少し足りなかったのが、彼らは監督のところを持って行きました。監督は不足分を断食献金の中から援助しました。もし保険をずっと続けていたら、ほとんど自分たちだけで支払うことができたはずなのです。

ある若者が職業学校は勉強がきつく、費用もかかるということで、学校を中退しま

した。そして結婚した彼は、賃金の低い食料品店で働くようになりました。ところが、赤ちゃんが生まれると、彼の収入だけでは家族の基本的な必要ささえも十分に満たすことができません。両親に話すには少し気がひけるということで、彼は監督に援助を求めてきました。

またある家族は月曜日の夜に家庭の夕べを開く代わりにテレビのスポーツ番組を観ていました。何週間も何か月も、家族の祈りや福音に関する話し合いもなければ、聖典を読むことや実りある家族の活動を行なうこともありませんでした。ところが今、20歳前の娘さんが家出をしてしまい、両親は監督に助けを求めてきました。

これらの例はどれを取ってみても、会員たちが個人と家族の備えの原則を実践していたら避けられたような問題です。合衆国やカナダ以外のほとんどの国では、福祉活動プログラムがまだ十分に実施されていませんが、それでもこの個人と家族の備えの原則は広く全世界の教会員すべてに当てはまります。もちろん、このプログラムを実施する際にある面において政府の規制を受ける国があることもよく承知しています。

それでも末日聖徒は法律の許す範囲で教えに従わなければなりません。

ステーキ部の指導者たちがこの福祉活動集会で学んだことを監督や定員会指導者、ワード部扶助協会会長に伝え、教会員の皆さんが私たちの言う基本的な原則を会得し、自分たちの家を整えることを生活の中で実践できるようにしていただきたいと私は心から願っています。(教義と聖約90:18参照)

監督は貧しい人や困っている人の必要を満たす責任があります。そしてだれに、どのような形で援助をするかを決めます。また、その援助が人々に祝福をもたらすものとなるか、単に施しとなるかを判断します。そして正当な援助を受けるべき人が見過ごしにされることのないようにする責任を持っています。

冒頭に述べましたように、この原則が教えられてすでに40年になります。しかし実際はキンボール大管長が述べているようにずっと昔から教えられていたのです。1868年7月25日、ブリガム・ヤング大管長はミル・クリークワード部で語った説教の中で次のように述べています。

「私は末日聖徒が、私たちの知っている



この地上の人々の中で最良の人々であると信じている。それでも多くの点で、私たちは怠慢、怠惰であり、主のみ言葉に従うことに遅いと思っている。私たちが自立しようとしなくても神が私たちを助けて下さるといった信仰で動いている人が大勢いるようである。私たちはいなごが飛来してきて作物を荒すのを恐れている。……私は予言者の塾で、人々が資金の浪費をやめ、主に食べさせてもらう代わりに、もう少し良識を働かせ、自給自足できるように財産を蓄えてもらいたいと述べたことがある。そうした考えを、私は長い間持ち続けてきた。また私に与えられた助言にも注意を払ってきた。過去何年間も私たちは、窮乏の時でも潤いのある生活ができるように穀物を積み上げておくことを教えられてきた。恐らく、主は私たちの一部にききんを起こすだろう。ききんは恐らく私たちの隣人を襲うに違いない。主は私たちが今味わっているような時代を再びもたらすと言われている。しかし、もしも私がこの助言に耳を貸さず、来るべき日を無視していたとしたら、今の私はどうなっていたであろうか。

このことに関する末日聖徒の反応と与えられた助言に対する彼らの怠慢に目を向けていただきたい。もし今季と来季、虫が作物を荒すのを主が許されたとしたら、私たちはどうなるのだろうか。この民の顔には、死と悲しみ、欠乏の様相が浮かんでくるであろう。ところが、ある人は「主を信じていますので、主はそのままにしたりはしないはずです」と言うかもしれない。そうした希望的な見方が出てくる根拠は何だろうか。天父が私たちに使う剣と自分を守るために戦う腕と頭を与えて下さっているというのに、私たちが、「われのために戦いたま

え」と天父に願ってよいものだろうか。自分のために戦ってくれるよう天父に頼んでおいて、天父が行なうのを指を食わえてじっと待っている。そのようなことができるだろうか。私にはできない。人々が知恵ある言葉に耳を傾け、勧告を受け入れるよう祈ることはできる。しかし自分ができることを神に頼むなど、私の頭ではとても考えられないばかげたことである。末日聖徒を見ていただきたい。畑には何年間もの作物が植え付けられている。この傾向をこのまま維持していくならば、箱はあふれんばかりに一杯になり、「7年分の蓄え」によって、害虫の被害などもともしなくなるであろう。私たちは損害を埋めるために一生懸命に働き、苦労を重ねるのではなく、谷に入り、材木を切り、資材を求めて私たちの住居を建て、それを美しくすることができる。また、垣根を作り、建物の補修をしてシオンを麗わしい所とすることができる。さらに土地を休ませ、害虫がいなくなるまで待つこともできる。しかし、現在人々は混乱している。……物資が不足し、問題を抱え、途方に暮れている。人々は何をしてよいかわからない。何をすべきか告げられてはいたが、その勧告に聴き従わなかったからである。」（「説教集」12：240—41）

ブリガム・ヤング大管長はさらにこう続けています。「私たちは聖きみたまのさきやく声に耳を傾けるすべを身につけなければなりません。そして、私たちが信仰の一致に到達するまで神の僕の勧告に従わなければならないのである。私たちがこの勧告に従っていたならば、今日穀物の倉庫はたくさん建ち、しかもその中は一杯の穀物で満ちあふれていたことであろう。小麦やオート麦、大麦は私たちだけでなく、家畜の飼料



ともなり、長年にわたって生命を永らえるものとなっていたであろう。」(『説教集』12：141)

さらにヤング大管長は次のように述べています。「モーセが山に上っていた時、人々〔イスラエルの民〕はアロンにモーセの居所を尋ね、自分たちに先立って行く神を造るよう要求した。そこでアロンは人々に耳飾りや宝石を持ってこさせ、金の子牛を造った。人々はその周りを跳び回り、金の子牛が自分たちをエジプトの地から救い出す神であると言った。そのために、どのような良い結果がもたらされただろうか。ちょうど私たちと同じように、豊かな時には穀物を蓄えず、いなごがやってきた時に、『主よ、どうかいなごを追い払い、私たちを救って下さい』と泣き叫ぶ。それはちょうど、ある男が船の甲板に出て、広々とした海原に向かい自分の信仰を見せてやると言い、甲板から飛び降りて、『主よ私を助けたまえ』と叫ぶようなものである。そうまで極端ではないにしても、主が私たちに与えて下さったものを捨て、むだにしてしまうのは全くばかげたことである。そしてふ

だん浪費しているにもかかわらず、必要になると主に求める。主はこれまで私たちに、ずっと続けて祝福を与えてこられた。したがって主は、なぜあなたがたはなぜその祝福を受けようとしないのかと主は問われるであろう。」(『説教集』12：243)

私は、これまで何もなされていないと申し上げているのではありません。1年分の貯蔵をし、自分たちで踏っている忠実な聖徒たちも大勢います。彼らは従順に備えることによって得られる平安をよく知っています。私たちが受け取る手紙にも、多くの家族が菜園を造り、食糧や衣服、その他の物資を1年分備蓄するように努力していることが記されています。また家族全員でこの物質的な福祉に取り組むように働きかけている両親もいます。

最近受け取った手紙にこう記されていました。「僕は家で食糧貯蔵の責任を受けています。今年で10歳になります。僕は、教会で発行している『家庭における生産と貯蔵』というパンフレットが大好きです。ほかによい資料があったら、ぜひ送って下さい。トラビス・リール〔署名〕」

私たちが関心を寄せていること、そしてまた私がきょう最も伝えたいことはこの壇上で何度も繰り返し述べられていることですが、福祉プログラムが教会の備えではなく、個人と家族の備えの基本的な原則の上に成り立っているということです。私たちが心配しているのは、教会が生産事業、かん詰工場、監督の倉庫、デゼルト産業、その他の有形の活動をプログラムとして行なっているために、自分たちは自給自足する必要がないと教会員に誤って解釈されることです。このような思い違いがあるのは、過去数カ月断食献金や監督の倉庫の物資による支給が急速に増加していることを見ても明らかです。

私たちは非常に困難な時代、恐らく最近の歴史の中で最も困難な時代に生活を営んでいると言えるでしょう。経済は総体的に見て調整が不可能になっているようであり、多くの地域で失業が増加しています。インフレーションは世界のほとんどの国々に侵透し、個人の負債も驚くほど増えています。若者が家を買うのは不可能に近い状態です。家を購入した大勢の人々は毎月の支払いに追われ、非常時に備えるなどとてもおぼつかない有様です。

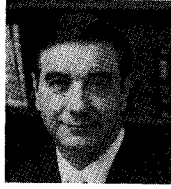
私たちはある期間貯えをして、借金をしないように教えられてきました。また必要なものを買ひ、順番に使うように、しかも常識を用いて自立と自給自足ができるように備えることを教えられてきました。この教えについては常軌を逸した極端なところは全くありません。私が心配しているのは、現在の私たちが、ブリガム・ヤング大管長が述べているような状態にあるのではないかということです。

「私たちはこのことの起こる前にも一度、

いなごとの戦いをこの目で見てきた。それから2年が過ぎた。2年間もの期間があった。もしも来年、豊作にでもなろうなら、人々は今ほどいなごの襲来について考えなくなるであろう。その翌年となれば、なおさらである。そして4,5年後には、完全に彼らの意識から消え去ってしまう。私たちはこれらの害虫の影響から完全に逃れることができる。私たちが何千、何万トンの小麦やライ麦、大麦、とうもろこしを貯蔵し、〔害虫に向かつて〕『食うものなら食ってみろ。おまえたちのために種をまいたりほしないからな』と言ってみなさい。それから土地を耕やし、肥料をまき、種はまかずに土地を休ませる。そうすれば、いなごが私たちが働いて得たものを食い荒らすこともない。私たちはシオンを麗わしい所とし、私たちが住んでいる所を住みやすい所することに専心できるのである。』（「説教集」12：242）

兄弟姉妹の皆さん、私たちの心配は間違っていないと思います。多くの人は私たちの前途にはもっと大きな困難が待ち受けていると述べています。私たちは教会員の福祉に深い関心を抱いています。一人一人が、また家族が主のみ言葉を受け入れなかったならば、将来必ず窮乏と苦難の時が来ることを私たちは知っています。主は、「組織して必要な物をことごとく調えよ」（教義と聖約88：119）、「されどその事たるや、必ずわが道に適いて行われざるべからず」（教義と聖約104：16）と言われました。

願わくは、神権指導者や扶助協会の指導者たちが全世界の教会員に自分の福祉に対する責任を理解させ、教会員が豊かな正しい生活をするように祈っています。イエス・キリストのみ名によりて。アーメン。



管理監督会第二副監督 J・リチャード・クラーク

信仰ある家族

「福祉プログラムの本質は私たちが家族として自立するところにあります。」

愛する兄弟姉妹の皆さん、いつの時代の人々にとっても最大のチャレンジは予言者の声はどう応えるかということです。現代の予言者は私たちに次のように勧告しています。

1. 個人の義を高める。
2. 収入の範囲内で生活し、借金を避ける。
3. 1年分の食糧、衣服の生産と貯蔵を行ない、できれば燃料も1年分貯蔵する。

この明確な勧告にすべての人が従っているわけではありません。信じて実践している人もいますが、嵐の前兆である黒雲がたちこめるまで何もしないで待っている人もいます。またこの勧告を拒否している人もいます。

昔、村人が羊飼いの少年にこう言いました。「いいかい。おおかみを見たら、おおかみだ！おおかみだ！と大声で叫びなさい。鉄砲とくま手を持ってかけつけるからね。」

次の日、少年が羊の番をしていると、遠くにライオンの姿が見えました。少年は大声で叫びました。「ライオンだ！ライオンだ！」しかしだれも来ませんでした。ライオンは羊を何匹か殺してしまいました。少年は落胆して言いました。「私があれば大きな声で叫んだのに、なぜみんな来てくれなかったんですか。」

村人は答えました。「この辺りにはライオンなんていないのだ。わしらが恐れているのはおおかみだよ。」

羊飼いの少年はこのことを通してひとつの大切な教訓を学びました。

人は信じようという心の準備のできていることにしか対応できないのです。教会幹部の皆さんは時折、経済の現況や個人と家族の備えの必要について大胆な言葉を使うのを避けることがあります。そのような言葉を使うと、問題の傍観者たちは話を社会的な危機と勝手に解釈して、貯蔵している人々に先を越されまいと大勢の人々が食料

品店に押しかけるのです。

1976年4月、フェザーストーン副監督は教会員に、1977年4月までに1年分の食糧貯蔵をするようにという年間目標を提案しました。家庭貯蔵プログラムを実施していなかった人々は、あわてて借金をし、数百ドルもの食料品を買い込みました。彼らは、予言者ヨナがしたように、ニネベの町で何が起るのかと、目をこらしていました。あたかもフェザーストーン兄弟が終わりの日を正式に1977年4月1日と定めたかのようでした。しかし、彼はそのようなことを言ったのではありません。主の道はひらめきで動いたりするものではなく、また、混乱や恐慌を引き起こすものでもありません。いつも秩序ある備えの上に立っているからです。

私たちはもっと賢明な管理人にならうではありませんか。歴史が教える教訓について考え、また予言者に耳を傾けない人々がなめた経験から学ぼうではありませんか。ギボンズ、トインビー、デュラン、その他の著名な歴史家たちは偉大な文明の衰退の原因を分析し、繰り返し同じことを述べています。その原因と結果を、ひとつのアメリカ人教育者が6項目にまとめています。

1. 人々が宗教上の信仰を失い、基本的な道徳観を軽視する。
2. 性に耽溺する。
3. 貨幣の実質価値を低下させ、インフレの急激な浸透を招く。
4. 正直に働くことが美德とみなされなくなる。
5. 法秩序が崩壊し、個人や集団の欲求を達成するために暴力が一般に用いられる。
6. 最後に、人は軍人になるのを嫌い、国家と伝統を守るために戦おうとしない。」

(ケネス・マクファーランド博士, "Bicentennial America's Opportunity" 「アメリカ200年の条件」, サンフランシスコ, フェアモントホテルで開かれたアメリカ独立石油協会全国大会での説教より)

兄弟姉妹の皆さん、私たちの国家はこのような破壊を免れる賢明な道を歩んでいるのでしょうか。私たちは歴史の流れを変える備えができていますでしょうか。私たちの政治的な権利と責任を行使し、また社会への奉仕を通じ、さらに個人として正義を貫くことによって、この国を私たちの力の及ぶ限り、専制と財政的、道徳的な崩壊から救わなければなりません。しかし恒久的安寧は、私たちが主の予言者に従うことによるのみ実現可能であることを忘れてはならないのです。

教義と聖約の101章で、主は聖徒たちが主のみ言葉になかなか耳を傾けないのを見て、次のように言われました。「主は彼らの祈りに耳傾けて事ある時に彼らに答えることを遅くす。事なき時に、彼らわが助言を軽んじたり。されど事ある時は、彼ら止むを得ずわれを探し求む。」(教義と聖約101:7-8)

同じ啓示の中にあるぶどう園のたとえ話にも力強い教えが述べられています。皆さんも御存じのように、ぶどう園の主人は人を雇って、ぶどう園に12本のかんらんの木を植えさせました。その周りに囲いをめぐらし、やぐらを建て、番人を置きました。ところが、僕たちは集まって協議しましたが、「今は平和なる時なるに」(教義と聖約101:48)主がなぜこのやぐらを必要とするのかよくわかりませんでした。彼らは委員会を開きましたが、「互いに意見合わさる中に、甚しく怠惰となりて……然るに、敵夜

の中に来りて生垣を壊りたり。」そして僕たちを追い払い、「彼らの造れるものを打ちこわし、また『かんらん』の木をそこなえり。」(教義と聖約 101:50-51) 不従順の結果はこれほど恐ろしいものとなるのです。主の教えに素直に従っていた方がどんなによかったかしれません。

いつの福音の神権時代をとってみても、真に神から選ばれた高貴な人々、雄々しく忠実な聖徒たちが見られます。彼らは個人としてあるいは家族として雄々しく忠実な生活を送りました。彼らが尊ばれ、記憶に留められるのはこの世の標準で測ったためではなく、彼らが持っている力強い信仰によるのです。彼らは神に従うことは神聖な義務であると考え、そして神を愛し、神を信じ、全身全霊で神に仕えます。彼らはあらゆる時代における神の教会の骨格であり、筋肉であり、筋とも言える人々です。彼らは信仰ある家庭を築いています。そのような人々の口をついて出てくる言葉は次のような言葉です。

「われその故を知らず、ただ主の誠命に従うのみ。」(モーセ5:6)

「わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」(ヨシユア24:15)

「私は主が命じたもうたことを行って行く。」(1ニーファイ3:7)

「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように。」(ルカ1:38)

「私は、へりくだって主にこう申し上げたいと思う。『この山地をわたしにください』、『これらのチャレンジを私にください』と。……

私は、私の精力と能力の限りを尽くして、『全くわが神、主に従う』つもりである。」

(スペンサー・W・キンボール「聖徒の道」
1980年3月号, p.112)

兄弟姉妹の皆さん、主が私たちに行なうように命じられる時、私たちはいつもその理由を知っているわけではありません。主の道は人の道と同じではないのですから。しかし、これだけははっきりしています。主の道はまっすぐであるということです。人が歩むような曲がった道ではありません。私たちは信仰を福音の第一原則として受け入れています。しかし、まず行動を起こし、それから確認をいただくほど私たちは主を信頼しているでしょうか。人はそれを盲従と呼ぶかもしれませんが。アイダホ州のひとりの監督はよくこう言っています。「どのような形の従順にしろ、不従順よりもよい。」信仰は盲従ではありません。しかし信仰の試しを受けた後でなければ、証を受けられないこともしばしばあります。もし私たちがこれまで不従順であったならば、きょう



悔い改めを決意し、私たちの家を秩序の家にしようではありませんか。

それを達成する最良の方法は、物質的な面で聖徒が直面している、3つの重大な問題に予言者の勧告を実行することです。(1)個人の収入と支出の管理の必要、(2)仕事の質と生産性の低下、(3)現金と物資による蓄えの不足。

財政管理の必要については、1979年10月の総大会でタナー副管長が述べた「不変の原則」という話（「聖徒の道」1980年3月号）を参考にし、それを細かく研究して下さい。健全な家計管理には、正しい予算計画が必要です。私たちは皆、予算計画の訓練を受ける必要があると思います。

私たちは負債を避けるように勧告されています。この指示は永年にわたり解釈上の問題を投げかけてきました。どのようにすれば、負債なしに、家を買ひ、教育や事業に投資することができるでしょうか。クラーク副管長が、疫病を避けると同様に負債を避けなさいと言われた言葉の中には、この世における調和という重大な原則が教えられているようです。借金は重荷ですが、借金が必要な場合もあります。仕事上の負債、家を購入するためのローンなど、「担保つきの」借金はほとんどの人にとって避けることのできないものです。しかし、理由もなしに衝動買いをするためのクレジットカードの乱用は負担以外の何ものも残りません。

大抵の人々にとって、消費者金融からの借金は危険であり、安易にできるが故に抑制するのが難しくなってきます。もちろん、現実に必要なものや、当面の不足を満足させることもできます。広告はぜいたくが私たちの権利であり、私たちにとって必要な

ものように宣伝します。かつてはぜいたく品であったものが、今は必需品になっているのは非常に興味あることではないでしょうか。

クレジットを利用する時の指針として次のような点が考えられます。必要な時だけ借りること、できるだけ低い利率で、しかも返済を短期間にするということです。そのためには、欲求を抑え、昔から言われている儉約の美德を守っていくことです。借金をして、それをインフレによる経済変動で返済していこうとする陰険な哲学があります。私はそのような考えを受け入れることができません。もし私たちが皆そうした前提のもとに動くとしたら、経済の仕組みは完全に覆されてしまいます。借金を適正な限度内に抑えている限り、借金に追われることはないでしょう。しかし将来の収入をあてにして借金を重ねることは私たちを経済的な破綻へ追いやることになります。

収入と支出のバランスを維持する最善の方法が、支出を減らし収入を増やすことにあることは言うまでもありません。しかし大抵の場合、収入を増やす方よりも支出を減らす方が簡単です。教会員の皆さんが現在の知識や技術に満足して「中庸の共謀者」になってしまうことはないでしょうか。仕事に対する誇りは常に自由競争社会の真髄となるものです。現在、技術者になるために代価を払おうとしない商人、教えない教師、修理をしない修理屋、農耕をしない農夫、人を導かない指導者、問題を解決しない問題解決者などが多過ぎます。

私たちの働きは正直で、質の高いものでなければなりません。私たちがこの世の富を分かち合う正しい唯一の方法は、他人が造り出した製品やサービスを自分のものと



交換することです。もしも私たちがモルモン独特の、その傑出した働きの故に他に類を見ない、質において高い標準を維持するというチャレンジに応えるならば、どこへ行っても求められ、最大の報酬を受けることでしょう。これは私たちの宗教が教えている事柄です。

時の初めから教えられていることを繰り返してみたいと思います。アダムは主が経済学について教えられた最初の教えの中で、汗と頭と筋肉で地を従わせ、支配しなければならないことを学びました。この労働の原則は決してなくなることはありません。神が与えられた原則だからです。主は怠惰をのろい、シオンに住む両親に子供に働くことを教えよと命じられました。傑出した働きをするためには高い代価を払う必要があります。しかしその報いと物質的霊的な満足は本当に価値あるものです。能力以下に働きをとどめることは、当人には大きな飢えを感じさせると同時に、社会にとって大きな損失です。教会の永遠進歩の教えには確かに職業における進歩も含まれていま

す。私たちは、自分の可能性を最大限に伸ばす生涯の仕事を持たなければなりません。

最後に貯蔵品の不足についてですが、神は御自分が創造された生き物に、必要な時に備えて余剰を保存する本能を与えられました。それにもかかわらず、人間は収穫したもののすべてを浪費し、将来の必要を満足させるのを成り行きに任せたり、他人まかせにする傾向をたどってきました。これは神の律法に反するものです。儉約は正義の原則です。消費が生産を上回ることはあってはならないのです。経済上の無制限な自由は私たちが造る余剰から生まれてくるものです。

私たちは、食糧貯蔵だけでなく現金も貯える必要があります。儉約の習慣を育み、子供たちに私たちが得るすべてのものの一部は保存に充てるべきことを教えて下さい。インフレが預金の購買力を低下させることは事実ですが、預金があれば購買力もないはずです。

次に大きな蓄えは家屋を取得することです。私たちが一番心配しているのは、多くの家族が背伸びし過ぎたために、借金の重荷が家を持ったことから生まれる利点に影響を落としていることです。もう一度繰り返しますが、私たちは必要なものと欲しいものをはっきり区別しなければなりません。

蓄えの不足に関連する最後の問題は、将来の大きな損失に対して保険を掛けることです。収入を得る能力が私たちの最大の財産であることはだれもが認めるところであろうと思います。その収入を得る者が自分の生命に保険を掛けることは、家族の将来の収入を保証することになります。私たちが若くしてこの世を去っても、夫をなくした妻が働きに出て、なお主婦としての役割

を果たすというような二足わらじをはかせないようにして下さい。私たちは適切な保険計画を実施することによって多くの自由を妻に与えることができます。

家族の皆さんが適切な健康保険に加入するよう勧めます。医療費の高騰は驚くべきものがあり、保険に加入せずに個人の貯金にだけ頼ることは大きな危険が伴います。このインフレの時代では、医療費の高騰が貯蓄の増加をしにくいままです。

福祉プログラムの発足当初から、福祉プログラムに批判的な人々もいました。しかしどのような解決策をとっても問題にする人はいるはずで。エジプトにいたイスラエルの民の中にも、紅海をどのようにして横断するかをモーセが説明するまで家を離れようとしなかった人も大勢いたに違いありません。主は、イスラエルの民がモーセに従って紅海の岸に来るまで、人々にその道を示されませんでした。

兄弟姉妹の皆さん、災害はいつ、どのようにして家族に降りかかるかわかりません。ミシガン州では自動車工場が次々と閉鎖され、人々は経済資源を脅かされ、失業者が増加しましたが、そのひきがねとなったのは決して全国的な大恐慌ではありませんでした。もし私が長期間歩行不能になれば、大災害が起こった時と同じように、収入は途絶えてしまいます。私たちは嫌な状況を目にすると、自分とは無関係だといった態度で見過ぎにしてしまいます。あるアメリカ大統領候補者は先日、こう言っていました。「自分の隣人が失業すれば、景気後退であり、自分が失業すれば、不景気である。」

ある人は、食糧を買うお金がある限り安全だと考えているようです。お金は食糧ではありません。店や倉庫に食糧がなくなっ

たら、お金で生命を維持することはできないのです。ロムニー副管長やクラーク副管長は、私たちはいつの日か自分たちで生産したもので生活するようになると警告しています。

ひとつ明確にしておきたいことがあります。教会の福祉活動プログラムの本質は、私たちが家族として自立するということです。教会の倉庫資源制度は、貧しい人々、または肉体的な障害を持っている少数の人人のための、あるいは非常時、災害時のための支援制度です。教会は一機関として、個人に属する責任まで引き受ける意向は全くありません。福祉プログラムはそのような目的で始められたものではありません。個人と家族の備えをすることが主が望んでおられる方法です。その上で、皆が協力して断食献金を惜しみなく納め、私たちの生産事業やかん詰め工場から物資を供給して、自立できていない隣人を助けるのです。

兄弟姉妹の皆さん、蓄えをする時に忘れてはならない大切なことは、義しい貯蔵をすることです。そして、主の前で義人として認められるような者になることです。1833年に主は次のように言われました。

「この故に汝ら心安かれ。万事は正しき行いを為す人々と教会の聖めのために結局好転すればなり。われは、義しくわれに仕えんと欲する一つの清き民をわがためにおこさんと欲す。而して、すべて主の名を呼びてその誠命を守る者は救わるべし。」(教義と聖約100:15-17)

そのような人々こそ、「信仰ある家族」なのです。私たちがそのような家族に数えられるようイエス・キリストのみ名によって祈るものです。アーメン。



中央扶助協会会長 バーバラ・B・スミス

喜んで従う

「勧告を受け入れ……しかも犠牲とか義務感ではなく主への献身として心から応じるなら、それぞれの家庭はどんなにか高められることでしょう」

愛する兄弟姉妹の皆さん、私はずっと考えていたのですが、私たち女性がけさ聞いた勧告を受け入れてそれに従うなら、しかも犠牲とか義務感ではなく主への献身として心から応じるなら、それぞれの家庭はどんなにか高められることだろうと思えます。その時に、私たちの行ないは自己満足の域を脱し、喜びや信仰、それにいろいろな問題に雄々しく立ち向かう気持ちや革新の気持ちの表われとなるでありましょう。

キンボール大管長とお話した時のことを思い出します。その時大管長は、エジプトに売られたヨセフの話を読んで聞かせて下さいました。そして、ヨセフは実に素晴らしい福祉プログラムの教師です、とおっしゃったのを覚えています。

それ以来、私はヨセフの話を読む度に、自らの経験をキリスト教徒の歴史上最も優れた福祉に関する逸話となさしめた彼の精神と霊の気高さに、感服させられているのです。

ヨセフがエジプトで、ポテパルの家の管理者として仕えた時のこと（創世39章参照）を思い浮かべて下さい。彼は、偽りの嫌疑で投獄された間に、信仰の試しを受けました。そして、夢の解き明かしをしたことによって、ついにはパロの役人の中で最も高い地位に就く者となったのです。

ヨセフはさし迫っているきさんの警告を主から受けました。そして、警告に従順に従うならば、「この国はきさんによって滅びることがないでしょう」（創世41：36）と言われました。そこで彼は、豊作の7年の間にきさんの7年に備えて、「穀物を海の砂のように、非常に多くたくわえ」（創世41：49）たのです。

ヨセフの兄たちが、食糧を求めて彼のもとにやって来た時の一連の出来事を思い出して下さい。ヨセフは彼らの生死の鍵を握っていました。彼らが自分の兄弟であるとわかった時のヨセフの気持ちを想像して下さい。

そして、ヨセフが大いなる喜びを得るまで、どのような訓練を受けたかを思い起こして下さい。主に対する彼の絶対的な信仰、忍耐、一族に注ぐ深い愛情を考えてみて下さい。

私たちは、この教会の女性として、信仰や従順の面で、また、選ばれた指導者を通して与えられる主の指示に聞き従うことについても、ヨセフのようになることができず。

世界的に不安定で、インフレと経済的圧迫に悩まされる今日にあって、扶助協会がもっと福祉に目を向け、扶助協会の会員一人一人が福祉の原則をこれまで以上に実践する必要があると感じています。

扶助協会の組織では、福祉に対して綿密で効果のある働きかけをすでに始めています。その第一のものとしては、1979年4月にエズラ・タフト・ベンソン会長から発表のあった、教会政体の各レベルにおける神権評議会の設置です。昨年10月には、神権評議会における扶助協会の役割についての説明がありました。そこで私たちは扶助協会の指導者の方々に、福祉への参画を呼びかけてきました。手元に届いた報告によりますと、この呼びかけが目下進行中であり神権者と扶助協会指導者の協力体制が整いつつあるという現状です。

この春には、福祉プログラムにおける扶助協会の責任を遂行し、一層効果的な貢献をするために第二の働きかけを行ないました。その時に、新しい管理計画を、ステーク部やワード部の扶助協会管理会が十分に活用できるように次のような調整変更も加えました。

ワード部、ステーク部の扶助協会会長の指示の下に、各管理会員は仕事の割り当

てを受けます。そして、会長会が計画し、目標を定め、割り当てられた仕事を実施する際の援助者として動きます。

管理会員は、会長の指示の下に福祉プログラムを進めるにあたって、福祉全般に関する深い知識を持ち、以下の点で会長会を助けなければなりません。

1. 福祉活動に関する資料を説明する。福祉活動に関する情報を研究し、まとめ、評価する。

2. 援助手段を調べる。教会および地域社会から得られる援助手段について詳しく調査する。

3. 理解を深める。会長会と定期的に集会を開き、福祉活動における扶助協会の役割について話し合う。

4. 目標設定の方法を教える。扶助協会会長と一緒に、短期目標と長期目標を立てる。

5. 認可された計画を進め、指示があった時に計画に変更を加える。

管理会員はまた、管理会員同士で調整を計りながら、認可された福祉プログラムの遂行を援助します。このような責任の範囲内で、管理会員は会長や副会長が最大の効果を上げられるように助けを与えますが、いかなる場合も、管理会員が彼らの責任を代行したり、福祉活動委員会に代理で出席したりすることはできません。また、内密な事柄を取り扱うこともありません。

会長会は神権指導者の指示の下に動きます。

私たちは、この新しい責任が割り当てられることによって、扶助協会としてワード部やステーク部の福祉プログラムにこれまで以上に強力な力添えができると感じています。

扶助協会の会長会の皆さんに、倉庫資源制度についてよく知り、さらに監督の供給指示書については、正確にしかも個人の必要をよく考えた上で作成するようお願いいたします。扶助協会会長は、供給指示書に監督の署名をもらう前に、その用紙に必要事項をすべて書き込まなければなりません。監督と扶助協会会長双方の署名が必要なのは、供給品目や量に間違いがないかどうか確かめることにより教会の資源を守るためなのです。

私たちは今扶助協会の指導者として、自らの働きの中で福祉活動がさらに発展する時が来ることを楽しみにしています。私たちには、直ちに達成しなければならないひとつの具体的な目標があります。それをチャレンジとして、また扶助協会指導者と各会員へのアドバイスとして差し上げたいと思います。インフレがひどく、個人と家族が経済的な圧迫を受けているこの時代に、私たちは皆さんに、「将来を見越した生活」をするようにという教えをもう一度よく考え、すべての会員がそれを実践されるようお勧めいたします。

女性の皆さんは創造力を働かせて色々な方法で儉約することを考えて下さい。次のようなことが考えられます。

1. 物々交換。たくさんとれた野菜を、果物ばかり生産している人と交換する。また本や楽器、スカウトの制服などは、買うよりも不要になった人から譲ってもらうとよい。

2. 家庭菜園についてもっと多くの知識を得る。収穫した良質の作物から種を取るようになる。

3. 家庭を能率的な働き、貯蔵の場とすることにより、また自分たちで作った

食物を使って食事を作ることにより、時間と金銭のむだをなくす。

これはすなわち、すべての人が毎日の生活を営み、将来の備えをするにあたって、手に入る資源を賢く使うということです。

収入をもう少し上手に管理できる者になろうではありませんか。それにはまず、現実即した予算を立てることです。またこの予算は、それぞれの家庭で当然異なったものとなってきます。これは私たちだけに与えられている特有の権利です。予算には、肉屋やパン屋への支払いやローンの返済などの基本的な支出を見越した上で、自分自身に対する支払い、すなわち貯蓄も含めます。初めはわずかな額かもしれませんがそれでもかまわないのです。

「バビロンの大富豪」(*The Richest Man in Babylon*)というおもしろい本の中に、金持ちになる秘けつを求めて富豪と取り引きをする書生の話がのっています。その古代バビロニア人は、いとも簡潔な答えを返しました。「中身の乏しい財布は、そのままにしておくより一杯にする方がやさしい。

……手持ちの宝をあなたのために役立てるがよい。それをあなたの奴隷とせよ。

食べたり着たりする者にはお金を払うがよい。ただし、同様にあなた自身のためにも払いなさい。」(ジョージ・クレーソン、*The Richest Man in Babylon* 「バビロンの大富豪」p. 31)

家庭の中で儉約を実行し、さらに上手に食事の献立を作り、家庭を管理し、室内を装飾する者となりましょう。裁縫の技術を身につけて注文服の気分を味わったり、また手入れの行き届いた衣類を身につけるようにしましょう。台所を創造の場とし、そこから家庭生活の最大の喜びが発散される

ようにしましょう。

私は、多くの姉妹が以上のことをすでに実践しておられることを知っています。ある家族は、家でのご飯を一食も逃がしたくないそうです。子供は、母親の素晴らしい料理の腕前や、食事が美しく並べられたテーブルを見て友達を家に招きたいと思っていますし、両親は両親で、食事の時に子供たちと楽しい快活な会話をするように努めています。

そのような母親は倹約上手なホームメーカーと言えるでしょう。台所に立った時の彼女は特にそうです。調理をする時は、1回分だけ作るのではなく何回分かまとめて作ります。創造力を働かせ、常に新しい考え方をもちて台所に立ちます。干しえんどうや玉ねぎ入りのスープやミネストローネ、骨や肉を使ったスープなど、栄養豊かなスープを作ります。次に、主菜として、肉にセイボリーソースや付け合わせを添えて出します。色とりどりの生野菜は栄養のバランスを取り、食欲をそそるために出します。時には鶏肉を使ってチキンダンプリングやチキンサラダ・チキンサンドウィッチも作ります。このホームメーカーは、多くの人が捨てている鶏の首や背やそのほか肉のほとんどない部分もゆで、その香のよいゆで湯をスープ用にとっておき、後日使うのです。また彼女は、家庭菜園からおいしそうな果物や野菜、薬味などを取って食卓に出します。これらは「眼を楽しませ、また等しく心を悦ばせ……肉体を健にし人に元気をつくるよう……味、香りのために造ら」(教義と聖約59：18—19)れたものです。

このようなホームメーカーの中に、私は喜びと創造力を感じます。その結果、倹約の生活の中に楽しさと喜びを見いだすよう

になるのです。

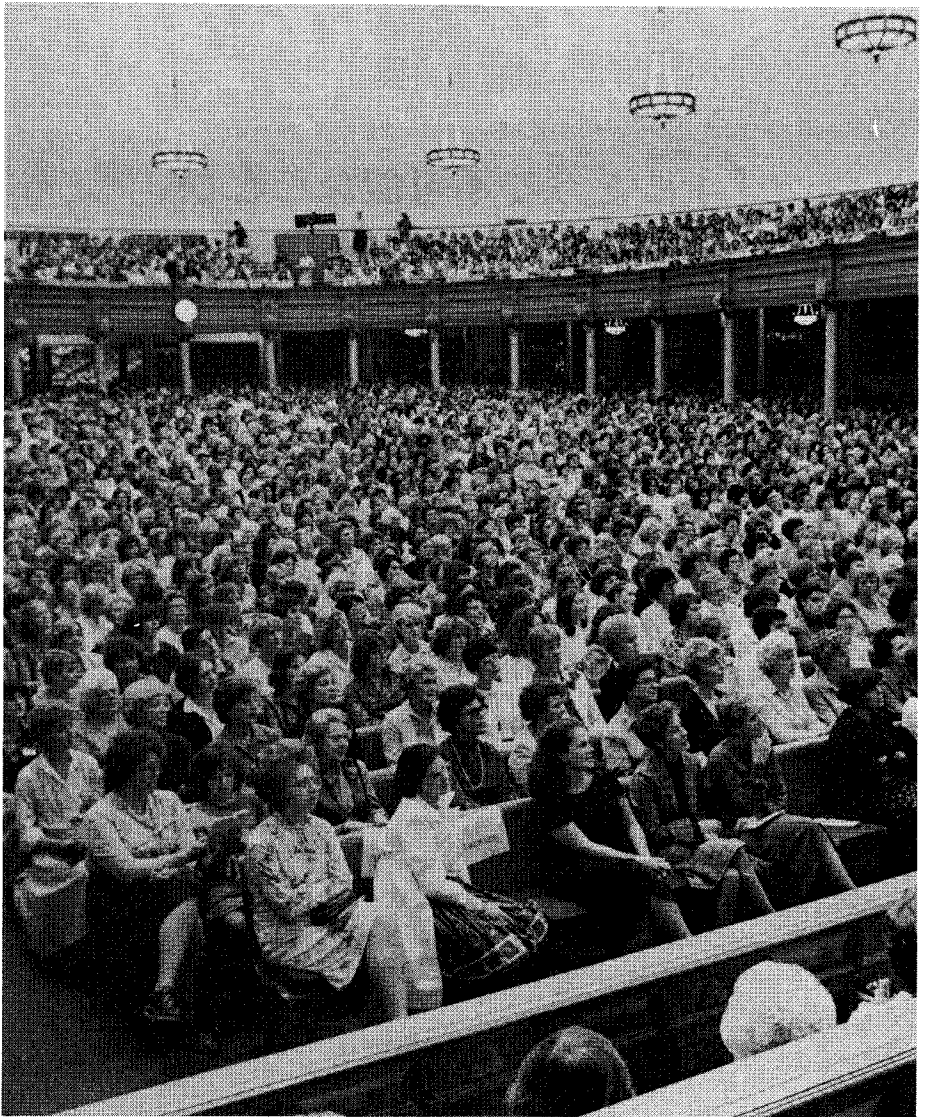
彼女は人生が毎日の小さな行ないによって築かれていくことを知っています。私たちもこのことを理解する必要があるでしょう。食費の倹約はドルではなく、セントという小銭によってなされます。衣服費の倹約は繕いのひと針ひと針、ひと目ひと目によってもたらされます。家は修理の一本一本の釘によってきれいに保たれます。倹約を心掛ける家庭は、神のおきてや奇跡によって生まれることはありません。日々の生活の中で一つ一つのことを丹念に行なうことによってもたらされるのです。そしてこの偉大な福祉計画のビジョンを心に描いているならば、一步一步、着実に自己を管理することができるでしょう。小さな行ないの一つ一つが大きな実りをもたらすという考え方を心に留めることが大切です。

現代の末日聖徒の女性として、幸福な家庭づくり、上手な家計のやりくりにも励もうではありませんか。チャレンジする気持ち、革新の気持ち、感謝の気持ちを持ってこれを行なおうではありませんか。標準を下げるのではなく、生活の標準を高めるために創造力を使おうではありませんか。みじめな気持ちを感じることなく、また極端に物惜しみすることなく倹約しようではありませんか。扶助協会ビルの中には、数多くのアイデアが掲示されていますので、ぜひ一度御覧下さい。

私たちが、地域や地区の評議会に出席する時やこの大切な福祉活動に携わる時に、福祉活動の原則を教える者となれますように。神権指導者たちに導かれて、いにしえの予言者ヨセフが言っているように「あなたがたのすえを地に残すため、また大いなる救いをもってあなたがたの命を助ける

ために」(創世45:7)共に力を合わせて働くことができますように。イエス・キリス

トのみ名によって心からお祈りします。アーメン。



大会の光景



ポートランド・オレゴン東ステーキ部長 ダグラス・W・デハーン

「主にとって不可能なことが ありましょうか。」

ポートランド・オレゴン東ステーキ部の福祉事業における霊的な経験

教会の福祉生産事業で働くことは、時折その大半が俗世のここのように思われるものです。暑くて長い一日を、農園の草取りや間引き、あるいは作物の運搬に費やしてしまうこともあります。また翌日の朝7時には出勤しなければならないのに、かん詰め工場の夜間労働を終えて夜中に家に帰ることもあります。肉体は疲れていても、心には満足感があります。それでも、そうした経験のほとんどが霊的なものであると認識するのはなかなかむずかしいものです。教義と聖約29：34には、主が私たちに要求するものはすべて霊的なことであると明示されています。主は、「われは何時たりともいまだ嘗て俗世の事にかかわる律法を与えたることなし」と言われました。

ちょうど3年前の今頃、主は特別な方法で私にひとつの偉大な原則を教えて下さいました。ポートランド・オレゴン東ステーキ部では6年ほど前から酪農を営んでいます。コロンビア川に浮かぶ島の中にあるそ

の農場は単一のステーキ部が行なう事業としては最大のものでした。事実、全くゼロの状態から事業を始めていくことは、教会員に時間と金銭の面で大きな負担となりました。

事業を始めた当初は毎年赤字ばかりでしたが、1977年から好転し始めました。事業の最終利益は30ヘクタールの土地に作られた飼料用のとうもろこしの収穫にかかっていた。ところが9月は例年になく雨が毎日のように降り続き、このままでは10月1日の収穫予定日の頃には収穫高に大きな影響が出てしまいます。島では地下水面が高いので、多量の雨がしみ込むと、畑は泥の海と化し、収穫機が埋まって動きがとれなくなります。そして一度浸水した畑は、機械が通れるようになるまで晴天の日が1カ月は続かなければならないといった有様です。また、冬から6月頃まで、とうもろこし畑は完全に水面下に埋もれてしまいます。

私は一週間に一度農場を見回ることにし

ていますが、いつも車に長靴を用意しています。10月のある日、私は農場に行き、長靴を取り出し、とうもろこし畑を歩いてみました。ところが道路までぬかるみになっているのです。所によっては、50センチもある長靴まで埋まってしまうほどです。そんな所をなぜ歩いているのか私にもわかりませんでした。空は灰色の雲に覆われ、あちこちにできた水たまりに雨が打ちつけていました。農園の労働者は、2、3日前に収穫機を畑に入れたのですが、とうもろこしの列の間で、車軸まで泥につかり、動きがとれなくなったと私に話してくれました。

畑の中を歩くと、とうもろこしのできは非常によく、どれも3メートルから4メートルの高さに伸びています。そんなわけで、たいして落胆はしませんでした。晴れ晴れとした気持ちにはなれませんでした。こ

のままでは、みんながどんなに熱心に働いても、収穫は落ちることがわかっていただけです。そうしている内に、私は収穫機がはまり込んだ辺りに来ました。向こうに、泥の中に深くはまり込んだ収穫機が見えます。私はともかくその収穫機のところまで歩いて行くことにしました。とうもろこしの列の中に入り、泥と水を飛ばして前進した時、私はどこからか声が聞こえてきたような感じを受け、びっくりしました。その声は確かに私の心の中で聞こえたのです。キンボール大管長の勧告の声でした。キンボール大管長はやさしく、「主にとって不可能なことがありますか」(創世18:14)とささやいていました。皆さんと同じように、私はこの言葉を何度も耳にしてきましたが、この時までこの言葉にさほど注意を払っていませんでした。私は歩きながら、笑って



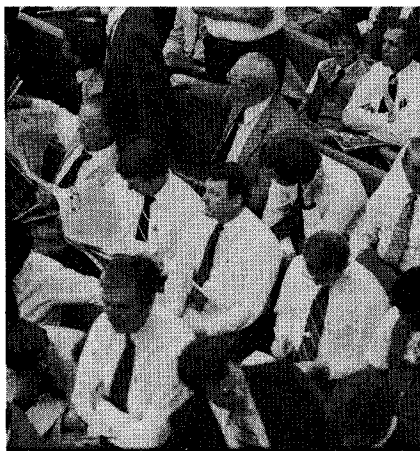
こう言いました。「キンボール大管長、この荒れた畑を元に戻すのは、主にとっても難しいことだと思います。」

私は収穫機に近づき、気の向くままにその上によじ登りました。すると、私の頭がとうもろこしから60センチほど出て、眼前に30ヘクタールの見事なとうもろこしが広がって見えたのです。私が落胆した思いで見渡していると、再びどこかで声がしたような気がしました。しかも、今度はもっと重々しい口調でこう言うのです。「ステーキ部長、主にとって不可能なことがありますか。」私は洗んでいる自分が恥ずかしくなりました。それから下を向くのをやめ、空を見上げました。そして気が付いた時には、大声で主に祈っていました。私は祈り終わると、穀物とその収穫を主のみ手に委ね、神の権能のままに行なおうと決心していました。収穫機から降りた私の目からはまだ涙が流れていました。私はゆっくりと歩いて帰りながら、今決心したことについて考えました。少し不安思いにかられましたが私にはそれが完全な信仰の上で行なわれたのだという確信がありました。そこには正当な理由があり、主に嘆願したのも義しいことであると信じていました。

この経験があまりにも霊的なものであったので、私はだれにも話さない方がよいと思いました。次の日曜日、私はステーキ部内のあるワード部の聖餐会に出席し、壇上に座っていました。私には話の予定はありませんでした。ところが終わりの10分間を残したところで、監督が立ち上がってこう言いました。「デハーステキ部長が非常に霊的な経験をされたようですので、そのことについて話していただきます。私はとても話をする気にはなれなかったのですが、

それでも立ち上がりました。話すことはもう決まっていました。私は農場での話をし、私と一緒に信仰を示して下さいと聴衆に呼び掛けました。このようにしてステーキ部内に大いなる証を持つ聖徒たちが増え、私の経験はまたたく間にワード部からワード部へと広がっていったのです。数週間後には、教会員たちは非教会員の友達にさえビクニックや野外活動の計画を積極的に勧めていました。雨の多いオレゴンなのに、10月中は絶対に雨が降らないからと言うのです。とうもろこし畑での経験があった次の日、約30日ぶりに太陽が顔を出しました。そして次の日も、その次の日も日が照りました。そうしている内に気温も25℃に戻ってきました。それから3週間、天気予報は毎日雨だと言うのに雨は全く降りませんでした。

2週間たった頃、私は北へ300キロほど行った所にあるシアトルを訪れました。ところがそこは一日中どしゃ降りでした。帰りはポートランドを通して帰ったのですが、そこも一日中大雨で、私たちの農場の外を流れているコロンビア川の所に来るまで雨



が降り続いていました。ところがコロンビア川の所まで来ると、奇跡としか言いようのないほど雲が切れて、雨がやんでいるのです。その日、私はコロンビア川の辺りで雨がやんでいることを示す小さな天気図を新聞から切り抜き、自分の信仰の思い出として冷蔵庫に張り付けました。とうもろこし畑での経験をしてから3週間後、私は再び農場に行ってみました。長靴をはき、とうもろこし畑に入って行きました。土はまだ軟弱でしたが、それでも少しずつ硬くなっていました。その日は金曜日でしたが、農場で働いている人々はすでに翌週の月曜日から収穫を始める計画を立てていました。

同じ日、地元のテレビ局に勤めている知人から電話がありました。「モルモンの皆さんはソウビーズ島で酪農を始めたそうですね。」私がそうですと答えると、彼は、「何か面白い話がありますか」と尋ねてきました。私は「ある」とは答えましたが、彼にその話をしても理解してはくれないだろうと思っていました。ところが翌週の月曜日、私たちが収穫を始めると、テレビのカメラマンたちが農場に来て何時間にもわたってビデオ撮りをしました。それは教会にとって、非常によい宣伝になりました。

それから5日間、昼も夜も多くの教会員の献身的な援助を得て私たちは熱心に働きました。土曜日には収穫したばかりのとうもろこしをすべて倉庫に納め、プラスチックのふたで覆いをしました。このようにして冬を越すだけの飼料を確保したのです。ところが、収穫を終え、作物に覆いをして1時間もしない内に、滝のような雨が降り出したのです。とうもろこしを収穫したばかりの畑には洪水のように水があふれ、今年の6月までずっと水の下に埋もれてしま

いました。私はとても言葉には表わすことのできない感謝の気持ちで雨の中に立ち、私たちの霊的な理解が満たされるまで主がとうもろこしを守ってくれたのだと自分に言い聞かせていました。

皆さんは、このことがすべて単なる偶然のことだと言われるかもしれませんが。その気持ちもわかります。しかし私はそこで何が起こり、なぜそうなったのかははっきりと知っています。この経験だけでなく、そのほかにも経験した多くの事柄から、私は霊的な教訓を学び取ることができました。

教会では多くのこの世的な事柄が要求されます。しかし教会員にとってはこの世的なことばかりではありません。この世的だと思われるのは、私たちの理解がまだ浅いからです。主が求められることはすべて霊的なことです。

教会の福祉プログラムは主が欠くことのできないものとして定めたもうたものです。私たちが自分の分を果たすならば、主は御自分の分、あるいはそれ以上のことをして下さいます。初めから終わりが見えなくても気にする必要はないのです。

主が与えて下さるほとんどの祝福は2マイル行く精神の中でもたらされると私は思います。最初の1マイルとは私たちに期待されていることを実行することです。そして、信仰と決心によってその1マイルを乗り越えた時、私たちは天の力を引き出すことができます。しかしそれができるためには、私たちの霊的な状態が整っていなければなりません。

最後に、私の神聖な証を申し上げたいと思います。主にとって不可能なことはありません。これらをイエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。



十二使徒定員会会員 トーマス・S・モンソン

監督——福祉活動の中核

「福祉に関する監督の神聖な責任は神から与えられたものであり、その責任は困っている人々に祝福をもたらすために天において定められたものです。」

昔、使徒パウロは愛する同僚テモテに宛てた書簡の中で、監督の資格について次のように述べています。

「もし人が監督の職を望むなら、それは良い仕事を願うことである。」きょう、私はそれに、「多くの仕事」という言葉を付け加えたいと思います。

パウロはまた、次のように述べています。

「監督は、非難のない人で、……自らを制し、慎み深く、礼儀正しく、旅人をもてなし、よく教えることができ、……寛容であって、……金に淡泊で、……さらにまた、教会外の人々にもよく思われている人でなければならぬ。」(1テモテ3:1-3, 7)

これらの言葉は、私が30年前に初めて監督に召された時に、読んで深く心に刻んだ聖句です。私はまだ若く、わずか22歳でした。大きなワード部で、会員は1,050人を超えていました。その中に未亡人が87人もいました。福祉の必要度は全教会のどのワード部にもまさっていたと思います。

ワード部の管轄区域には高級住宅街の名前はなく、あるのは貧しい人々が住んでいる通りの名前ばかりでした。しかもその区域はソルトレーク・シティーの線路の両側にまたがっていました。未亡人や経済的に困っている人々の多くは地下のアパートや屋根裏部屋、あるいは名もない通りの裏に立つあばら家に身を寄せて、ひっそりと暮らしていました。私は羊飼であり、そこに住む人は私の羊でした。私は、神がエゼキエルを通して語られた警告を思い出しました。「わざわざいなるかな、自分自身を養うイスラエルの牧者。……あなたがたは……群れを養わない。」(エゼキエル34:2-3)

天は私に多くの教師を送って下さいました。その内から、元ステーク部長のハロルド・B・リー大管長、マリオン・G・ロムニー副管長、J・ルーベン・クラーク副管長について話したいと思います。

私が監督に召された年のステーク部大会にリー兄弟が出席しました。リー兄弟は土

曜日の夜の神権指導者会で、壇上から降りてきて私たちの間に立ち、主が遣わされた教師として監督の義務について黒板を使って教えてくれました。リー兄弟は、「監督の責任」と書いてその下に5つの円を描きました。そしてそれぞれの円に、「ワード部の父」、「アロン神権の会長」、「イスラエルの判士」と記入し、それから福祉における監督の役割を強調しました。彼は私たちに貧しい人々を捜し、愛と親切と秘密を守る精神で彼らを扶養するよう警告しました。

ロムニー兄弟も私たちのステーキ部や地区をしばしば訪れました。ある晩、ロムニー兄弟はエリヤとザレパテのやもめの靈感に満ちた話を引用して私たちに信仰の原則について教えてくれました。(列王上17:8-16参照) ロムニー兄弟はこのやもめの状況を私たちの地域に住む未亡人にとえたのです。手引きから福祉の原則について教え、質疑応答に入りました。その時ひとりの兄弟が、「あなたはその手引きの中に書かれていることを何でも知っておられるようですが、それはなぜですか」と尋ねました。ロムニー兄弟は目を輝やかさせ、口に笑みを浮かべて答えました。「私が書いたからです！」

クラーク副管長もまた立派な教師のひとりです。私は恵まれて長い間、後に書籍として出版する予定の原稿の下書きを手伝っていたことがあります。このようにしてクラーク副管長ともほかでは得ることのできない有意義な経験をしました。クラーク副管長は、私が難しいワード部を管理する新しい監督に召されたことを知っていましたので、私がか員たちについて知り、その状況を把握し、慈愛の精神で彼らの問題を解決する必要があることを強調してくれまし

た。ある日、クラーク副管長はルカ伝の7章11節から15節を引用し、救い主の模範について説明しました。

「そののち……ナインという町へおいでになったが、弟子たちや大ぜいの群衆も一緒にいった。

町の門に近づかれると、ちょうど、あるやもめにとってひとりむすこであった者が死んだので、葬りに出すところであった。

……

主はこの婦人を見て深い同情を寄せられ、『泣かないでいなさい』と言われた。そして近寄って棺に手をかけられると、……

『若者よ、さあ、起きなさい』と言われた。すると、死人が起き上がって物を言い出した。イエスは彼をその母にお渡しになった。」

クラーク副管長は聖書を閉じ、涙ぐんでいました。それから静かな声でこう言いました。「トム、未亡人に対して親切にしてください。貧しい人の世話をしなさい。」

多くの監督は最近召されたばかりです。彼らにも同じ教えと助言が必要ではないでしょうか。監督たちはあちこちで、あのプログラムが必要である、このプログラムが必要であるという声を耳にします。しかし監督の責任は神からの信頼によって与えられているものです。したがって、記録に残らないような働きの中に最も大切に扱わなければならないことが出てくることもしばしばあります。老人を訪問し、病人を祝福し、疲れている者を慰め、飢えている者に食物を与えることはこの地上で記録されないかもかもしれません。しかし、それらは天において記されているのです。そして私たちは、そのような導きと恵みの業を行なうにあたって主から導きを受けるのです。私はそう確信しています。

監督が果たす福祉の役割にはたくさんの分野があります。監督は副監督、神権定員会指導者、そしてもちろんワード部の扶助協会会長会の援助を受けます。そこで皆さんの役に立つと思われる監督の役割について少し述べてみたいと思います。

第1に、備えです。最も大切な責任は、食糧貯蔵を含む個人と家族の備えのプログラムを調整することです。次に強調すべきことは、家長が有給の仕事に就くように指導することです。さらに、有給であっても収入の少ない人がさらに収入の多い仕事を目指して努力するように指導することです。そのような義務の中には、賃金労働者に技術を身に付けるように励まし、彼らが最後に雇われる人や、最初に解雇される人にならないようにすることが含まれます。

第2に、生産です。まず、ワード部やステキー部の福祉事業に参加することです。時代は移り変わっても、畑を耕やしたり、作物の間引きをしたり、家を建てたり、倉庫に作物を納めたり、仕事はたくさん残っています。

私はステキー部の福祉農園で砂糖大根の葉の落とし方を学びました。そのことにとっても感謝しています。また、現在ではそのような方法を用いなくともよくなったことにも感謝しています。私たちの農園は肥沃な土地ではなく、ソルトレーク・シティーの今日の工業地域になっているところにありました。それでも私たちがこの神聖な奉仕に精力を注ぐ時に、土地が清められ、収穫が祝福され、信仰が報われたことを証します。

第3に、加工です。収穫の時ほど楽しいことはありません。ワード部の会員たちもものかん詰めを造り、卵をより分け、野

菜を洗っている姿を心に描いてみて下さい。これらは皆、困っている人々のために使われるものです。額には汗が光り、服は土で汚れ、肉体は疲れています。それでも霊は生き生きとして天へと高められる気持ちです。

第4に、貯蔵です。主は啓示の中でしばしば主の倉庫について述べておられます。ある時、主は次のような勧告をお与えになりました。「この倉庫は教会員の捧物によりて支えられ、寡婦孤児および貧者も同じくこれより給与を受くべし。」(教義と聖約83:6) 私たちの倉庫の入口に、「監督の倉庫」という言葉がかかっていることを嬉しく思っています。その中で働く人は、該当するワード部の監督から推薦され、派遣された人々です。その建物の中には、愛と尊敬、そして敬虔な雰囲気漂っています。そのような倉庫を訪れるたびに私は強く心を打たれます。せん塔もなければ、カーベットの敷いた床もステンドグラスの窓もありませんが、そこには主のみたまがあります。

第5に、分配です。ここで監督の判断が最も厳しく問われます。監督は神から与えられたこの責任を回避することができません。J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は福祉事業における監督の役割を次のようにまとめています。監督は、「『すべてこの世に属することを執り行えばなり。』監督はまたその召しの中で、『貧しき人々および乏しき人々に給与し』『貧しき者を探ねて富める者おごれるものの謙りによってその乏しきを賑わしめよ。』(教義と聖約107:68; 42:34; 84:112参照)

このようにして監督には、貧しい人を養うために、主が教義と聖約の中で具体的に述べておられるすべての責任と権能が与え

られている。……だれもほかにこの義務と責任を負う者もいなければ、だれもほかにこの仕事に必要な権能と機能を賦与されている者もないのである。

こうして、教会の貧しい人々を養う唯一の責任と決定権が主のみ言葉によって監督に託された。……教会の基金やワード部から援助をだれに、いつ、どのようにして、またどれほど与えたらよいかを決定できるのは監督だけであり、これは監督に与えられた義務である。

これは主御自身が課せられた高貴な、神聖な義務である。監督はこの義務から逃れることはできないし、この義務を怠ることもできない。また、だれかに譲り渡して安閑としていることもできないのである。いかなる助けが求められようとも、監督はそれに対して責任がある。」(教会歴史記録部未刊行記事より、1941年7月9日、pp.3—4)

監督は皆、ひとりになって瞑想し、導きを求めて祈る聖なる森が必要です。私の聖なる森はワード部の古い礼拝堂でした。私が祝福を受け、確認され、聖任され、教えを受け、そして管理するように召されたこの建物の壇上に、私は夜遅く暗い中を何度足を運んだことでしょうか。礼拝堂には教会の前にある街燈の光がほのかに射し込んでいました。物音ひとつなく、邪魔をする人もいません。私は壇壇に手を置いてひざまずき、自分の考えていること、心配事、問題を主に打ち明けました。

ある時、干ばつが起り、倉庫の物資は品質も例年より悪く、品数も少なくなっていました。多くの生産物、特に新鮮な果物が不足していました。その晩の私の祈りは神聖な祈りとして今でも心に焼きついています。ワード部の未亡人は私がこの世で知

っている最も素晴らしい女性たちであり、彼女たちが必要としているのは質素で控え目なものですが、すがるところがないことを私は主に訴えました。次の朝、農園を所有しているワード部の会員から電話がかかってきました。「監督、困っている人のために、オレンジやグレープフルーツやバナナを一杯に積んだトラックを監督の倉庫に向けますので、手配をしていただけませんか。」していただけるもいただけないもあったものではありません。倉庫はがぜん活気づきました。監督たちに電話をし、荷物をすべて配送しました。当時、倉庫の管理人をしていた福祉の草分けともいえるジェシー・M・ドラリー監督は、これまでこのような日は一度もなかったと言って、たった一言「素晴らしい！」という言葉ですべてを表現しました。

そのほかのにもこれほど劇的ではないかもしれませんが、実際に心温まる事柄を数多く経験しました。ある老夫婦の話を紹介しましょう。彼らが住んでいる木造の家は舗装していない道路のはずれにありましたが、長い間ペンキを塗り替えていませんでした。彼らはいつもきちんと、小ざれいにしていたので、自分たちの小さな家の外装がとても気になっていました。私は靈感を受けるとすぐに、長老定員会やワード部の有志にではなく、福祉の手引きに従って、別の地域に住んでいるその老夫婦の子供たちにペンキの塗り替えをするように働きかけました。すると4人の娘と4人の義理の息子が手にはけを持って参加したのです。ペンキは地元のペンキ屋が提供してくれました。その結果、家だけでなく子供たちにも変化が訪れました。子供たちは年老いた両親をどう助けることが一番よいのかを知

ることができたのです。彼らは自発的に、しかも喜んでそれができるようになりました。家は塗り替えられ、家族はひとつとなり、尊敬の念が保たれたのです。

幸いにも福祉プログラムによる祝福を受けるのは監督ではありません。むしろ、参加する人すべてがその祝福を分かち合うことができます。

1951年のある寒い冬の夜に、ドアをノックする音がしました。そこにユタ州のオグデンから来たドイツ人の兄弟が立っていました。彼は自己紹介をしてこう言いました。「あなたがモンソン監督ですか。」私が「はい」と答えると、その人は泣き出して言いました。「私の兄弟が妻子を連れてドイツからやってきます。彼らはあなたのワード部の管轄区域に住むようになると思います。どうぞ私と一緒に来て彼らのために借りたアパートを見ていただけますか。」アパートに向かう途中で、彼はその兄弟とはもう何年も会っていないことを私に告げました。しかしその兄弟は第二次世界大戦の最中も教会に忠実で、ロシア戦線に駆り出されるまで支部長としてその責任を果たしていたということでした。

アパートを見ましたが、寒々とした暗いアパートでした。ペンキははげ、壁紙は汚れ、食器棚は空っぽでした。居間の天井には40ワットの電球が下がっていて、リノリウムでできた床の真ん中にあいた大きな穴を照らし出しています。私は気が重くなりました。「多くの苦難をしのいで来る家族にとって何と寂しい歓迎だろうか。」

そんな私の思いをふっ切るように、彼が言いました。「これで十分とは言えませんが、それでもドイツにいる時よりましな方です。」それから鍵が私に渡され、家族は3

週間後、クリスマスのちょうど2日前にソルトレーク・シティーに着くことを知らされました。

その晩、私はよく眠れませんでした。翌朝の日曜日、ワード部福祉委員会が副監督のひとりがこう言いました。「監督、顔色がすぐれないようですが、何か心配事でもあるのですか。」私はその会に出席していた人に昨晚のことを告げ、何となく気乗りしないアパートのことを詳しく説明しました。しばらくの間、だれも何も言いませんでした。すると大祭司グループリーダーが開口一番こう言いました。「監督、そのアパートは薄暗く、台所用品も取り換える必要があるのでしょうか。」私はうなずきました。大祭司グループリーダーは続けて言いました。「私は電気の請負いをしています。そこでワード部の大祭司たちにそのアパートの配線工事を任せていただけませんか。それから業者に頼んで、新しいコンロと冷蔵庫を入れてもらいましょう。監督、許可して下さいますか。」私は喜んで、「もちろんです」と答えました。

続いて七十人の会長がこう言いました。「監督、御存じのように私はカーベットの仕事をしています。業者に頼んでカーベットを入れてもらうように交渉してみましよう。また七十人の方々と協力してカーベットを敷き、古くなったリノリウムの床を直しておきますよ。」

長老定員会会長が次に話し始めました。彼は塗装の請負いをしています。「塗装の方は私が見ましょう。長老たちに手伝ってもらってペンキを塗り替え、新しい壁紙を張ってもいいでしょうか。」

次は扶助協会の会長です。「私たち扶助協会の会員として食器棚を空のままにして

おくわけにはゆきませんわ。必要な食器類を集めてきてよろしいでしょうか。」

それからの3週間は忘れることのできない毎日の連続でした。ワード部全体がひとつのプロジェクトに参加しているようでした。そうしている内に日も過ぎ、家族がドイツからやってくる日になりました。再び戸口にオグデンからの兄弟が立ち、震える声で自分の兄弟とその奥さん、そして子供たちを私に紹介しました。「それではアパートに行ってみましょうか。」アパートへの階段を昇っていきながら、彼は「これで十分とは言えませんが、それでもドイツにいる時よりましな方です」と繰り返していました。彼はそのアパートにどのような変化が起こり、この計画に参加した大勢の人々の中で彼らの到着を待っていることなど全く知るよしもありませんでした。

ドアを開けた時、そこには文字通り新生活の場が写し出されたのです。彼らを出迎えたのは塗りたてのペンキの臭いと真新しい壁紙でした。40ワットの電球も使い古されたリノリウムの床もそこにはありません。私たちは厚く、そして美しいカーペットの上に足を進めました。台所には新品のコンロと冷蔵庫が置かれていました。食器棚は開いたままですが、どの棚にも食糧品がいっぱい詰まっていました。扶助協会の姉妹たちが準備したのです。

私たちは居間に入り、クリスマスの歌を歌い始めました。「聖し この夜 星はひかり……」私たちは英語で歌い、彼らはドイツ語で歌いました。最後にそれらがみな自分たちのものだとわかった父親は、私の手を取って感謝の言葉を述べました。父親は声を詰まらせ、顔を私の肩に埋めて、「マイン・ブルーデル、マイン・ブルーデル、

マイン・ブルーデル(私の兄弟よ)」と繰り返しました。

アパートの階段を降り、外に出ると、雪が降っていました。みんな何も言いませんでした。するとひとりの少女がこう言いました。「監督、私は今までにないよい気持ちを感じています。どうしてですか。」

私は救い主の言葉を借りて答えました。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ25:40) その時私の心に、讃美歌「ああ、ベツレヘムよ」の歌詞が浮かんできました。

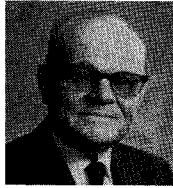
「主のたまものこそ 奇しけれや
静かに恵みの 露はくだる
罪のこの世に かかる恵み
天より来べしと 誰かは知る」

(讃美歌 210 番)

詩人はこう言っています。「神は子供たちに思い出を授けた。それはこの人生の園で、12月に6月のバラを咲かせるためなのだ。」(C・アンケートール・スツッデルト・ケネディ「12月のバラ」) 私の思い出の園の中で、この福祉活動に参加した時に咲いたバラほど美しく、かぐわしいものはありません。

願わくは、天父がこの神聖な福祉の責任を持つ監督を祝福されますように。この責任は神から与えられたものであり、困っている人々に祝福をもたらすために天において定められたものなのです。

これらのことをイエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。



大管長会第二副管長 マリオン・G・ロムニー

福祉事業： 救い主のプログラム

「福祉プログラムの基となっている原則に従って生活することは、クリスチャンとしての生活の最後の段階であり、笠石を置くことである。」

愛する兄弟姉妹の皆さん、けさのこの素晴らしい集会の最後の話をするに当たり、主のみたまが私を導き、支持して下さることを確信しています。

私に与えられた話のテーマは、福祉プログラムは救い主のプログラムであるということです。救い主は次のように言われました。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。……

わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ11：28—30)

このようにして、イエスは福音に従うすべての人に対して霊的な活力と肉体的な救いとを約束して下さいました。

「イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病氣、あらゆるわずらいをお

いやしになった。」(マタイ9：35)

イエスはまた、ヨハネが遣わしたふたりの弟子の問いに答えて、次のように言われました。

「行って、あなたがたが見聞きしていることをヨハネに報告しなさい。盲人は見え、足なえは歩き、らい病人はきよまり、耳しいは聞え、死人は生きかえり、貧しい人々は福音を聞かされている。」(マタイ11：4—5)

この地上における主のみ業に精通している人ならだれでも、次のJ・ルーベン・クラーク副管長のような結論に達するでしょう。「救い主は、この地上に來られた時にふたつの大きな使命を持っておられた。ひとつはメシヤとしての役割を果たすこと、すなわち墮落から人を贖うことであった。もうひとつは肉体を受けた兄弟姉妹たちの間に入って、人々の苦しみを和らげることであった。……人類を病いと苦しみから救うことと、私たちを天父のみ前に連れ戻すた

めに霊にかかわる真理を教えることとのふたつの偉大な事柄を、主はその後継者たちに遺産として残されたのである。」(Conference Report 「大会報告」1937年4月, p. 22)

私は、霊的な事柄であろうが物質的な事柄であろうが、困っている人々に援助の手を指し伸べる業を継続して行なうのは私たちの義務であると信じています。長い間、私は、この福祉事業が主のみ業であると言いつけてきました。この福祉計画は主の計画であり、その原則は主の原則です。また、その精神は主の精神です。私たちを遣わし、互いに助け合うようにして下さっているのも主です。主の福音が求めているのは、私たちが自分自身を愛するよう隣人を愛するということです。(マタイ19:19参照)

ベンジャミン王は次のように言いました。「もしもお前たちの行いがこのようであるならば、お前たちはいつも喜び、神の愛に浴し、いつも罪の赦しを保ち、……

またお前たちは互いに傷つけ合う心がなく、安らかに暮して、あらゆる人にその当然受けるはずのものを与えたいと思うようになる。

またお前たちは、自分の子供らを飢えさせたりはだかのまま置いたりはしないであろう。またお前たちは自分の子供らが神の律法に背き、……悪魔に仕えることを許さず、お前たちは自分の子供らに真の道を行う事と真面目でなければならぬ事と互いに愛し互いに助けねばならぬ事とを教えるであらう。」(モーサヤ4:12-16)

また、こう続けています。「ねがわくは、私がお前たちに話をしたように日々自分の罪の赦しを保ち、罪無しに神の前を歩くことができるように、お前たちが一人一人み

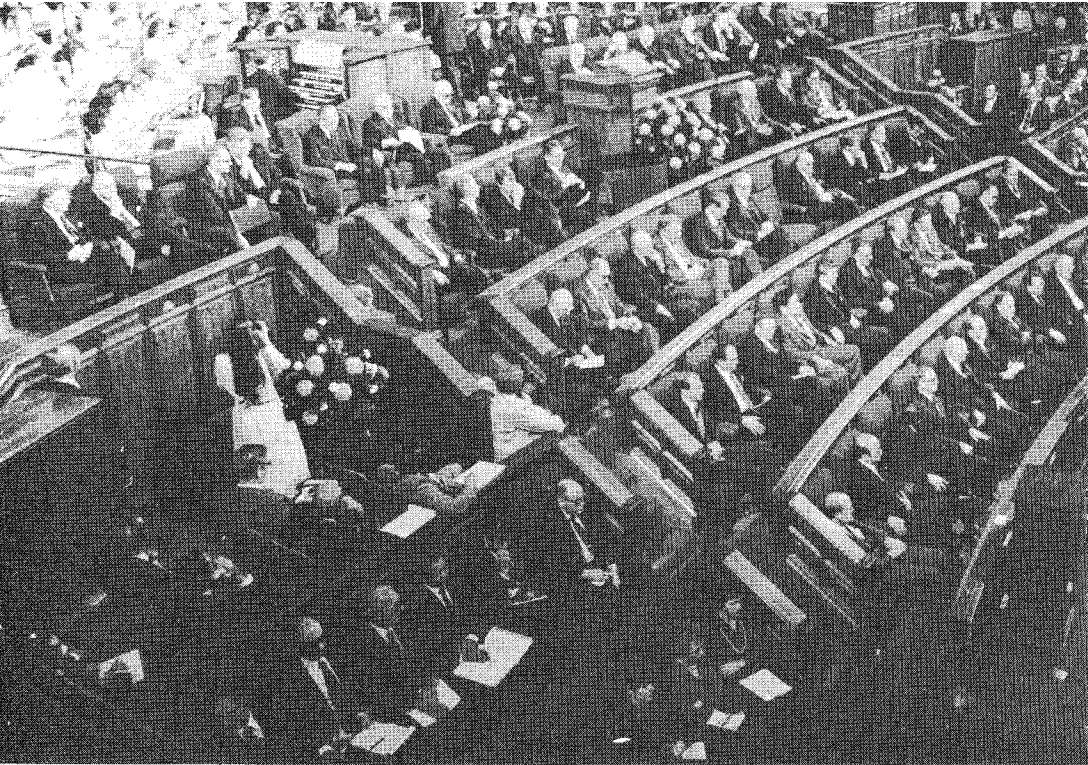
なその財産の多い少いに応じてそれを貧しい人々に分け与えることを望む。それはたとえば、腹のすいている者に食物を与え、はだかである者に着物を着せ、病んでいる者を見舞い、各々の必要に従って肉体についても霊についても救助を施すことである。」(モーサヤ4:26)

兄弟姉妹の皆さん、このプログラムの中で私たちが果たすべき義務について疑問の余地があるでしょうか。罪の赦しを得ることは私たちが互いに助け合うかどうかにかかっていますが、このことに疑うところがあるでしょうか。もしこの教えを信じ、救い主とその予言者に従うと告白するならば、また誓約を忠実に守り、生活の中で主のみたまを受けたいと願うならば、私たちは救い主が言葉と行ないによって示されたことを実践しなければなりません。救い主はこう言われました。

「よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであらう。」(ヨハネ14:12)

この奉仕の業において私たちが指導者としてあるいは教会員として、よりよい働きができるように幾つかの方法を提案したいと思います。

第1に、福祉プログラムに個人的に直接参画することです。これはしばしば報告されていることですが、一部の教会員だけでなく指導者の中にも自分の時間や才能を提供して直接献身するよりも、金銭を出す方がよいと言う人がいます。皆さんに申し上げますが、私たちには自分自身を捧げ、肩を並べて共に働くことによってもたらされる霊的な高まりが必要です。床屋や商人、弁護士、医師、教師、技術者などが同じ畑と一緒に耕し、共に雨ごいの祈りを捧げ、



同じ木の刈り込みをし、同じ穀物の収穫をすることは清く、健全なことです。

財政的な援助ももちろん必要です。しかし聖徒に求められる一致に到達し、ひとつとなるためには、心身を尽くして共に働かなければなりません。予言者ジョセフ・スミスは次のように教えています。「忠実さと一致した努力によってもたらされる最も偉大な物質的、霊的な祝福は、個人の努力や計画からは決して得られない。」(*Teachings of the prophet Joseph Smith* 「予言者ジョセフ・スミスの教え」 p. 183)

第2に、全身全霊で働くために、私たちは共に会議を開く必要があります。ステーク部長が監督の参画や同意なしに、ある行動をするよう監督に義務づけることがあるという報告を受けています。私たちは指導者を支持しなければなりません、他方指

導者は皆もっと賢くなって教義と聖約38：27の精神でこの福祉事業を行なうようにならなければなりません。主は「もしひとつとならずば、汝らはわがものにあらず」(教義と聖約38：27)と言っておられるからです。

皆さんの多くは今年の最後の四半期に、年間の生産事業予算を大幅に増加させる割り当てを行なうことと思います。私は、各評議会のレベルで全会一致の原則がきちんと守られているという理由で、全員がその割り当てに両手を挙げて賛成して下さることを願っています。各評議会レベルでの全会一致の原則によって教会は運営されているからです。「共に祈る家族は共に前進する」と言われていますが、私はここで、「共に協議する神権政体は共に繁栄する」と言いたいと思います。

第3に、私たちは、指導者として、自分が導く人々から支持を得たいと思うならば、割り当てられた管理の職がどう果たされているか互いに十分報告し合うことです。ワード部やステーク部のメルケゼテク神権を持つ兄弟たちに対して、生産事業の年次報告をすることを忘れないようにして下さい。また監督会やステーク部長会の皆さんは自分を管轄する指導者に対して、福祉事業を実施する上で直面した問題と進歩について適切な報告を行なうようにして下さい。指導者の皆さん、戻って報告することは、忠実な賢い管理人が行なう最後の詰めです。

第4に、そして最後に覚えていただきたいことは、皆さんがこの福祉事業を行なうことによって貧しくなってはならないということです。皆さんは福祉事業を行なうことによって豊かにならなければなりません。1920年に私が伝道に出る時に任命して下さいだったメルビン・J・バラード長老の言葉を私は心から信じています。「人は一塊りのパンの報いがあるのはじめて、主にひと切れを捧げることができるのです。」救い主は受けるよりも与える方がもっと祝福が大きいと教えられました。(使徒 20 : 35 参照) 与える者と受ける者は、教会の福祉活動を通してそれぞれが永遠の存在としての自分自身を清め、救いに導くという祝福を受けるのです。

「また汝ら貧しき者、乏しき者および病める者、悩める者たちを万事に憶えて憐れむべし。これらの事を為さざる者はわが弟子にあらざればなり。」(教義と聖約52 : 40)

真の弟子が福音のこの原則を理解することによって生まれるとすれば、私が永年信じていた次の言葉の意味するところもわかっていただけると思います。「福祉プログラ

ムの基となっている原則に従って生活することは、クリスチャンとしての生活の最後の段階であり、笠石を置くことである。」

この原則に従って生活することによって、人はキリストの満ちみちた徳の高さにまで至るのです。

アミュレクは、私たちが互いにどう思いやるかによって祈りの効力が決まると述べています。救い主御自身の教えでは、私たちが自分を愛すると同じように隣人を愛したかどうかによって、最後の裁きにおける救いが決まるのです。マタイによる福音書 25章に、主はその栄光の座につく時、「羊飼いが羊とやぎとを分けるように」人々をふり分けると記されています。そして、右にいる人々に、主はこうおっしゃるでしょう。

「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。

あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。」(マタイ 25 : 34—36)

福祉事業はイエス・キリストのみ業であり、福祉計画は主の計画です。またそこに貫かれている原則は主の原則であり、その精神は主の精神です。そしてその目的は、この世において最も確かな平安を得、来るべき世にあって永遠に朽ちることのない栄光を受けることにあるのです。私たち一人一人がきょうこの部会を終えてここを去る時、これらのことに対する大きな確信と深い理解を持つことができるよう祈っています。イエス・キリストのみ名によって、アーメン。



大管長 スベンサー・W・キンボール

キンボール大管長、 道徳について語る

愛する兄弟姉妹の皆さん、私はこれから皆さんに大切な事柄についてお話したいと思います。これは私にとって重大な責任ですが、同時になかなか一筋縄ではいかない問題でもあります。

私は若人を愛しています。若人が清らかでたくましい姿に成長していくのを見ることは喜ばしいことです。しかし逆に、彼らが不幸な目に遭い、苦しみ悩んでいる姿を見ると、悲しい気持ちになります。

海の上の衝突事故は、船同士の事故であれ氷山との衝突であれ、枚挙にいとまがありません。そして、おびただしい数の人々が海の墓場に葬られてきました。私はあなた方若人が、堅実な考え方をもち、基本的には善良であって思慮分別もある人たちであると信じています。しかし、皆さんもまた大海を旅しているのです。しかもその海の少なくともところどころは、海図に出ていません。そこには浅瀬や暗礁もあれば、氷山や他の船もあります。ですから、警報に従って航海しないと、大惨事を招かないとも限りません。

2年前、私の乗ったジェット機が離陸して高度をぐんぐん上げていた時のことです。

スチュワーデスの澄んだ声がスピーカーを通して流れてきました。「この飛行機はこれから暴風雨圏内に入ります。危険区域は迂回しますが、多少乱気流の影響もあると思いますので、御座席のシートベルトはきちんとお締め下さい。」

私は教会のひとりの指導者として、また若人が実りある人生を送ることにある程度責任を持つ者として、次のように言いたいと思います。「皆さんは今、危険な区域、危険な時代を航行しています。シートベルトを締めてしっかりつかまって下さい。そうすれば気流が悪くても大丈夫です。」

私はこれまで何千人もの若人と面接してきましたが、その中には善悪の区別がはっきりしないと思われる人が多くいます。中には自分の過ちに対して言い訳をしたり、良くないことをしておきながらそれを合理化してしまう人もいます。そこで私は、幾つかの非常に大切な問題について天の父とその教会がどのような立場を取っているかということ、たとえ部分的にではあっても明確にできればと思います。

初めに、私たちが神の霊の子供であり、神の最高の創造物であることに、しばし思

いをはせてみましょう。私たち一人一人には、神になる可能性が潜在しているのです。この世のいかなる力をも超越した、純粹で清く、しかも真理に貫かれた、力のある存在となることのできるのです。聖典には、私たちが永遠の存在であり、初めに神と共に生活していたと書かれています。(アルマ 3：22) そのことを考えてみれば、人間の尊厳ということに対して、ほかでは得られない理解を得ることができでしょう。

しかしながら、いたるところに偽りの教師がいて、講演やポルノ小説、雑誌、ラジオ、テレビ、下品な話などを用いて、道徳の標準を低下させる忌まわしい邪説をまき散らしています。そしてこれが人の肉欲を満足させているのです。

ルシフェルはその極悪なたくらみをもって思慮の浅い人々をだまします。そして、そのために使える武器は何でも使うのです。大きな会合や同好会の集い、パーティー、その他社交的な集いに行き、野卑な話や下品な話、思わせぶりの話を耳にしないことはまずありません。

ペテロは私たちにこう警告しています。

「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。」(1ペテロ 5：8)

また救い主は、選民であっても時にはルシフェルにより欺かれるであろうと語っておられます。ルシフェルは彼独特の論理を用いて人を混乱に陥れ、合理化をもって滅ぼすのです。言葉の持つ意味をほんの少しずつ変えながら扉を一寸刻みに開け、私たちを純白の状態から灰色の世界、そして遂には真つ暗闇へといざなうのです。

そこで私はきょう、皆さん方若人のため

にいろいろな言葉や行ないの意味を定義し、皆さんが誤ちや苦痛や悲しみを味わわなくともすむようにお助けしたいと思います。

ネッキング、ベッティング、婚前交渉

では、本当にあった話をまず紹介しましょう。登場する人物はすべて実在の人物です。その青年は均せいのとれた体つきをしており、ダビデ王のように「血色のよい、目のきれいな、姿の美しい人」(サムエル上 16：12) でした。

傍らには、容姿端麗な愛くるしい女性が寄り添っていました。机をはさんで私と向かい合わせに座った彼は、傍らの女性の手をそと取り、物言いたげな視線を投げかけている様子から、ふたりが互いに愛し合っていることは明らかでした。

甘い声のその青年は、興奮してやや声を詰まらせながらためらいがちに、彼女を私に紹介しました。ふたりの目からは嘆願の気持ちがありありと伺えました。「キンボール兄弟、私たちは今とても悩んでいます。純潔の律法を犯してしまったのです。それで私たちは祈り、断食し、とても苦しんだ結果、すべてを清算しようと決意しました。」

私は彼らに2、3の質問をしました。彼らが深みに足を踏み入れていることは明らかでした。彼女が口を開きました。「私はこのような罪は決して犯さない、はねつけることができると自信を持っていました。ネッキングは危険だし、ベッティングは罪深い行為だといつも教えられていました。自分に限ってそんな危険に陥ることはない」と頭から思い込んでいたのです。」

私は彼らの話をまましておきました。話すだけ話すことによって、心の重荷を少

しでも軽くすることができると感じたからです。

次に青年が話し始めました。彼は自責の念にかられていました。「あの日のデートが曲り角だったのです。あのデートは初めから特別でした。今振り返ってみると、あの日こそ悲しむべき私たちの苦しみの始まりなのです。あの晩階下にやって来た彼女を見て、私はこんなに美しくまた愛らしい女がこの世の中にふたりといるだろうかと思いました。夜通しダンスをした後で車に乗った私たちは、長いこと黙っていました。ふたりがますます体を寄せ合ううちに私の心は抑え切れなくなったのです。

ふたりともそれから先何が起こるかなんて思ってもみませんでした。せきが切れたように、そしてすべて流されるままに、私たちは時間を忘れて酔い知れました。それからしばしば交わっていた軽いキスが、次第に激しくなってペッチングまで発展してしまいました。でも、その晩はそこで留まることができました。でもこのようなかんぬきの外れた状態は、この日だけでは済まなかったのです。私たちはお互いにとても深く愛していたので、ふたりがペッチングをすることなど大して悪いことではない、と信じ込んでいたのです。一夜の出来事が翌晩の出発点となり、私たちは同じ罪を繰り返しました。そしてとうとう自制を失い、最終的な罪を犯してしまったのです。私たちはそれまでに、自分たちのしていることについて話し合い、最終的な罪だけは決して犯すまいと決意していたのですが、自分たちのしていることに目覚めるのが遅すぎました。本当に遅すぎました。」

不道徳が姦通や性の倒錯から始まることはありません。性についてあれこれ考えた

り、人と話したりすること、それに感情的なキスやペッチングなど、小さい軽率な行為が発端となり、それがあらゆる行為へと発展していくのです。このようなほんのちょっとした行為は、最初の誘惑に屈した若人の頑強な体や強い精神力、それにはつらつとした霊からすれば取るに足らないものと思えるでしょう。しかしすぐに、強さは弱さに、主人は奴隷に変わり、霊的な成長は止まってしまうのです。ただし、この最初の不義な行ないを、根をはらすことなくやめてしまえば、その人は立派な大人に向かって成長を続け、青春時代は父なる神に向かって成長する時代となるでしょう。

「キンボール兄弟、私たちは赦されるのでしょうか」とふたりは悲しそうに尋ねました。

「はい、主御自身と主の教会はあなた方を赦すことができます。またそうするでしょう。しかし容易ではありませんよ。律法を犯した人の歩む道は、厳しいものです。今までもそうでしたし、これからも変わりはないでしょう。主はこうおっしゃっています。『わたしは言って置く、最後の一レプタまでも支払ってしまうまでは、決してそこから出て来ることはできない。』(ルカ 12:59)」

私はさらに話を続け、慈悲深い主は私たちに赦しの道を備えておられると彼らに話しました。人は喜びを得る行ないをしたからと言って責任をのがれることはできません。律法を犯した者は、罰を免れることはできない。無から有は生じないのです。神は公平な御方です。パウロは次のように言っています。「まちがってはいけない。神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。」(ガ

ラテヤ6：7)

婚前交渉は重大な罪ですが、完全な悔い改めがなされれば赦しを得ることができません。しかしまず初めに、この罪がどれ程重大なものかを認識する必要があります。世の初めから、この地上にはいろいろな種類の罪が存在しました。その中の多くは他人を傷つける罪ですが、どのような罪に対しても共通して言えることは、それが自分自身と神の双方を傷つけるものであるということです。なぜなら罪は私たちの進歩を妨げ、成長を止め、善良な人々や良い影響力、さらには主から私たちを疎遠にしてしまうからです。

古代の使徒や予言者たちが非難すべき罪としてあげたものは数え切れないほどありますが、その多くは性に関する罪で、姦淫、無情（ローマ1：31参照）、肉欲、不義、無節制、恥ずべき言葉、汚れ、情欲、不品行などという言葉で表わされています。また性に関する罪には、結婚関係以外で行なわれるあらゆる性関係、すなわちベッティング、性倒錯、自慰、それに性に耽溺する余りそれが思いや言葉を支配してしまうことも含まれます。またあらゆる隠れた罪、汚れた不潔な思いや行ないもそうです。これらの罪の中で最もひどいものは、近親相姦です。近親相姦について、辞書には「法律上結婚を禁じられている近親者の間の性の交わり」とあります。このような憎むべき罪を犯せば、その人の人生における靈性は極度に傷つき、時には取り返しのつかない状態にまで陥ってしまうでしょう。大管長会と十二使徒定員会は、近親相姦を行なった教会員は破門に処することを決定しました。また近親相姦の罪により破門された人は、大管長会の書面による許可がない限り

再びバプテスマを受けることができなくなっています。

私たちが禁じられた世界に足を踏み入れた時、良心は私たちにそのことを告げてくれます。そして意図的にまたは罪の繰り返しにより沈黙させられるまで私たちの胸を刺すのです。

偽りではなく心から正直に、それが悪いことだとは知らなかった、と言える人がいるのでしょうか。こうした汚れた行ないは、その口にするのも汚らわしいような名称が何というものであれ、またその行為に到達するまでの過程やその行為の現われがどのようなものであれ、主と主の教会により罪ありと定められているのです。ある罪は他の罪と比べてもっと憎むべきものであるかもしれませんが。しかし自分には知識があると偽って主張する人々がいくらそうではないと言っても、これらすべて罪であることに変わりはないのです。主の予言者たちは、そうした人々の主張は正しくないと断言しています。

この世には何が正常かということを決める一定の尺度があるかもしれません。しかし、それと教会が持っている尺度とは異なっています。世の尺度で言えば、タバコを吸うのはごく当たり前のことでしょう。しかし教会は、もっと高い次元で、喫煙はすべきでないと言っているのです。また世の中では外で盃をくみかわすことは別に禁じていませんが、主の教会はその民をアルコールは一切口にしないという段階まで引き上げています。婚前交渉についてもそうです。世の中では承認しているようですが、主と主の教会は、結婚関係以外のいかなる性関係も罪に値するとはっきり述べています。

パウロは、卑しい心の現われであり、また感情と欲望の無節制の証拠であるそうした汚れた行ないを非難して、次のように述べています。

「ゆえに、神は、彼らが心の欲情にかられ、自分のからだを互にはずかしめて、汚すままに任せられた。」(ローマ1:24)

結婚を前提とした交際は結婚の序曲とも言うべきものです。そこでこうした交際をしている男女はできるだけ親密になりたいと思うようになり、肉体的に親密な関係も交際の一部として正当なものであると思ひ込むようになります。こうして、今まで大勢の人々が手綱をゆるめ、制限を越える行為に走ってしまっています。ある人々は愛情をごく簡単な形で表現する代わりに、ネッキングと呼ばれる愛撫行為により相手の体に触れたり、欲情をそそるようなキスをしたりしてきました。ネッキングは、汚れた行為という名の家族の中ではまだ子供の方です。このネッキングのお姉さんにあたるのがペッチングです。肉体的な親密度がこの段階まで来ると、救い主が定めておられる次の罪に明らかにあてはまります。

「『姦淫するな』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。

しかし、わたしはあなたがたに言う。だけれども、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。」(マタイ5:27:28)

ペッチングをしていながら自分は情欲を抱いていないと言える人がいるでしょうか。これは、近代における十戒として与えられた啓示の中で、最も忌まわしい行為として主が叱責されたものではないでしょうか。「汝盗むなかれ。また、姦淫を犯すなかれ。また、人を殺すなかれ。また何事にて

もこれに類することを為すことなかれ。」

(教義と聖約59:6)

皆さんにお尋ねしたいと思います。ペッチングが姦淫に類することでないとしたら一体何でしょう。主は、この忌まわしい罪が、姦通または婚前交渉という最終的な罪に至らせるために悪魔が企てた懐柔策であることを御存じだったのではないのでしょうか。主の聖文に照らしてみても、人は明らかな良心を持ってペッチングという道を歩めるのでしょうか。これは重大な罪ではないと確信をもって言える人はいるのでしょうか。

私たちは以前に何度も話したことをもう一度話さなければなりません。すなわち、アダムの時代にも、モーセやパウロの時代、そして現代においても、肉親の兄弟姉妹同士性の交わりは邪悪なものであり、主はこれを非としてこられました。教会はこうした性の倒錯を、いかなる形態を取るものであれ、決して許容しません。主御自身もこう語っておられます。

「すなわち、主なるわれは罪を見ていささかもこれを許すを得ざればなり。」(教義と聖約1:31)

聖典にこのようにはっきり述べられているのに、どうして不道徳を正当化し、それを愛という言葉で呼べるのでしょうか。黒は白ですか。悪は善ですか。清さは汚れですか。

では、道徳に対する教会の立場を理解できたとして、次に私たちは、それが決して流行遅れの、色あせてすり切れた衣服のようなものでないことを、断固として宣言します。神はきのうもきょうも、また永遠に同じ道であり、その聖約や教義は不変です。ですから、たとえ太陽がその熱を失い、星

が輝きを失うようなことがあっても、純潔の律法は、神の世界と主の教会にあって基本をなすものとして存続するでしょう。

古くから価値のあるものを教会が支持するのは、その古さからではなく、その価値が時の流れの中で明らかにされてきたからなのです。このことは、いつの時代にあっても決して変わることはないひとつの定めです。

良いデートとは

皆さんがいろいろなむずかしい問題や誘惑に陥るのを避けるために、私はまたここで次の規準を提案します。16歳になるまで、どのような形のデートも一対一のつき合いもしないようにしましょう。またたとえ16歳になっても、どのような相手を選ぶか、どの程度のつき合いをするかは慎重に判断しなければなりません。さらに、若い兄弟たちは19歳になったら伝道に出ますから、あまり親しい交際は控えるようにすべきです。

十代前半のデート、中でも相手をひとり限定したデートは最も危険です。人生を健全な面からながめられなくなりますし、他の豊かな価値ある経験を得る機会を奪ってしまいます。また交際範囲も狭まり、この世から永遠にわたって伴侶となる人を選択するにあたってその対象が非常に少なくなってきます。

ダンスや旅行に行ったり、パーティーやデートを楽しんだりするには、確かに適切な時というものがあります。聖なる神殿での永遠の結婚へと導く一対一のいわゆるステディーなデートを始めるにも、時があるのです。大切なのはその時がいつかを判断

することです。たとえ正しいことであっても、それを行なう時と場所と状況がふさわしくなければ、まずい結果が出てしまうのです。

さて私は、シオンの若人がはっきりとした誤りのないラッパの音を聞きたいと思っていることを信じています。私がこれから吹くラッパの音が正確ではっきりしたものであり、正直な人ならだれも混乱することがないようにと願っています。そして次に述べる、口に出すのも忌まわしい様々な行為に対して、私が主と主の教会の立場を明確にすることができるように、心から望んでいます。

自慰

道徳的に低い規準を持っている人々の主張がどうあれ、このある程度一般化している行為は、主と主の教会の認めるところではありません。末日聖徒はこの行為を決してしないようにしなければなりません。この悪癖に陥ったままでも伝道に出たり、神権を受けたり、神殿に行って祝福を受けたりすることは不可能です。

自慰行為は、時として露出趣味や非常に忌まわしい罪である同性愛の発端となることがあります。もしも私たちに、善を悪、黒を白と呼ぶ人々から欺かれることのないようにシオンの若人を守るという責任があれば、こうした不潔な言葉や忌まわしい行為について口にするのは、できたら避けたいのです。

同性愛

この邪悪な罪は今急速に広まりつつあり

ますが、同時にこの行為を認めることが当たり前のように思われてきています。この行為への欲望や傾向のある人の場合も、克服の仕方は、ベッティングや婚外交渉への欲望を持っている人の場合と同じです。主はこの行為を、姦淫その他の性的な行為と同様に強く非難しておられるのです。教会は、この行為にふけて悔い改めようとしない人を即破門に処することにしています。

大方の見解や主張とは反対に、この罪は克服できる罪であり、また赦しを得ることのできるものです。しかし、また同じですが、深い、心からの悔い改めが必要です。つまり、この悪癖をきっぱりと断ち、思いと行ないをすっかり変えてしまわなければならないのです。ある行政政府や教会、それに無数の墮落した人々が、この行為を犯罪から個人の権利に変えようとしてきました。しかし、この行為の本質とゆゆしきは変わるものではありません。世界中の善良で賢明な、神を畏れる人々は、今もおこの行為が神の息子、娘としてふさわしくないものであると非難しています。そしてキリストの教会も、人間が汚される肉体を持って、いる限りこの行為を非難し、罪に定めるのです。

ヤコブはこう語りました。「そんな人間は、二心の者であって、そのすべての行動に安定がない。……」

試練を耐え忍ぶ人は、さいわいである。それを忍びとおしたなら、神を愛する者たちに約束されたいのちの冠を受けるであろう。

だれでも誘惑に会う場合、『この誘惑は、神からきたものだ』と言ってはならない。神は悪の誘惑に陥るようなかたではなく、また自ら進んで人を誘惑することもなさら

ない。

人が誘惑に陥るのは、それぞれ、欲に引かれ、さそわれるからである。

欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生み出す。

愛する兄弟たちよ。思い違いをしてはいけない。」(ヤコブ1:8, 12-16)

この忌まわしい同性愛は、自然の関係に逆らう罪です。この罪のために滅んでいった町や文明は枚挙にいとまがありません。イスラエルの民が荒野をさ迷っていた時にもこの罪はありました。またギリシャ人はこれを認容していましたし、墮落したローマの大浴場にもこの行為が見られました。

これは、話していて最も不快感を覚える問題です。しかし私は大胆に話さなければなりません。教会の若人の中で、この極悪非道な行為に関して曖昧な考えを持つ人がないようにするためです。ここでもルシフェルが、男も女も滅ぼして永久に自分の手下にあるために、私たちを欺き、勝手な論理と口実を弄して弄しています。パウロはテモテにこう語っています。

「人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、

そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれていく時が来るであろう。」

(IIテモテ4:3-4; モーセ5:50-55 参照)

ある人は、「神がそういう存在として人間を造ったのだから、どうしようもないのですよ」と言って、性の倒錯に走る自分を合理化します。これは冒瀆です。人は神の形に造られたのではないですか。神を「そういう存在」だと言うのですか。人は自分

の犯す罪に対して責任を負わなければなりません。ある人は、言い訳と合理化を繰り返してきたために、よほどの努力をしないとこの罪から這い上がれない状態にまでまり込んでいます。しかし、克服は可能なのです。誘惑はだれにでも来ます。神に見捨てられた人と神の目から見てふさわしい人の違いは、一般的に言って、誘惑を受け入れたか拒んだかの違いです。その人の置かれている環境によって決定や実行の難易が左右されることは確かです。しかし気を配ってさえいれば、自分の将来をコントロールすることはできるのです。

さて愛する兄弟姉妹、私は今まで、今日の世の中に存在する罪を率直に、また大胆に非難してきました。私はこのようなテーマで話するのはきらいです。しかし、シオンの若人に対して大誘惑者の猛攻に備えるよう警告するのは、どうしてもしなければならぬことです。大誘惑者であるルシフェルは、その手下と武器を総動員し、欺きや誤説、虚偽を用いてシオンの若人をことごとく滅ぼそうとしているのです。

「この試しの生涯の間賢くせよ。自分の身からあらゆる汚れを払い去れ。情欲を満そうとして願ひ求めてはならない。むしろ何の誘惑にも負けずに生ける真の神に仕えると言う固い決心をもって願ひ求めよ。」
(モルモン 9 : 28)

悔い改め

愛する若人の皆さん、皆さんの中ですでに失敗をしてしまった方々を、主と主の教会は赦すことができます。聖典を読み、書かれていることを十分理解している人は、神が愛にあふれた赦しの神であることを心

にはっきりと刻み込んでいると思います。神は私たちの御父ですから、私たちをけなすことなく逆に高めようとされますし、霊の死に至らせるよりも何とか踏みとどまれるよう助けても下さいます。

悔い改めには5つのステップがあります。

1. 罪を悲しむ。罪を悲しむためには、その罪がゆゆしいものであるということは何らかの形で知る必要があります。罪を罪として十分に認めるようになると、私たちは自分の心を罪の影響を受けない状態に置こうとします。そして罪を犯したことを悲しみ、進んで罪を償い、罰を受け、必要ならば破門に付されてもそれを甘んじて受けるという気持ちになるのです。

2. 罪を捨てる。一番理想的なのは、自分の罪の重大さを自覚することによって罪を犯すことをやめ、それから後、神の律法に自分から進んで従うというパターンです。泥棒は刑務所で罪を捨てることができますが、もし本当に悔い改めていけば、つかまる前に悪事をやめ、強制されなくとも自分から盗品を返すはずです。汚れた行ないを自分から進んでやめる人は、赦しへの道を一步踏み出した人です。

アルマは言いました。「それであるから、へりくだることを強制されずに進んでへりくだる者はさいわいである。」(アルマ32 : 16)

一度やめたら、その状態がずっと続かなければなりません。同じ罪を繰り返すということは、真の悔い改めができていないということです。主は悔い改めについて予言者ジョセフ・スミスにこう啓示しておられます。「人罪を悔い改めしや否やは、見よ、彼は自らこれを告白しその罪を捨つべければ、その悔い改めたることはこれによりて

知るを得べし。」(教義と聖約58:43)

3. 罪を告白する。罪の告白は、悔い改めの中で重要な要素となるものです。罪を犯した人々の中には、少しばかり祈りをすればそれでいいと考える人が多くいます。そうして罪を隠すことを正当化しているのです。

「その罪を隠す者は栄えることがない、言い表わしてこれを離れる者は、あわれみを受ける。」(箴言28:13)

特に性に関する罪のように重大な過ちの場合は、主のみならず監督にも告白しなければなりません。告白した人が受けることのできる赦しにはふたつあります。主からの赦しと、指導者を通して受ける主の教会からの赦しです。自分が罪を犯したことに気づいたら、私たちはなるべく早くイノスがしたように「一心こめて祈」らなければなりません。そしてその祈りを、主が罪を赦して下さったと確信できるまで、決してやめてはならないのです。少しばかりの願いで主が赦しを与えて下さると考えるのは虫が良すぎます。長い間努力し、他のすべての戒めにも喜んで従うということをもつて示すまで本当の赦しは与えられないというのが普通でしょう。次のステップは監督を通して教会から赦しを得ることです。いかなる祭司、長老といえども、教会に代わってこのことを行なう権能はありません。主の計画は不変であり、秩序立っています。ステーキ部内にいるすべての人には、主の召しと聖任により「イスラエルの判士」に召された監督が与えられています。監督はこの世での私たちの一番の友達です。監督は私たちの持っている問題に耳を傾け、それがどの程度深刻なものかを判断し、それからどのような悔い改めが必要か、最終的

に赦しが得られるものなのかどうかを決定します。監督はこのことを、地上における神の代理人として、また熟練した医師、心理学者、精神科医として行ないます。もしも悔い改めが十分なものであれば、罰は与えられません。これは赦しと同じことです。監督には罪を放免する権能はまったくありません。しかし、彼は重荷を共に負うことにより、罰を与えずに切迫した状態を和らげてあげるのであります。そしてその人に、教会活動を今まで通り続けるように言います。またこの場合、すべてのことは内密に保たれます。

4. 罪を償う。心からへりくだって自分の犯した罪を悲しみ、その罪悪を無条件で棄て去り、そして主が召したもうた人に告白した人は、次にその罪によって生じた損害をできるだけ回復するように努力しなければなりません。盗みを働いたのであれば、盗んだ物を持ち主に返します。殺人が赦されない罪である理由は、おそらく、一度奪った命を元に戻すことが私たち人間にはできないからでしょう。いずれにしても、一度損害を与えたものを完全に元に戻すことは不可能です。純潔も同様で、一度奪ったら元には戻せません。

しかしながら心から悔い改めた人は、ある程度までですが、何らかの形で罪を償うことができます。また、真の悔い改めの精神があれば必ずそうなるはずで、エゼキエルはこう教えています。「すなわちその悪人が質物を返し、奪った物をもどし、命の定めに従い歩み、悪を行わないならば、彼は必ず生きる。決して死なない。」(エゼキエル33:15)

モーセはこう言っています。「もし人が牛または羊を盗んで、これを殺し、あるいは

これを売るならば、彼は一頭の牛のために五頭の牛をもって、一頭の羊のために四頭の羊をもって償わなければならない。」(出エジプト22:1)

また自分の罪を赦して欲しいと願う人は、逆に自分を傷つけた人をすべて赦さなければなりません。私たちの心から、他の人々への憎しみや嫌悪、非難が一掃されない限り、主には私たちの罪を赦す義務はないのです。

5. 天父のみこころを行なう。私は1978年3月の83歳の誕生日に、たくさんの方々からカードをいただきました。中には4千7百人の若人のサインを一冊の本にまとめたものもありました。ほかにも様々な署名の入ったカードがたくさんありました。皆、自分のこれからの人生に対する誓いを書いていました。ひとつ紹介しましょう。

「愛するスペンサー・W・キンボール大管長、

私はこの世界の一員として、歩みを速め、ペースを上げ、また霊を高めて主の業のために働きたいと思えます。

私は什分の一を正直に、死ぬまでずっと欠かさず納めることを約束します。

また、たとえ誘惑にあっても知恵の言葉を守ることを、大管長と主に約束します。タバコ、酒、コーヒー、麻薬には決して手を伸ばしません。

朝晩の祈りも忘れません。主のたくさん約束、み守り、そして祝福を忘れません。

私はとりわけ、自分の人生を清く保ち、無数のこうかつな誘惑により汚れることがないようにすることを約束します。どんなものであっても、道徳的に清くないものには近づきません。

また私は、聖典や他の良書を読み、そこ

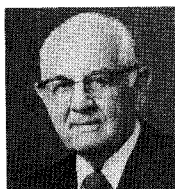
から霊の糧を吸収するという事について、歩みを速めることを誓います。

私は、同胞を愛するようになお一層努力し、義を完うするために人々と共に働きます。

また、主の戒めをすべて知り、その一つ一つを愛と思いやりの心をもって守ります。」

兄弟姉妹の皆さん、皆さんは美しい心を持った素晴らしい人たちです。私たちは皆さんを誇りに思っています。皆さんのこれまでの大いなる働きと献身と犠牲を誇りに感じています。私たちは皆さんを愛しています。私たちは集会があるたびに、また各家庭での朝晩の祈りのたびに、そして夜各各の寝室で皆さんのことを祈っています。皆さんが清い生活を続けることができるように祈っているのです。清い生活とは、頭のとっぺんから足の先まですべて清い生活です。麻薬や酒、タバコ、盗み、わいせつな雑誌や映画など、私たちに押し寄せてくるこの世の汚れたものからすべて遠ざかることです。皆さんはそのようなものに手を染める必要はありません。そのようなものに身を任せてはならないのです。

神の武器で身を固めましょう。欠かさず個人と家族の祈りをし、また家族の礼拝に加わりましょう。安息日を聖く過ごし、知恵の言葉をよく守りましょう。家庭での務めをみんなよく果たしましょう。そして特に、清い生活をして汚れた不潔な思いや行ないを棄て去りましょう。私たちのために定められた高い義の標準を低下させるようなものとは、関わりを持たないようにしましょう。以上のことを行なえば、皆さんの乗った船は順風を受けて進み、平安と喜びがあたりにあふれるのです。



大管長 スペンサー・W・キンボール

学びそして教える

「愛する姉妹の皆さんは、この地上で愛と真理の模範として欠くことのできない人々なのです。」

愛する姉妹の皆さん、今宵、世界中の2000以上の場所に集っておられる姉妹の皆さんを心から歓迎致します。私たちは、心から皆さんを愛し、皆さんに感謝しております。また、皆さんを尊敬し、必要といたします。「主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない」（Iコリント11：11）からです。私たちは皆さんがひとりの女性として、また妻、母親、祖母として義と善に向かう力を備えておられることを喜んでおります。私たちは、まだ家庭生活の完全な祝福を享受していない忠実で献身的な独身の姉妹に感謝しています。主は皆さんを愛しておられます。皆さんが天父の最も気高い霊だからです。これからも忠実かつ誠実であるならば、いつの日か永遠の祝福を手にすることができるでしょう。

私は、「学びそして教える」というこの会のために選ばれたテーマに感謝しています。私は結婚して以来、知識を求めてやまない妻カミラからたくさんの祝福を受けてま

いりました。妻はいつも読書をし、知識を求めています。そして、予言者ジョセフ・スミスを通して与えられた主の勧告をそのまま信じています。「およそ、われらのこの世に於て達する英智の一切は、何にてもよみがえりの時われらと共によみがえるべし。」（教義と聖約130：18）妻は63年にわたる結婚生活の間、常に学び続けただけではありません。模範と教えによって、同時にそれを人々と分かち合いました。半世紀以上もの間、彼女は扶助協会の訪問教師でした。また長期間にわたって扶助協会の霊的生活の教師を務めました。

愛する姉妹の皆さん、教会の教えに近く生活して下さい。予言者に従って下さい。それは、進むべき道を見失わず、またすでに道に迷った人を元の正しい道に戻すためです。皆さんの家族を愛し心にかけて、毎週欠かさずに家族の夕べを開いて下さい。家庭は、平安と愛と思いやりの場です。良い隣人であって下さい。世の多くの人々の愛

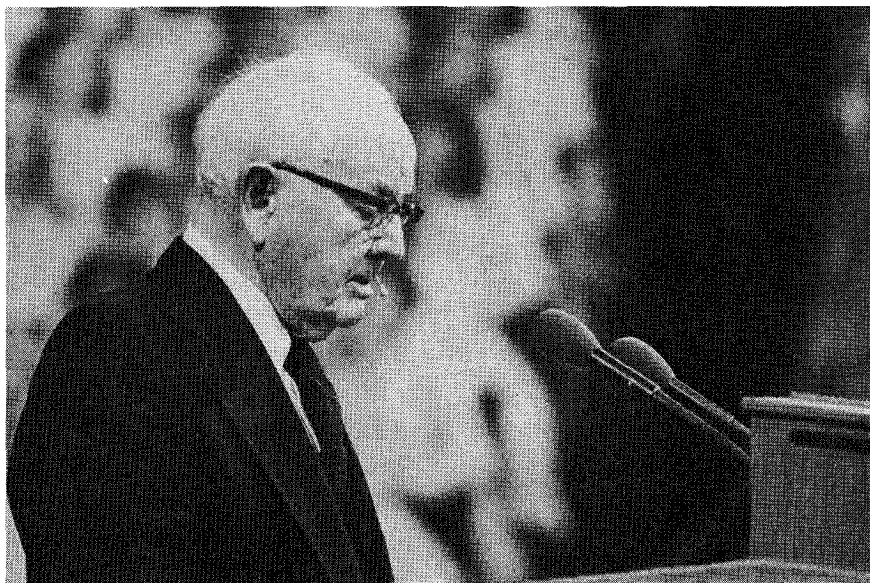
が冷えることがあっても、皆さんの家族や隣人が皆さんの教えと導き、愛ある奉仕を失ってしまうことのないようにするためです。どうぞ続けて良き妻、母、娘そして姉妹でいて下さい。愛と平安がこの世から消えてしまうことがあっても、皆さんの家庭からは消えてしまうことがないようにするためです。

世の中にはいろいろな種類の声があります。ここで、私が2年前の女性の大会で話したことを再度強調したいと思います。自分の興味に応じて盲目に自分勝手な解釈をすることは、ほかの女性に任せておきましょう。しかし、愛する姉妹である皆さんは、この地上で愛と真理と義の模範として欠くことのできない人々なのです。「来たれ予言者よりみ言葉聞け」とあります。

舵を取っておられるのは主です。主が私たちを導いて下さるのです。これは主の業であり、その中で扶助協会は非常に重要な

役割を果たしています。姉妹の皆さん、扶助協会の組織に忠実であって下さい。扶助協会は、主の靈感を通し、予言者ジョセフ・スミスにより138年前に組織されました。自分自身のために、家族のために、また教会のために扶助協会を支え強めて下さい。また、すべての戒めを守ると同じように、他のすべての基本的な教会プログラムを十分に活用し、バランスの取れた堅固な生活を築いて下さい。信仰深くあるならば、主は皆さんや家族をお見捨てにはならないのです。

愛する姉妹の皆さん、私は神が生きておられ、イエスが肉における神の独り子であり、世の贖い主であられること、またこの教会がイエスを頭にいただく教会であることを知っています。私は、この証と愛と祝福をイエス・キリストのみ名により皆様に残します、アーメン。





中央扶助協会会長 バーバラ・B・スミス

愛の絆

「私たちが一致し、ひとつになるならば、神のみ手の道具となることができます。」

キンボール大管長のお話と聖歌隊の歌う祈りの言葉を聞くと、主の教えの中で愛がいかに大きな意味を持つかを改めて感じさせられます。主はこのように言っておられます。

「汝ら何よりもまず、外とうの如く愛のきずなをもて身に纏うべし。それは完きと平和のきずななり。」(教義と聖約88：125)

思いやりのある行ないで互いに助け合い、標準の高い強い愛、すなわちキリストの純粋な愛を身につけるよう絶えず努力する時、愛の外とうを身にまとうことができます。愛、すなわちキリストの純粋な愛は、善い行ないまたは慈悲といった言葉で簡単に置き換えることのできないものです。親切や思いやり、愛ある行ないは、イエス・キリストまた他の人々に愛を表わすために主が示して下さった方法にほかなりません。満ち足りている者は困っている人々に分け与えよと主は言っておられます。病気の人、慰めのいる人、父親のない人、愛する人、

迫害する人々を思いやり、暖かい親切な心を持って接するならば、愛を身にまとうことができます。それは、相手を深く思う気持ちたちが私たちの行ないの原点となっているからです。

そのような愛は、スペイン語で「絶えざる愛」と定義されています。また、ミクロネシアでは、愛は「生活を変える力」と言われています。このように愛の定義について考えてみますと、私たちは、キリストの純粋な愛についてより深く理解することができます。キリストの愛を身につけようという願いを生涯持ち続けて人々に仕えるならば、愛の真実の意味が理解できるようになるでしょう。

これは、ルツの生き方をよく表わしています。旧約聖書には、ルツのナオミに対する思いが書かれています。ルツは、厳しい環境の中にあつたにもかかわらず思いやりの深い人でした。辛い経験は、だれしものが味わうものです。しかし、この辛さなくし

て幸福を味わうことはできません。リーハイは、このように言っています。

「それは、すべての物事には必ずその反対のものがなければならぬからである。……もしも物事にその反対のものがなければ、正義も不正も聖潔も憐むべき様も善も悪も生ずることができぬ。それであるから、すべての物事はみな合して一つとならなければならぬ。」(Ⅱニーファイ2：11)

ルツは、このことをよく知っていました。ルツは若い頃に夫を亡くし、子供にも恵まれませんでしたが。そんな苦しい中であっても、ルツは義理の母親と良い関係を築き、しかもイスラエルの神に対する信仰を強めたのでした。このふたつのことは、結婚によってもたらされたのです。

ルツは、母ナオミを養うために落ち穂を拾い集めました。しかしルツは、拾った穂を打つために打ち場に行った時、拾った穂

以上のものを得ました。1日の終わりに、苦勞が祝福となったのです。これは、私たちすべてが立ち向かわなければならないチャレンジです。人生の境遇や経験から落ち穂を拾わなければなりません。それは、私たちに成長、信仰、心の平安といったものを与えてくれるでしょう。

この世のチャレンジや苦難から逃れる道はありません。また逃れるべきでもありません。どう対処するかは自由です。福音の計画は、私たちに永遠の視野を与えてくれます。そしてそれは、落ち穂を拾う時に勇氣を与えてくれます。

ジョセフ・スミスは、ノーヴーでの最初の扶助協会の集会でこう語りました。

「この指示を受けたあなた方は、これから自分のことは自分で責任を負わなければならない。自分を救うのは自分である。」(「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.227)ジ



ヨセフ・スミスが、知識が人を救うと言っていないことに注意して下さい。知識が、自らを救う責任を人に与えると言っているのです。

扶助協会は、完成に向かって一步一步進む私たち主の娘を助けるために組織されました。扶助協会は、導きとなり、力となり、光となり、指針となります。扶助協会は、どうすれば絶えることのない愛を育めるかを教えます。また行ないによって愛を実践する機会を与えてくれます。そして、リーハイが述べたように、善悪の入り乱れたこの現代の世の中で、真実を選び出す手助けをしてくれます。

今夜私は、愛の絆を強める上で欠かせない事柄として8つ選びました。

第1番目は、私たちの今夜のテーマ「学びそして教える」です。

イエスがゲッセマネで苦しみをお受けになる前、弟子たちと食卓につかれた時のことを思い出して下さい。このように言われました。「あなた方の中でいちばん偉い人は……仕える者のようになるべきである。」

(ルカ22：26)

主はシモンにこうおっしゃいました。「シモン、シモン……わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ22：31-32)

主がシモン・ペテロにお示しになったこの手順は、私たちすべてにあてはまるものです。まず真理の原則を知り、それに改宗し、そしてその原則を人々に教えるのです。ですから、私たちは今夜皆さんに、学びそして教えるという決心をしていただきたいのです。靈感を通して備えられた扶助協会



のレッスンから、ひざまずいて行なう祈りから、聖典の勉強から、現代の予言者の言葉から、聖霊のささやきから学ぶのです。そして学んだら、今度は姉妹たちを教え、強めて下さい。お子さんや御主人、仲間を力づけて下さい。機会をとらえて教えましょう。また模範を通して教えて下さい。

第2は、扶助協会の活発な会員になることです。

活発な会員となるには、扶助協会に出席し、責任を受ける必要があります。老いも若きも、また未婚既婚の別なく集会に出席し、信仰を共にする姉妹たちと友愛の絆を強めるのです。欠かさず出席し、レッスンに参加して下さい。

キンボール大管長と話した時のことです。話を終えてオフィスを出る時、何かできることはないかと大管長に尋ねました。すると大管長は、「女性を扶助協会に出席させて下さい」と言われました。大管長がこの問題について話すように私に求められたのは、扶助協会に出席することにより霊的に強められ、永遠の真理に対する理解を深め、自

分自身の救いを確かなものとする選択ができるようになるということを知っておられたからです。召しの関係で初等協会や若い女性の会に出ている人は、何らかの方法で扶助協会の姉妹たちと親しくなるようにして下さい。テキストを読み、訪問教師とそのことについて話し合い、扶助協会を生活の一部にしましょう。

3番目は、福音のメッセージを広めることです。

ジョセフ・スミスが、ノーヴーからカーセージに向かうあの土ぼこりの道で最後の説教をした時、特に話したのは、生命と救いの計画を世の人々に宣べ伝えるということでした。キンボール大管長はこれを受け継いで、歩みを速め、あらゆる国々の人々に福音を宣べ伝えることが私たちに課せられた大きな責任であると述べています。

私たちは教会の女性として、研究と祈りと奉仕により伝道活動の備えをする必要があります。そうする時に、私たちは真理の原則にもっとよく従えるようになり、私たちの良き業を見た人が福音を受け入れやすくなるのです。活発な末日聖徒の知人の中からたくさんのバプテスマが出ていることは事実です。

毎年私たちの息子娘たちは、救いの福音を宣べ伝えるために全世界に出て行きます。しかし地元の扶助協会のユニットでも、この良きおとずれを多くの人々にもたらすために、フルタイム宣教師と協力して働くことができます。その手始めとして大切なことは、宣教師に定期的に教会員でない人を紹介することです。

また、自分自身が伝道宣教師または特別奉仕宣教師として出られないかどうか考えてみましょう。私たちのステーキ部扶助協

会のひとりの副会長は、御主人と共にナイジェリアへの伝道の召しを受けたばかりです。彼女は、このように言っています。「それは、行かない方が楽かも知れませんが、私たちが今受けている祝福を他の人たちにも味わってもらいたいのです。」

地域社会での奉仕の時に会う人、近所の人、また職場の人など、どこでも人とよく知り合うよう心がけてみてはどうでしょう。そして、正直にまた誠実に生活して下さい。そうすれば、福音を伝える機会が育ってきます。

第4に、福祉活動の原則について知り、それを生活に応用しましょう。

福音の真髄が、貧しい人、乏しい人を心にかけて、儉約の生活をし、教会の供給プログラムに参加することによって援助の必要な人に必要な助けを与えることにあることを思い起こして下さい。私たち一人一人は、特別な問題を抱えている人や重荷を負っている人に愛と思いやりを示すというチャレンジを神様から与えられています。教会福祉事業は、決してないがしろにできないものです。

5番目は、自他共に人生での変化に心を向けるということです。

私たちは、常に現実の生活に直面しています。そしてそこには、子供から大人への移り変わり、結婚、子供に囲まれた生活から老夫婦だけの生活へ、兵役から社会復帰へ、退職、伴侶の死別や離婚、また若くはつらつとした生活から他人に頼らなければならぬ老後の生活へなどなど、ストレスや不安をもたらす変化がたくさんあります。そのような中で取るべき道を見いだすため、時には人の話に耳を傾けたり、人から励ましを受けたりすることが必要になってきま

す。そのような時、扶助協会の役員教師や姉妹たちは助けを与えることができます。人々の生活の変化によく注意して下さい。

6番目は、中味の濃い訪問教師プログラムを行なうことです。

訪問教師プログラムは、主が私たちにお与え下さった道具です。ですから、正しく用いれば靈感と力と安らぎをもたらす泉となるでしょう。私たちは、祈りが訪問教師の訪問によって、必要な時に奇跡的に答えられたという話をよく聞きます。殺ばつとした都会での生活、群衆の中での生活を続けていると時として孤独になります。そのような時に、訪問教師は欠かせません。訪問教師プログラムは、互いに接触を保つために主がお与え下さった方法であり、主が一つ一つの家庭が神聖なものであることを認めておられる証拠です。この訪問教師プログラムに必要なことは、担当の姉妹への心からの献身です。

7番目は、かけ橋となることです。

この歴史的な年に、自分自身を過去と未来をつなぐ者としてながめてみましょう。皆さんは、今晚ふたをするこのヨベルの箱に何かを詰め込んでいるのです。私たちの祖母たちもこのヨベルの箱に物を入れました。この中には、姉妹たちのスピリット、それに現在の活動を一杯に詰め込みます。50年後に箱を開く人たちが、私たちの決意と信仰を目のあたりにすることができるようにするためです。

皆さんは、個人的にはすでに進み行く人類の壮大なドラマの中で橋渡しの役割を果たしています。また、日記や個人の財産などによってもこの時代の姿を後に残すことができます。すでに世を去った人々、現在の人々、そしてこれからこの世に生を受け

る人々を永遠に結ぶこの重要な役割を立派に果たしましょう。

8番目は、自分を大切にすることです。

天父は、この世のあらゆる創造物にもまして私たちを愛しておられることを聖典は証しています。私たちの中には、不死不滅と永遠の生命が宿っているのです。私たち一人一人は、天父のようになる可能性を秘めています。

ふさわしい生活をしている姉妹であれば、天父が御自分の忠実な娘に用意しておられるあらゆる祝福を、ひとつも逃すことはありません。このことを、教会の姉妹は理解すべきです。扶助協会は、既婚未婚を問わず、すべての女性が信仰によって自らを整えることができるよう助けます。また、単に導きと恵みを施す天使としてではなく、夫の永遠の伴侶として世を治め導くことができるよう助けるのです。

集会や活動で、私たちが一致しひとつになるならば、私たちは一丸となって神のみ手の道具となりそのみ業を成す助けができます。私たちは、キリストに受け入れられ、励まされ、またその気高い愛を受ける時に、善き業にいそしむ力がわいてきます。愛する姉妹たち、「汝ら何よりもまず、外とうの如く愛のきずなをもて身に纏うべし。それは完きと平和のきずななり。」(教義と聖約88 : 125)

私たちが神の導きにより、互いに受け入れる心と明確な目的を持って「学び教える」ことができますように。また、私たちが愛の絆で完全にひとつに結ばれ、主が世の初めから用意しておられるすべての祝福を拾い集めることができますように。これらのことを、すべてイエス・キリストのみ名により心からお祈り申し上げます。アーメン。



中央扶助協会管理会会員 マアリー・F・ファルガー

母親と家族

「私たちが何か重要なことを決める時に、母はいつもこう言うのです。『主
にうかがってみましょう』と。」

愛する姉妹の皆さん、私は神権者の兄弟
たちと同様に皆さんも「すぐれて堅固
な信仰と善い行いとがあるために、神の先
見の明によって創世の前からすでに選んで
備えておかれ……善を選んで……聖い召し
を受けて」(アルマ13:3) いる方々である
と確信しています。

私たちは、マリヤが主の母親としての使
命を果たしたことに畏敬の念を抱いていま
す。しかし、私たち自身も神々の母となる
召しを受けているのです。末日聖徒の女性
は、創造の真の目的は私たちがこの世にお
いて神の霊の子供たちの母親となることだ
であるということをよく理解しています。御
自分の子供たちに永遠の生命をもたらすこ
とが主のみ業であり栄光であるならば、そ
れはまた母親である私たちの業でもあり栄
光でもあります。このことを否定する母親
はひとりとしていないでしょう。それがみ
業であり、栄光であり、子孫に喜びを見出
す母親たちへの天父の最大の約束であるこ

とを否定する母親はだれもいないはずで
す。「この故に善を為すにうむことなかれ。
これ汝ら今偉大なる一事業の基礎を置きつ
つあればなり。」(教義と聖約64:33) 確かに、
これ以上に素晴らしいことはないのです。

私が主人の仕事に同伴して遠出すること
になった時、私の6人の子供たちは小さく、
まだまだ手のかかる状態でした。私はそれ
まで子供たちを家に残して長い間家をあけ
たことは一度もありませんでした。はじめ
のうちはうきうきしていましたが、出発の
日が近づくにつれて不安にかられるよう
になりました。私に何か起こったら、子供
たちはどうなるのだろう。私は非常に心配
になり、出発の日の前夜、私が戻らないよ
うなことになる時に子供たちの世話を頼
みたい人にあてて手紙を書きました。私は
子供たちが幸福になるために必要である
と思うことをすべて書き連ね、追伸として
このように書きました。「どうかたびたび
子供たちを抱いてあげてください。」



私が抱いてあげられないとしたらせめてその人の腕にと、そのような気持ちでした。母親の腕は子供たちに我慢することを教え、安心感と愛をもって子供たちを包み込んでくれるからです。恐れや危害、悪から守ってくれるのです。

私は母親としていろいろな失敗をしました。国や文化の違いはあっても、私たちは皆母親業において何らかの失敗をしています。しかし悔い改めとイエス・キリストの贖罪により、また絶えず主の愛を受けることによって、数々の奇跡が起き、誤りが正されるのです。決してあきらめてはいけません。抱いてあげようとする手を引っ込めてはならないのです。

ひとりで子供を育てておられる母親の皆さん、皆さんは主と共にあって子供たちに偉大な影響力を及ぼすことができるのです。あなたの腕に幼い子供たちを抱く時、主のみ腕もそこにあるのです。安心して下さい。主のみ腕は一日中私たちに差し伸べられているのです。

ジョン・A・ウィッツオー長老はこのよ

うに言っています。「母権は神権と同様普遍的にかつ権能を授けられた人により行使される。」(*Priesthood and Church Government* 「神権と教会管理」 p. 85)

まだ子供のいない方々も、母権を行使して下さい。皆さんの手を救い主のみ手の延長とし、主のすべての子供たちに愛と平安を与えるようにして下さい。

主のみ手に信頼を置くことを知ったある母親は、息子にも主を信じるように教えました。後に、祈りの力について証した中で、彼はこのように言っています。「私が主に頼るようになったのは母の模範のお陰です。私たちは何か重要なことを決める時には、みんなでその問題について話し合うようにしていました。その後で母はいつもこう言うのです。『では、主にうかがってみましょう』と。私が家に帰って来ると、母はよく家事を中断してひざまずいて祈っていました。一緒に部屋に入って来た友人に、『君のお母さん、何しているの』と聞かれて、私はよく『主に相談しているんだよ』と答えたものです。」

私たちが手を差し伸べない時でも、主のみ手はそこにあります。主のみ手に向かって歩むよう子供たちに教えて下さい。

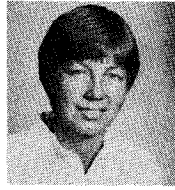
私の母は私の最初の子供が生まれる3週間前に亡くなりました。私にはどんなに母が恋しかったことでしょう。しかしその時からずっと、扶助協会の姉妹たちは私の母親代わりになってくれています。私は神聖な姉妹愛を通じて、また扶助協会で受けた教えと訓練を通じて、主のみ手により自分が支えられていることを知りました。

神は末日聖徒の女性たちに、子供たちを末日の苦難に対して備えさせるよう呼びかけておられます。この召しを全うするために、私たちは永遠の真理を学ぶと同時に、教える者とならなければなりません。子供たちにイエス・キリストについて、また福音について教えるためには、まず私たち自

身が聖典を学ばなければなりません。そして家庭に悪が入り込まないようにしっかり守らなければなりません。聖きみたまの導きを求めなければならぬのです。そして私たちの家庭を聖なる場所としなければなりません。姉妹の皆さん、私たちは前世で喜んで受け入れた神聖な務めを現世において忠実に果たさなければならぬのです。

主が私たちに予言者を与え、その導きを受けて主のみもとに帰れるようにして下さい。このことを学び、またそのことを教えようではありませんか。イエスがキリストであり、今も生きておられること、また主のみ手にあってこそ平安が得られることを学び、そのことを教えようではありませんか。これらのことをイエス・キリストの聖なるみ名により証致します。アーメン。





中央扶助協会管理委員会 アディー・フリーマン

独身：扶助協会のできる助け

「信仰、希望、愛——キリストの律法を成就させる原則」

今晩、私は主のみたまによって自分の思いと気持ちをお伝えできるようにと願っています。

私の隣人にカートという人がいます。その方は農夫です。彼は、このまま雨が降り続いて土地の排水が十分でなければ畑はどれもみな駄目になってしまうと言いました。私は毎日畑をながめ、果実の葉が黒ずんできたかと思うとすぐに真っ黒になってしまう様子を見て、太陽や雨、また雨が降ったりやんだりということが私たちの力には及ばないことを改めて考えさせられました。また植えるにも植えられるにも信仰が必要であるということを感じ起きました。人生におけるあらゆる状態と状況を人は支配することはできません。影響を与えることはできても、それらを支配することは決してできないのです。そこで、私たちが置かれている場所で、あるいは自らを置いてきた場所で工夫しながら成長していく信仰が重要になってきます。

置かれている状況は人それぞれで異なります。働いている女性、働いていない女性。自分の置かれている状況に不安を抱いている人、何の不安もない人。健康な人、そうでない人。苦痛を被った時に泣く人、泣かない人。恥ずかしがり屋の人、そうでない人。結婚している人、していない人と様々です。時折、こうした私たちの相違点がとても素晴らしく輝いて見えることがあります。また似通っているということが混乱や失望の原因になることがあります。しかし、主は私たちに類似点をお与えになりました。肉体に栄養と休息を与えること、呼吸すること、愛し愛されること、より高い世界に到達すること、これらの必要がそうです。主は私たちの相違点と同様類似点をもごらんになり、どちらも大切に考えておられます。そのために、主は教会に老若を問わず、また私のような独身者であると既婚者であるとを問わず、すべての女性が福音の原則を教わることのできる扶助協会を

与えて下さいました。

今晚私は、信仰、希望、愛という福音の原則に焦点を合わせ、それらが私にとってどんなに力となってきたか、また今後それに従って生活する姉妹たち一人一人にとってどのような力となるかについてお話したいと思います。私の経験では、これらの原則は時によって他の人と一緒の方がよく理解できる場合と、ひとりきりの方がよく理解できる場合があるようです。

信仰。自分ひとりで生活している場合、家庭の雰囲気を作ってそこを学びの場とすることは難しいように思います。しかし、もし家庭というものを住んでいる家族の人数によってではなく、そこで起こる事柄によって定義するならば、今までレッスンや小クラスで学んできた儉約や環境の美化といった概念を応用するために必要な信仰をそこで働かせることができます。そして人人をあなたの家庭に招いて、そのような温かい雰囲気の中で共に学び合い、分かち合うことによってさらにその信仰を深めていくことができます。

私は傷心している人、孤独な人、苦痛を味わっている人、自分のことをよく理解して必要に応じてくれる相手がいないと悩んでいる人、これらの人々の心の葛藤を知っています。しかし人々があなたの必要に応じてくれるかどうかは、あなたが喜んで自分の意見や考え、価値観を分かち合うかどうかにかかっているとしたら、信仰はあなたが他の人々と親しくしていく上であなたを強めてくれる祝福となるのです。分かち合うこと、また相手の必要に応えることは姉妹愛を築く大切な要素です。

希望。私は地を満たし（創世1:28参照）、すべての事柄が成就するのを確認する責任

があること、しかもそれを伴侶なしで行なわなければならないことを思う時、心がくじけそうになります。しかし希望という力に頼ることにより、子供を産むことによるのみ地を満たし成就させることができるという考えではなく、人々の感情的、肉体的、知的、霊的必要に応えることによって個人的に地を満たし、人々を助けることができるという考えを持つことができます。このような希望を持つことにより、私たちは福祉、慈善奉仕、家庭訪問メッセージの中に多くの助けと知識を見いだすことができます。

自分を愛してくれる人がだれもないのにだれかを愛するという事は、往々にして不可能に思われます。そして、そういった人間同士の好意のやりとりがないと、仕事や責任など無生物的なものに一層心を向けやすくなります。しかし希望という慰め、希望という伴侶は、あなたに自己を捧げ、愛を与えることを可能にさせると共に、そのような行為に伴う危険を少なくしてくれます。奉仕や人間関係、赦し、日々の愛ある行ないなど、レッスンに取り上げられる様々な概念は、あなたに「私の心はあなたのものよ」と言わせてくれるはずです。しかもそれをひとりの人だけでなく、大勢の人に向かって言えるようになるのです。

愛。自分が家庭といった単位を作れないということで、自分はいったい人のためになるのだろうか、全体を現在よりもより良い方向へ向かわせる助けができるのだろうかと思い悩むのはよくありません。ステーキ部やワード部の扶助協会会長から召しを受けた時に、私たち自身が視野を広く持つて自らを犠牲にしながら愛の手を差し伸べるならば、私たちは現在の生活環境の中

に姉妹愛を見いだすことでしょう。ワード部や地域社会はその愛を必要としており私たちにその完全な姿を期待しているのです。

信仰、希望、愛、これら3つの原則は、私たちにキリストの愛と律法を成就させてくれるものです。聖典には私たちがこれらの原則にどのように従ったらよいか、またそれらをどのように高めていったらよいかが記されています。

ガラテヤ人への手紙第6章2節にはこう書かれています。「互いに重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。」また、あるフォークソングでこのように歌われています。

互いに愛し合おう

互いの重荷を負い合って

互いの喜びを分かち合い

左より中央扶助協会第一副会長マリアン・R・ボイヤー、会長バーバラ・B・スミス、第二副会長シャーリ・W・トーマスの各姉妹

互いの家に持ち帰ろう

私たちはだれでもみな天父のみもとに帰る時の情景や、そこに見られる安らぎや喜びに少しの間でも思いをはせたことがあると思います。独身者であろうと既婚者であろうと、私たちは皆重荷を負い、喜びを分かち合えます。私は私の重荷を負い、喜びを分かち合って下さった人々に、そして私にも同じような機会を与えて下さった人々に感謝しています。

互いに重荷を負い合い、喜びを分かち合うことによって、信仰、希望、愛を持ち、それを人々にお伝えすることができますように、そしてイエス・キリストと共に家路につくことができますように、イエス・キリストのみ名により心からお祈り申し上げます。アーメン。





中央扶助協会第二副会長 シャーリー・W・トーマス

王国の教義

「互いに愛し合いなさい。あなた方は蒔くところのものを刈り取ることになる。神権者を支持しなさい。」

「**学**び、そして教えよ」この歌の美しい歌詞は、私たちに収穫の律法に信仰を持つように勧め、成長を続ける種は約束通りに実を結ぶことを思い起こさせてくれます。

私たちは、直面する問題を早急に解決しようとするあまり根本的な真理を見過ごしにし、そのために確かな方法を見失ってしまうことがよくあります。「互いに愛し合いなさい。」「あなた方は蒔くところのものを刈り取ることになる。」「神権者を支持しなさい。」このような教義やその他の王国の教義が堅固な基礎となります。これらの真理の中にこそ問題の解決法や答えがあります。これらの真理を学び、それに従う時に、私たちは他の人々の生活に祝福を与えることができます。

最近ある集会でひとりの友人が、特に困難な問題に直面していて、ボイド・K・パッカー長老に指示を仰いだ時のことを話してくれました。パッカー長老は助言を与え

ながらこう聞き返したとのこと。「この教会が確かにイエス・キリストの教会であることを知っていないが、そのことはなお問題でしょうか。」こうして実際の真理に照らし合わせた時に、その問題はあっさり解決したのです。

これと同じ方法は、扶助協会の問題にも応用できます。主婦となり子供を育てる女性に教育や職業に関連した訓練は必要でしょうか。この質問に対する答えは、私たちがみもとに帰る努力をしている永遠の御父の子供たちであるということがわかっているればはっきりするでしょう。

私たちが神の子供であるということは真理です。それなら、すべての女性が自分自身の完成を目指して、また子供に恵まれた時にその子供たちが神々となることを目標として成長できるような環境を作るために、光と真理を求めることは必要ではないでしょうか。

そのような環境を提供するには、私たち

の準備だけでは不十分な場合があります。私は当時小学一年生であった息子が勢いよく台所へかけ込んで来て、習いたての新しい言葉を私に聞かせてくれた時のことを今でもよく覚えています。それは大人が使う難しい言葉でしたが、彼は非常に誇らしげにその言葉を言ってみせたのです。ところがひとつの文字が間違っていました。今思い返してみても、なぜ私はその時にそれを正してやらなかったのかわかりません。ただその時は、それが大した問題ではないと思ったのでしょう。彼は台所から今度は父親の勉強している部屋へ行ってそこでその習いたての言葉を言ってみせました。すると父親から間違いを指摘され、それを正さ



れました。

息子は私の所に戻って来るとこう言ったのです。「お母さん、どうして僕が間違っていることを言ってくれなかったの。」その日、私はこの質問にうまく答えることはできませんでしたが、素晴らしい教訓を得ました。私はそれがどんなに大切なことであるか、また子供というのは母親が間違いを正してくれるものだと思っていること、すなわち言葉や生活、彼らを取り組もうとしている世界における善悪を教えてくれるものだと思っていることを知りました。私は母親がその務めを果たすのにいくら訓練を受けても足りないと思っています。

学習はすべての女性にとって必要です。結婚しているかしていないか、母親であるか、そうでないかは問題ではないのです。

先頃発表されたステーキ部扶助協会管理会の務めの中では、特に福祉、慈善奉仕、姉妹一人一人の必要を満たすことが強調されています。その他の扶助協会の仕事は、女性の責任であるふたつの基本的な分野に分かれています。ホームメイキングと教育がそれです。ここで大切なのはホームメイキングか教育ではなく、ホームメイキングと教育ということです。扶助協会の女性にとって、神聖さと密接な関係にある完全さは、ひとつには状況がどうであろうと家庭を作るという責任を受け入れることによって、そしてその家庭を学びの場とし、福音の光をもたらすことによって達成されるのです。

扶助協会のプログラムの中で教育に重点が置かれているのは、女性が生活の中に学びの場を、それもできるだけ多くのことを学び、賜や才能を伸ばせる場を作ることができるようにするためです。そこで学んだ

事柄は姉妹たちに良い影響を与え、姉妹たちは他の人々を教え、祝福をもたらすことが可能になるでしょう。

キンボール大管長は、私たち一人一人が、自分自身をよく知り、自分の考えをはっきり言えるようになるよう、またしっかりと独立し、忠実であるようにと強く勧めています。

最近、ある若い女性が私たちのオフィスにやって来て、扶助協会のことについて話をしました。私たちはある計画を手伝ってくれる気持ちがあるかどうか尋ねますと、彼女はこう答えました。「もちろんお手伝いしたいと思います。でもその前に、少々難しいことをお尋ねしたいのですが。」そこで私たちは彼女にその難しい質問に背を向けるつもりはないことを話しました。福音の真の原則によって強められている扶助協会の女性は、今日のチャレンジに応じなければなりません。

何年も前に、ジョセフ・F・スミス大管長が言われたように、「〔扶助協会は〕女性

たちが心にイエス・キリストの福音の精神とキリストの証を持っているだけでなく、課せられた大きな義務と責任を若さと熱意と知恵を持って果たす組織」なのです。（「福音の教義」p. 371）

この教会はイエス・キリストの教会です。

私たちは皆天父の子供です。

扶助協会は神の指示によって組織されたものであり、末日における教会の回復の重要な一部を成すものです。

私たちには王国の教義を教え、姉妹たちがこれらの教義を生活の重要な面に取り入れていけるよう助ける責任があります。そうする時に、姉妹たちは豊かで実りある生活を送り、直面する問題に答えを見いだすことができるのです。

神の神権者を支持できることは、私たちの特権であり支えです。

この扶助協会の業に携わることにより喜びと達成感を味わえることを、イエス・キリストのみ名により証申し上げます。アーメン。





中央扶助協会第一副会長 マリアン・R・ボイヤー

汝ら組織せよ

「扶助協会を通して、私たちはどのように神の家を建てたらよいかを学ぶことができます。」

愛する姉妹の皆様、このタバナクルで皆様とお会いでき、また他の方々にはテレビを通じてお話できますことを心より感謝しています。皆様は最高の人生を代表する方々と言えましょう。なぜなら皆様は、福音に従う人々に与えられる豊かな祝福にあずかっている天父の娘だからです。

私たちにとって、ホームメイキングという言葉は大きな意義があります。私たち女性には、教会や地域社会、世の中において家庭を築く者となる特別な使命が与えられています。

ある扶助協会の大会で、J・ルーベン・クラーク副管長はこのように言われました。「神が……あなた方に真の家庭を整える者としてのビジョンをお与え下さるよう、またそれによってあなた方がシオンだけでなくこの世をも救うことができるよう祈るものである。この世を救うのは……確かにあなた方の使命である。」(Relief Society Magazine「扶助協会」1949年12月号, p.

789)

女性の仕事は深い重要な意味を持っています。日常の家事が非常に重要になってきます。実際この世で最も大切な仕事と言えるでしょう。家庭というのは、人の住む家や部屋以上のものです。ひとりだけで家庭を築いている人にとっても、大家族の母親にとっても、家庭は学びの場、また祈りを通して永遠の生命への道を知る場とならなければなりません。これが世を救う方法です。あらゆる家庭で神のすべての子供たちを強めるのです。

予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中で、主は私たちにこのように言うておられます。「汝ら組織して必要な物をごとごとく調べよ。而して、祈りの家、断食の家、信仰の家、学問の家、栄光の家、秩序の家、神の家なる一つの家を建つべし。」(教義と聖約88:119)

私はこの主の勧告を思う時、ひとりの特別な友人のことを思い出します。私は彼女

と一緒に働いていて、家庭と教会に対する彼女の献身的な態度に鼓舞されました。病弱の夫と大勢の子供を抱えながらも、彼女は扶助協会の指導者としての責任を断わることはしませんでした。私は彼女にどうしてそのようによくできるのか尋ねました。彼女の答えはこうでした。「扶助協会の姉妹たちが助けて下さるんです。私が気落ちしている時には彼女たちの愛によって元気づけられます。また、レッスンは私に力と指示を与えてくれます。そのような助けをいただいているので、私の抱えている問題はそれほど大きく感じられません。」

彼女の生活はこうでした。まず家族の人たちがまだ寝ている内に早朝の祈りで一日を始めます。そしてその日にしなければならぬことを思い浮かべ、それらを完全に果たせるよう天父に助けを願うのです。また彼女の毎日は、天父と親切な友人たちの助けに対する感謝と愛をこめた天父への祈りで終わりました。彼女は一日の仕事を自分ひとりだけではとてもこなすことができないと感じていたのです。



家族にとってこの母親は何と素晴らしい模範となってきたことでしょう。彼女は家族に祈りの力、計画準備することの大切さ、人々と主に仕えることによってもたらされる喜びを教えてきました。

再び啓示のことに触れますが、主は私たちに「必要な物をことごとく調える」よう勧めておられます。多くの末日聖徒の女性は、必要な物を整えながら自分の創造性豊かな才能を伸ばしていく時に大きな喜びを見いだすに違いありません。子供や孫、友人の服を縫ってあげることによって、家族は愛と感謝の内に結ばれます。8人の子供を持つある母親は最近私に、自分が子供たちの服を作らなかつたら他の生活必需品を手に入れることができなかつたと話してくれました。彼女は扶助協会の小クラスでジーンズやTシャツの作り方、着られなくなった服を小さい子供用にリフォームする方法などを教わりました。

もうひとつの必要な物は私たちの食べる食物です。キンボール大管長は繰り返し、菜園を作るように、そして栽培したものを保存するように勧めておられます。ホームメイキングのレッスンでは菜園造りに関する指示だけでなく、翌年まく種のとり方まで教えています。また貯蔵している基本食品の利用方法に関していろいろな提案を与えてくれています。皆さんは家に貯蔵している粉ミルクの利用法をどだけ御存じでしょうか。ホームメイキングの小クラスではいろいろな方法を教えてくれます。ミルクを加えてマーガリンの量を2倍にすることなどもそのひとつです。

最近私はブリガム・ヤング大学のワード部に行く機会がありました。若い姉妹たちはクラスでパンの作り方を教わってしまし

た。台所から漂ってくるおいしそうなおいひかれて、ワード部の建物内にいた若い男性たちはお腹をすかせた様子でドアのまわりに集まってきました。そして焼き立てのパンとバターと蜂蜜はたちまち、楽しく語り合う彼らの口におさまったのです。

一年前の姉妹たちの集会で、スベンサー・W・キンボール大管長は私たちに「世の女性たちとは違った別の喜びを味わうように」（「聖徒の道」1980年3月号「義なる女性の役割」参照）と言われました。

ニーファイは、彼の民が荒野の中で種をまき、収穫し、家を整えるために熱心に働いたことを記しています。そしてこのように続けています。「そして、私たちはみな幸福に暮した。」（II ニーファイ 5 : 27）

末日聖徒の家庭を築く者として私たちに与えられている最大のチャレンジは、自分の子供たちを光と真理の中に正しく歩ませること、すなわち家族一人一人の霊性を高めることです。私たちにとって最も大切な役割は教師としての役割です。

ハロルド・B・リー大管長は新聞の社説を引用してこのように言われました。「家庭は、あらゆるおきての温床である。」（*Relief Society Magazine* 「扶助協会」1965年1月号, p. 9）家庭に必要な様々の事柄が、先頃発表されたステーキ部管理会の組織に反映されています。例えば、音楽によって家庭に豊かさを与えるのは、ホームメイキングのひとつであると考えられています。子供の成長過程に合わせて用意した教材を使う託児や、結束を生み出し、健康に役立つレクリエーションもホームメイキングの中に加えられています。扶助協会のホームメイキングはこれらの要素をすべて含んでいます。そしてそれらを一日にまとめて女性

に、技術、上品さ、知識、そして家庭にとって常に大きな意味を持つ愛と思いやりを伴った喜びのある家庭を作る備えをさせ、訓練しているのです。

すべての末日聖徒の女性にホームメーカーとしての大きな可能性を認識させるために、私たちはホームメイキング担当副会長に姉妹一人一人の必要を満たす会を計画するように勧めています。私たちはだれひとりとして同じ状況にある姉妹はいないことを知っています。しかしなお私たちは一人一人が家庭という場を作ることに目的を見だし、それを達成することができるようにと望んでいます。よく計画された2時間の月例集会は、姉妹たちが世のすべての仕事の基礎である最も大切な仕事に成功を取めることができるよう訓練と動機づけを与えてくれます。

よく整えられた家庭にあって私たちは証の火を燃やし続け、それぞれの心の中に証を築かなければなりません。扶助協会を通して、私たちは自らをどのように組織し、どのように必要な物を整えたらよいか、またどのように祈りの家、断食の家、信仰の家、学問の家、秩序の家、神の家を建てたらよいかを学ぶのです。（教義と聖約 88 : 19参照）

願わくは、私たちの家庭を、共に暮らせることを喜び合える平和と幸福のある天国とすることができますように。そしてニーファイの民のように幸福に暮らすことができますように、イエス・キリストのみ名により心よりお祈り申し上げます。アーメン。



十二使徒定員会会員 ボイド・K・パッカー

姉妹の輪

「扶助協会を組織立て強めることは、教会の将来にとって、また教会の安定にとって非常に重要です。」

先日、パッカー姉妹と私は東ヨーロッパのある扶助協会に出席しました。そこには12人の姉妹が出席していました。私たちは、50年程前に印刷された楽譜のない歌詞だけの歌集の中から、シオンについての讚美歌を歌いました。それから手製のテキストを使った霊的生活レッスンが、敬虔な雰囲気の下で行なわれました。

私はこの姉妹たちに、この世で最も大きい、そして最も偉大な女性の組織に所属していることを告げました。そして予言者ジョセフ・スミスが他の兄弟たちと扶助協会を組織する時に語った言葉を引用しました。「私は今（すべての女性に代わって）その鍵を回す。この協会は……あなた方の本性に従って組織されたものである……あなた方は今や、神があなた方の胸に植えられた思いやりの心に従って行動できる場を与えられている……あなた方がその特権に恥じない生活をするならば、天使たちはあなた方の友とならざるを得ない……。この協会

が教会の頭となる人々を通じて全能者の勧告に耳を傾けるならば、彼女たちは女王たちの中にあって支配する力を受けるであろう。」(*History of the Church* 「教会歴史」4: 607, 605)

それは本当にみたまに満たされた集会でした。集会が終わると、その会を上品に、そして敬虔に司会してきた美しい姉妹が皆の前で泣きました。

それから私は皆さんのことを話しました。彼女たちはとても強められました。私は今夜ここで話す責任があることを彼女たちに伝え、皆さんへのメッセージがあるかどうか尋ねました。何人かの人と話しましたが、その言葉はどれも、皆さんに何かをお願いするのではなく、何かを送りたいという気持ちを表わしているものでした。彼女たちのひとりがこう言いました。「ひとつの小さな姉妹たちの輪からすべての姉妹たちに愛と思いを伝えたいと思います。そして私たちがさらに前進できるよう主の助けを願

っています」と。

「姉妹たちの輪」というこの言葉に、私は胸を打たれました。私には、今皆さんの輪の中に彼女たちの姿が見えます。非常に大きな姉妹たちの輪を見ることができます。それは私たちの前の時代の予言者や使徒たちが見てきたのと同じ光景です。

その晩私はその輪の中にしばし立ち、周囲から押し寄せては返す信仰と勇気と愛の脈動を感じました。私は神殿の結び固めの部屋を思い出しました。結び固めの部屋には向き合った壁に鏡が取り付けられています。聖壇の近くに立ってその鏡を見ると、自分の姿がどこまでも続いて見えるのです。これは人に自分が無限すなわち永遠の存在であることを感じさせてくれます。そこでは皆さんは目の届く限りはるかかなたを見ることができ、たとえ目の届く限界の地点に移ったとしてもなお永遠に見続けることができるような気持ちになります。

私は今晚こうして少しの間皆さんの輪に加わりながら、そのような気持ちを感じています。その輪のどこに立ってしようと、姉妹の皆さん一人一人は両側を見、それぞれの人々に真心からの愛の手を差し伸べる時、戻って来る靈感を感じることができるのです。

私は今ここで皆さんの輪に加わって述べる私のメッセージが全世界に出て行き、また再び戻ってきてはまた出ていくことを知ってこの上なく謙遜な気持ちになっています。私がどんなに、その脈動が貴い価値あるものであって欲しいと願っているか想像していただけるでしょうか。

予言者ジョセフ・スミスが語ったように、扶助協会は神権組織に倣って組織されています。神権を受けた男性は、自分という存

在よりもっと大きなものに属することになります。神権とは自分という存在以上のものであり、男性が完全に自己を投ずることのできるものです。それは人に完全な献身と忠誠を要求します。またこの神権には誓詞と誓約が伴います。

神権を受けることによって男性は高められます。どこにしようと、何をしようと、まただれと一緒にしようと、彼は神権を尊ぶよう期待されています。それは高潔という最も高い標準を守らせるものです。日曜日の定員会への出席は神権者としての責任のほんの一部にすぎません。神権者として十分に働くことによって、すべての価値ある望みは達成され、すべての必要が満たされるのです。

兄弟たちは男性の欲求というものについてあまり多くを語りません。彼らはそのような物に心を奪われ夢中になるということがありません。そのようなことがほとんど彼らの話題にならないことに皆さんは驚かれるかもしれません。それらの欲求は大切です。非常に大切なものです。しかし同時にすべての神権者を守り、人生において完全に物事を成就できるよう導いてくれる自制心もまた大切なのです。兄弟たちはそのような欲求に心を奪われてはいません。神権の義務を全力を尽くして果たそうとしているのです。それは非常に尊いことです。

神権が組織され本来の働きをする時に、神権の義務を持つすべての人々の価値ある望みはかなえられます。神権を通して、男性はすべての姉妹たち、すなわち妻や娘、母親と正しく接することができるよう訓練を受けます。神権は教会の男性にとって動機づけとなるものです。

扶助協会は神権組織に大きな力を与えま

す。扶助協会を通して、皆さんは神権に属ける特権と祝福にあずかることができます。確かに、神権者は皆さんなしでは完全にならないのです。

もし姉妹の皆さんが神権者の模範にならうならば、皆さんも女性の欲求に心を奪われることはないはずです。皆さんは自分たちの組織、すなわち自分たちを啓発してくれる扶助協会というこの大きな姉妹たちの輪のために心から奉仕するようになるでしょう。そうする時に皆さんのすべての必要が今も永世にもわたって満たされ、怠惰が一掃され、あらゆる悪口が正されるのです。これらはすべて、皆さんが自らを扶助協会に捧げる時に速やかに成就するのです。

扶助協会における奉仕は、姉妹一人一人を高め、清めてくれます。扶助協会の会員としての資格は常にあなたについてまわるのです。扶助協会に自らを捧げ、組織し、

運営し、それに参加する時に、皆さんはそこに集うすべての姉妹に祝福をもたらす扶助協会を、支持していることとなります。もう一度申し上げますが、皆さんは神権の権能の下に、神権組織に倣って組織されているのです。

集会の統合スケジュールが決定されるまでの検討期間中、毎回話し合いの中で述べてきたことですが、私は扶助協会のことが一番気がかりでした。扶助協会は日曜日の一クラスにすぎないという考え方が生まれはしないかという心配がありました。私たちは何の根拠もなくそのような不安を抱いたわけではありません。私はここで皆さん方、特に役員と教師の方々に、扶助協会には非常に広範な責任があることを思い起こしていただきたいと思います。

日曜日の集會に出席することは、皆さんの責任のほんの一部にすぎません。中には



このことがよく理解できず、姉妹愛、慈悲と実践といった扶助協会が長年意図してきた多くの事柄を無視してしまっている人々もいるようです。

皆さんはもう一度そのような姉妹たちを集めなければなりません。この業の指導者である皆さんは彼女たちを連れ戻し、姉妹愛を、そして扶助協会の友愛の精神を高めていく方法を見いださなければなりません。また慈悲の心や実践面を強めていく方法も見いださなければなりません。皆さんはこの責任から目をそらしてはならないのです。日曜日以外に別に集会を持たなくてもこれらを達成できる方法があるはずです。

皆さんの中には、初等協会や若い女性の責任に召されているために扶助協会の日曜日の集会に出席できない方が多くいると思います。これもまた神権者に倣っているのです。多くの兄弟たちがアロン神権者のために働いています。ちょうど彼らの働きが大神権者を強めるように、皆さん方の奉仕は扶助協会を祝福するのです。拒まれていゝるなどと考えないで下さい。決して不平をもらさないで下さい。私心をなくしてこの業に尽くすことは、扶助協会に対する献身を示すこととなります。

そうする時に、この大きな姉妹の輪は皆さん一人一人を、そして家族の人々を守ってくれるでしょう。扶助協会は安全と保護を約束する避け所、古代の聖所になどえられます。その中にいる皆さんは安全です。それは防護壁となって姉妹たち一人一人を守ってくれるのです。

ここで、新年度の扶助協会の学習課程となっている旧約聖書にふれてみましょう。イスラエル人がバビロンでの長い捕われの身から解放されて戻って来てみると、彼ら

の町は滅び、エルサレムの城壁は崩れ落ちていました。そして敵はイスラエル人の中に入って猛威をふるい、イスラエル人を従わせていました。

そのような時、「城壁を築いた人」として知られている予言者ネヘミヤが現われました。彼はイスラエル人を奮い立たせ、自らの防御にあたらせました。そうして彼の指示の下に、イスラエル人は再び城壁を建て直したのです。

初めのうち、敵は彼らをあざけりました。アンモン人のトビヤはあざけりながらこのように言いました。「彼らの築いている城壁は、きつね一匹が上ってもくずれるであらう。」(ネヘミヤ4:3)

しかしネヘミヤは自分の民を慰め、仕事にとりかかりました。敵は至る所にいました。彼はこう記しています。「そこでわれわれは神に祈り、また日夜見張りを置いて彼らに備えた。」(ネヘミヤ4:9)

姉妹の皆さん、このことをよく考えて下さい。彼らは「祈り、見張りを置いて」、そして仕事を続けたのです。

敵が城壁の完成するのを目にする日がやって来ました。城壁はすっかり町を取り囲み、とうとう門になる部分以外にあいた所はひとつもなくなりました。敵にあざけられていた作業がほとんど完了したのです。城壁が立ったのです。敵はもはや脅かすことも破壊することもできなくなりました。敵はイスラエル人が強くなったことを知って恐れ、戦術を変えました。

ここに教訓があります。それは皆さんにとってひな型であり、象徴であり、警告です。その中には扶助協会のすべての姉妹、すなわち中央会長会や管理会員、ステーキ部やワード部の役員教師、実にすべての会

員に対するメッセージが含まれています。慎重に考慮していただきたいと思います。

サンバラテ、トビヤ、ガシムはネヘミヤに使者を遣わし、おびき寄せようとして言いました。「さあ、われわれはオノの平野にある一つの村で会見しよう。」彼らはなんとかしてネヘミヤを城壁造りの仕事から引き離そうとしたのです。しかし予言者は彼らの心を見抜いてこう言いました。「彼らはわたしに危害を加えようと考えている。」(ネヘミヤ6:2)

彼らは5度も使者を送ってしつこくネヘミヤを誘い出そうとしました。それは丁度今の私たちが受けている誘いに似ています。「さあ、来て私たちと話ししましょう。私たちの運動に参加しましょう。私たちの方法でやっていきましょう。さあ、世に出て私たちの仲間に入りなさい。」

このような誘いに対する彼の答えは、扶助協会のすべての姉妹に対する勧告です。また神権者の兄弟たちに対するメッセージでもあります。ネヘミヤはこう記しています。「私は彼らに使者をつかわして言わせた、『わたしは大いなる工事をしているから下って行くことはできない。どうしてこの工事をさしおいて、あなたがたの所へ下って行き、その間、工事をやめることができようか。』(ネヘミヤ6:3)

姉妹の皆さん、皆さんにはなすべき大いなる仕事があります。扶助協会を築くこと、そしてその組織を強めることです。それをさしおいてこの世的なオノの平野に下って行くような誘いにはなりません。

自らを他の旗の下に置くようなことはしないで下さい。自分の欲求を満たすための正当な理由を捜して奔走するようなことはしないで下さい。皆さん方の大義は、この

地上に現存する最大の力である全能の神の神権の権能の下にあるのです。

私は皆さん方の偉大な組織の歴史をたどっていて、ふと扶助協会に与えられた大管長会のメッセージを思い出しました。それは扶助協会創立100周年に与えられたものです。ここでそのメッセージを紹介しましょう。

「私たちは扶助協会の姉妹たちに、扶助協会は主の靈感によって組織された世界でもめずらしい組織であることを忘れないでいただきたいと思う。……世界中でそのような起源を持つ女性の組織は他にひとつとしてない。

このように神の靈感によって生まれたこの組織には、献身的な奉任、神の神権者やお互いに対する最高の忠誠といった点でそれ相応の責任がある。会員は、この偉大な協会の会員としての義務と責任、特権と名誉、機会、達成すべき事柄に背を向けさせるいかなる敵意あるまたは競争心をおおる関心事も黙認すべきではない。

この偉大な扶助協会のすべての会員が最も忠誠を尽くさなければならないのは……仲間の会員とこの組織に対してである。会員は、この協会の仕事を中断させ、あるいは妨害する他のいかなる組織にも加わってはならない。会員は他のどんな社交クラブや同様の団体よりも扶助協会の奉仕を優先すべきである。私たちがこう申し上げるのは、扶助協会は他のどの組織にもない知的、文化的、霊的価値を具えており、会員の全般的必要をすべて満たしてくれるからである。

私たちはすべての姉妹たちに、これらのことを心に留め、扶助協会を世界で最も素晴らしい有効な女性の組織としてその地位を保ち続けていただきたいと切に願うものである。」(“A Centenary of Relief Society”

「扶助協会創立100周年」 p. 7, 1942年)

この大管長会の声明は今日にもあてはま
ります。扶助協会の目的を支持しようでは
ありませんか。扶助協会を強め、これに参
加しようではありませんか。そのために自ら
を捧げようではありませんか。不活発な姉
妹たちを参加させ、非教会員の人々を連れ
てきて扶助協会の良い影響を分かち合おう
ではありませんか。今こそこの世界的な姉
妹の輪につながる時です。扶助協会を組織
立て強めることは、この教会の将来にとっ
て、また教会の安定にとって非常に重要で

す。私たちは今、将来という暗い霧の中に恐
る恐る足を踏み入れています。そして私た
ちの耳には嵐の前ぶれの不気味な音が聞こ
えています。今まで通ってきた狭い道は試
練の始まりにすぎないのです。この神権時
代の行く末は私たちに明らかにされていま
す。それはすべての姉妹たちの生活に影響
を及ぼします。私たちは恐れおののくこと
はありません。なぜなら、皆さんはその優
しい手に正義の光を握っているからです。
それは兄弟たちを祝福し、子供たちを育み
ます。

皆さんに向かって神の王国における女性
の立場は男性よりも劣っていると言う人は、
ふさわしい男性が自分の妻に対して抱く崇
拝に似た愛について何も知らない人です。
男性は妻なしでは完き神権を受けることが
できないのです。なぜなら予言者ジョセフ・
スミスが言っているように、「男性は主の
神殿以外では完き神権を受けることができ
ない」からです。(教義と聖約131:1-3参
照) 女性はその神聖な場において神権者の
傍らに立ちます。そしてそこで彼の受ける
すべてのものに共にあずかるのです。洗い
清めや灌油の儀式、またエンダウメントは

別々に受けます。しかし男性は、傍らに女
性を伴わないでそれ以上の最も高貴な儀式、
すなわち結び固めの儀式を受けることはで
きないのです。

姉妹たちの優しく穏やかな教え、敵意を
和らげる知恵は何と力強いものでしょう。
私は扶助協会の全精神を、皆さんの仲間の
ひとりが答えて下さった静かな答えの中
に見ることができました。

1年分の貯蔵を決心したある姉妹をばか
にした人がいました。彼女はまず自分と夫
の分を貯えました。それから十分な貯えを
する費用と場所のない、結婚したばかりの
子供たちのために余分に貯えました。彼女
はばかにした人に、自分は予言者の勧めに
従ったまでであることを話しました。する
とその人は彼女を非難して言いました。「混
乱が起こったらどうせすぐなくなるさ。
もし指導者が貯えている物を全部教会に寄
付するように言ったらどうだね。君は何も
貯えていない人に分け与えなきやいけな
くなるんだ。どう思うね。」

彼女の答えはこうでした。「たとえそうい
うことが起こったとしても、少なくとも私
には分けてあげられるものがあります。」

多くのものを分け与えている扶助協会の
姉妹の皆さんに神の祝福がありますように。
この大きな永遠の姉妹の輪すなわち地上に
おける女性のための神の組織、末日聖徒イ
エス・キリスト教会の扶助協会の一部であ
るあの東ヨーロッパの小さな姉妹たちの輪
を神が祝福なさいますように。

私は神が生きておられ、この業を導いて
おられることを証します。また神の慈悲深
い力がこの偉大な姉妹の輪の上に注がれま
すように、イエス・キリストのみ名により
祈ります。アーメン。

聖餐式を 霊性あふれるものに



韓国・日本地域代表役員
菊地良彦

私は今年、日本の「主の聖餐式」を大きく改革できればと考えています。もっと霊性に満ちあふれた式にしたいのです。現在、全国の教会の聖餐式では、率直に言って150—200名の出席は珍しい、というよりはなれど、いいでしょう。数ばかりではなく、今の聖餐式の体質を根本的に変える必要があります。式を単に司会し、運営するだけでは会員に霊性を与えることはできません。私たちはもう一度この問題を見直し、考えていかなければなりません。今年には特に指導者の発想の転換が大きく求められています。以下にいくつかの項目を取り上げてみますが皆さんもこれらのことを考えていただければ幸いです。

■発想の転換

「だれも、新しい着物から布ぎれを切り取って、古い着物につぎを当てるものはない。もしそんなことをしたら、新しい着物を裂くことになるし、新しいのから取った布ぎれも古いのに合わないであろう。」(ルカ5:36) 指導者の方々、この聖句の意味を深く理解なさって、今、私たちは発想の大転換をしなくてはならないときに立っていることを覚えていただきたいと思ひます。

■魂の休みが与えられているだろうか

私たちの聖餐式は「重荷を負うて苦勞している者に休みをあたえ、魂に休みが与えられ、」荷が軽くされている」主の聖餐式でしょうか。(マタイ11:28参照)

どうしたら霊性に満ちあふれた聖餐式を行なえるのか考えてみて下さい。

■語る者は……

「語る者は、あなたがたではなく、あなたがたの中であつて語る父の霊である。」(マタイ10:20) 私たちは主が語っておられる「靈感と霊に充ち満されている」言葉を語っているのでしょうか。

■権威あるもののように

聖餐式のお話は主イエス・キリスト様にならない、人に感動と感激と改心をうながす話とし、「権威ある者のように教え」(マタイ7:28)ようではありませんか。こう書かれています。「その言葉に権威があつたので、彼らはその教えに驚いた。」(ルカ4:33)

権威あるもののように語ることは、大言壮語ではありません。

■あなたの信仰どおり

盲人がイエスのもとに来て「わたしをかわれんで下さい。」(マタイ9:27)と叫ぶと、イエスは私を信じるか」と言われ、盲人が「信じます」と答えると、イエスは「あ

あなたの信仰どおり、あなたがたの身になるように」(マタイ9:29)と言われ、盲人の目が開かれました。またカペナウムでの百率長とイエスの会話の中に私たちは偉大な教訓を学びます。「主よ私の僕は中風でひどく苦しんでいます。」(マタイ8:16)主が彼に「私が行ってなおしてあげよう」と言うと、彼は「主よ、わたしの屋根の下にあなたをお入れする資格は……ごさいません。ただ、お言葉を下さい。そうすれば僕はなおります」(マタイ8:8)と答えました。

指導者は率先して、このような立派な信仰を主に表わそうではありませんか。

■一匹の迷い子を救う精神

「ある人に百匹の羊があり、その中の一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、その迷い出ている羊を捜しに出かけないであろうか。……そのように、これらの小さい者のひとりが滅びることは、天にいますあなたがたの父のみこころではない。」(マタイ18:12, 14)

この精神を発揚して、私たちの聖餐式をもっともっと充実したものにしましょう。訪問して共に集おうではありませんか。そして全員でホザナを叫び、讚美し、主の聖餐を祝おうではありませんか。

「あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ25:40)

■からし種一粒ほどの信仰

「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこへ移れ』と言え

ば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。」

(マタイ17:20)

私たちにできない事は、何もないと主は約束を下さっています。2,500名のステーキ部なら聖餐式に出席する人々が2,000名ぐらいにできるようにしましょう。300名のワード部なら200名の出席にできるようにしましょう。私たちは、同胞を救うためなら、「天の使いたち」(マタイ26:53)や、「天の軍勢の将」(ヨシヤ5:13-15)を呼び、助けを受けることもできます。

■今日は神の力の時である

私は、何故にこのような不可能と思われることを皆様に望むかと言いますと、次のような大管長の偉大なビジョンが成就される時が、まさに近くあるからです。

「私たちはこの神の力が現われる日を行っています。一日にして一国全部が改宗する日です。その日に幸いあれ。私たちの愛する天の父が、アンモンとその兄弟たちがしたように、何千人という改宗者を生み出す日を私たちに与えて下さるのです。ほんの数人や数十人ではありません。数千人です。主はそのことを約束して下さいました。その約束を、主は必ずやかなえて下さるでしょう。」

そのような時代を迎えるにあたって、私たち聖徒たちが、教会の中を浄化すること、清浄にすること、清めることが必要なのです。

主が私たちの努力の上に祝福を下さされ、私たちの教会が汚れより清められ浄化され、エノクの町に一步でも近づくことができるようにしましょう。日本の伝道80周年が、意義ある年になるようにとお祈りします。

■ 地域指導者訓練プログラム ■

担当者決定

伝道開始80年記念行事の一環として、8月に地域レベルでの指導者訓練プログラムが計画されていますが、各部門の担当者として以下の方々が指名されました。

コーディネーター：福嶋克明

監督会	柏倉 仁	スカウト	横山 喜一
高等評議員	田中 健治	若い女性	中村 伎美子
長老定員会	安芸 宏	音楽	対馬 栄逸
七十人	鈴木 正三	S A P	宮脇 莊司
大祭司	松本 潔	図書	八木沼 修一
扶助協会	福嶋 幸子	聖徒の道	大久保 浩
初等協会	高山 洋子	若い男性	宮下 阿佐夫
日曜学校	黄木 信	活動委員会	内山 雅宣

以上の兄弟姉妹は、それぞれの担当部門に関して、地区の各部門の指導者への連絡、指導を行なっていくことになっています。

日本伝道80周年記念プログラム

第1回全日本LDSジャンボリー開催予定



(ワッペンの実際の大きさは直径8.6cmです。)

末日聖徒イエス・キリスト教会が母体となっている全国のボーイスカウトが一堂に会して全日本LDSジャンボリーを催すことになりました。

会期は7/30-8/3の5日間。会場に

は東京都と神奈川県との2箇所を予定しています。参加章ワッペンの図柄も上に決定しました。関係者は今からその準備をして下さい。なお、詳細は追ってお知らせします。

